

第3章 評価

1 『都市構造の評価に関するハンドブック』（平成26年8月：国交省）による評価

都市構造を客観的かつ定量的に分析、評価するための評価手法である「都市構造の評価に関するハンドブック（平成26年8月中旬公表：国土交通省）」に基づき、評価対象の4分野（下表のとおり）を選定して評価を行いました。

この評価手法は、データとして入手可能な項目を活用し、評価指標を中心に主として都市構造の形状など、外形的な側面から都市構造のコンパクトさを評価する手法として一例を示したものです。

この評価手法については引き続き評価指標の精査、改善、各指標値の尺度や意味合いの明確化など、より使いやすいツールとなるよう、充実を図るとしています。

また、高島平地域と「住んでみたい街ランキング」で第1位の吉祥寺を有する武蔵野市の数値を算出し、比較評価を行いました。

表：評価分野・評価指標

評価分野	評価指標
(1)生活利便性	生活サービス施設の徒歩圏人口カバー率 (医療施設、福祉施設、商業施設)
	基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率
	日常生活サービスの徒歩圏充足率
	生活サービス施設の利用圏平均人口密度 (医療施設、福祉施設、商業施設)
	公共交通の機関分担率
	公共交通沿線地域の人口密度
(2)健康・福祉	高齢者福祉施設の1km圏域高齢人口カバー率
	保育所の徒歩圏0～5歳人口カバー率
	買い物への移動手段における徒歩の割合
	歩道整備率
	公園緑地の徒歩圏人口カバー率
(3)地域経済	従業人口密度
	小売商業床面積あたりの売上高
(4)行政運営	市民1人当たりの税収額

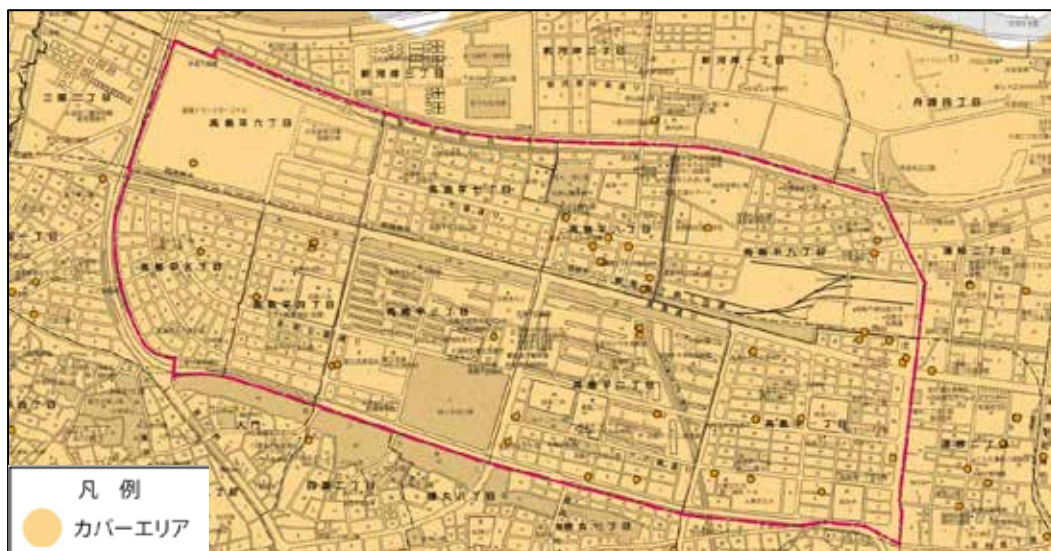
＊網掛けは簡易評価で採用した指標

(1)生活利便性に関する評価

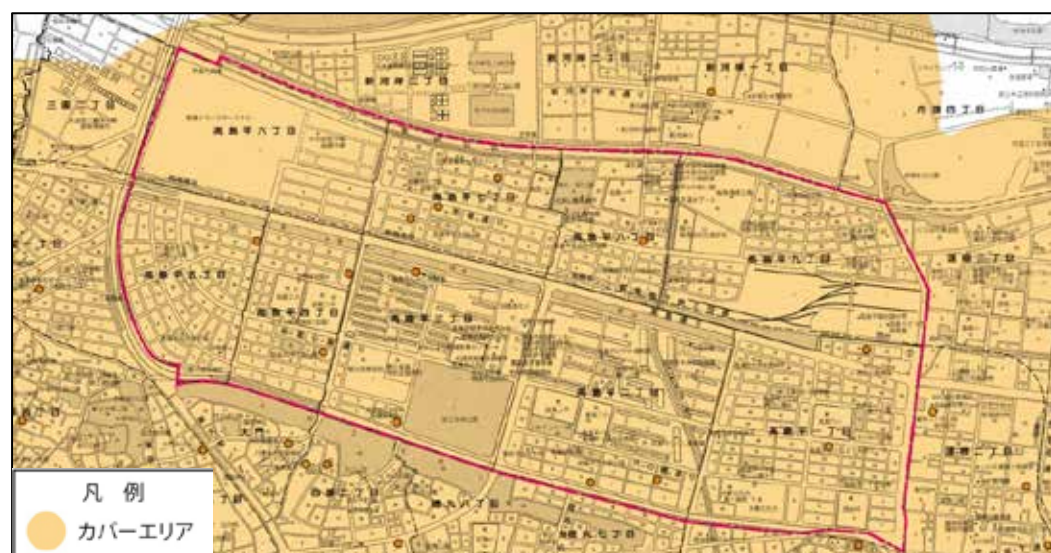
生活利便性に関する評価は、都市機能や居住機能を適切に誘導することにより、歩いて行ける範囲に、日常生活に必要な、医療、福祉、商業などの生活機能と公共交通サービス機能が充足した街を実現する指標です。評価指標は、次の8項目で行いました。また、福祉施設の徒歩圏人口カバー率は、厚生労働省の介護事業所検索を用いて民設民営の事業所を含めた評価としました。

表：評価指標、数値、利用データ、算出方法

評価指標	数値	利用データ	算出方法
医療施設の 徒歩圏人口カバー率	100%	病院、診療所で内科または外科を有する施設	医療施設から半径 800 mの圏域内人口を地域の総人口で除して算出
福祉施設の 徒歩圏人口カバー率	100%	通所系、訪問系施設及び小規模多機能施設（民設民営を含む）	福祉施設から半径 800 mの圏域内人口を地域の総人口で除して算出
商業施設の 徒歩圏人口カバー率	90%	延床面積 1,500 m ² 以上のスーパー、百貨店	商業施設から半径 800 mの圏域内人口を地域の総人口で除して算出
基幹的公共交通路線の 徒歩圏人口カバー率	100%	日 30 本以上のサービス水準を有する鉄道路線、バス路線	鉄道については半径 800m、バス停については半径 300mに居住する人口地域の総人口で除して算出(日 30 本以上の運行頻度)
日常生活サービスの 徒歩圏充足率	90%	医療、福祉、商業、公共交通路線	<u>上記 4 項目の全てが重複するエリアに居住する人口を地域の総人口で除して算出</u>
生活サービス施設の 利用圏平均人口密度	156.4 人/ha	医療施設	各施設から半径 800m 圏域の人口密度を算出
	161.5 人/ha	福祉施設	
	186.1 人/ha	商業施設	
公共交通の機関分担率	32.4%	パーソントリップ調査	鉄道分担率とバス分担率を集計して算出
公共交通沿線地域の 人口密度	156.4 人/ha	日 30 本以上のサービス水準を有する鉄道路線、バス路線	鉄道については半径 800m、バス停については半径 300mに居住する人口密度を算出



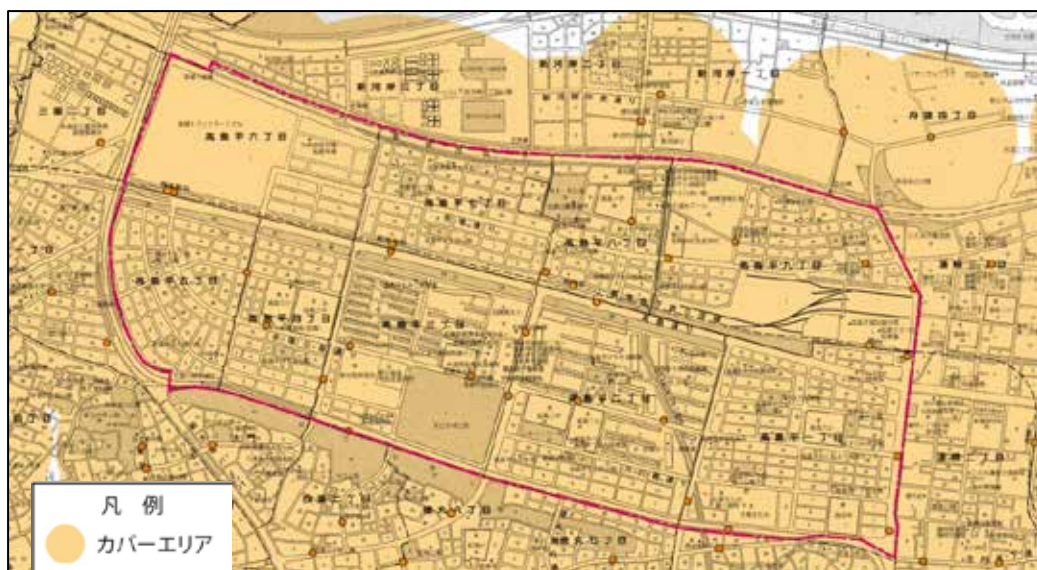
図：医療施設の半径 800m徒歩圏



図：福祉施設の半径 800m徒歩圏



図：商業施設の半径 800m徒歩圏



図：基幹公共交通路線までの徒歩圏（駅半径 800m、バス停半径 300m）

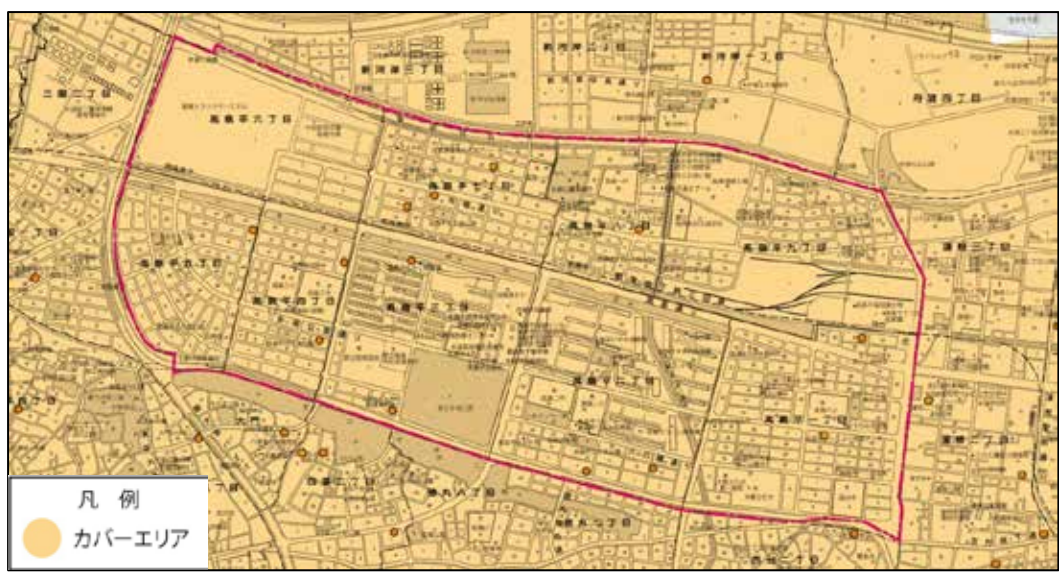


図：日常生活サービスの徒歩圏

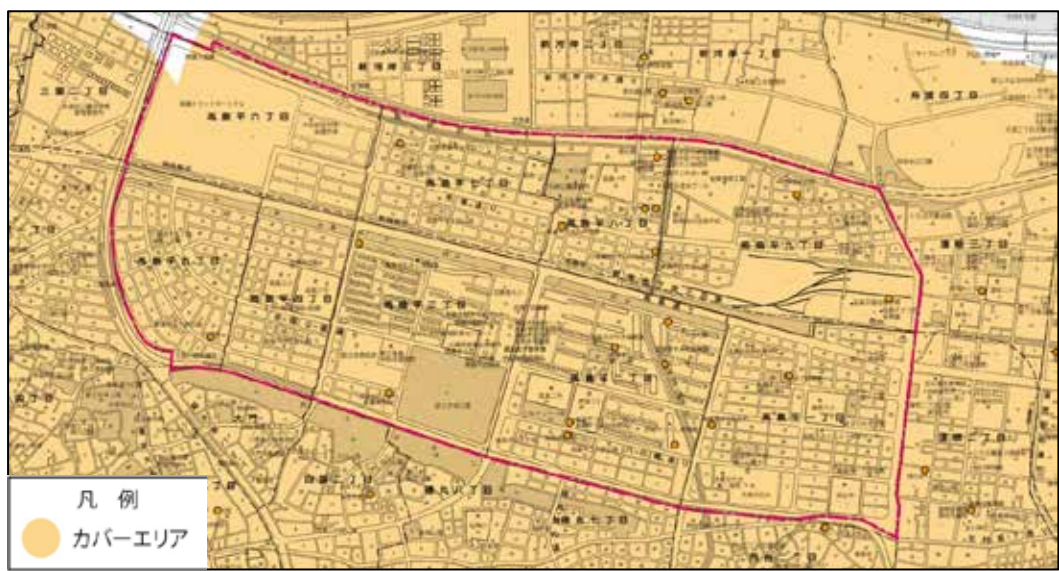
(2)健康・福祉に関する評価

健康・福祉に関する評価は、区民の多くが歩いて回遊する環境を形成することにより、区民が健康に暮らすことのできる街を実現する指標です。評価指標は、次の5項目で行いました。

評価指標	数値	利用データ	算出方法
福祉施設の1 km圏域 高齢人口カバー率	100%	通所系、訪問系施設及 び小規模多機能施設	福祉施設から半径 1 km の 65 歳以上人口を地域の 65 歳上人口で除して 算出
保育所の徒歩圏 0～5 歳 人口カバー率	100%	保育所	保育所から半径 800m の圏域の 0～5 歳人口を 地域の 0～5 歳人口で除 して算出
買い物への移動手段に おける徒歩の割合	40.1%	パーソントリップ調 査	「私事目的」の代表交通 手段分担率の「徒歩その 他」を集計
歩道整備率	100%	道路交通センサス	道路交通センサスの一 般交通量調査対象道路 (国道 17 号、都道 446 号、447 号) の歩道延長 を総延長で除して算出
公園緑地の徒歩圏 人口カバー率	100%	都市公園データ	都市公園の位置から半 径 500m圏域内人口を 総人口で除して算出



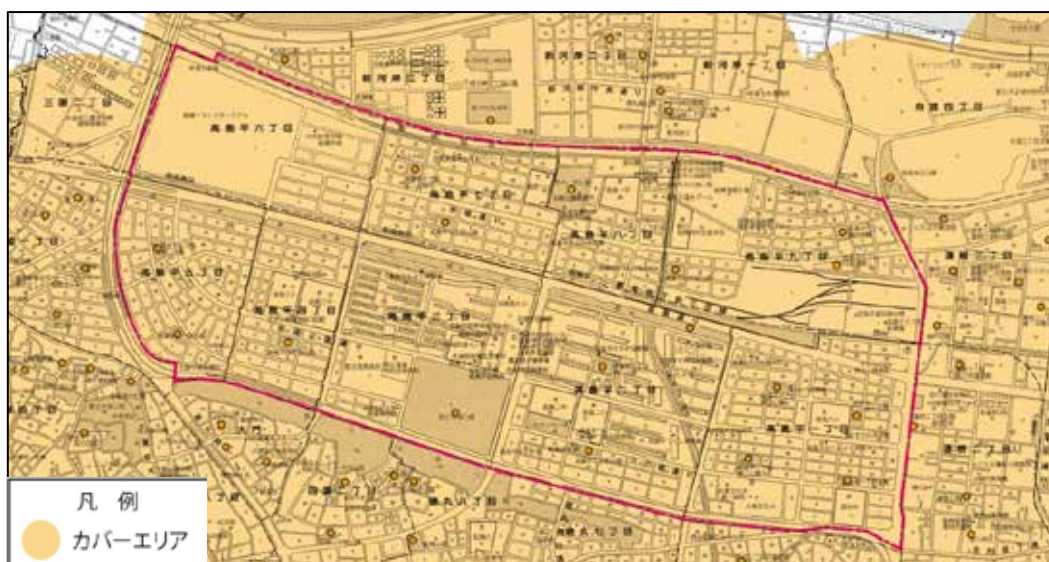
図：福祉施設の半径 1 km 徒歩圏



図：保育所の半径 800m 徒歩圏



図：道路交通センサスの一般交通量調査対象道路（国道 17 号、都道 446、447 号）



図：公園緑地の 500m徒歩圏

(3)地域経済に関する評価

地域経済に関する評価は、都市サービス産業が活発で、健全な不動産市場が形成されている街を実現する指標です。評価指標は、次の 2 項目で行いました。

評価指標	数値	利用データ	算出方法
従業人口密度	153.7 人/ha	H22 国勢調査	従業者人口密度を算出
小売商業床効率	121.3 万円	H19 商業統計	小売業の年間商品販売額を小売業の売場面積で除して算出

(4)行政運営に関する評価

行政運営に関する評価は、区民が適切な行政サービスを楽しむことができるよう、自治体財政が健全に運営されている街を実現する指標です。評価指標は、区民 1 人当たりの税収額（区民税）としました。

評価指標	数値	利用データ	算出方法
住民 1 人当たりの税収額	98 千円	区民税	区民税を総人口で除して算出

評価データ

評価分野	評価指標	高島平地域	武蔵野市	特別区部
生活利便性	医療施設の徒歩圏人口カバー率	100.0%	100.0%	99.9%
	福祉施設の徒歩圏人口カバー率	100.0%	100.0%	99.9%
	商業施設の徒歩圏人口カバー率	90.0%	97.7%	98.3%
	基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率	100.0%	99.8%	96.4%
	日常生活サービスの徒歩圏充足率	90.0%	97.5%	94.8%
	医療施設の利用圏平均人口密度	156.4 人/ha	130.1 人/ha	144.4 人/ha
	福祉施設の利用圏平均人口密度	161.5 人/ha	130.1 人/ha	146.4 人/ha
	商業施設の利用圏平均人口密度	186.1 人/ha	130.1 人/ha	147.9 人/ha
	公共交通の機関分担率	32.4%	—	40.5%
	公共交通沿線地域の人口密度	156.4 人/ha	130.1 人/ha	142.1 人/ha
健康福祉	福祉施設の徒歩圏高齢人口カバー率	100.0%	88.3%	98.9%
	保育所の徒歩圏 0～5 歳人口カバー率	100.0%	97.6%	99.1%
	買い物への移動手段における徒歩の割合	40.1%	—	39.0%
	歩道整備率	100.0%	93.0%	90.0%
	公園緑地の徒歩圏人口カバー率	100.0%	100.0%	99.9%
地域経済	従業人口密度	153.7/ha	80.8 人/ha	132.8 人/ha
	小売商業床効率	121.3 円/m ²	111.0 万円/m ²	170.9 万円/m ²
行政運営	住民 1 人当たりの税收額	98 千円	235 千円	93 千円

[参考]：相対評価結果（特別区部の平均を「100」とした場合の相対数値

評価分野	評価指標	高島平地域	武蔵野市	特別区部
生活利便性	医療施設の徒歩圏人口カバー率	100.1	100.1	100.0
	福祉施設の徒歩圏人口カバー率	100.1	100.1	
	商業施設の徒歩圏人口カバー率	91.6	99.4	
	基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率	103.7	103.5	
	日常生活サービスの徒歩圏充足率	94.9	102.8	
	医療施設の利用圏平均人口密度	108.3	90.1	
	福祉施設の利用圏平均人口密度	110.3	88.9	
	商業施設の利用圏平均人口密度	125.8	88.0	
	公共交通の機関分担率	80.0	—	
	公共交通沿線地域の人口密度	110.1	91.6	
健康福祉	福祉施設の徒歩圏高齢人口カバー率	101.1	89.3	
	保育所の徒歩圏 0～5 歳人口カバー率	100.9	98.5	
	買い物への移動手段における徒歩の割合	102.8	—	
	歩道整備率	111.1	103.3	
	公園緑地の徒歩圏人口カバー率	100.1	100.1	
地域経済	従業人口密度	115.7	60.8	
	小売商業床効率	71.0	65.0	
行政運営	住民 1 人当たりの税収額	105.4	252.7	

(5) 評価結果

高島平地域は、医療、福祉施設や公共交通機関は武蔵野市と同様に充実していますが、商業施設がやや不足していることから、日常生活サービスは武蔵野市よりやや低い結果となります。

また、高島平地域と武蔵野市の公園緑地の整備はほぼ同等であり、歩道整備率は高島平地域の方が高く歩行者環境は充実しています。

一方、高島平地域は武蔵野市より人口密度がどの項目もやや高く、保育所や高齢者施設は武蔵野市より充実しています。

【高島平地域の評価結果】

●生活利便性

医療、福祉施設が充実し、交通利便性が高い地域です。

医療、福祉、商業とも利用圏平均人口密度は高いことから施設ニーズは高いが、商業施設がやや不足しており「日常生活サービス全体」としての評価はやや低い結果となります。

特に商業施設は、「ニーズが高い」ものの「商業施設が不足」しており売上も低くなっています。

鉄道、バス利用は、特別区部平均をやや下回りますが、平成 24 年度の東京都市圏パーソントリップ調査によると、自転車利用が特別区部 14%に対して高島平地域が 22.4%と多いことから、自転車利用が起因していると推察されます。

●健康福祉

保育所、福祉施設とも充実しています。また、買い物への移動手段における徒歩の割合はやや低いが、これは自転車利用が高いことが起因していると推察されます。歩道整備が行き届き、公園緑地も充実していることから、比較的歩きやすい環境が形成されています。

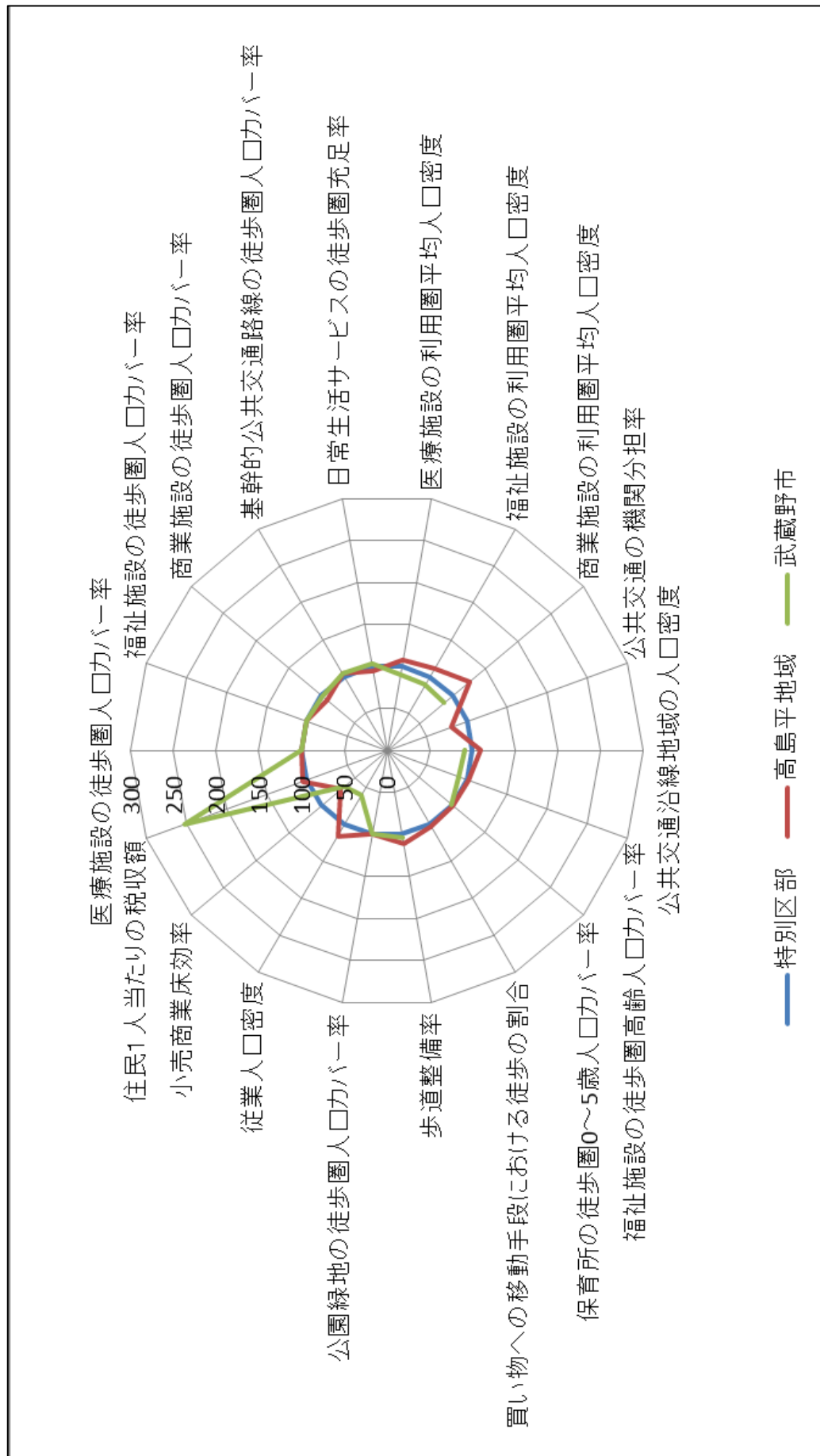
●地域経済

地域内に商業従業者は多いものの、床面積当たりの売上は低く、商業活力の低下が懸念されます。

●行政運営

住民 1 人当たりの税収額を見ると、所得が特別区部の平均よりやや高い結果となります。

図：評価結果 レーダーチャート

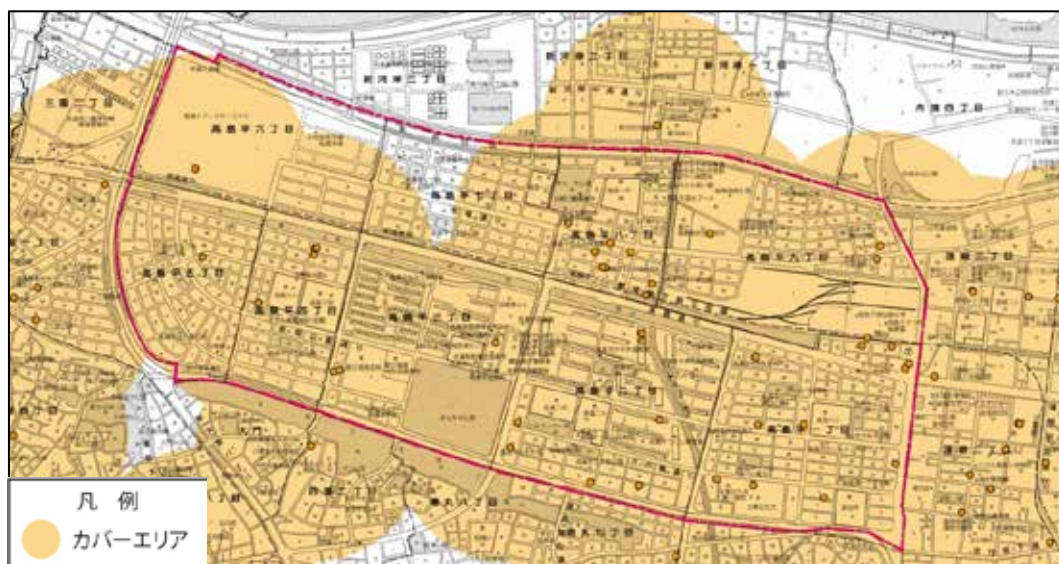


(6) 徒歩圏 400mの生活利便性に関する評価

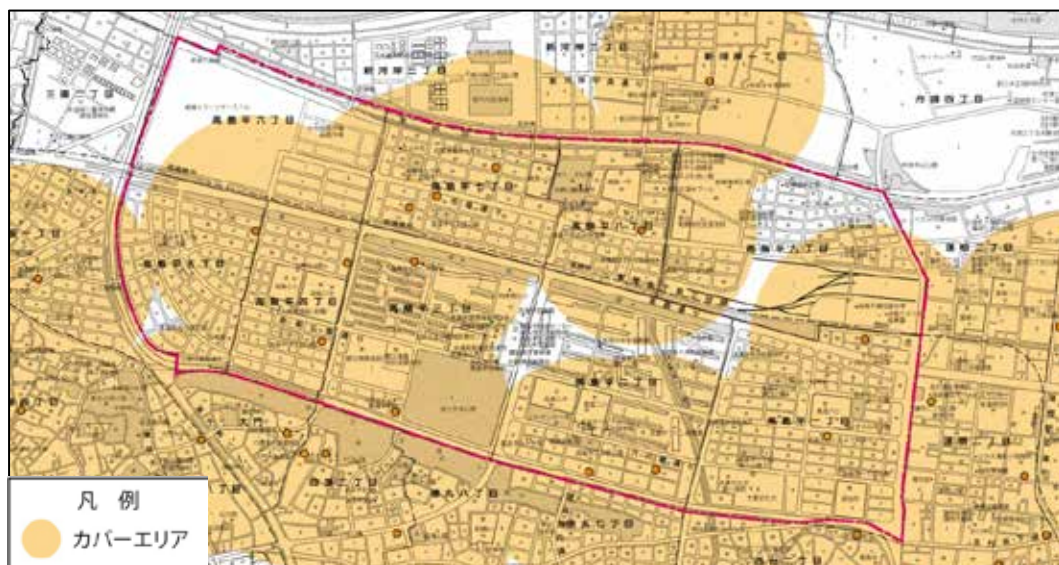
生活利便性に関する評価については、さらに高島平地域全体を生活者の視点から見た、よりコンパクトなヒューマンスケールでの評価を行いました。

「不動産の表示に関する公正競争規約施行規則」(平成 14 年 12 月 26 日公正取引委員会承認)においては、道路距離 80mにつき 1 分を要するものとして計算することが定められています。低学年児童や高齢者の歩行速度を標準歩行速度の 3 分の 2 程度と想定し、景色を楽しみながら歩く概ね 10 分を要する区域を実際の歩行ルートなどを勘案すると直線距離で 400m程度となります。

そのため、評価指標である医療施設、福祉施設、商業施設の徒歩圏人口カバー率、基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率、日常生活サービスの徒歩圏充足率の 5 項目について、施設からの圏域を半径 400mとして高島平地域の数値を算出して、評価しました。



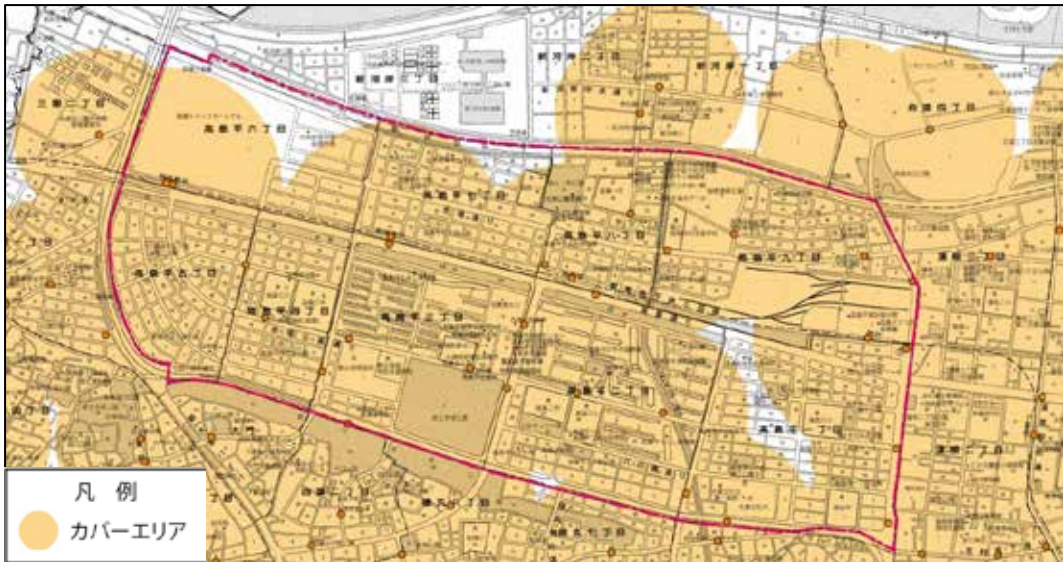
図：医療施設の半径 400m徒歩圏



図：福祉施設の半径 400m徒歩圏



図：商業施設の半径 400m徒歩圏



図：基幹公共交通路線までの徒歩圏（駅半径 400m、バス停半径 300m）



図：日常生活サービスの徒歩圏

(7) 徒歩圏 400mの生活利便性に関する評価結果

医療、福祉施設については充実し、交通利便性が高いことに変わりはありませんが、商業施設の不足がより際立ちその影響で、「日常生活サービス全体」としての評価ではかなり低い結果となります。

したがって、高島平地域においては、商業施設の充実により、日々の生活の利便性を向上させることが必要であると考えられます。

評価分野	評価指標	高島平地域
生活利便性	医療施設の徒歩圏人口カバー率	97.5%
	福祉施設の徒歩圏人口カバー率	90.5%
	商業施設の徒歩圏人口カバー率	63.5%
	基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率	96.6%
	日常生活サービスの徒歩圏充足率	52.3%

2 『健康・医療・福祉のまちづくりの推進ガイドライン』（平成 26 年 8 月：国交省）

による評価

国土交通省は、健康・医療・福祉のまちづくりを推進するにあたり、何が優れているのか、何が十分ではないのかなどを客観的に分析、評価するための指標として「健康・医療・福祉のまちづくりの推進ガイドライン(技術的助言)(平成 26 年 8 月公表)」を公表しました。

この診断は、自分たちの都市の全体的な傾向を把握するだけでなく、他都市との比較や重点的に施策を取り込むことが必要な地域等を検討することを対象としており、区民や民間事業者等に対して、視覚的にも分かりやすく開示することとしています。

また、この診断指標は案であり、街区レベルでの診断指標の設定等も含め、引き続き指標については、街区レベルでの評価指標の設定等も含め、引き続き知見を高め、改善を行っていくとしています。

診断の視点は、前述の都市構造の評価を補完することを念頭にして決定した 4 分野（下表のとおり）、5 項目の指標としました。また、大都市圏（3 大都市圏および政令市を核とする都市圏）を 100 とした時の高島平地域の数値を算出し、相対的な評価も行いました。

表：診断の視点・指標

診断の視点	診断指標
高齢者の生活と健康状況	高齢化進展度
	一人暮らし高齢者率
コミュニティ活動の活性化	コミュニティ活動の拠点
公共交通の利用環境	鉄道利用率 (代表交通手段分担率における鉄道の割合)
	バス利用率 (代表交通手段分担率におけるバスの割合)

(1)データ算出方法

表：診断指標、数値、利用データ、算出方法

診断指標	数値	利用データ	算出方法
高齢化進展度	28.0%	国勢調査	65歳以上の人口を地域の総人口で除して算出
一人暮らし高齢者率	30.9%	国勢調査	65歳以上の世帯員がいる単独世帯数を65歳以上の人口で除して算出
コミュニティ活動の拠点	1.6 施設	板橋区	集会施設の数をも1万人当たりの人口総数で除して算出
鉄道利用率 (代表交通手段分担率における鉄道の割合)	30.0%	パーソントリップ調査	「私事目的」の代表交通手段分担率の「鉄道」を集計
バス利用率 (代表交通手段分担率におけるバスの割合)	2.4%	パーソントリップ調査	「私事目的」の代表交通手段分担率の「バス」を集計

(2)診断結果

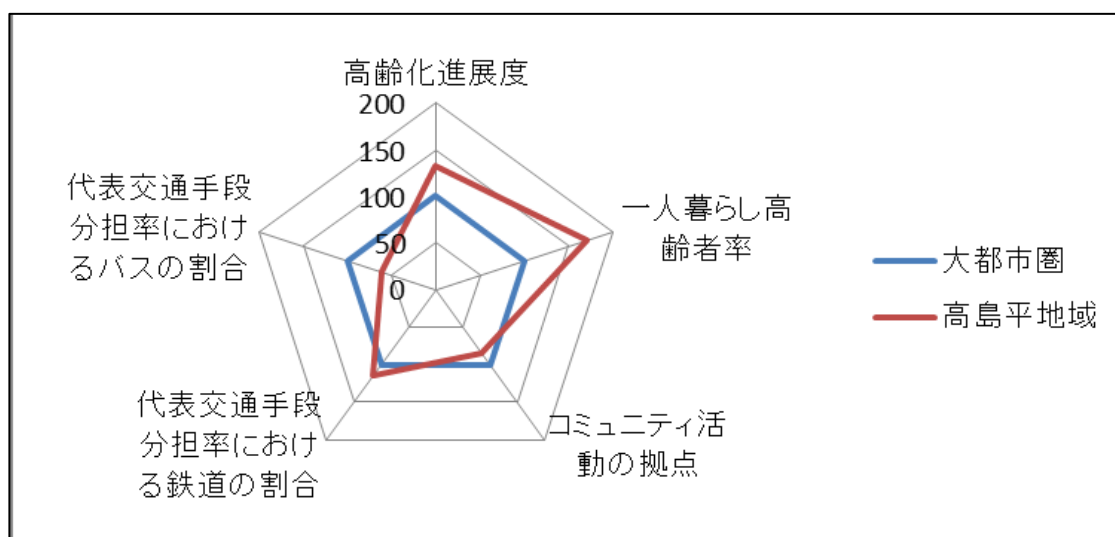
高島平地域は、高齢化が進展しており一人暮らしの高齢者が非常に多く、コミュニティ活動の拠点はやや少ない結果となりました。バス利用者は少ないが、これは地形の高低差がないことから自転車利用が多く、結果バス利用が少ないことが推察されます。

診断データ

診断の視点	診断指標	高島平地域	大都市圏
高齢者の生活と健康状況	高齢化進展度	28.0%	21.1%
	一人暮らし高齢者率	30.9%	18.1%
コミュニティ活動の活性化	コミュニティ活動の拠点	1.6 施設	1.9 施設
公共交通の利用環境	鉄道利用率(代表交通手段分担率における鉄道の割合)	30.0%	26.2%
	バス利用率(代表交通手段分担率におけるバスの割合)	2.4%	3.9%

[参考]：相対評価

診断の視点	診断指標	高島平地域	大都市圏
高齢者の生活と健康状況	高齢化進展度	132.7	100.0
	一人暮らし高齢者率	170.7	
コミュニティ活動の活性化	コミュニティ活動の拠点	84.2	
公共交通の利用環境	鉄道利用率(代表交通手段分担率における鉄道の割合)	114.5	
	バス利用率(代表交通手段分担率におけるバスの割合)	61.5	



図：レーダーチャート

3 評価結果

医療施設や保育施設が充実し、交通利便性が高い地域となります。また、歩道整備が行き届き、歩きやすい環境が形成されています。一方、商業施設や福祉施設が不足しており「日常生活サービス全体」としての評価は低くなっています。また、徒歩圏400mの生活利便性に関する評価では、商業施設や福祉施設の不足がより際立ち、その影響で、「日常生活サービス全体」としての評価がかなり低い結果となりました。

「都市構造の評価」の追加及び「健康・医療・福祉のまちづくりの診断」では、人口密度が高い地域であることから、医療施設、福祉施設、商業施設、公共交通のニーズは非常に高く、施設を誘致する効果が高いことがうかがえます。特に高齢化が進展しており一人暮らしの高齢者が多い地域のため福祉施設は充実していますが、さらなる増加に対応した高齢者施設の充実が望まれます。

また、従業者人口やニーズが高いにも関わらず、商業施設は不足しており、売上も低いことから、商業環境の充実が求められます。

第4章 「素案」に関する区民への周知・意見集約結果

1 パブリックコメント実施結果

(1) **意見募集期間** 平成27年3月27日（金）～ 5月15日（金）【50日間】

(2) 意見募集の公表方法

○区ホームページ ○広報いたばし（3月28日号）

○区窓口（高島平地域まちづくり担当課・区政資料室・高島平地域センター・区立図書館）

(3) **意見の提出方法** 直接または郵送・FAX・Eメール

(4) **意見数** 28件 3名・2団体・1事業者
（FAX1人、Eメール2人・2団体・1事業者）

	ご意見の概要	区の考え方
1 「全体☆」	他の区の行政計画との整合を図りながら、新たなまちづくりの実証の場として、高島平地域で20年以上の長期計画を策定することに賛成。	高島平地域グランドデザインは、いたばし未来創造プランで掲げる成長分野における「高島平地域のまちづくりの推進」を受けて、策定に着手しています。他の行政計画に加え、検討中の次期基本構想や基本計画、「公共施設等の整備に関するマスタープラン」に基づく個別整備計画の検討内容等とも整合を図りながら策定していきます。
2 「☆」	20年以上の長期間の構想であり、社会環境の変化を見据えながら、多くの人の意見を聞き、時間をかけて進めてほしい。	策定後に、地域に開かれた協議の組織体として、高島平デザインセンター（以下、「TDC」という。）の設置を予定しています。今後の取り組みの方向性は多岐にわたるため、短期から長期の時間軸を意識して、取り組みの優先順位と実施時期を見極めながら、長期的なまちづくりに対応していきます。
3 「☆」	実際の事業実施にあたっては、区の支出を極力抑えて下さい。	区の財政状況や将来の財政負担を考慮しながら、「選択と集中」や「民間活力の導入」等の視点に基づき、区の支出を出来るだけ抑制していきます。
4 「☆」	まちづくりを具体的に実施していく際には、知的障がい者にもわかりやすい標示や表示（サイン計画）にしてください。	グランドデザインの戦略的視点では、歩いて楽しく暮らすことのできる都市モデルを提案することを打ち出しています。具体的なまちづくりの実現に向けた検討段階では、誰もが利用・使用しやすいことを念頭に「ユニバーサルデザイン」の考えに基づいて進めていきます。
5 「☆」	若年層誘導に向けて、高島平地域の居住想定人口を明確にし、次世代の生活に不足する文化的余暇対応施設等を補てんしていくべきです。	現在検討中の「区の人口ビジョン」の内容を踏まえつつ、高島平地域の想定人口について分析していきます。また、素案の作成にあたっては、都市構造の評価などによる地域の分析を行った上で、若者世代に焦点を当て、戦略的視点と将来像の実現のため、4つのテーマを設定し、都市づくりの方向性を示したところです。

6 「☆」	策定の過程で地域活力の取り込みが不十分です。TDC設立後も全体構想の議論ができるように、グランドデザインの内容に幅を持たせて下さい。	策定後に設置を予定しているTDCは、グランドデザインで示した都市づくりの方向性を踏まえながら、「民・学・公」の連携のもと、短期から長期の時間軸を意識して、各分野にわたるハード・ソフトのまちづくりの取組みの優先順位づけや実施時期を見極めながら、長期的なまちづくりに対応していきます。
7 「☆」	歩行中心の都市づくりが強調されているが、高島平は自転車のまちでもあるので、エコロジーの観点からサイクリングロードの整備をしてください。	素案では、人間中心（生活・活動）の都市づくりとして、徒歩圏域や歩行をキーワードにした都市モデルの提案を行いました。そうした観点から見れば、歩行や公共交通機関と並んで、自転車も重要な要素であるため、自転車を利用しやすい都市づくりについても、検討していきます。
8 「将来像」	キャッチフレーズは区民公募で決めてください。	グランドデザイン素案においては、高島平地域の将来像をイメージとしてとらえやすく、また、魅力発信のフレーズが必要と考えて、仮称の形で提示しています。説明会やミニ座談会などでのご意見や、アンケート調査の設問でもお聴きしていますので、それらを勘案しながら決めていきたいと考えます。
9 「ウェルフェア※」	高島平団地内に、知的障がい者グループホームが設置できる環境整備をしてください。	グランドデザインでは、高島平団地の既存ストックを活用・リニューアルしながら、多様な世代の交流を図ることが出来るコミュニティ形成や、医療と介護の連携による地域包括ケアシステム構築に向けた環境整備を推進していくとしています。個別具体的な取り組みを含めた広範なまちづくりについては、今後、UR都市機構と協議していくものと考えます。
10 「※」	高島平地域内に障がい者が気軽に立ち寄り相談ができる地域生活支援センターを設置してください。	グランドデザインでは、「心と体の健康づくり」として、「障がい者施設の充実」を掲げており、方向性として、既存施設の充実や今後、高いニーズが予想される施設の誘致に向けた取り組みを行う必要性について記述しています。
11 「※」	知的障がい者の就労の場づくりに取り組んでください。	グランドデザインでは、「心と体の健康づくり」として、「障がい者施設の充実」を掲げていますが、就労の場づくりについても、既存施設の充実や民間施設の誘致などを含めて必要な取り組み項目のひとつとしていきます。
12 「※」	知的障がい者の入所・通所のための障がい者支援施設を組み入れてください。	グランドデザインでは、「心と体の健康づくり」として、「障がい者施設の充実」を掲げています。今後、特別支援学校等卒業する方が増加傾向にあることから、障がいのある方の日中活動の場となる通所施設整備については、検討を進めていきます。

13 「※」	元気な高齢者が若い世代（子育て世代）のサポートをするための拠点整備をしてください。	元気な高齢者が若い世代（子育て世代）のサポートをすることは、若者世代の子育て環境の充実とともに、高齢者の生きがいづくりに貢献するものと考えますが、拠点整備の必要性の有無については、具体的な施策と事業展開の中で検討していくものと考えます。
14 「スマートエネルギー」	高島平地域において、施設レベル、街区レベル、地域レベルの各段階で、高効率で低炭素のエネルギーネットワークシステムを構築する方向での都市づくりに期待します。	区では一昨年度から、スマートシティの検討を行ってきた経過があります。それらを踏まえてグランドデザインでは、高島平地域の特性を踏まえた施設・街区・地域全体の各レベルでの「スマートエネルギー」の都市づくりについて、一定程度、具体的な内容に踏み込んだ形で提案しており、計画的かつ段階的に実現に向けた取り組みを進めていきます。
15 「防災」	非常用ライフラインの確保として、コージェネレーションシステムの整備、清掃工場の余剰電力の活用、再生可能エネルギーの活用など、安定電源の確保を掲げているのに期待しており、実現の際に中圧供給の都市ガスの利用が重要です。	高島平地域の将来の都市づくりに向けて設定した4つのテーマのひとつとして「防災」を掲げ、災害時における地域継続計画（DCP）の推進は、社会の持続・継続性を実現するために必要であると考えました。そうした視点から、地域エネルギーネットワークの拠点整備や防災対応型及び、自立分散型のエネルギーシステムの導入を進めていきます。特に、コージェネレーションシステムの整備は、重要であると考えます。
16 「TDC※」	TDCのメンバーに、障がい者関係の人も入れてください。	グランドデザイン策定後に、「民・学・公」の連携による、地域に開かれたTDCの設置に向けた活動を進めていく予定ですが、まずは、勉強会、立ち上げ準備会の設置を考えており、その中で、取り組み事項とそれに即応した体制づくり、メンバーの構成を検討していきます。
17 「＊」	若者世代の意見を尊重する点から、TDCの参加者に60歳以下という年齢制限を設けるべきです。	戦略的視点では、若者世代に照準を設定していますが、一方で、高齢者を含む多様な世代が歩いて楽しく暮らすことができる都市モデルの提案も掲げているため、地域に開かれた議論の場を想定したTDCにおいては、60歳以上の高齢者の参加も必要であると考えます。
18 「目標設定」	高齢化に歯止めをかける具体的な施策と数値目標を設定してください。	高齢化に歯止めをかけるには、高齢者人口の抑制か、高齢者人口以外の年代層を呼び込むしかなく、具体的な施策の立案とそれに併せた評価指標は今後の検討に委ねられるものと考えます。

19 「再整備地区★」	障がい者、高齢者、子育て支援の複合施設（文京福祉センター江戸川橋のような知的障がい者に特化しない普遍性のある施設）を作ってください。	再整備地区における公共施設（公共サービス）の機能については、集約・複合化と共用スペースのスリム化、地区内の既存施設の充実、新たな機能の導入による魅力創造とサービスの質の向上を基本的な考え方としています。
20 「★」	民間事業として成立しない場合は、さらに長期間、旧高七小を中心に、用地が放置されることが考えられ望ましくない。	素案では、再整備地区の活用方針として、民間事業施設は定期借地権方式、また、公共施設部分は「公共サービスの民間開放」の視点から民間活力を活用した整備手法の検討内容ありのまま示しました。民間事業における採算性確保について、慎重に検討する必要がありますが、今後、長期間、現状のまま放置することのないよう進めていきます。
21 「★」	今後の工事費水準の動向と民間事業者の意向に委ねられ、区の主体性が見えにくい。他に検討したパターンや更地にしないパターン等も示すべきです。	再整備地区については、既存の施設をこのまま活用していくのではなく、一体的な再整備の方向で検討を進めていくことにしています。 民間事業の展開パターンとしては、他にも検討していますが、区民の皆様のアイデアをお聴きすることを目的として、素案では代表的な4パターンとしました。
22 「★」	現在の旧高島第七小学校の空き教室を利用して、リノベーションすることで、保育園を増やすべきです。	現在の旧高七小の校舎については、耐震上も問題がない部分について地域の活動団体などに利用していただいております。既存の建物に大規模な改修工事を行い、用途や機能の変更をすることは、予定しておりません。保育施設については、今後の高島平地域における保育需要を勘案し、必要に応じて民間事業者の誘致の検討を進めていきます。
23 「★」	P F I 手法については、素案においても消極的な記述なので、民間活力の活用手法から外すべきです。	再整備地区で活用が想定できる民設民営手法のひとつとしてP F I 事業を記載しています。また、公共施設（公共サービス）として必要な機能の導入の検討段階であるため、現時点で活用手法から外すことは適当ではないと考えます。
24 「★」	民間事業者のヒアリングでは、総じて消極的な評価であったことを説明会でも説明すべきです。	説明会では、民間活用の事業展開パターンについて、民間事業者へのヒアリングを行った事実と、採算性の観点からの評価について、パワーポイントと配布資料に基づいて説明をしています。
25 「★」	東京五輪特需後は、建設工事の沈静化だけでなく、賃金低下への懸念など、景気予測を加味した検討をすべきです。	民間事業者へのヒアリングなど、再整備地区における民間活力の活用については、景気予測を加味した採算性などについても、分析していきます。

26 「その他」□	納税者の理解を得るために、策定費用や策定に関わった業者名を公表すべきです。	区のホームページにおいて、グランドデザイン策定に関する「Q & A」コーナーを設けていますので、その中で策定費用についても掲載していきます。なお、調査検討のための委託業者名については、昨年の7月1日に区のホームページで公開しています。
27 「□」	住民説明会への若者世代の出席が少なく、もっとアイデアを出して、若い世代の意見を取り入れる方法を考えてください。	今回の素案については、住民の皆様の幅広い意見を集約するために、住民説明会とは別に、エリア別のミニ座談会（七か所）や地域活動団体単位のレベル、若しくはテーマを設定しての懇談会・意見交換会を実施するとともに、高島平地域全体に全戸配布のアンケート調査を行い、若者世代の声をお聴きする機会の創出に努めてきました。今後も若い世代の参画・参加に向けた促進方策を考えていきます。
28 「□」	住民の理解が進めように、説明会における質疑応答などのやり取りを区のホームページで公開すべきです。	説明会における質疑応答の内容については、「主な意見・要望」として、6月の区議会報告後に、区のホームページで公開していきます。

2 説明会・ミニ座談会などの開催状況

(1) 住民説明会

① 開催の周知方法

- 町会長会議 3月6日、4月9日 ○区ホームページ ○広報いたばし 3月28日号
- ポスター掲示（町会掲示板）4月16日～30日

② 開催状況

- 5月9日（土）13時30分～15時40分 高島平区民館 参加者 96人
- 5月10日（日）18時00分～20時10分 高島平区民館 参加者 53人
- 主な意見・要望（9日⇒○、10日⇒●）

【全体構想】

- 将来像（キャッチフレーズ）について、シティプロモーションのスローガン等との整合確保
- 広大な構想のため、時間をかけた慎重な検討が必要
- 全体構想の意味や、都市計画マスタープランとの関係性の明確化（啓発の工夫）
- 「住みたいまちランキング」に惑わされない、高島平らしさの追求
- 若者世代の転入に向けたソフト事業の展開（若者への一時的な家賃助成）
- 商業系施設を中心とする「にぎわい創出」と併行した輸送力強化（バス・鉄道）
- 西高島平駅周辺の商業系を中心とする「にぎわい創出」
- 歩行中心のまちづくりには、歩道拡幅や公園のトイレの改良等が重要
- 高島平緑地の散策・緑・緩衝帯としての機能の維持
- 2025年問題を見据えて、高島平版の地域包括ケアシステム構築の実現
- 超高齢社会対応としての「元気高齢者の生きがいづくり」
- 若い人を呼び込む手立てとして、UR賃貸団地の部屋の仕様改善の推進に向けた働きかけ
- 「スマートエネルギー」を優先した取り組み
- 「防災」の優先度の引き上げ（避難所、防災備蓄庫等、より具体的に盛り込むべき）
- 分譲団地（高島平三丁目）の将来のあり方検討に向けた専門家や行政による支援
- 分譲団地（高島平三丁目）の将来のあり方検討が未定のため、お散歩ネットワークの削除
- TDC（高島平デザインセンター）のコアメンバーへの若者世代の参加推進

【再整備地区の開発】

- 商業系に子育て支援施設を加えた複合施設
- 安価で利用できる高齢者福祉施設の導入、特別養護老人ホームの設置
- 公共施設に特化した活用
- 量的に新たな住宅供給は不要
- 再整備地区に隣接するJA東京あおばや医師会病院と連携した開発
- 旧高七小の校庭利用者に配慮した再整備（オープンスペースの確保）
- 高島平区民館の拡充（文化・芸術・音楽・劇場など）の方向でのリニューアル
- 可能な限り、早期の実現

(2) ミニ座談会（主に町会・自治会単位を想定して実施）

開催日時	会 場	参 加 者
4 月 11 日（土）13 時～15 時	住宅供給公社西台住宅五号棟 集会所	2 6 人
4 月 28 日（火）19 時～	高島平二丁目集会所	0 人
5 月 7 日（木） 19 時～20 時 15 分	高島平地域センター洋室	8 人
5 月 8 日（金） 19 時～20 時 15 分	高島平一丁目集会所	2 4 人
5 月 13 日（水）19 時～20 時 15 分	高島平八丁目徳丸ヶ原公園内 集会所	1 3 人
5 月 14 日（木）19 時～20 時 45 分	高島平九丁目集会所	1 9 人
5 月 16 日（土）14 時～16 時	高島平四丁目集会所	1 6 人

※区ホームページ、町会長会議で周知（*一部、チラシのポスティング）

○主な意見・要望

【住宅供給公社西台住宅（五号棟）集会所】

- ・若い世代のために、“若々しい高島平”づくり
- ・若い世代の定住促進と、まちに活力を与える三田線の延伸を実現
- ・暮らしやすいまちにするために、安価な利用料で利用できる施設を増やす
- ・来街者を増やす施設として、サッカー等のスポーツスタジアムの誘致
- ・人工地盤上と地上面をつなぐ、2基目のエレベーター設置に向けた、東京都への働きかけ

【高島平地域センター洋室】

- ・高島平地域としての目標人口の設定
- ・三田線の高架下、UR団地、流通業務団地の活用等、区有地以外を含めた全体構想づくり
- ・再整備地区は、ショッピングモールと拡充した新たな区民館を中心とした整備

【高島平一丁目集会所】

- ・優先順位づけを明確にして、取り組みの早期実現をめざす。
- ・子どもと高齢者のダブルケアの考えを打ち出す。（高齢者の生きがいづくりも重要）
- ・高齢者対策として、大規模な施設設置に頼らない施策の展開
- ・安価で利用できる高齢者福祉施設や特別養護老人ホームの設置
- ・西台駅のバリアフリー化、公益施設前のバス停設置に関する東京都や事業者への働きかけ

【高島平八丁目 徳丸ヶ原公園内集会所】

- ・若者世代に魅力的なまちづくりに取り組みを重点化する
- ・早期の魅力の見える化（駅前の保育ステーションの設置等、ソフト事業を優先

して展開)

- ・ 家族や友達との交流が弾むカフェ、レストラン出店に適した環境整備
- ・ 若い人のニーズを反映した団地のリニューアルに向けたURへの働きかけ
- ・ TDCの運営における若い人の参画、参加や意見を聞くための場づくり
- ・ 再整備地区は、にぎわい創出（昼間人口増加）に向けた教育関連施設や企業本社機能の誘致

【高島平九丁目集会所】

- ・ 若い人々を応援したり、子育てしやすいまちづくりの推進
- ・ 超高齢社会対応として、高齢者介護充実のための環境整備
- ・ 新規施設の建設の前に、既存施設の活用の徹底
- ・ 三田線や車両基地による南北方向分断の改善
- ・ TDCにおける若者の参画や参加の確保

【高島平四丁目集会所】

- ・ 買い物を中心に、生活利便性の向上（買い物難民発生の防止）
- ・ ベットタウンであることを前提と考え、三田線の延伸反対
- ・ 旧高七小の施設利用者に配慮した再整備地区の開発
- ・ 再整備地区に、子どもから高齢者までの多世代が交流できる公共複合施設
- ・ 若者の雇用の受け皿を視野に入れた再整備地区における高齢者福祉施設の展開

(3) 懇談会・意見交換会（*座談会よりも小さな単位やテーマ性を持って実施）

	開催日時	会 場	参 加 者
A	3月23日（月） 14時～16時 大東文化大学学生	区役所 11階 第二委員会室	4人
B	4月7日（火） 20時～21時	都営西台住宅六号棟 集会所	26人
C	4月10日（金） 13時～14時 観光ボランティア	区役所 5階 504会議室	3人
D	4月11日（土） 19時～20時	都営西台住宅八号棟 集会所	11人
E	4月16日（木） 9時～11時 コミュニティスペース運営の団体等	ゆずり葉（高島平八丁目）	10人
F	5月21日（木） 19時～20時45分 商店主	高島平ビルディング株式会社	7人
G	5月25日（月） 13時30分～15時 障がい者福祉団体	区役所 5階 501会議室	11人

○主な意見・要望

- 【A】・まちの回遊性を高めたり、食をテーマにした、活気あるまちづくり
 - ・まちでの滞在時間を増やすには、レストランやショッピングモールが必要
 - ・高齢者の健康増進のため、お散歩ネットワーク構築の際の立ち寄りスポットの配置
 - ・高島平団地や再整備地区内への国際学生寮の誘致
 - ・TDCでは、地域貢献事業の企画、イベントの実施を組み込み、学生や若者の参加を促す
- 【B】・若者世代に照準を合わせ、学生を入居させる等、思い切ったミクストコミュニティ形成への取り組みを強化。（JKKへの働きかけ）
 - ・若者転入への取り組みに重点化。（例：空き家や空き室学生寮としての利用の仕組みづくり）
 - ・人工地盤上と地上面をつなぐ、2基目のエレベーター設置について、東京都への働きかけ
 - ・再整備地区の開発は、商業、オフィスビル等、民間活力の活用で行う
 - ・高島平区民館の大幅な拡充と、一部に特別養護老人ホームの導入
- 【C】・将来像（キャッチフレーズ）は簡単明瞭に。「訪れたい、住みたい、働きたい」等
 - ・子ども向け漫画図書館やアニメ映像館など、子どもを意識したまちづくり
 - ・エリアマネジメントの一環として、区立施設を同一部署で一括して管理運営する
 - ・オフィスビルは採算性に問題があり、慎重に検討すべき
 - ・再整備地区への商業系施設は、既存の店舗、商店街への影響を考慮して、売場面積3,000㎡以下としつつ、物産や食のテーマパーク等の特色出し
- 【D】・人工地盤上をひとつのエリアと考えたまちづくり（ミクストコミュニティや地域包括ケアシステムの構築、介護ケア施設の誘致）
 - ・環状方向への三田線延伸の運動の再起
 - ・元気高齢者と要介護・要支援の高齢者との助け合いの仕組みづくり
 - ・再整備地区において民間活力の活用を図る場合、行政として一定の条件や制約をかける
- 【E】・今住む人々が豊かに暮らせることを優先（開発志向の商業施設や高層マンションは不要）
 - ・駅前以外の徒歩圏での分散型福祉拠点づくり（コミュニティスペースの明確な位置づけ）
 - ・行政では手が回り切れない地域課題を協働して解決していく仕組みづくり
 - ・歩行者中心の子育て環境の充実
 - ・再整備地区における音楽・体育・プレーパーク、起業チャレンジ施設の導入

【F】・30年から50年先を見据えた都市再生の打ち出し（若者世代に魅力あるまちづくり）

- ・新たな大規模高齢者福祉施設の設置は不要
- ・高島平緑地や区立・都立公園内の売店やカフェの設置
- ・歩行者専用道路の整備
- ・高島平駅のより一層のバリアフリー化の推進
- ・再整備地区における文化ホール、小コンサートホールの設置

【G】・障がい者福祉施設の充実に向けた具体的な検討

- ・肢体不自由を伴う重度・重複障がい者の入所型・通所型の生活介護施設の整備
- ・再整備地区における障がい者の就労の場づくり
- ・高齢者とともに、障がい者を含めた地域包括ケアの確立
- ・プロムナード整備での障がい者福祉機能の導入

3 アンケート調査結果・分析

(1) アンケート調査実施の目的・実施概要

①アンケート調査実施の目的

『高島平グランドデザイン』をより住民意向にそった実現性の高いものとして完成させるため、グランドデザイン素案に対する地域住民や関係者の意向等の把握を目的として、「高島平地域グランドデザイン素案と地域要望に関するアンケート調査」を実施しました。

②アンケート調査実施概要

○配布範囲・方法

高島平一丁目～九丁目内にある住宅、事務所、店舗に各戸ポスティング

※西台北町会に属する、新河岸一丁目1番～13番を含む。

○配布期間

平成27年4月13日(月)～17日(金)

○回収方法・締切

返信用封筒により郵送回収。平成27年5月20日(水) [必着] *38日間

○配布物

調査案内、高島平地域グランドデザイン素案特集、アンケート回答票、返信用封筒

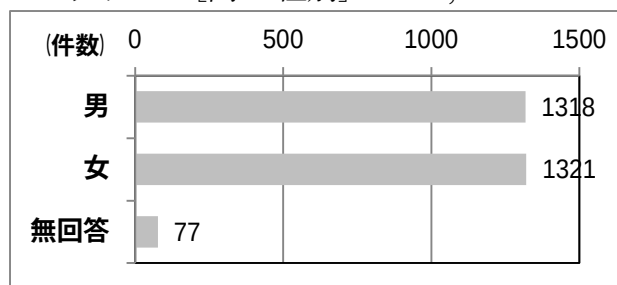
○配布数・回収率

	配布数	回収数	回収率(%) *
高 島 平 一 丁 目	4,602	330	7.17
高 島 平 二 丁 目	7,989	789	9.87
高 島 平 三 丁 目	2,739	475	17.34
高 島 平 四 丁 目	937	115	12.27
高 島 平 五 丁 目	1,591	208	13.07
高 島 平 六 丁 目	50	3	6.00
高 島 平 七 丁 目	2,815	197	6.99
高 島 平 八 丁 目	2,132	148	6.94
高 島 平 九 丁 目	4,057	381	9.39
新河岸一丁目(一部)	62	16	25.80
そ の 他 ・ 無 回 答	-	54	-
計	26,974	2,716	10.06

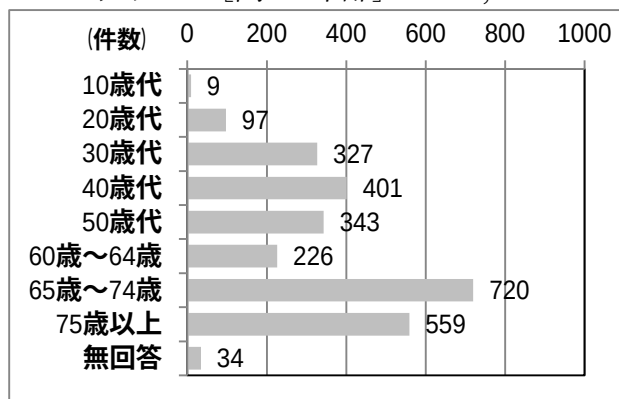
*小数点第三位切り捨て

(2) 属性の単純集計結果

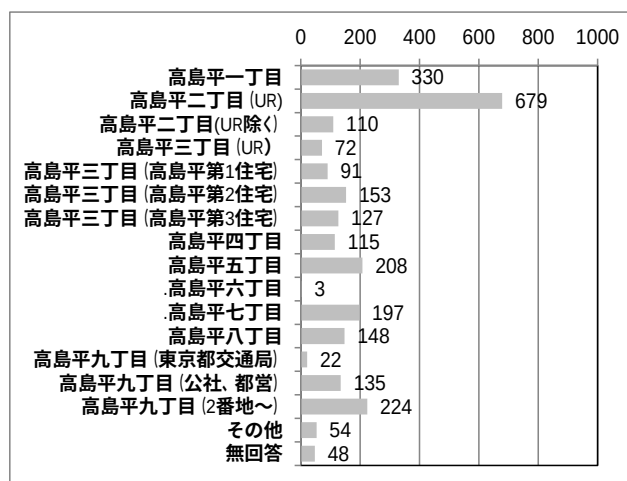
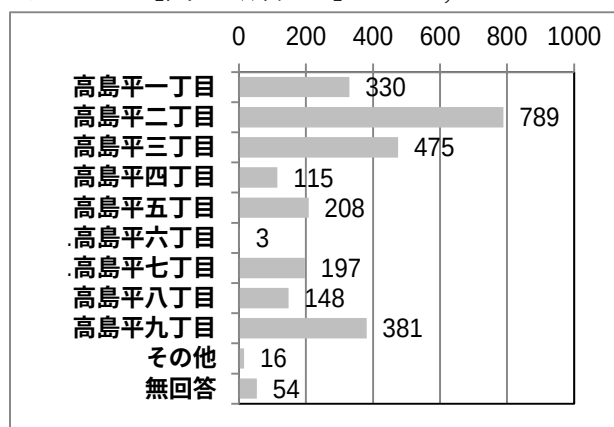
グラフ：[問1 性別] n=2,716



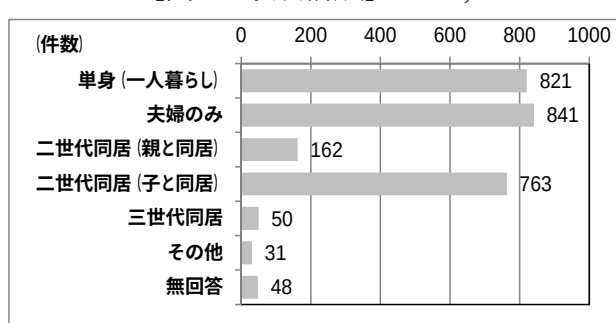
グラフ：[問2 年齢] n=2,716



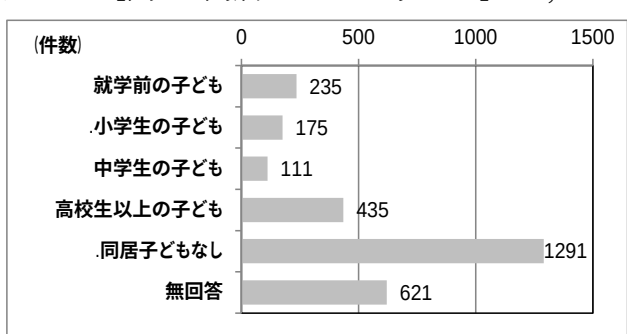
グラフ：[問3 所在地] n=2,716



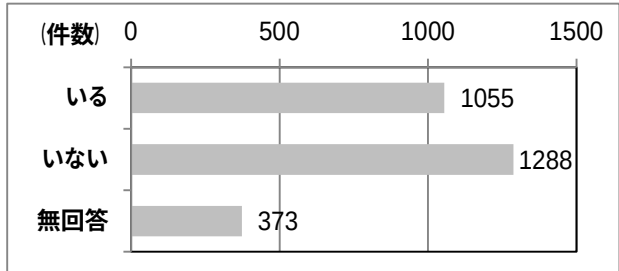
グラフ：[問4 家族構成] n=2,716



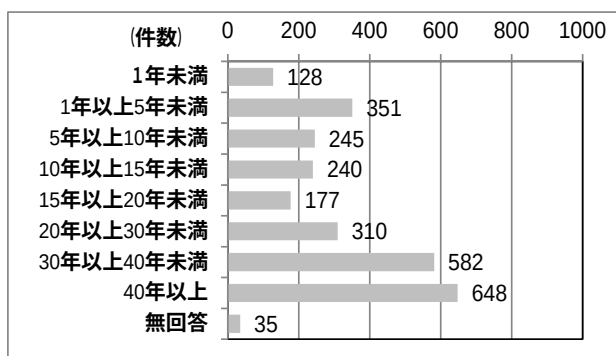
グラフ：[問5 同居している子ども] n=2,716



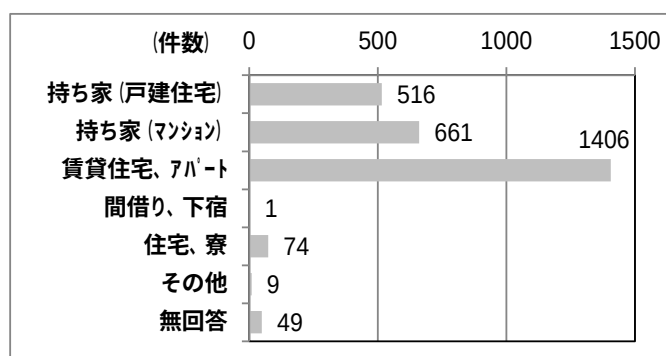
グラフ：[問6 65歳以上の家族] n=2,716



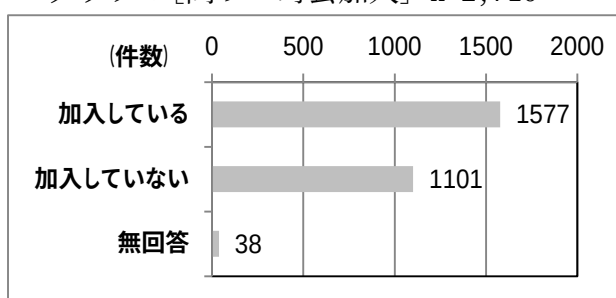
グラフ：[問7 居住年数] n=2,716



グラフ：[問8 住宅の所有形態] n=2,716



グラフ：[問9 町会加入] n=2,716

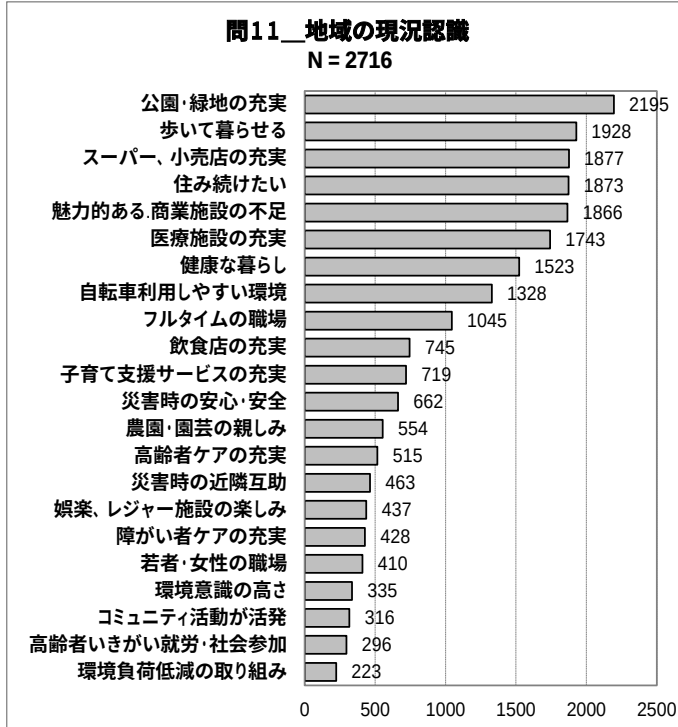


(3) 単純集計結果

問10 地域の現況の認識

* 「そう思う」「まあまあそう思う」の合計値

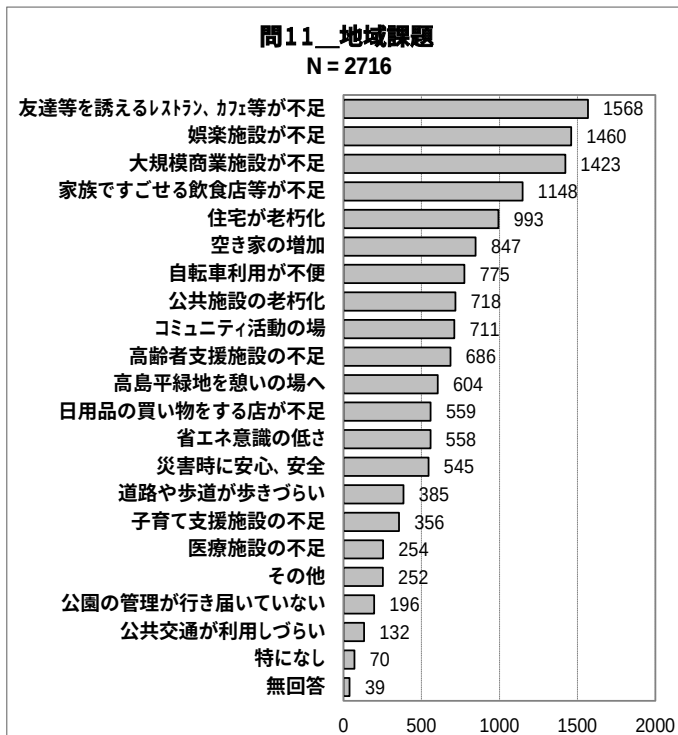
グラフ：問10 地域の現況認識



「公園・緑地が充実している」が 2195 件、「バスや自家用車を使わず、歩いて暮らすことができる」が 1928 件、「日常の買い物をするスーパーや小売店が充実している」が 1877 件、「高島平地域にこれからも住み続けたい」が 1873 件で、上位に挙げられています。一方、「魅力ある商業施設の不足」は 1866 件で、“不足”と感じている回答として5位に挙がっています。

問11 地域課題について

グラフ：問11 地域課題



「知人や友達を誘えるレストラン、カフェ等が不足」が 1568 件、「映画館やテーマパーク、小劇場などの娯楽施設が不足」が 1460 件、「デパートやショッピングモール等の大規模商業施設が不足」が 1423 件、「家族で過ごすことのできる飲食店等が不足」が 1148 件、「マンションや戸建てなどの住宅の老朽化」が 993 件で、上位に挙げられており、商業・飲食娯楽施設の不足が上位を占めています。

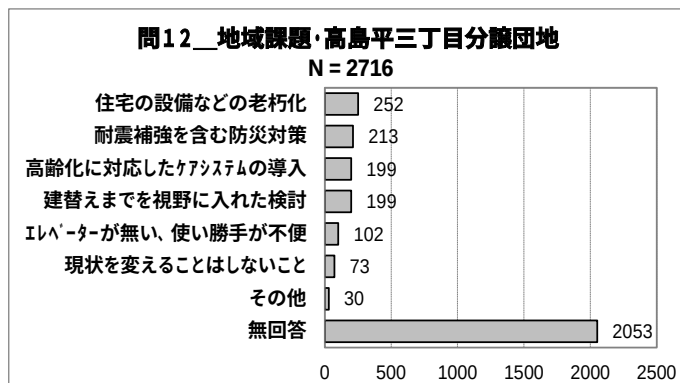
問 1 2

○人工地盤団地（高島平九丁目 1 番地 5～8 号棟）における課題について

自由記述で上げられている中では、「階段、坂が多いためエレベーター、エスカレーター等の設置などが必要」が 64 件、「災害時の避難路等の確保」が 9 件と、階段、坂の課題が特に多く挙げられています。

○高島平三丁目分譲団地（10 番地 2～24 号棟、11 番地 1～11 号棟）における課題について

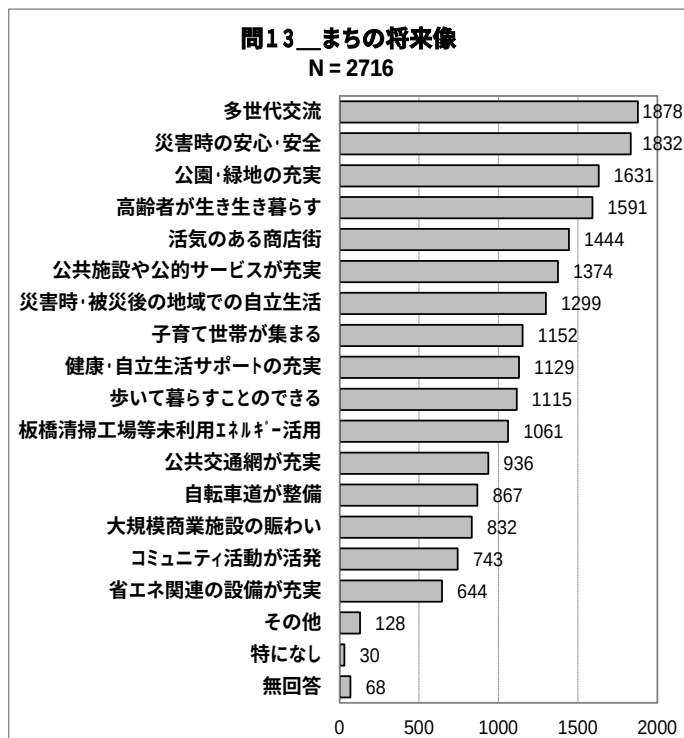
グラフ：問 1 2 __地域課題・高島平三丁目分譲団地



「住宅の設備などの老朽化」が 252 件、「耐震補強を含む防災対策」が 213 件、「高齢化に対応したケアシステムの導入」が 199 件、「建替えまでを視野に入れた検討」が 199 件が多く挙げられています。

問 1 3 20 年後に希望するまちの姿（将来像）について

グラフ：問 1 2 __地域課題・高島平三丁目分譲団地

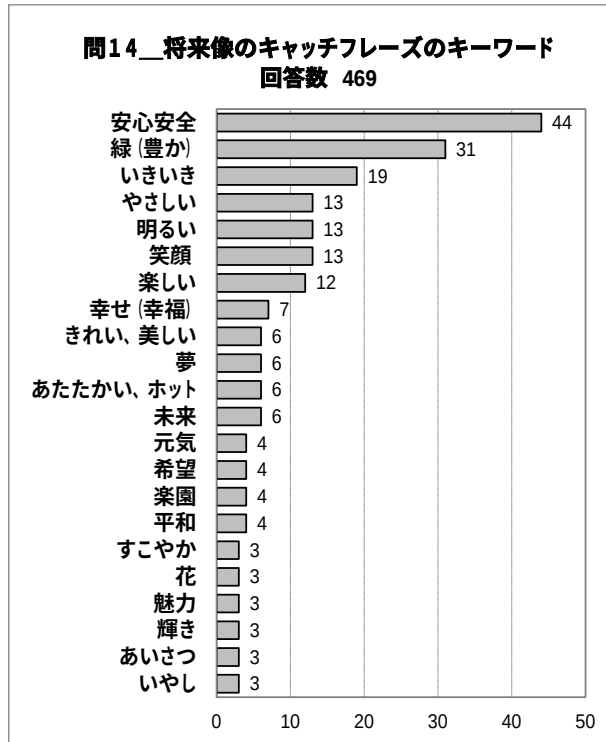


「若者から高齢者まで多様な世代が交流できるまち」が 1878 件、「災害時にも安心・安全なまち」が 1832 件、「公園・緑地などが充実して、豊かな緑を楽しむことができるうるおいのあるまち」が 1631 件、「高齢者が生き生きと暮らすことのできるまち」が 1591 件、「活気のある商店街で買い物が楽しめるまち」が 1444 件で、上位に挙げられています。

問14 素案で提示した「将来像のキャッチフレーズ」の主な変更意見

素案で提示した「将来像のキャッチフレーズ」の主な変更意見では、469件の回答がありました。

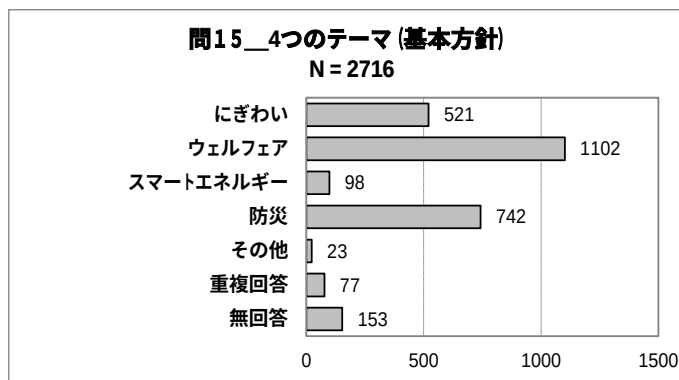
グラフ：問14 将来像のキャッチフレーズのキーワード



変えたいと思う将来像のキャッチフレーズでよく使われていたキーワードは「安心安全」が14件、「緑(豊か)」が31件、「いきいき」が19件、「やさしい」が13件、「明るい」が13件、「笑顔」が13件、「楽しい」が12件でした。

問15 4つのテーマ(基本方針)のうち、最優先すべき項目

グラフ：問15 4つのテーマ(基本方針)

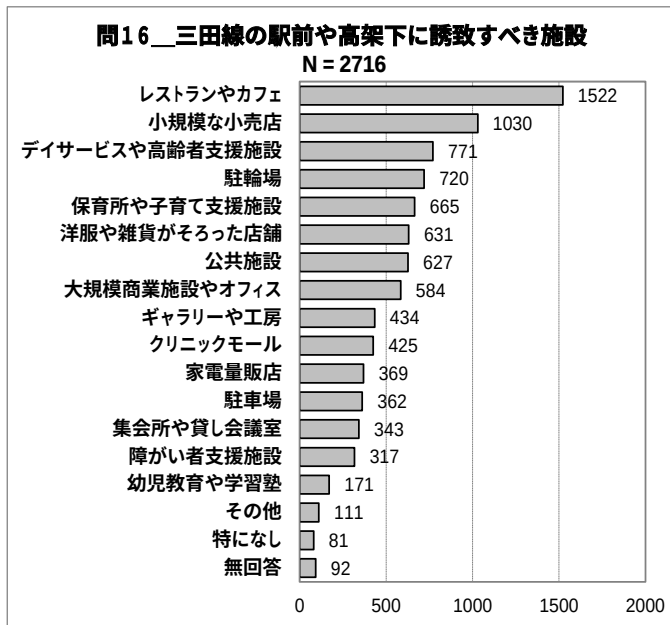


「にぎわい」が521件、「ウェルフェア」が1102件、「スマートエネルギー」が98件、「防災」が742件で、特に「ウェルフェア」は1000件を超えており、最も重要と考えていることが伺えます。これに対して「スマートエネルギー」については100件を切っており、他の3つのテーマと比較して優先度の低さが伺えます。

■「にぎわい」について

問 1 6 三田線の各駅前や高架下に誘致すべき施設

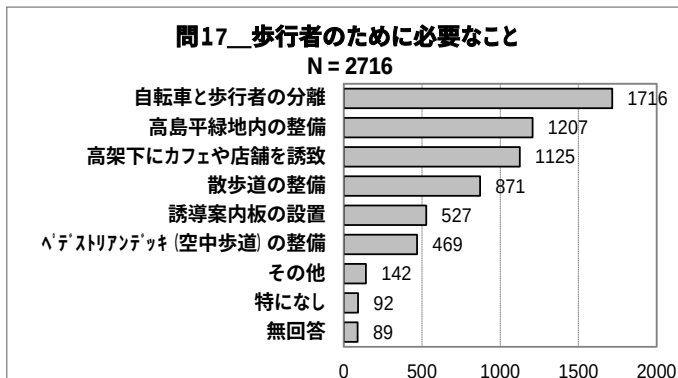
グラフ：問 1 6 三田線の駅前や高架下に誘致すべき施設



「ゆっくり過ごすことのできるレストランやカフェ」が1522件、「日常の買い物ができるスーパーや小規模な小売店」が1030件、「デイサービスや高齢者支援施設」が771件、「駐輪場」が720件、「保育所や子育て支援施設」が665件が上位に挙がっています。この中でも「ゆっくり過ごすことのできるレストランやカフェ」については特に要望は高くなっています。

問 1 7 歩行者のために必要なこと

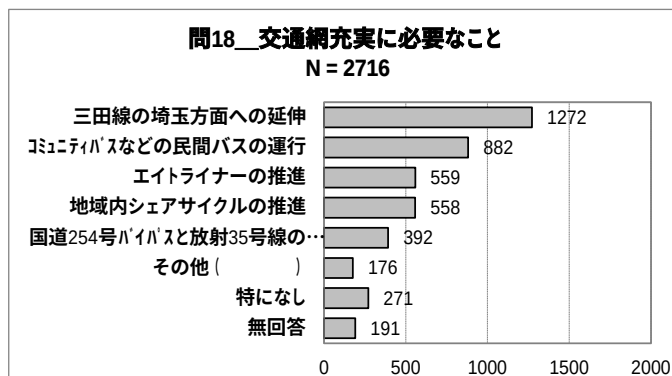
グラフ：問 1 7 歩行者のため必要なこと



「自転車と歩行者の分離」が1716件、「高島平緑地内の整備」が1207件、「三田線の高架下店舗を誘致」が1125件、「散歩道の整備」が871件などで、特に「自転車と歩行者の分離」の必要性の高いことが伺えます。

問 1 8 交通網充実に必要なこと

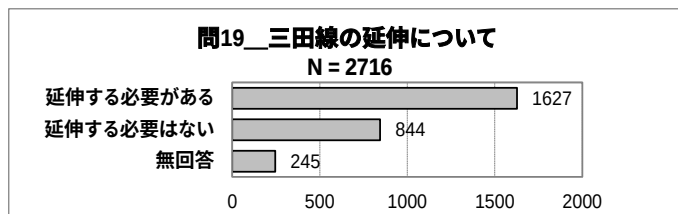
グラフ：問 1 8 交通網充実のため必要なこと



「三田線の埼玉方面への延伸」が1272件、「コミュニティバスなどの運行」が882件、「エイトライナーの推進」が559件、「シェアサイクルの推進」が558件などで、特に「三田線の埼玉方面への延伸」の必要性が高いことが伺えます。

問19 三田線の延伸について

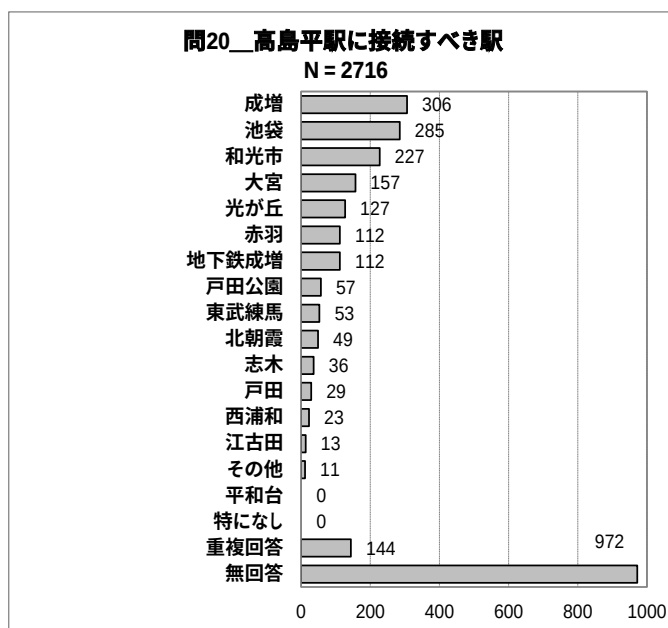
グラフ：問19 三田線の延伸について



「延伸する必要がある」が1627件、「延伸する必要はない」は844件で、延伸の要望が圧倒的に多いことが伺えます。

問20 西高島平駅から接続すべき駅

グラフ：高島平駅に接続すべき駅

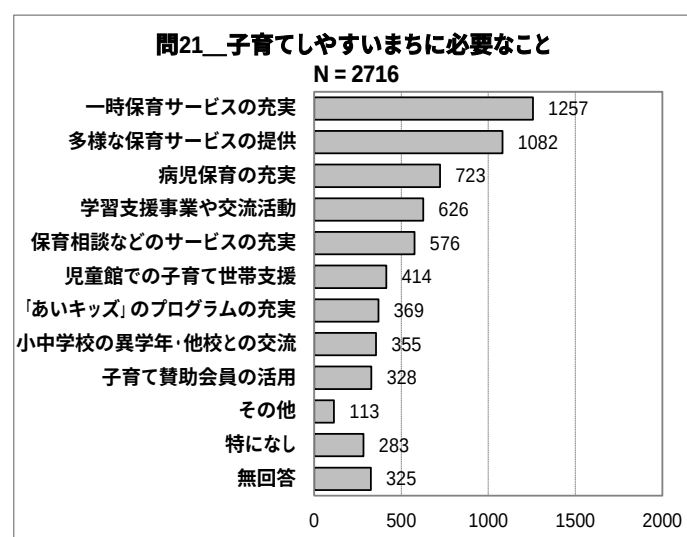


「成増駅」が306件、「池袋駅」が285件、「和光市」が227件、「大宮」が157件、「光が丘」127件、「赤羽駅」が112件、「地下鉄成増駅」が112件などで、鉄道の結節点になっている賑わいのある駅が選ばれています。

■「ウェルフェア（健康福祉）」について

問21 子育てしやすいまちの実現のために必要なこと

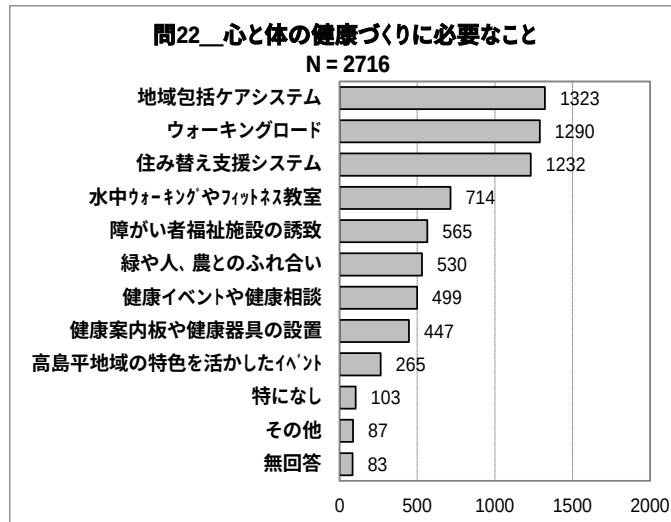
グラフ：問21 子育てしやすいまちに必要なこと



「一時保育サービスの充実」が1257件、「多様な保育サービスの提供」が1082件、「病児保育の充実」が723件、「学習支援事業や交流活動」が626件、「保育相談などのサービスの充実」が576件などで、特に保育に関わるサービスが上位に挙げられています。

問22 心と体の健康を保った生活をおくるために必要なこと

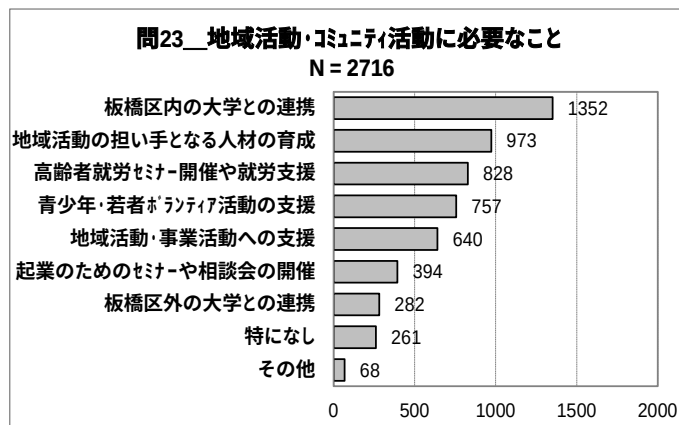
グラフ：問22 心と体の健康づくりに必要なこと



「地域包括ケアシステム」が1323件、「ウォーキングロード」が1290件、「住み替え支援システム」が1232件、「水中ウォーキングやフィットネス教室」が714件、「障がい者福祉施設の誘致等」が565件などが挙げられています。

問23 活発な地域活動・コミュニティ活動に必要なこと

グラフ：問23 地域活動・コミュニティ活動に必要なこと



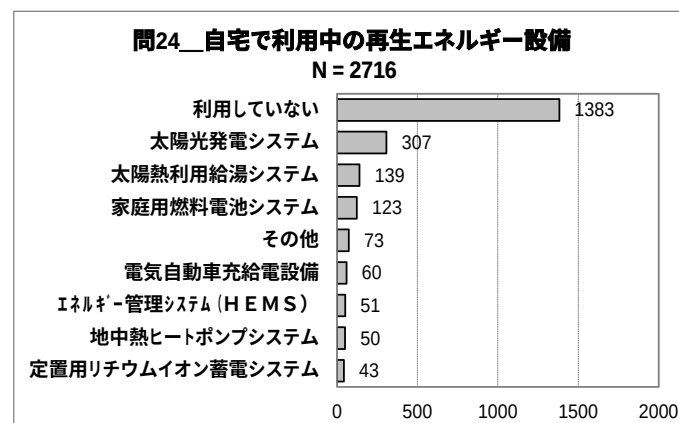
「板橋区内の大学との連携」が1352件、「地域活動の担い手となる人材の育成」が973件、「高齢者を対象とした地元での就労セミナーの開催や就労支援」が828件、「青少年や若者のボランティア活動の支援」が757件、「住民やNPO法人等による地域活動・事業活動への支援」が640件

件などで、その中でも「板橋区内の大学との連携」については特に必要であると考えていることが伺えます。

■「スマートエネルギー」について

問24 自宅で利用中の再生エネルギー設備

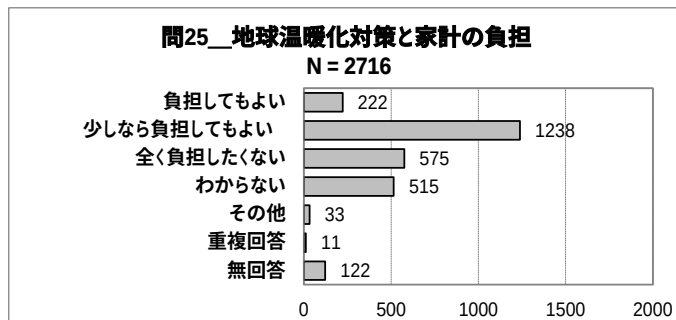
グラフ：問24 自宅で利用中の再生エネルギー設備



「太陽光発電システム」が307件、「太陽熱利用給湯システム」が139件、「家庭用燃料電池システム」が123件、「電気自動車充電設備」が60件などですが、1383件が自宅では「利用していない」と答えており、利用者は少ないことが伺えます。

問 2 5 地球温暖化対策と家計の負担

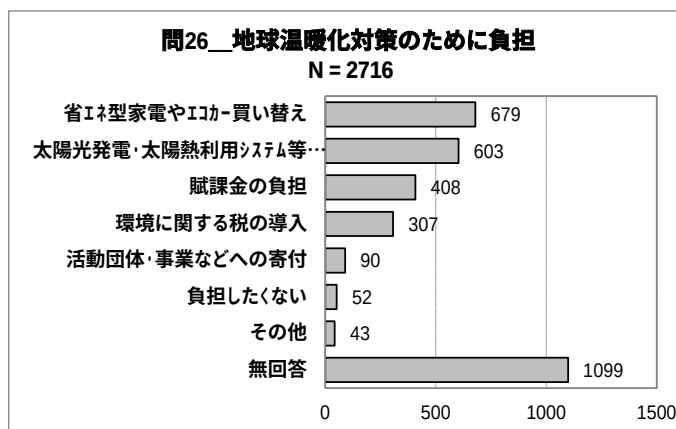
グラフ：問 2 5__地球温暖化対策と家計の負担



「負担してもよい」が 222 件、「少なから負担してもよい」が 1238 件、「まったく負担したくない」が 575 件、「わからない」が 515 件で、少しでも負担してもよいと考えていることが伺えます。

問 2 6 地球温暖化対策のための負担

グラフ：問 2 6__地球温暖化対策のための負担

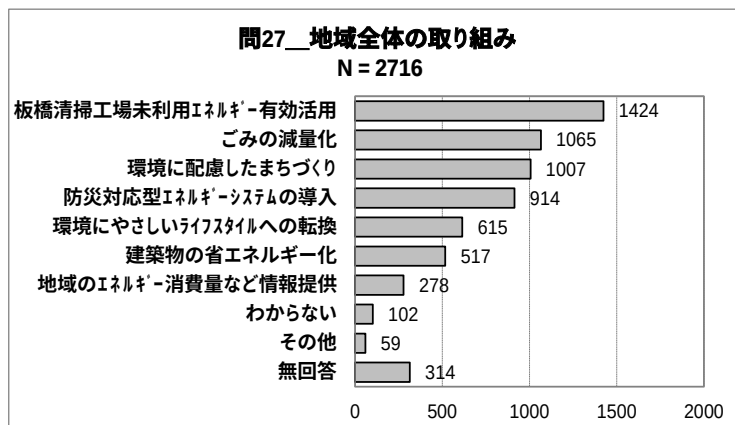


「省エネ型家電やエコカー買い替え」が 679 件、「太陽熱利用システム等の設置」が 603 件、「賦課金の負担」が 408 件、「環境に関する税の導入」が 307 件で上位 4 位を占めています。賦課金の負担や税の導入よりも、実際に温暖化対策が実感できる家電、車、設備に対して負担し

てもよいと考えていることが伺えます。

問 2 7 地域全体の取り組み

グラフ：問 2 7__地域全体の取り組み



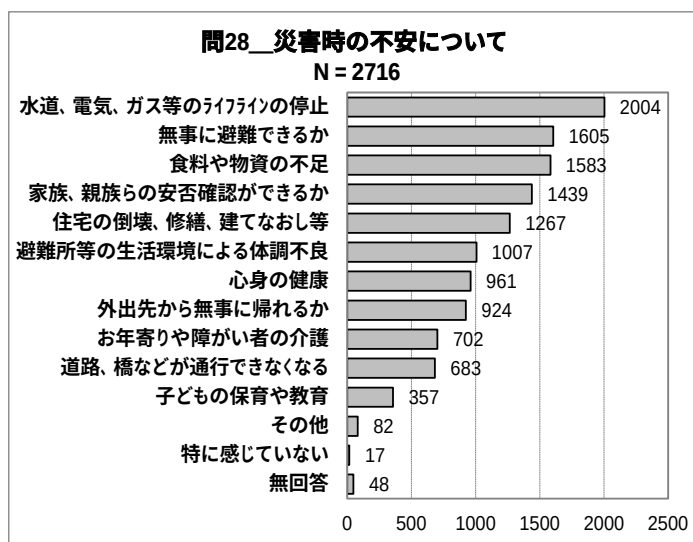
「板橋清掃工場未利用エネルギー活用」が 1424 件、「ごみの減量化」が 1065 件、「環境に配慮したまちづくり」が 1007 件、「防災対応型のエネルギーシステム」が 914 件、「環境にやさしいライフスタイル」が 615 件などで、身近にある板橋清掃工場

の未利用エネルギー活用は取り組むべきものの 1 位に挙げられています。

■「防災」について

問28 地震などの災害時の不安

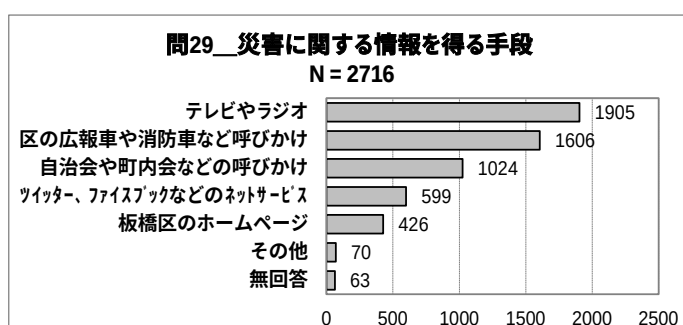
グラフ：問28 災害時の不安について



「ライフラインの停止」が2004件、「無事に避難できるか」が1605件、「食料や物資の不足」が1583件、「家族、親族らの安否確認」が1439件、「住宅の倒壊、その後の修繕等」が1267件などで、「ライフラインの停止」は2000件を超えています。

問29 災害に関する情報を得る手段

グラフ：災害に関する情報を得る手段

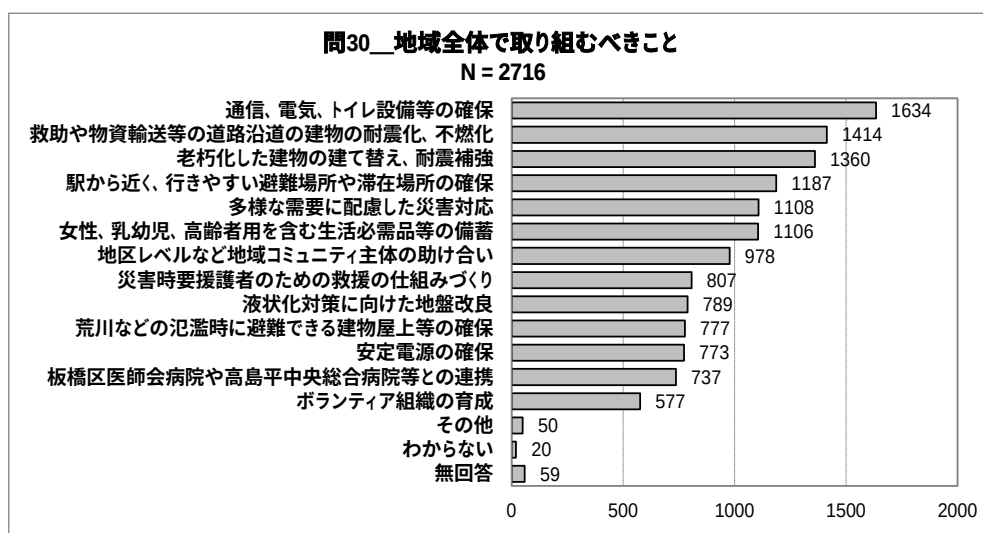


「テレビやラジオ」が1905件、「区の広報車や消防車などの呼びかけ」が1606件、「自治会や町内会などの呼びかけ」が1024件、「ツイッター、フェイスブックなどネットサービス」が599件、「板橋区のホームページ」が426件で、

すぐに情報が得られる「テレビやラジオ」は1位に挙げられています。

問30 災害時の継続的安定生活のため地域全体で取り組むべきこと

グラフ：問30 地域全体で取り組むべきこと



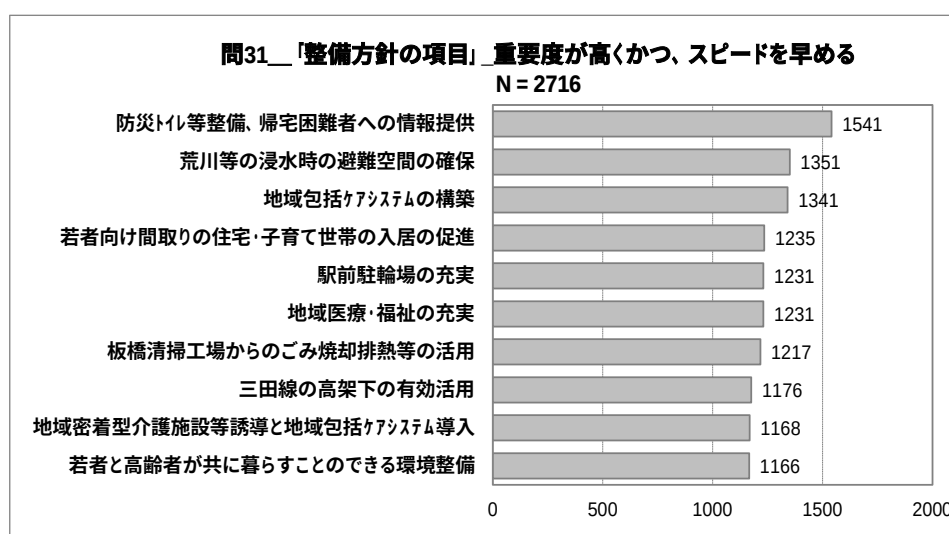
「通信、電気、トイレ設備等の確保」が 1634 件、「道路沿道の建物の耐震化、不燃化」が 1414 件、「老朽化した建物の建て替え、耐震補強」が 1360 件、「避難場所や滞在場所の確保」が 1187 件、「多様な需要に配慮した災害対応」が 1108 件、「女性、乳幼児、高齢者を含む生活必需品の備蓄」が 1106 件で、地域全体で取り組むべきものとして主に挙げられています。

■整備方針について

問 3 1 「整備方針の項目」のうち、

○重要度が高くかつ、取り組みスピードを早めるべきとの意見が多かったもの

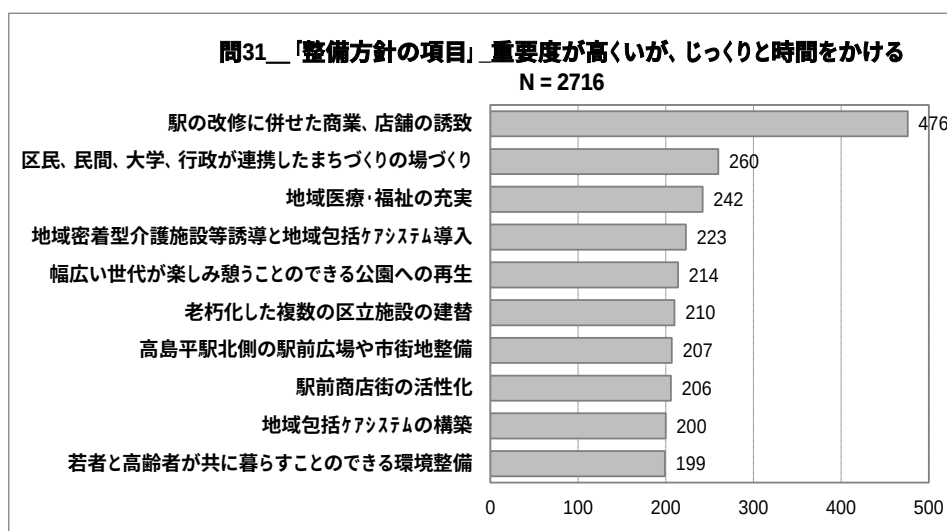
グラフ：「整備方針の項目」重要度が高くかつ、スピードを早める（上位 10）



「防災トイレや備蓄倉庫の整備、帰宅困難者への情報提供」が 1541 件、「荒川等の浸水時の避難空間の確保」が 1351 件、「地域包括ケアシステムの構築」が 1341 件、「若者向け間取りの住宅・子育て世帯の入居」が 1235 件などで、防災に関する整備方針の項目が 1 位、2 位を占めています。

○重要度は高いが、じっくりと時間をかけて取り組むべきとの意見が多かったもの

グラフ：問 31_「整備方針の項目」重要度が高いが、じっくりと時間をかける（上位 10）



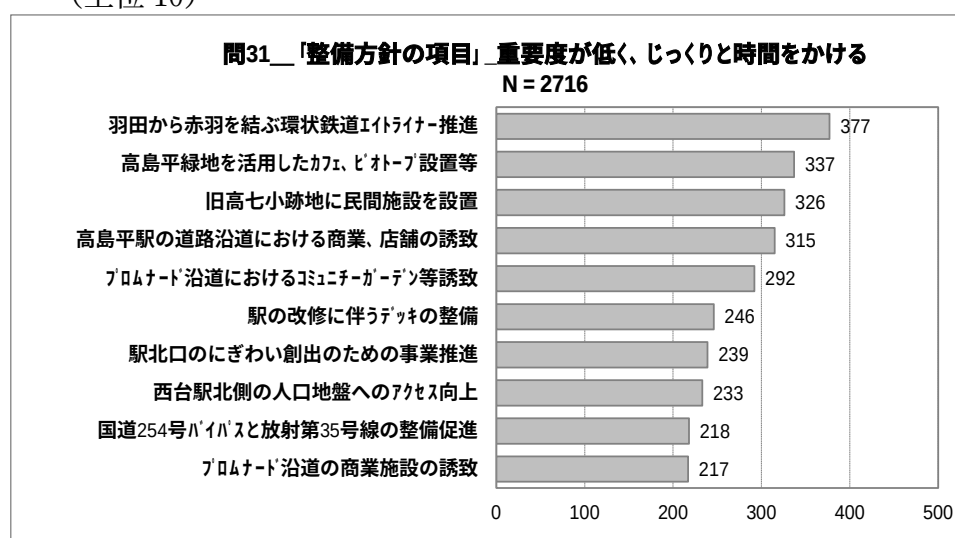
「駅の改修に併せた商業、店舗の誘致」が 476 件、「区民、民間、大学、行政が連携したまちづくりの場づくり」が 260 件、「地域医療・福祉の充実」が 242 件、「地域密着型介護施設等誘導と地域包括ケアシステム導入」が 223 件が、「幅広い世代が楽しみ憩うことのできる公園への再生」が 214 件で、特に商業、店舗の誘致については他の項目よりも 200 件程多く挙げられています。

○重要度は低いが、取り組みスピードを早めるべきとの意見が多かったもの

この組合せについてはほとんど回答はありませんでした。

○重要度が低くかつ、じっくりと時間をかけて取り組むべきとの意見が多かったもの

グラフ：問 3 1 「整備方針の項目」_重要度が低く、じっくりと時間をかける
(上位 10)

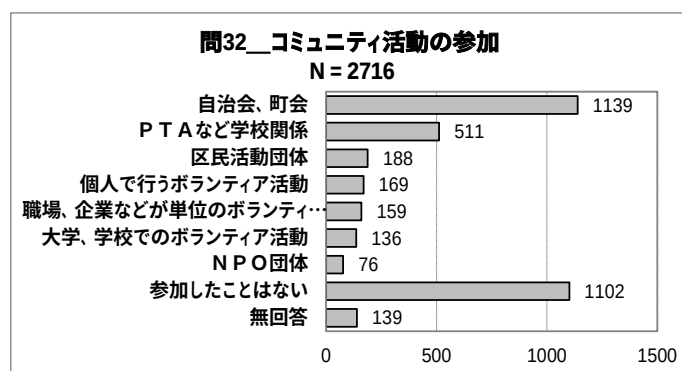


「羽田から赤羽を結ぶ環状鉄道エイトライナー推進」が 377 件、「高島平緑地を活用したカフェ、ビオトープ設置等」が 337 件、「旧高七小跡地に民間施設を設置」が 326 件、「高島平駅の道路沿道における商業、店舗の誘致」が 315 件で、重要度が低くかつ、じっくりと時間をかけて取り組むべき意見として主に挙げられています。

■コミュニティ活動について

問 3 2 これまでに参加したことがある又は参加中のコミュニティ活動で多いもの

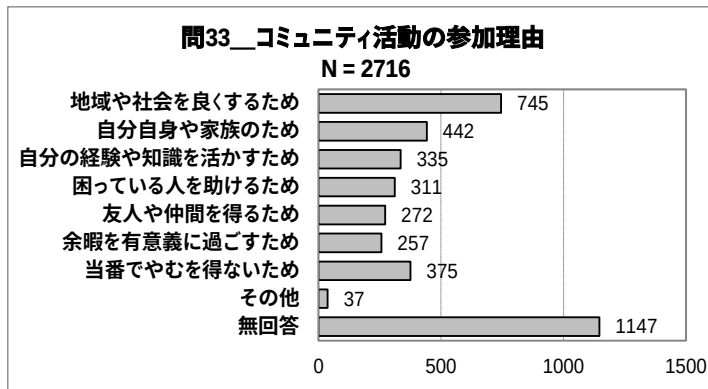
グラフ：問 3 2 コミュニティ活動の参加



「自治会、町会」が 1139 件、「P T A など学校関係」が 511 件で、特に「自治会、町会」が多く挙げられています。一方、「参加したことはない」が 1102 件で、「自治会、町会」の参加と同等の回答数がありました。

問33 参加理由で多いもの

グラフ：問33 コミュニティ活動の参加理由



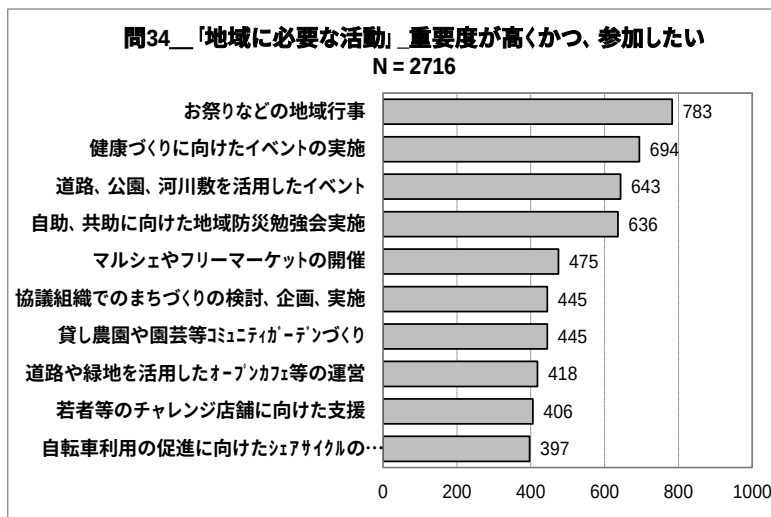
「地域や社会を良くするため」が745件、「自分自身や家族のため」が442件、「当番でやむを得ないため」が375件などで、地域のために参加するという理由が1位に挙げられています。一方で「当番でやむを得ないため」という消極的な理由も375件挙げら

れています。

問34 地域の活性化に必要な活動について

○重要度が高くかつ、参加したいとの意見が多かったもの

グラフ：問34 「地域に必要な活動」 重要度が高くかつ、参加したい（上位10）

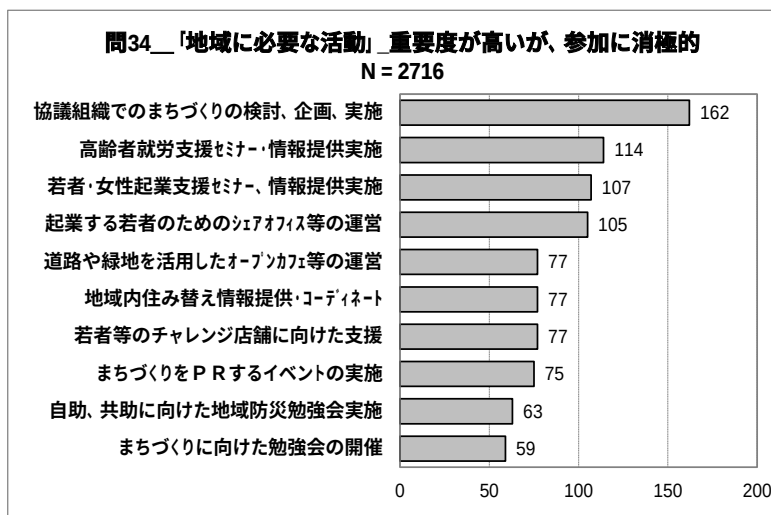


「お祭りなどの地域行事」783件、「健康づくりに向けたイベントの実施」694件、「路、公園、河川敷を活用したイベント」が643件、「自助、共助に向けた地域防災の勉強会の実施」が636件で、上位5位に挙げられており、大勢で楽しめるイベントが重要度が高くかつ、参

加したい活動として上位を占めています。

○重要度は高いが、参加に消極的な意見が多かったもの

グラフ：問34 「地域に必要な活動」 重要度が高いが、参加に消極的（上位10）



「協議組織でのまちづくりの検討、企画、実施」が162件、「高齢者の就労支援に向けたセミナーや情報提供の実施」が114件、「若者や女性の起業支援に向けたセミナーや情報提供の実施」が107件、

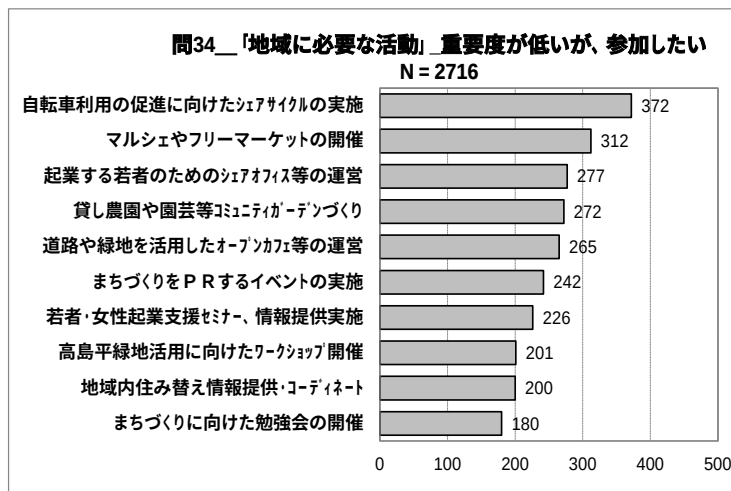
「起業する若者のためのシェアオフィス等の運営」が 105 件で、重要度が高いと考えられていますが、参加に対して消極的であるものは協議組織への参加やセミナー・情報提供の実施など、勉強会系のものが挙げられています。

○重要度は低いが、参加したいとの意見が多かったもの

この組合せについてはほとんど回答はありませんでした。

○重要度が低くかつ、参加にも消極的な意見が多かったもの

グラフ：問 3 4 __ 「地域に必要な活動」 __ 重要度が低いが、参加したい（上位 10）



「自転車利用の促進に向けたシェアサイクルの実施」372 件、「マルシェやフリーマーケットの開催」が 312 件、「起業する若者のためのシェアオフィス等の運営」277 件、「貸し農園や園芸を対象としたコミュニティガーデンづくり」が 272 件で、重要度が低いが、参加したいものの上位に挙げられています。

■評価指標（と目標値）【回答数 503】

問 3 5 グランドデザインで必要と思う評価指標の提案

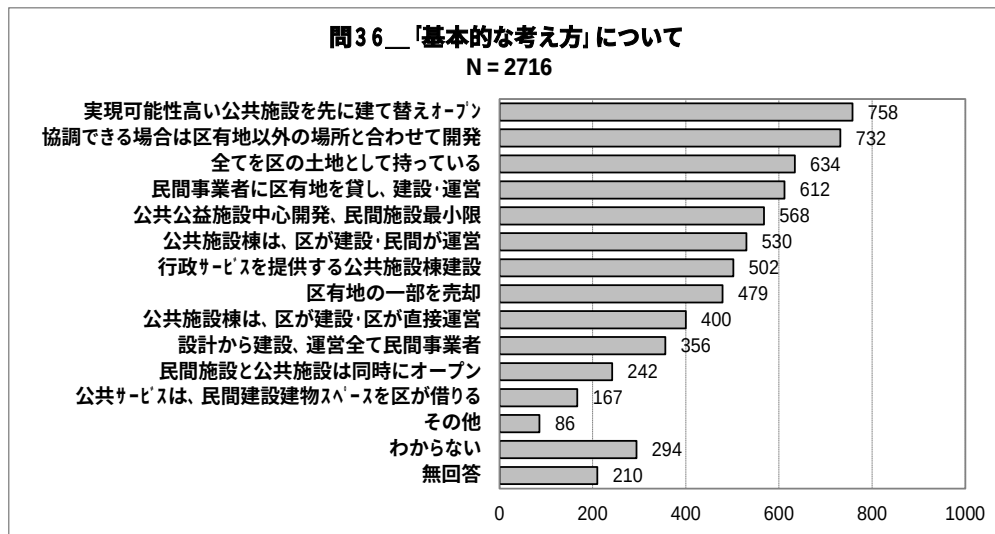
グランドデザイン素案で定めた目標とする基準（指標）以外に自由記述で 503 件の回答がありました。それらの主な提案のキーワードは以下の通りです。

カテゴリー	キーワード	件数
人口一般	年代別人口割合、生産年齢人口、増加率、増加数、定着率、平均人口、就労人口、居住 20 年以上、夜間人口に対する昼間人口比率、三世帯同居世帯	14
緑地・公園関係	面積、設置数、400m 徒歩圏人口カバー率	13
商業関係	ショッピングセンター・コンビニ・カフェ・ファーストフード徒歩圏人口カバー率、新規出店数、エリア別店舗売上	10
自転車路関係	専用路整備距離、色別走行帯の整備距離、歩道との分離距離	7
防犯関係	体感治安、犯罪件数、防犯カメラ設置数、交番 400m 徒歩圏人口カバー率	7
若者世代人口関係	人口、割合、定着率、流出数、転入者数	6
歩道幅関係	2m～3m 以上の幅の歩道整備距離	6
喫煙関係	歩きタバコやポイ捨て数、喫煙スペース数、禁煙エリア範囲	6
住民満足度	地域住民、子育て世帯、公共施設利用者	5
空き家関係	空き家件数	3

■公共用地の再整備基本計画について

問36 「基本的な考え方」のうち、多かった考え

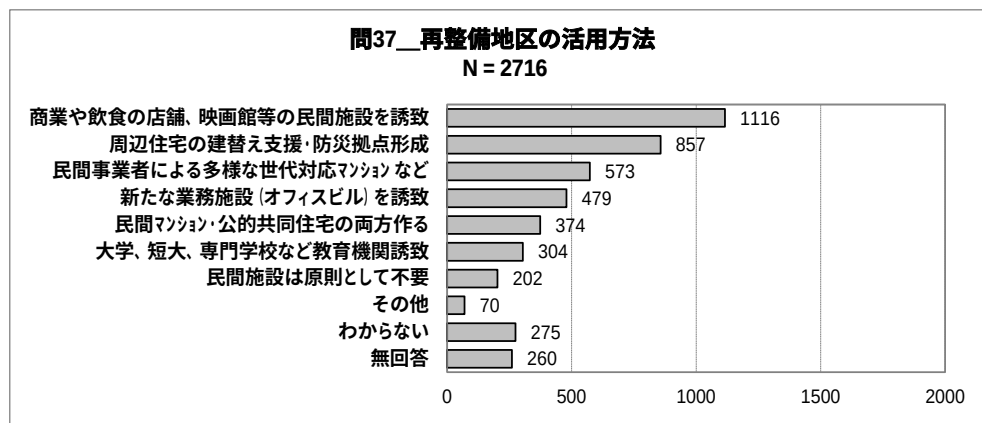
グラフ：問36 「基本的な考え方」について



「実現の可能性が高い公共施設を先に建て替えオープン」が758件、「協調できる場合は区有地以外の場所と合わせて行う」が732件、「全てを区の土地として持っている」634件、「民間事業者が区有地を貸して、建設・運営を行う」が612件、「公共施設を中心開発し、民間施設は最小限」が568件、「公共施設棟は区が建設し民間に運営を任せる」が530件で、上位に挙げられています。

問37 再整備地区の活用方法について

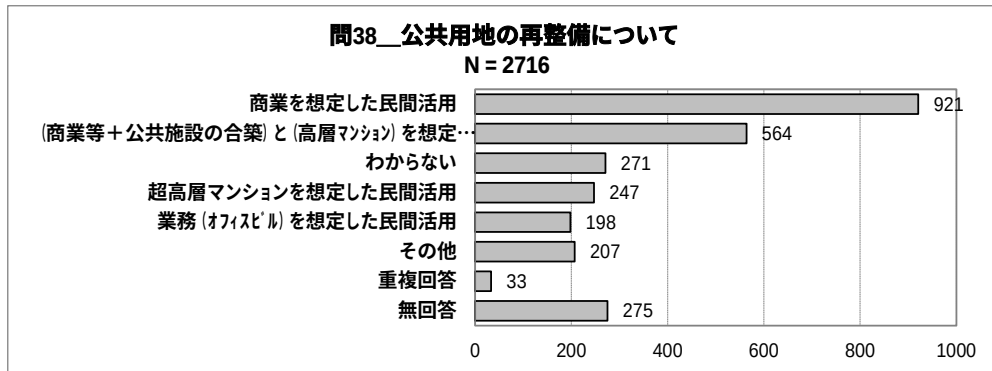
グラフ：問37 再整備地区の活用方法



「商業や飲食の店舗、映画館等の民間施設を誘致」が1116件、「周辺の住宅の建替え支援や防災拠点の形成」が857件、「民間事業者による多様な世代に対応したマンションなど」が573件、「新たな業務施設（オフィスビル）を誘致」が479件、「民間マンションと公的共同住宅の両方を作る」が374件で、再整備地区の活用方法の考え方に近いものとして挙げられており、「商業や飲食の店舗、映画館等の民間施設を誘致」は1000件を超えています。

問38 区有地は将来も区が所有しつつ、民間事業者が再整備（民間施設＋公共施設）をする場合

グラフ：問38__公共用地の再整備について



「商業施設（娯楽施設を含む。）」が 921 件、「スーパーや子育て支援サービス（1 階）＋超高層分譲マンション」が 247 件、「商業施設（娯楽施設を含む。）、分譲マンション」が 564 件、「飲食店街（1 階）＋業務施設（オフィスビル）」198 件、「わからない」が 271 件で、商業を想定した民間活用が特に多く挙げられています。

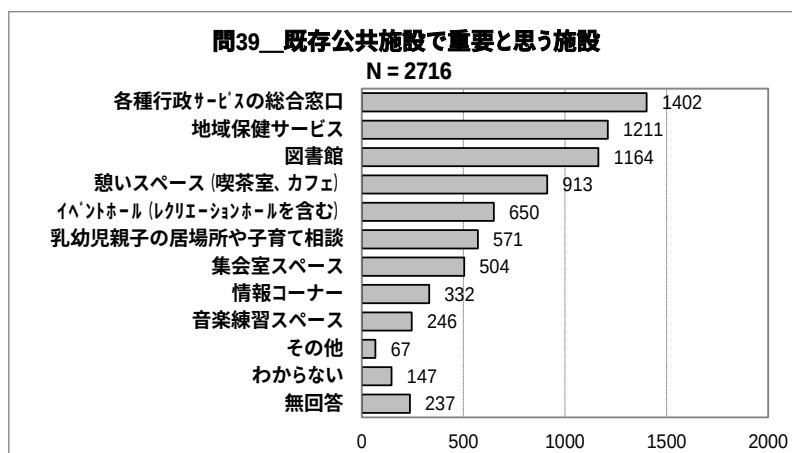
その他の考え方として、以下のキーワードが挙げられています。この中でも「超高層マンション反対」という意見が 23 件で、一番多く挙げられています。

※・超高層マンション反対	23 件
・低層ビル	17 件
・現状維持、既存施設の活用	17 件
・民間施設と公共施設の合築	16 件
・商業施設	16 件
・広場、公園化	14 件
・公共施設に特化	12 件
・民間施設に特化	9 件
・超高層マンション	9 件
・特養ホーム	6 件
・商業施設反対	4 件
・その他	64 件

■再整備地区に導入する公共施設の機能（サービス）について

問39 再整備地区内にある既存の公共施設のうち、特に重要との意見が多かったもの

グラフ：問39__既存公共施設で重要と思う施設



「各種行政サービスに関する手続き（総合窓口）」が1402件、「健康相談、保健指導及び健康診査等の地域保健サービス」が1211件、「図書館」が1164件で、1000件以上挙げられています。

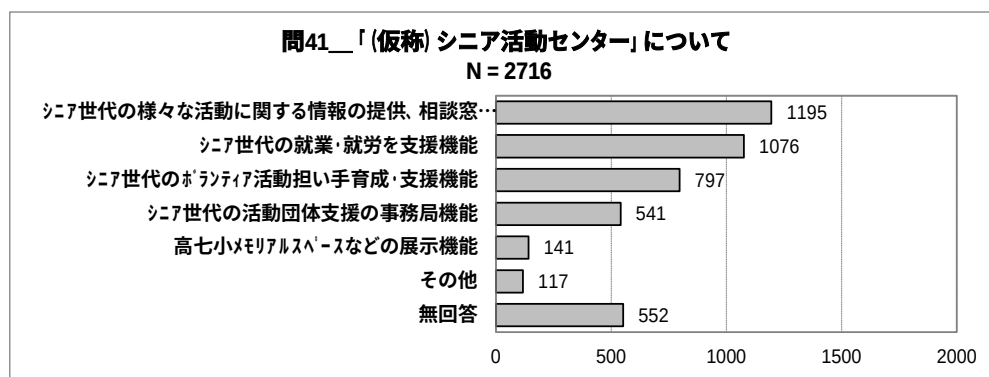
問40 公共施設の機能として、新たに導入すべきと考えるもので多かったもの

234件の回答があり、特に多かったものについては以下の通りです。

- ・「多目的ホール」53件
- ・「スポーツ施設」28件
- ・「ギャラリー」15件
- ・「図書館」9件
- ・「子どもの居場所」7件

問41 (仮称) シニア活動センター機能のうち、今後必要と考えるもの

グラフ：「(仮称) シニア活動センター」について



（仮称）シニア活動センターの機能のうち、今後必要と考えるものとしては、「シニア世代の様々な活動に関する情報の提供、相談窓口機能」が1195件、「シニア世代の就業・就労を支援するための機能」が1076件、「シニア世代のボランティア活動の担い手を育成・支援するための機能」が797件、「シニア世代の活動団体を支援するための事務局機能」が541件、「高七小メモリアルスペースなどの展示機能」が141件で、身近に相談できる窓口機能が1位に挙げられています。

その他、公共用地の再整備に関する自由意見が以下の通り回答されていました。

■公共用地の再整備に関する自由意見（回答数 330、383 件）

【考え方】

・子どもや学生、若者にとって魅力ある施設（若者重視）	31 件
・現状維持	11 件
・低層の建物中心	11 件
・高齢者福祉施設（特養、介護ケア）（高齢者重視）	11 件
・時間をかけて慎重に検討	9 件
・民間活力の積極的な活用	8 件
・活気のある街を見習う	7 件
・大規模開発はしない	6 件
・雇用創出度の高い施設	6 件
・出来るだけ早期に実現	5 件
・区有地は区所有のまま	5 件
・区の財政負担の抑制	4 件
・区有地は民間に売却	4 件
・エリアマネジメント（効率的な建物運営）	4 件
・高層の建物（ランドマーク）	2 件

【民間施設】

・大規模商業（娯楽施設や飲食店街、カフェを含む。）	31 件
・広場（緑地、農地、運動、イベント）	12 件
・超高層マンションに反対	11 件
・医療、健康センター	7 件
・災害対応拠点（防災体験館、備蓄倉庫等）	6 件
・オフィスビル	5 件
・子育て支援施設	5 件
・映画館、小劇場	5 件
・温浴施設	4 件
・商業施設に反対	3 件
・超高層マンション	3 件

【公共施設】

・高島平区民館の拡充、コンサートホール	12 件
・高島平図書館の拡充	9 件
・多世代交流のコミュニティ、集会室	7 件
・区営住宅	6 件
・スポーツアリーナ	5 件
・ドックラン	4 件
・美術館、博物館	4 件
・生涯学習センター	4 件
・十分な駐車場、駐輪場	3 件
・区民事務所の総合窓口化	2 件
・墓地	2 件

【その他】

69 件

【公共用地以外の内容など】

40 件

■素案全体を通じた自由意見（回答数 522、658 件）

【まちづくりの方向性に関して（重視すべきこと）】

・若者重視	37 件
・防犯まちづくり	14 件
・防災まちづくり	12 件
・現状維持	10 件
・大規模開発はしない	10 件
・明るく、清潔、美しいまちづくり	9 件
・国際化、共生まちづくり	7 件
・高齢者重視	6 件
・若者と高齢者の共存	6 件
・自転車に適したまちづくり	5 件
・農ある風景のあるまちづくり	5 件
・就労の場づくり	5 件
・ユニバーサルデザイン	5 件
・小規模開発の推進	4 件
・健康、スポーツまちづくり	4 件
・子育てに優しいまちづくり	3 件
・大規模開発の推進	2 件

【進め方について】

・区に対する激励・期待	55 件
・内容の早期実現	21 件
・区の財政負担の抑制	12 件
・優先順位づけの徹底	10 件
・高島平に関するシティプロモーションの強化	9 件
・民間活力の積極的な推進	7 件
・じっくり時間をかけて検討	6 件
・活気ある街を見習う	5 件
・民間活力の導入に反対	1 件
・コンペの実施	1 件

【高島平に必要な新たな施設、取り組みについて】

・ショッピングモール	26 件
・カフェ、レストラン	25 件
・高島平二丁目、三丁目団地の再生、有効活用	24 件
・プロムナードの整備	18 件
・新高島平、西高島平駅周辺の商業施設（店舗の充実）	16 件
・これ以上の商業施設は不要	13 件
・保育施設	9 件
・品揃えの良い、個性的な店舗（雑貨、子ども向け	7 件
・パチンコ店の規制	6 件
・公園の改良	6 件
・映画館	5 件
・病院	4 件
・特養ホーム	4 件
・温浴施設	4 件

【交通機関について】

・三田線の延伸推進	17 件
・三田線の延伸反対	6 件
・バス路線の拡充、復活	6 件
・駅の改良	4 件
・三田線の車両増両、快速化	4 件
・エイトライナー推進	1 件

【区有地の再整備について】	
・超高層マンション反対	12 件
・公共施設の集約、複合化	4 件
・高島平図書館の拡充	4 件
・旧高七小利用者への配慮	4 件
・区有地は民間に売却	3 件
・商業施設＋住宅施設	3 件
・区有地は区所有のまま	2 件
・商業施設	2 件
・分譲マンション	2 件
・オフィスビル反対	2 件
【個別事項で多かったもの】	
・アンケート設計、設問数、回答方法への苦言	53 件
・西台人工地盤と地上面の間のエレベータ設置	17 件
・高齢者のマナー向上（喫煙マナーを含む。）	10 件
【その他】	64 件

(4) クロス分析

①分析軸

アンケート結果を分析するため、全体の傾向に対して差異があると思われる下記に示す分析軸によるクロス分析を行います。

○世代別分析

〈1〉 若者世代：20 代、30 代、40 代

〈2〉 中年世代：50～64 才

〈3〉 高齢世代：65 才以上

	世代区分（年齢区分）		総数	備考
〈1〉	20 代、30 代、40 代	若者世代	825	
〈2〉	50～64 才	中年世代 [高齢予備軍]	569	
〈3〉	65 才以上	高齢世代	1279	
合計			2673	無回答票 43.票

○町会への加入別分析

〈1〉 町会加入

〈2〉 町会未加入

	町会・自治会 加入の有無	票数	備考
〈1〉	加入	1564	
〈2〉	未加入	1087	
合計		2651	無回答票 65 票

○居住年数別分析

- 〈1〉 5 年未満
- 〈2〉 5～10 年未満
- 〈3〉 10～20 年未満
- 〈4〉 20 年以上

	居住年数	票数	備考
〈1〉	5 年未満	479	新規居住者
〈2〉	5～10 年未満	245	
〈3〉	10～20 年未満	417	
〈4〉	20 年以上	1540	長期継続居住者
合計		2681	無回答票 35.票

○住宅の所有関係別

- 〈1〉 持家系（戸建て住宅、分譲マンション）
 - 〈2〉 賃貸住宅系（賃貸住宅、アパート、間借り、下宿、社宅、寮）
- ※設問によっては、「UR 賃貸住宅」

	住宅の所有関係	票数	備考
〈1〉	持家系	1187	戸建て、分譲マンション
〈2〉	賃貸系	1497	賃貸住宅、アパート、間借り、 下宿、社宅、寮
〈3〉	※UR賃貸住宅	※751	※賃貸系票数の内数
合 計		2684	無回答票 432 票

○男女別分析

- 〈1〉 男性
- 〈2〉 女性

※『性別×年齢別』の2重クロス分析を設問に応じて実施

	性別	票数	備考
〈1〉	男性	1213	
〈2〉	女性	1315	
合 計		2528	無回答票 188 票

○居住地別分析

- 〈1〉 高島平一丁目
- 〈2〉 高島平二丁目
- 〈3〉 高島平三丁目
- 〈4〉 高島平四、五丁目
- 〈5〉 高島平七、八丁目
- 〈6〉 高島平八、九丁目

※高島平六丁目は、回答者が3人のため分析では、割愛します。

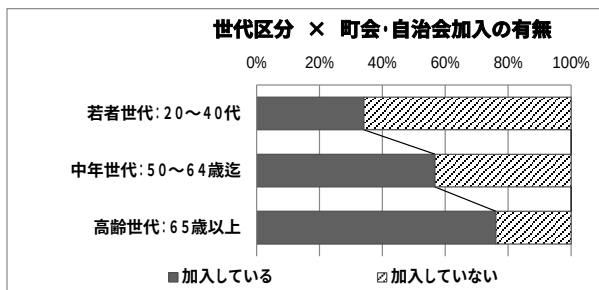
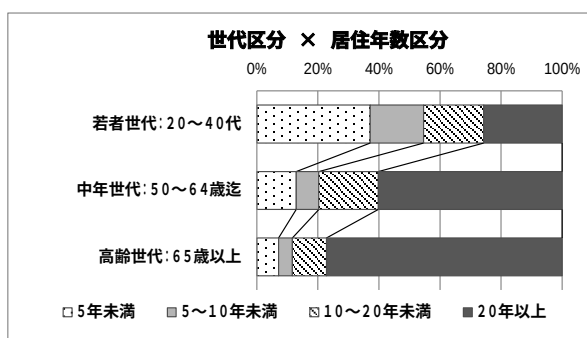
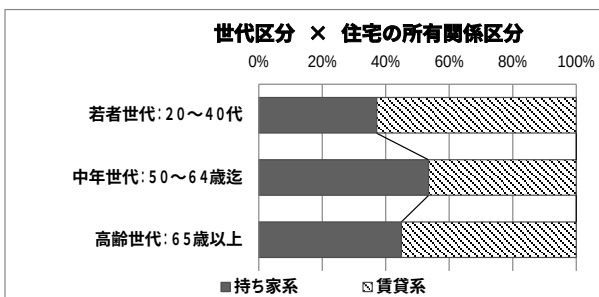
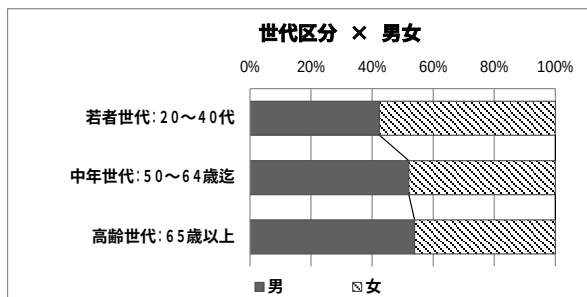
	地区	票数	備考
〈1〉	高島平一丁目	330	
〈2〉	高島平二丁目	789	
〈3〉	高島平三丁目	443	
〈4〉	高島平四、五丁目	323	
〈5〉	高島平六丁目	3	回答者 3 人のため地区分析からは除外
〈6〉	高島平七丁目	197	
〈7〉	高島平八丁目	148	
〈8〉	高島平九丁目	377	
合 計		2610	無回答票 106 票

②回答者の属性の集計・分析

各分析軸でクロス分析を行うにあたり、各軸毎に存在する「無回答票」「無効票」等を除外した回答者の特徴を以下に示します。

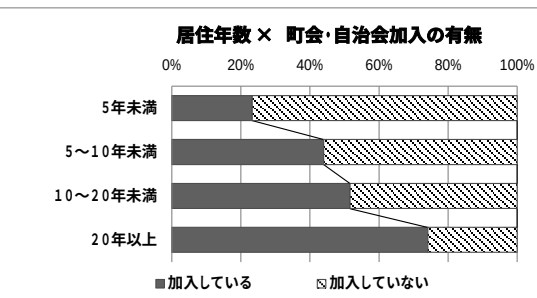
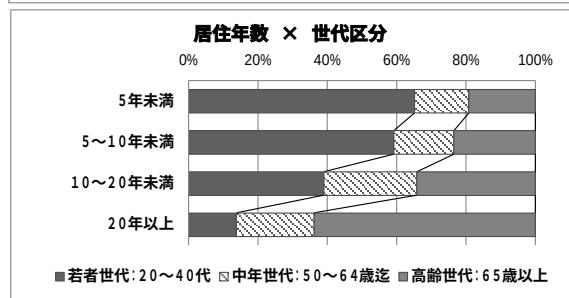
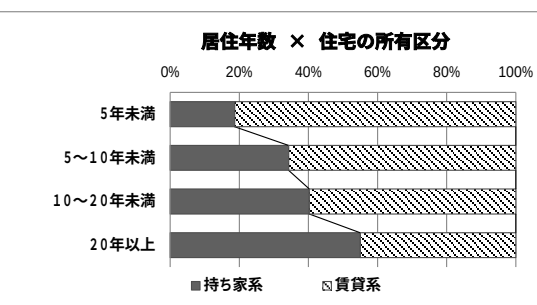
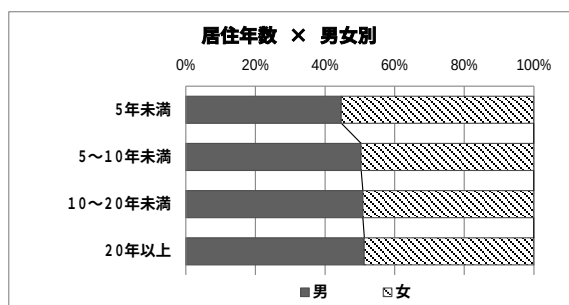
○世代区分の特徴

- ・世代が上がるほど居住年数が長くなり、町会・自治会への加入率が高くなっていきます。



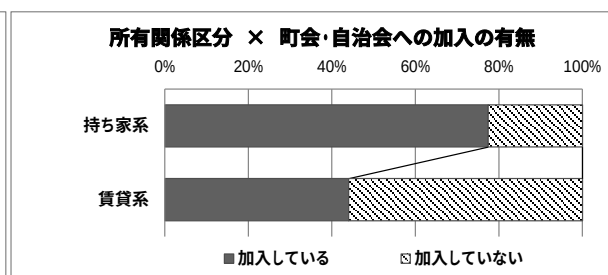
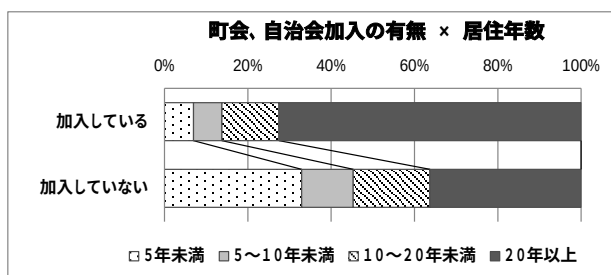
○居住年数区分別の特徴

- ・居住年数が長くなるに従って、高齢世代が多くなり、持家率が高くなります。5年未満では、若者世代が6割強ですが、20年以上では高齢世代が6割強となり逆転します。また、居住年数が高くなるほど町会・自治会加入率が高くなっていきます。



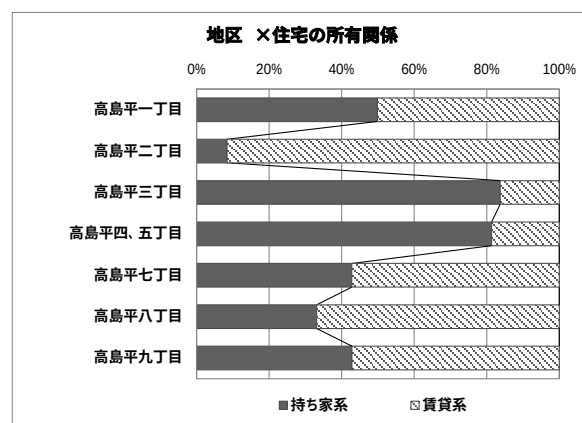
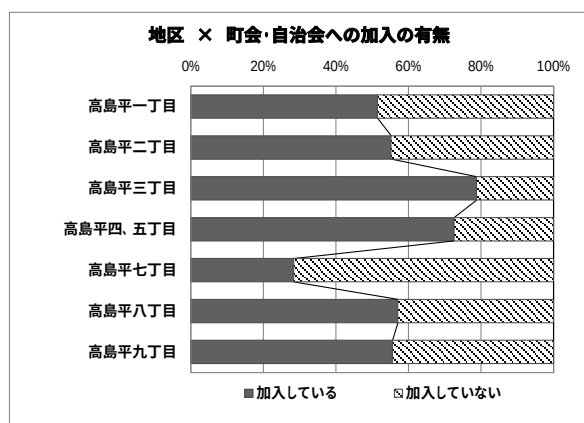
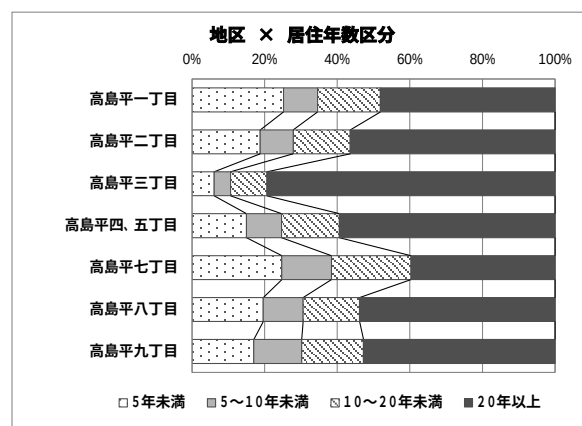
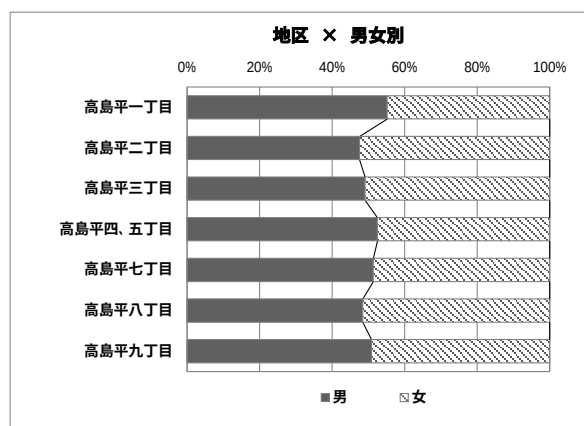
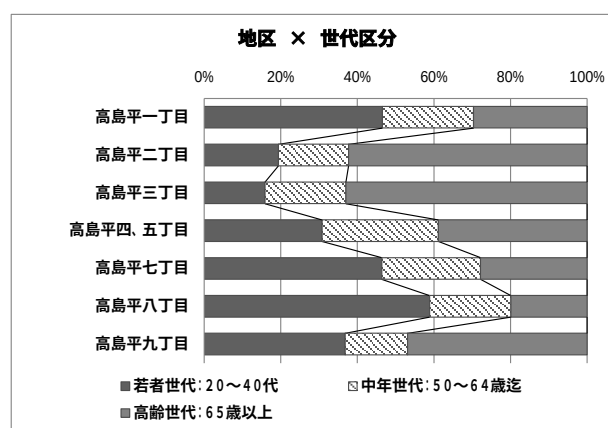
○町会・自治会加入の有無の特徴

- ・町会・自治会加入者の約7割が20年以上居住者であり、5年未満は1割弱です。
- 住宅の所有関係では、持家系の6割弱が加入していますが、賃貸系では加入率は約4割と半数を切っています。



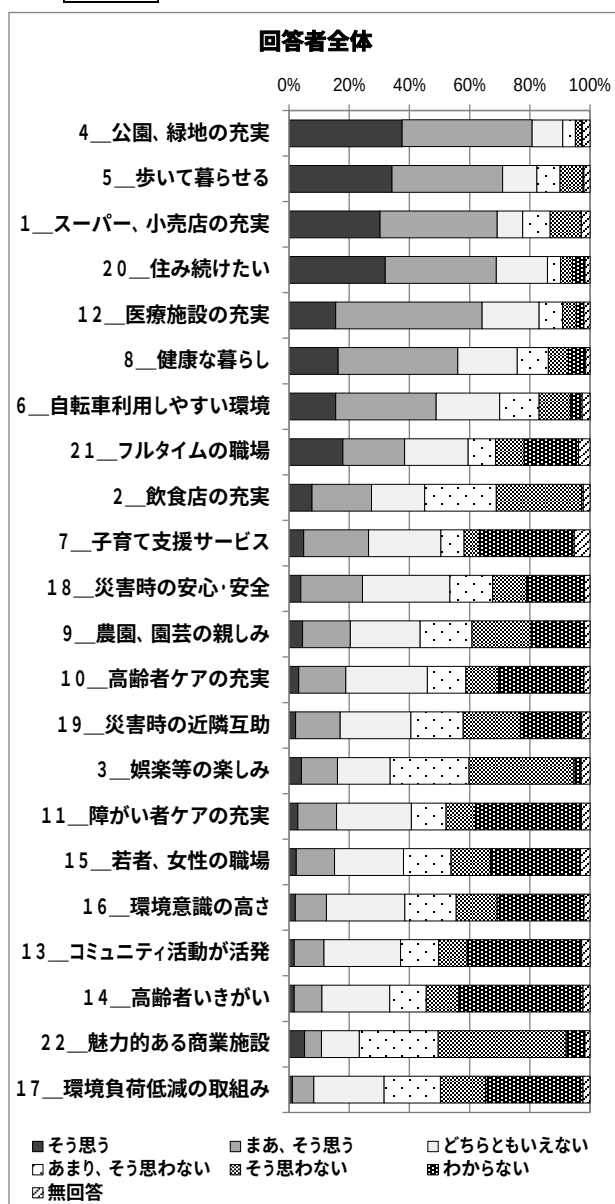
○地区別の特徴

- ・地区によって世代区分に大きな差があります。最も若者世代の比率の高い地域は、高島平八丁目であり、次いで七丁目、一丁目で4割以上です。逆に高齢世代の比率の高い地域は、二丁目、三丁目で6割を超えています。居住年数別では、三丁目の「20年以上」の率が極めて高く、逆に「5年未満」が極めて少なくなっています。町会・自治会加入率は、七・八丁目以外は、5割を超えています。住宅の所有関係では、三丁目、四丁目、五丁目は持ち家率が極めて高く8割を超えています。



③アンケート設問の集計・分析

問10 地域の現況の認識



現在の高島平地域について、評価の高い順に並べたのが左図です。

「公園の緑地の充実」「歩いて暮らせること」「小売店の充実」「医療施設の充実」等の項目は、6割以上の回答者から評価されており、「住み続けたい」との回答は、7割近くに及びます。このことから、比較的都心に近い立地にも関わらず緑が多く、日常の買い物や、もしもの時に通院できる病院などが徒歩圏内に充実しており、暮らしやすく住みやすい場所であると高く評価されていると言えます。

一方で、満足度の低い項目を見ると「飲食店の充実」「娯楽やレジャー等の楽しみ」「魅力ある商業施設の充実※」など、暮らしの楽しさに関するものが連なっています。

普段の生活には大変満足けれども、非日常（ハレ）の暮らしには満足度が低い地域であるということが伺えます。

なお、「子育て支援」「障がい者ケア」「高齢者の生きがい」「若者・女性の職場」等、特定の世代（年齢）や性別に関係する項目は、『わからない』という回答が多いのが目立ちます。

また、世代等に関係のない「コミュニティ活動が活発」についても、4割程度が「わからない」と回答しており、地域コミュニティに対する関心の低さが伺えます。同様に「環境意識の高さ」に対しても「わからない」が高く、環境に関する意識は高くないことが伺えます。

※アンケートでは、「魅力ある商業施設の不足」に対する評価を聞きましたが、他の設問が肯定的な意味合いにおける評価設問であったため、同じ基準で見るために、本分析では「魅力ある商業施設の充実」として表示しています。つまり、「魅力ある商業施設の不足」に対する「そう思う」「まあそう思う」の評価と「思わない」「あまり思わない」の評価を入れ替えて表示しています。

区分ごとの差違がわかりやすいように、分析軸ごとに「そう思う」「まあそう思う」等の選択肢を点数化し、満足度を評価しました。点数化にあたっては、分析軸ごとに各項目の構成比を集計した後、「そう思う」を2点、「まあそう思う」を1点、「あまりそう思わない」を-1点、「そう思わない」を-2点としてポイント化し、グラフに表しました。ポイントの大小を考える場合には、満点（100×2点=200点）が基準となります。

（例：「そう思う」：45%、「まあそう思う」：25%、「わからない」8%、「あまりそう思わない」：12%、「そう思わない」6%、「わからない」4%の場合 ⇒ $(45 \times 2 \text{点} + 25 \times 1 \text{点}) - (12 \times 1 + 6 \times 2 \text{点}) = 91$

○地域の状況×世代区分別

先述の満足度の高い項目、不満足度の高い項目の傾向については、世代による差異はみられませんが、高齢世代は、他の世代に比べて満足度の度合いが高く、不満足度が低くなっています。逆に若者世代は、満足度の度合いが低く、不満足度の度合いが高くなっており、特に「レジャー、娯楽」「魅力ある商業施設」については、不満足度が100を超えています。また、「住み続けたい」に対する満足度は、高齢世代では108に対し、若者世代は64とやや低くなっています。

○地域の状況×町会・自治会への加入の有無別

町会・自治会への加入の有無別に対する満足、不満足の商品の傾向も差異はありません。「住み続けたい」は、加入者では満足度103に対し、未加入者は69ですが、この結果は、加入者の6割が高齢者であるためだと推測できます。「災害時の近隣互助」に対しては、加入者の不満足度は21に対し、未加入者は3倍近い57となっており、未加入者の不満が強いようです。

○地域の状況×居住年数別

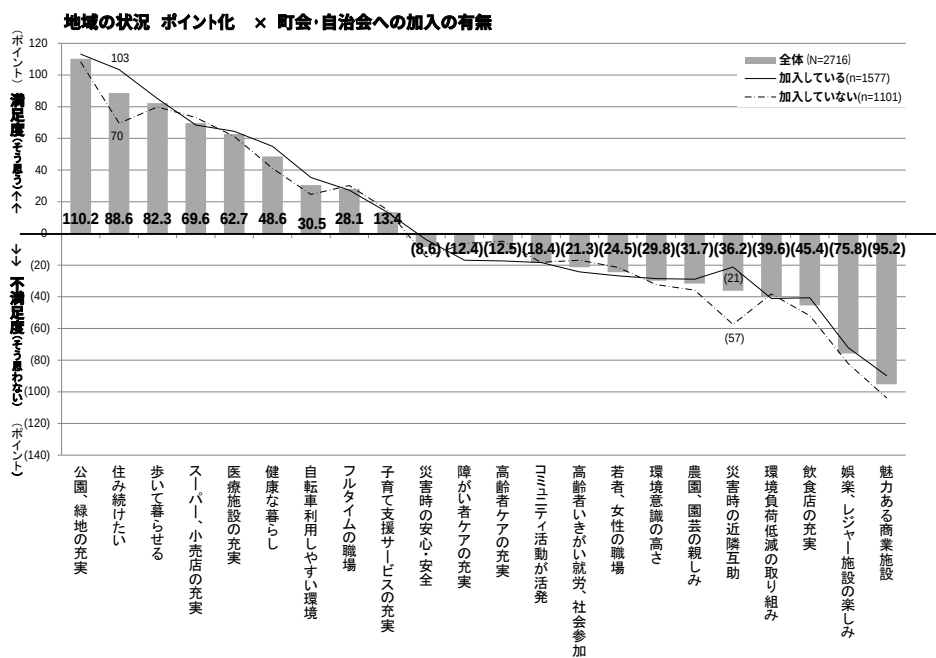
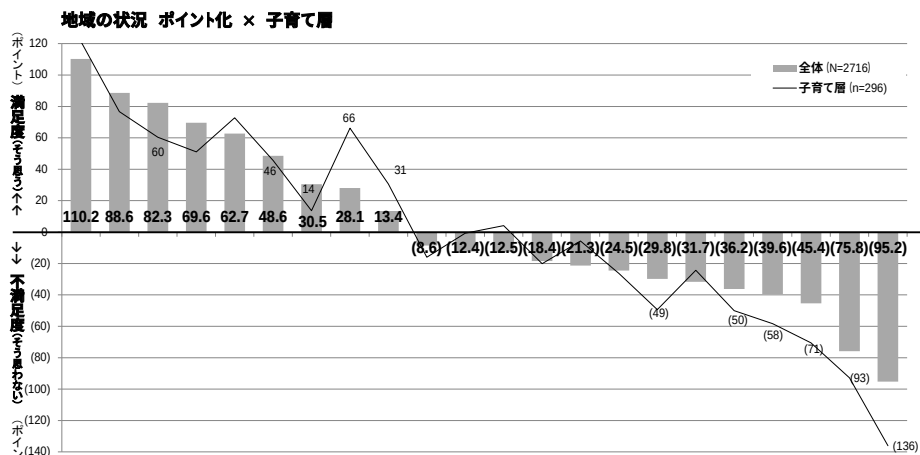
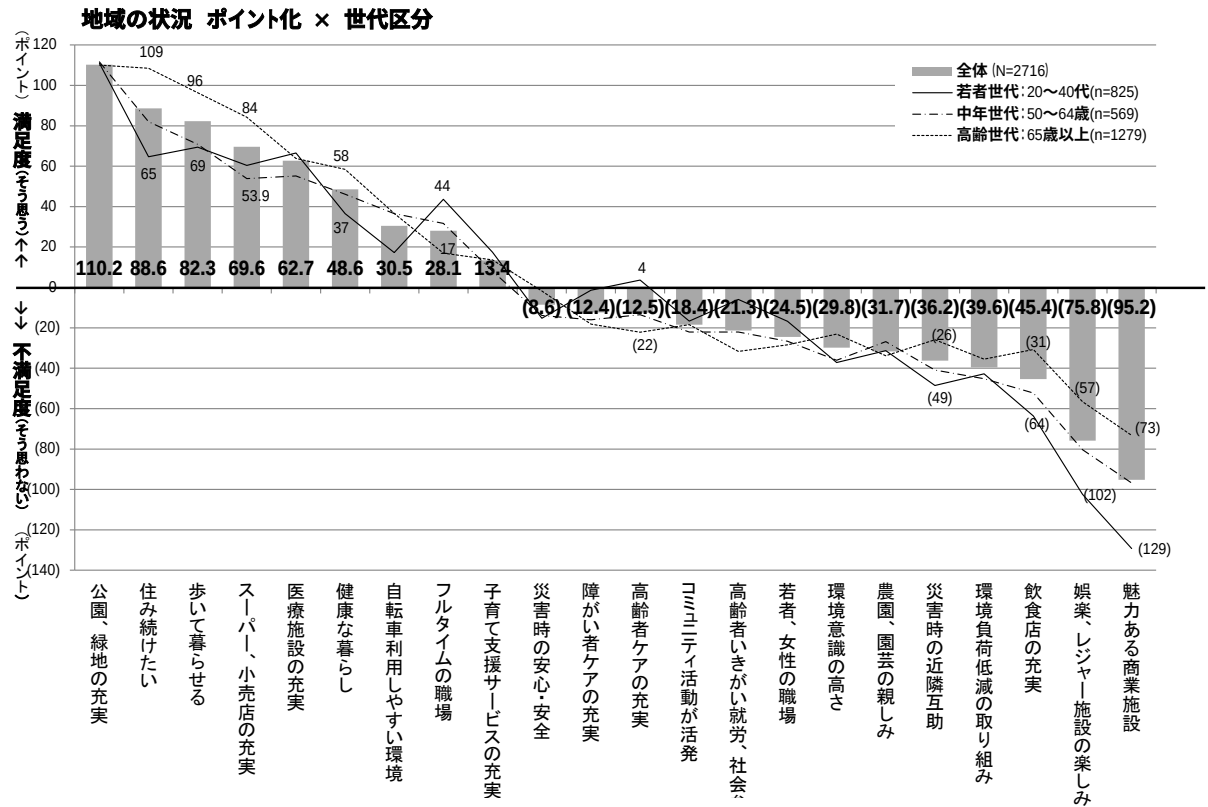
居住年数別でも、世代区分と同様の傾向が出ています。居住年数が短いほど、総じて満足度が低く、不満足度が高くなっています。最も違いが大きいのは、「住み続けたい」の満足度が「5年未満」は40に対し、「20年以上」は110と3倍近くなっています。

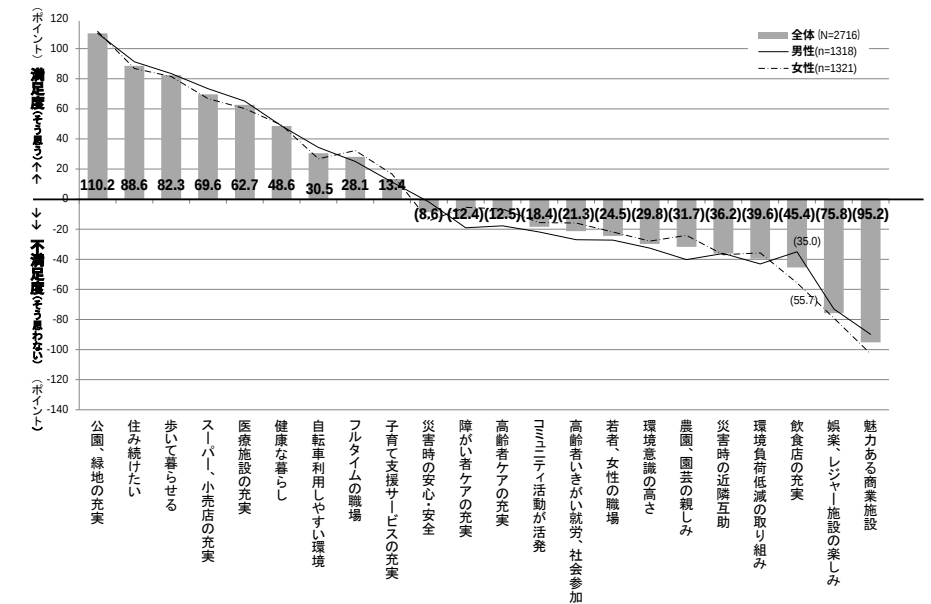
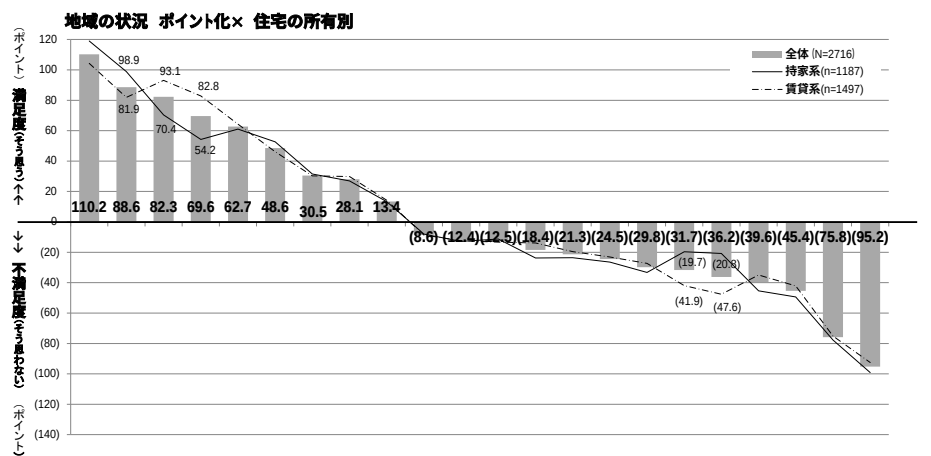
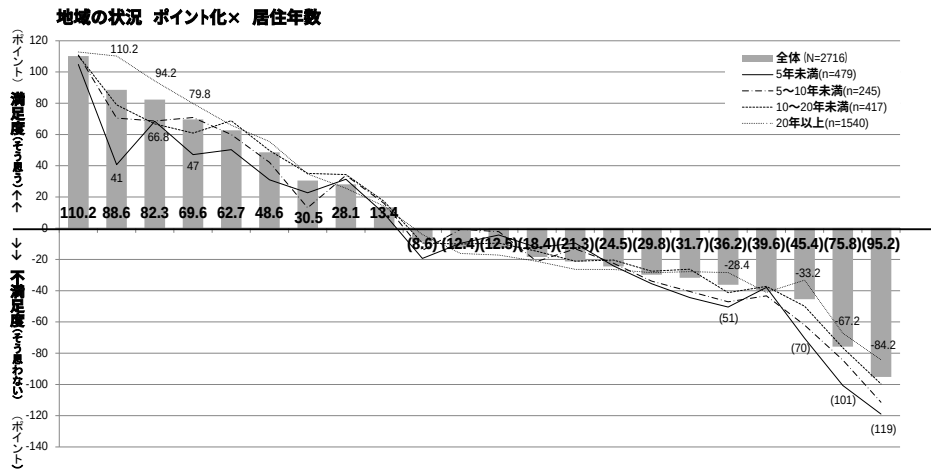
○地域の状況×住宅の所有関係別

住宅の所有関係別でも、満足・不満足の商品に大きな差異は見られません。一般に賃貸系の住宅にお住まいの方は、住み続けたいという意識が低くなりますが、高島平地域では、持家の満足度98に対して賃貸の満足度も81と高い結果となりました。これは、定住意向の強いUR賃貸住宅が多いためであると思われます。

○地域の状況×男女別

男女別では、満足・不満足の商品に差はほとんどありません。





※「そう思う」2点 「まあ、そう思う」1点 「どちらともいえない」0点
「あまりそう思わない」-1点 「そう思わない」-2点

問 1 1 地域の課題について

地域課題については、先の地域の現況認識における「レストランやカフェ」「娯楽施設」「魅力ある商業施設」に対する不満足と対応し、「知人や友達を誘えるレストランの不足」「娯楽施設の不足」「大規模商業正接の不足」などにぎわい関連の項目を半数以上の人が地域課題として挙げています。

○地域の課題×世代区分

地域課題については、世代間で差異が大きい項目が多数伺えます。上位3位のにぎわい関連の項目は、全世代で選択率が高くなっていますが、特に若者世代が強く課題として認識しています。一方、高齢世代が若者世代に比べて格段に選択率が高いのは、「高齢者支援施設の充実」で37%の回答者（若者世代は8%）が課題として挙げています。

また、高齢世代は、「空家の増加」「コミュニティ活動の場」「災害時の安心・安全」など、地域や暮らしに直結する身近な問題点を課題として挙げている率が若者世代より10～20%高くなっています。

○地域の課題×町会の加入の有無

町会への加入の有無で見ると、「空家の増加」を課題と捉えている率は、加入者の37%に対し未加入者は23%で15%近い差があります。町会の加入者にとって地域の空家の増加は、切実な地域課題として捉えられているようです。

○地域の課題×居住年数

先に記したにぎわい関連の項目は、居住年数が短い人ほど問題意識が高くなっています。この層は、若者世代が多いためだと思われますが、新たに若者世代を高島平地域に呼び寄せるためには、にぎわいの創出は不可欠と言えます。

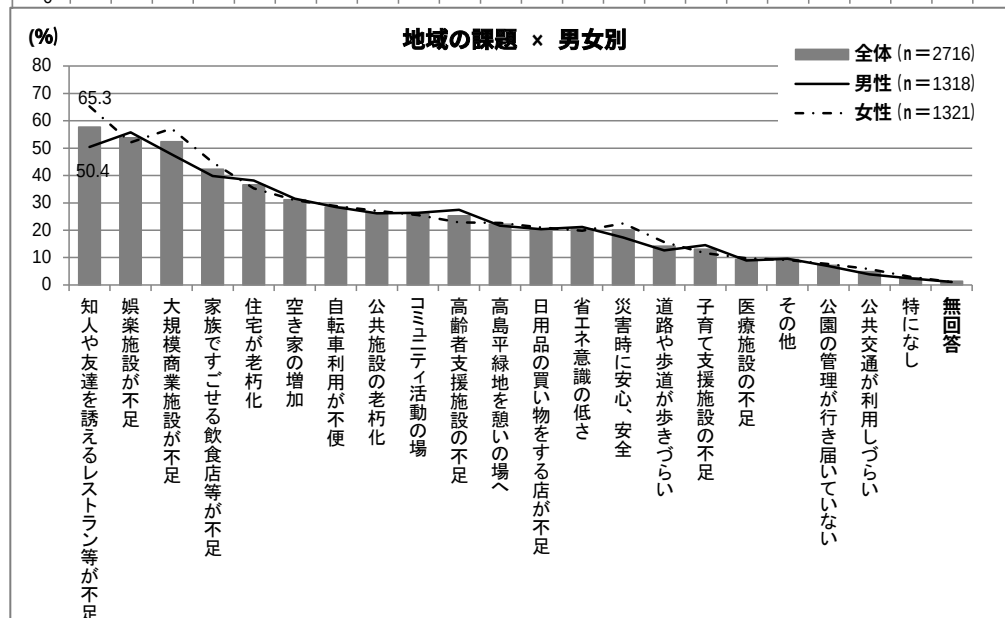
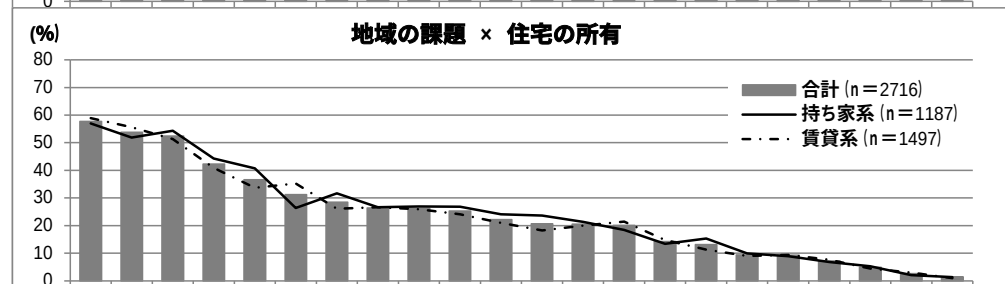
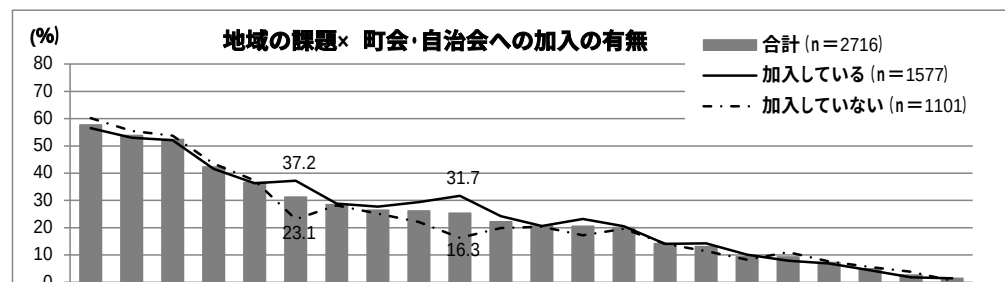
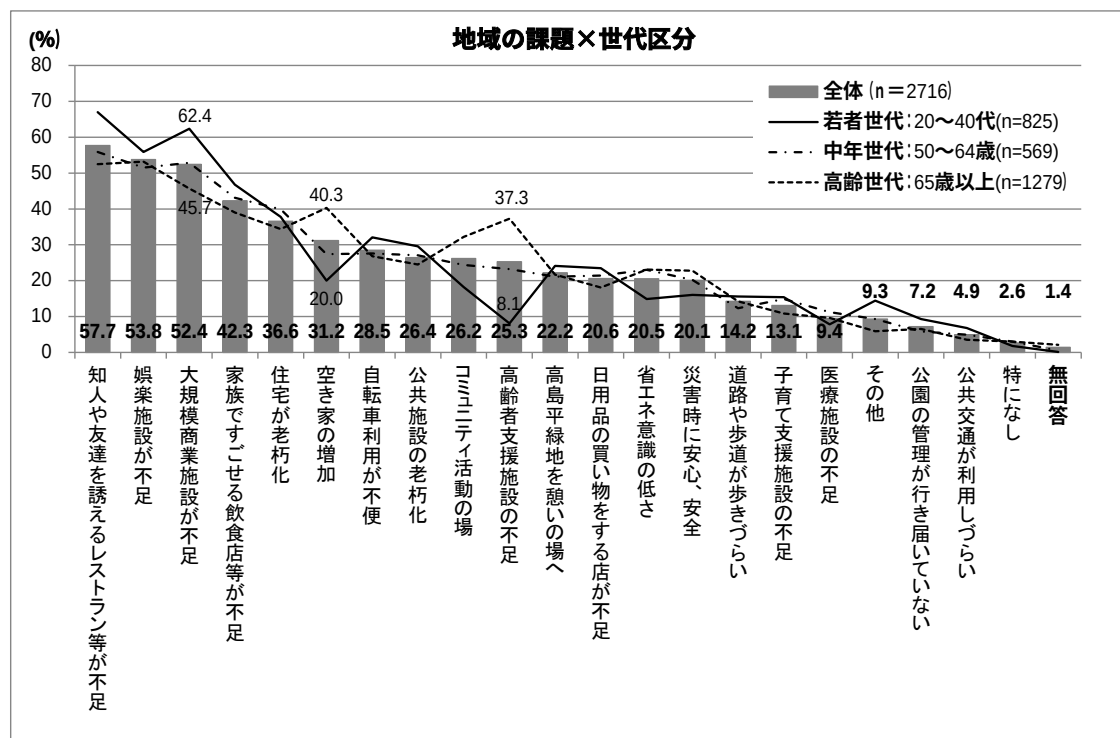
○地域の課題×住宅の所有関係

地域課題の認識については、住宅の所有関係に関係するのではないかと推測し、分析を行いました。若干の差違はあったものの、予想したほど顕著な差異は伺えませんでした。地域の課題において、持家に住んでいる回答者も賃貸に住んでいる回答者も問題意識に大きな違いはないようです。

○地域の課題×男女別

男女別では、女性の方が「知人や友達を呼べるレストラン」「大規模商業施設」などに対する要望が高くなっています。特にレストランについては、男性が50%に対し女性は65%で15%程の差があります。「災害時の安心安全」についても、男性よりも女性の方が課題としての認識が高くなっていますが、「高齢者支援施設の不足」については男性の方が課題としての認識がやや高くなっています。その他の項目では男女差はほとんどありません。

◇地域の課題×世代区分



問13 20年後の将来像について

高島平地域の20年後の将来像については、「多世代交流」「災害時の安心・安全」は、70%近く、「公園等の緑地の充実によるうるおいあるまち」「高齢者がいきいき暮らせるまち」「活気ある商店街」の選択率は50%を超えています。地域課題では「にぎわい」に関する要望が強く出ていましたが、まちの将来像に対しては、「多世代交流」「災害時の安心・安全」が、「にぎわい関連の項目」より選択率が高くなっています。

○20年後の将来像×世代区分

世代別にみると、「多世代交流」については、若者世代の61%に対し、中年世代以降の世代は70%を超えており、中年世代以降の方が高くなっています。高齢関係の項目については、高齢予備軍である中年世代と高齢世代が高くなる傾向にあります。一方、若者世代は、実際に直面している問題解決への期待として「子育て」や「交通網」への期待が高くなっています。

○20年後の将来像×町会・自治会加入の有無

回答者における町会加入者の約6割が高齢世代、未加入者の約5割が若者世代のため、町会や自治会加入の有無による差異は、世代別の結果とほとんど同じです。

○20年後の将来像×住宅の所有関係

住宅の所有関係関係別で、20年後の将来像に関する意識の差はほとんどありません。

○20年後の将来像×居住年数

基本的には、居住年数が長くなるに従い高齢世代の率が高くなっていくので、世代別の傾向に似ていますが、10年未満の新しく住み始めた層では、“公共交通網”が充実したまちに対する期待が他の項目に比べて高くなっています。

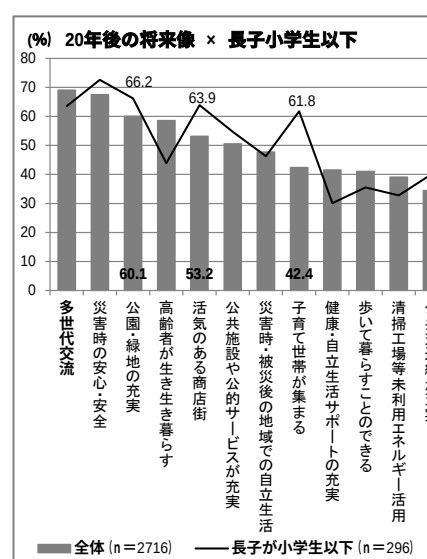
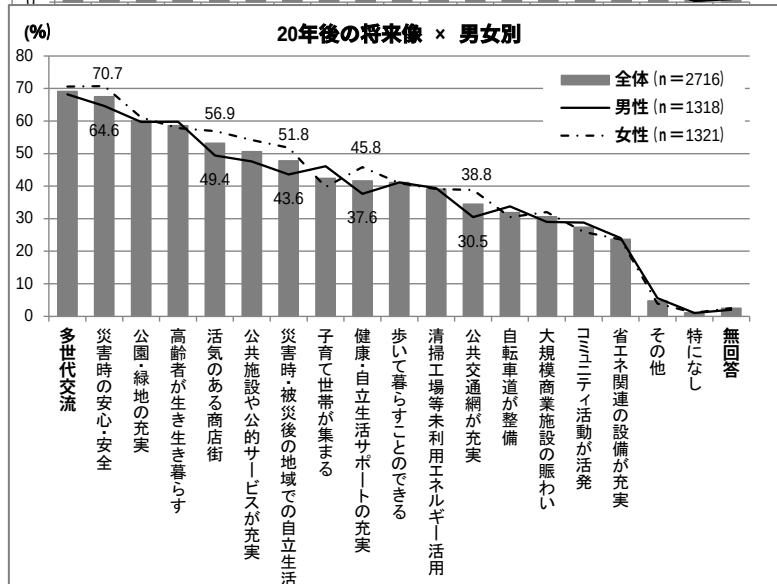
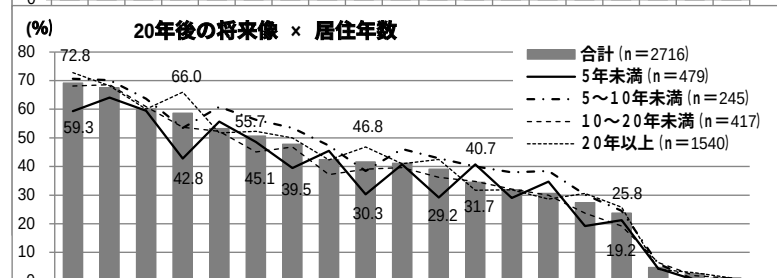
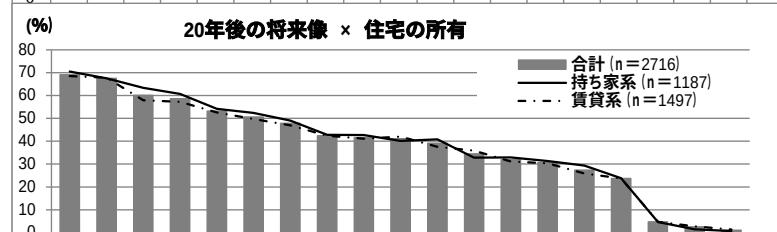
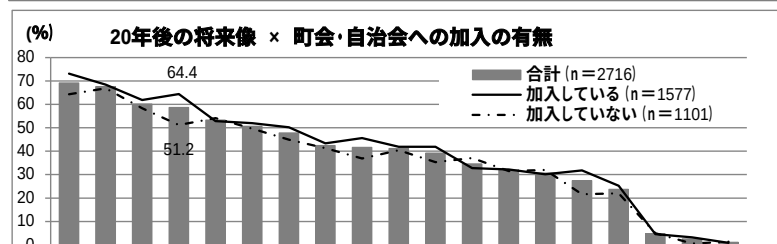
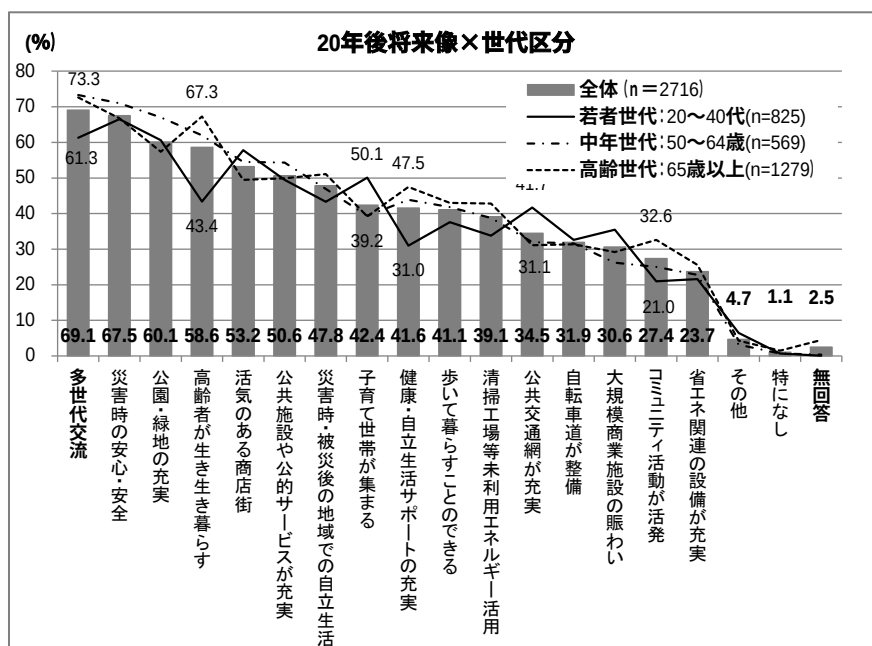
○20年後の将来像×男女別

男女別で20年後の将来像についての差違を見るとほとんどの項目で男性の選択率が女性より低い結果になっています。特に、女性の選択率が男性より10%以上高い項目としては、「災害時の安心・安全」「災害時の地域での自立」などの災害関連、「活気ある商店街」「健康・自立生活サポート」「交通網」など、生活を楽しんだり活発化させるような項目です。

○20年後の将来像×長子が小学生以下の世帯

長子（最初に生まれた子）が小学生以下の世帯において、選択率が4割以上の項目のみを抽出すると、「子育て世帯が集まり暮らすことのできるまち」が回答者全体と比べて2割以上高くなっており、「活気ある商店街」「緑地などの充実」も高くなっています。

◇20年後の将来像について



問15 4つの基本方針について

グランドデザインに掲げている「にぎわい」「ウェルフェア」「スマートエネルギー」「防災」の4つのテーマの重要度については、「ウェルフェア」「防災」「にぎわい」「スマートエネルギー」の順に選択率が高くなっています。

○4つの基本方針×世代区分

世代区分で、4つのテーマの重要度は大きく異なります。若者世代の「にぎわい」の重要度が34%に対して、中年世代15%、高齢世代11%と若者世代が突出して高くなっています。一方、「防災」に関しては、逆に世代が上がるほど選択率が高くなり、若者世代(18%)と高齢世代(35%)では15%以上の差があります。なお「スマートエネルギー」については、世代に関係なく選択率は低い結果となりました。

○4つの基本方針×町会や自治会への加入の有無

町会・自治会への加入の有無による差異は、ほとんど伺えません。若干ですが差があるのは、高齢世代の割合の高い加入者においては、「防災」の選択率が、若者世代の割合の高い未加入者では、「にぎわい」の選択率が若干高くなっています。

○4つの基本方針×住宅の所有関係関係別

住宅の所有関係別の差はほとんど伺えません。

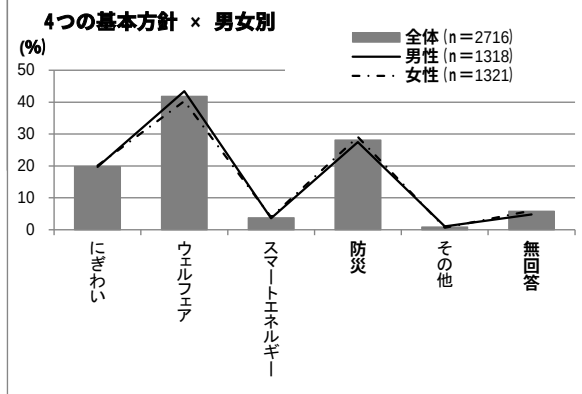
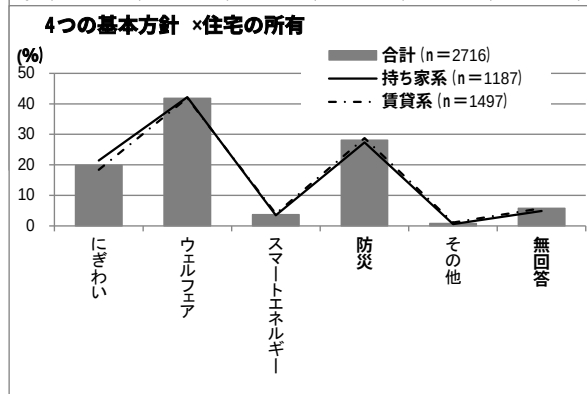
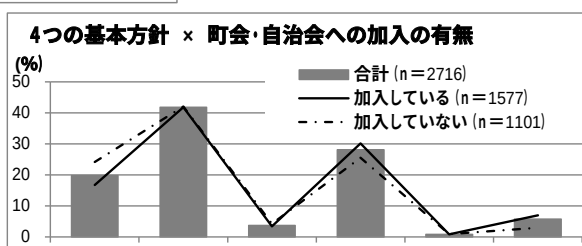
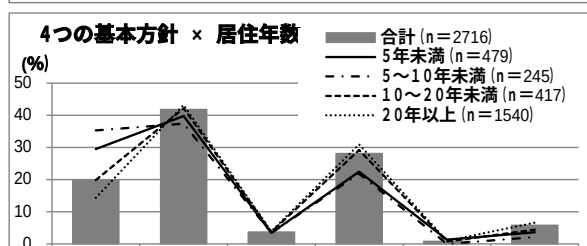
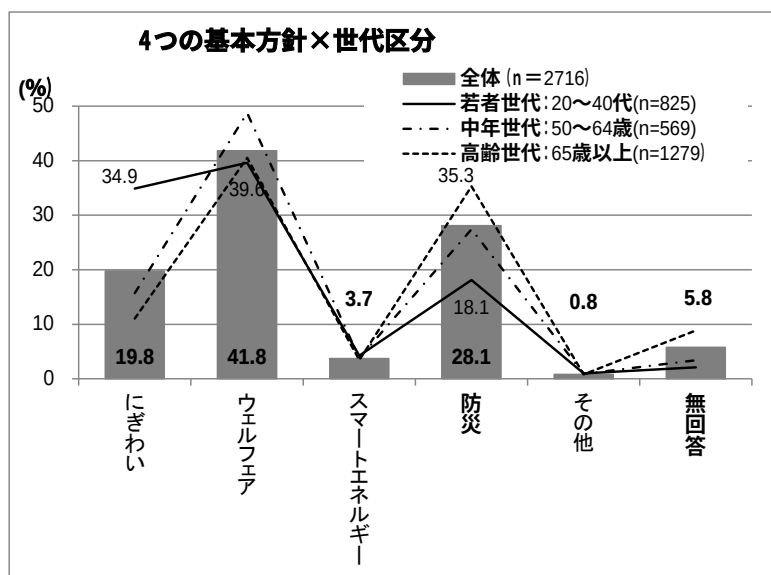
○4つの基本方針×居住年数別

居住年数別では、「にぎわい」に対する選択率に差異がでています。「5年未満」の層が、もっとも「にぎわい」の選択率が高いと推測していましたが、地域になじみ、地域のことがわかってくる「5～10年未満」の層が最も高く「にぎわい」を選択しているという結果となりました。

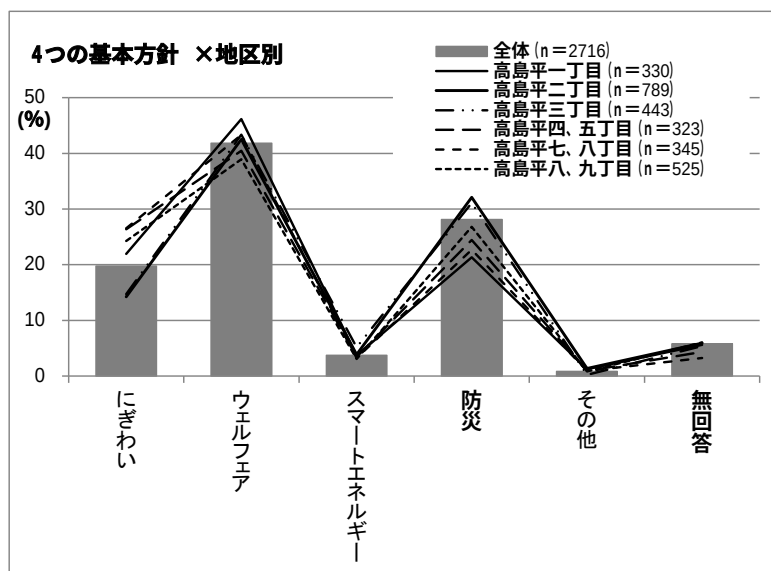
○4つの基本方針×男女別

男女別では、傾向にほとんど差はありません。

◇ 4つの基本方針について



◇地区別に見る 地域の課題、20年後の将来像



■「にぎわい～地域の内外からの交流促進や利便性の高いまち～」について

問16 三田線の駅前や高架下に誘致すべき施設について

誘致してほしい施設としては「レストランやカフェ」が他の項目に比して突出して高く唯一5割を超えており、2位の日常の買い物ができる「小規模な小売店舗」(37%)と比べて20%近く選択率が高くなっています。その他の項目については、複数回答だったにも関わらず3割以下の選択率でした。

○三田線の駅前や高架下に誘致すべき施設×世代区分

「レストランやカフェ」は、世代が若いほど選択率が高くなっており、若者世代では67%であり、高齢世代(49%)と比べると20%近い差があります。若者世代は、レストランや店舗、オフィス、子育て関連施設、逆に高齢世代は、「デイケアサービスなどの高齢者支援施設」などを望んでいます。

○三田線の駅前や高架下に誘致すべき施設×男女区分

女性の方が「レストランやカフェ」「洋服や雑貨が揃った店舗」の選択率が高く、男性と比べると10～15%程の差があります。その他の項目では大きな差は見られません。

問17 歩いて暮らせる。楽しく暮らせるまちにするために必要なもの

「自転車と歩行者の分離」の選択率が63%と6割を超え2位以下の項目より2割近く高くなっています。2位、3位は、「高島平緑地内の整備」(44%)「高架下にカフェや店舗の誘致」(41%)です。

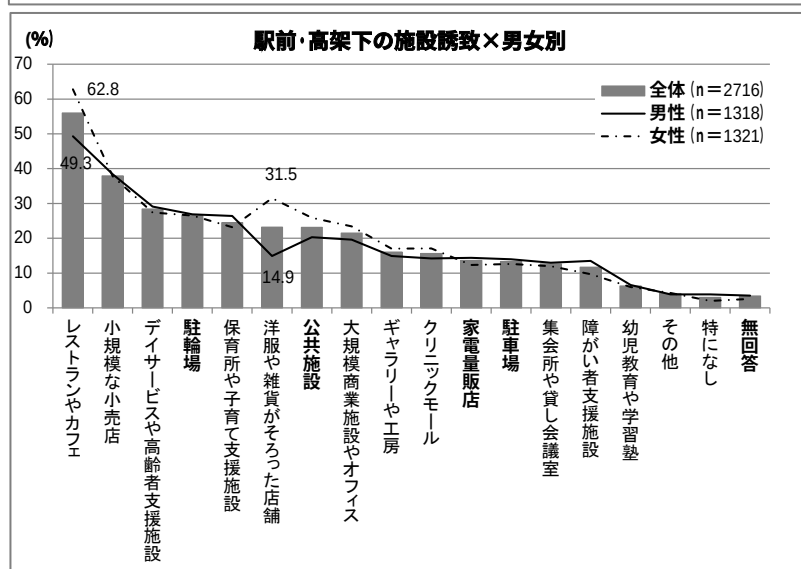
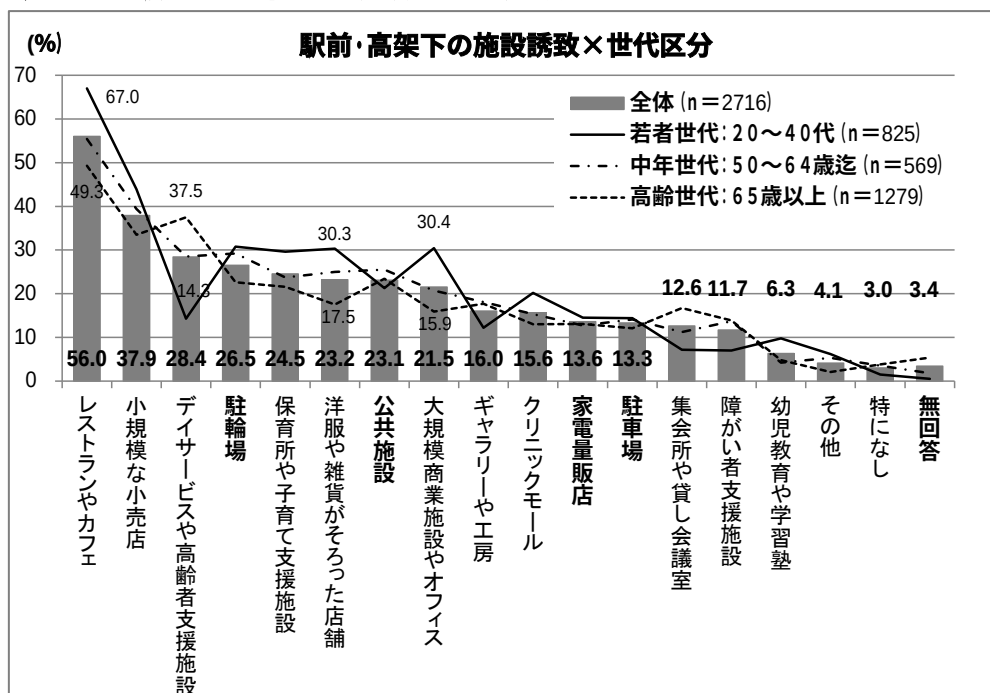
○歩いて暮らせる。楽しく暮らせるまちにするために必要なもの×世代区分

各世代とも「自転車と歩行者の分離」については、60%を超える選択率ですが、その他の項目は、世代により10%程度の差がある項目が多くなっています。特に若者世代は「高島平緑地の整備」「高架下にカフェや店舗の誘致」の選択率が高齢世代に比べて10%程度高くなっています。

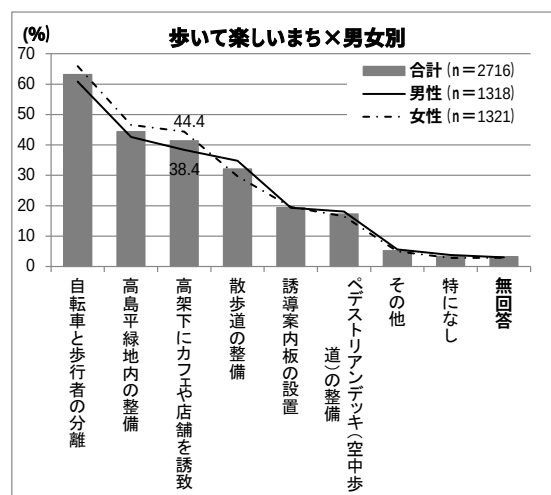
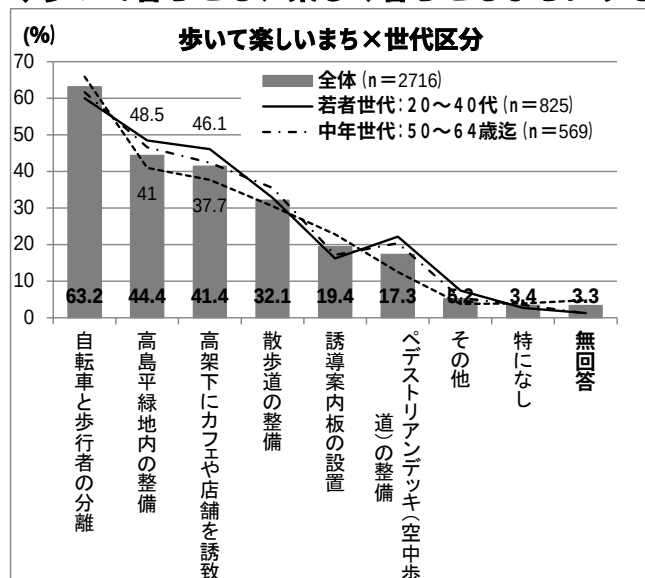
○歩いて暮らせる。楽しく暮らせるまちにするために必要なもの×男女別

男女別では、世代区分別ほど大きな差は何えませんが、女性の方が「高架下にカフェや店舗の誘致」に関する選択率が若干高くなっています。

◇三田線駅前や高架下に誘致すべき施設について



◇歩いて暮らせる、楽しく暮らせるまちにするために必要なもの



問18 交通網の充実に必要なこと

「三田線の埼玉方面への延伸」が46%で最も選択率が高く、2位の「コミュニティバスなど民間バスの運行」(32%)と比べて15%程度高くなっています。

○交通網の充実に必要なこと×世代区分

1位、2位の「三田線の埼玉方面への延伸」「コミュニティバスなど民間バスの運行」については、世代区分による差はありませんが、「エイトライナーの推進」については、若者世代31%に対して中年世代20%、高齢世代13%と世代が高くなるにしたがって選択率が低くなっています。

○交通網の充実に必要なこと×男女別

男女別では、1位の「三田線の埼玉方面への延伸」については、同じ傾向ですが、「コミュニティバスなどの民間バスの運行」については、女性の選択率が約4割なのに対して、男性は3割を切っており、約15%の差が現れています。その他の項目については、男性の方が関心がやや高い傾向があります。

問19 三田線の延伸について

「延伸の必要がある」は59%、「必要がない」は31%であり、延伸を望む意見が強いようです。

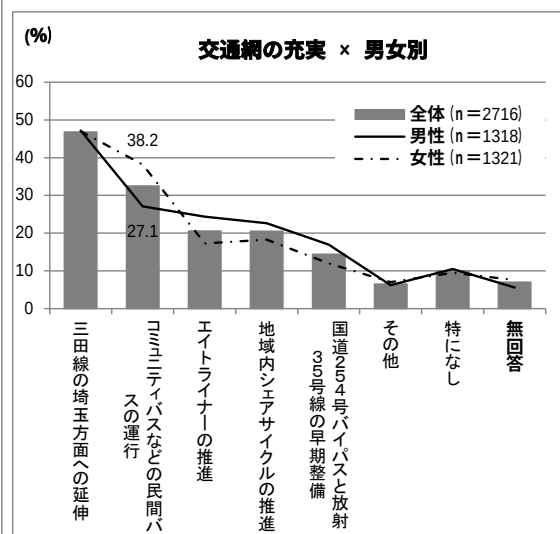
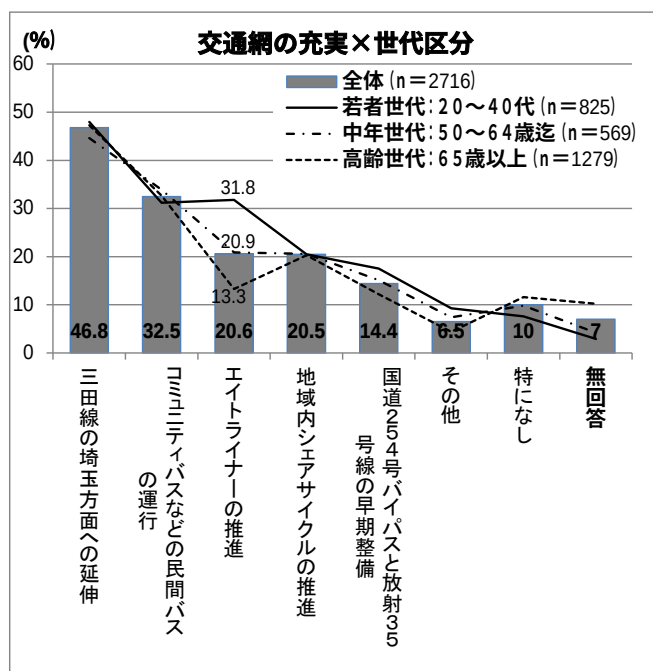
○三田線の延伸について×世代区分

「延伸する必要がある」については、世代間の差異はほとんどありませんが、「延伸する必要がない」については、延伸によってより恩恵を受けられる中年・若者世代の選択率が高齢世代より10%近く高くなっています。一方、高齢世代では無回答率13%と多世代に比べて高くなっており、延伸に対する興味が低くなっています。

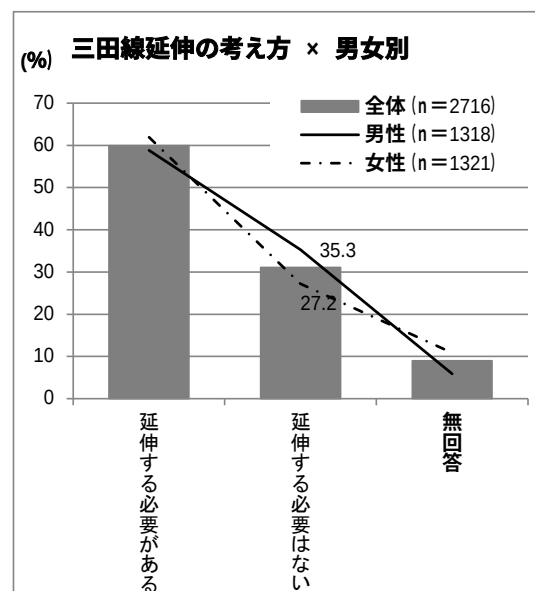
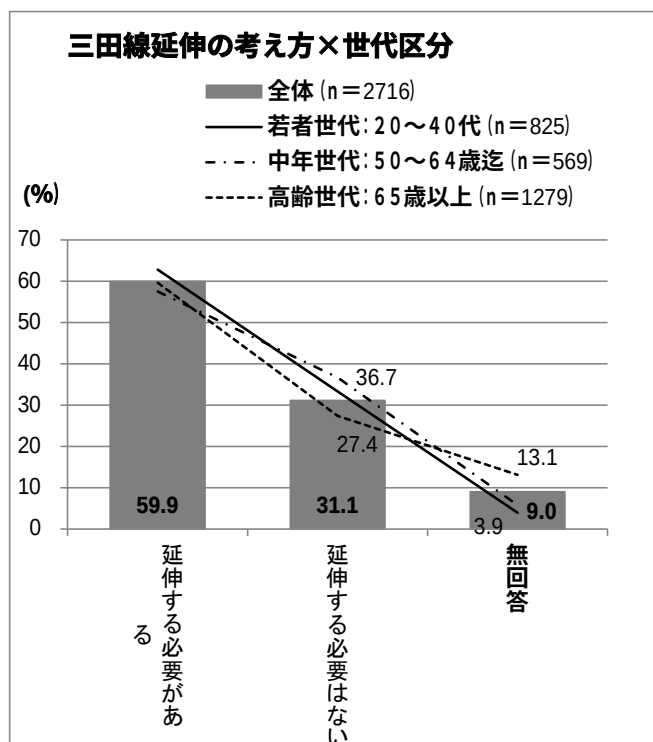
○三田線の延伸について×男女別

男女別で「延伸する必要がある」については、大きな差はありませんが、「延伸の必要がない」という否定的な意見は女性が27%に対し男性が35%と差がでています。

◇ 交通網の充実に必要なこと



◇ 三田線の延伸について



問20 西高島平駅から延伸すべき駅について

「成増」がもっとも選択率が高く約18%、続いて「池袋」(15%)、「和光市」(13%)となっています。

○西高島平駅から延伸すべき駅×世代区分

上位3駅については、世代間に大きな相違があります。全体1位の「成増」は、中年・高齢世代の選択率が約20%のに対して若者世代の選択率は13%です。逆に若者世代が最も望んでいるのは「池袋」への延伸で、若者世代の20%が望んでいます。中年世代は、「池袋」より「和光市」の選択率が高くなっています。

○西高島平駅から延伸すべき駅×男女別

「成増」については、男女差はほとんどありませんが、「池袋」については、女性22%に対して男性9%と10%以上高くなっています。一方、男性は「和光市」の選択率が高く17%に対し、女性は10%です。

○西高島平駅から延伸すべき駅×男性・女性×世代区分

1) 男性×世代区分

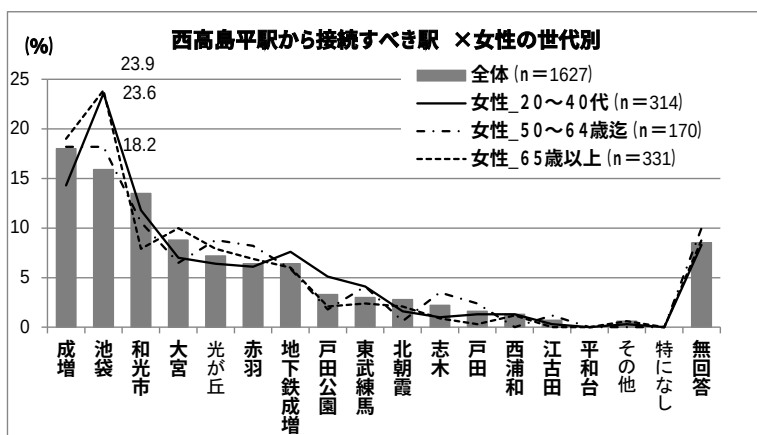
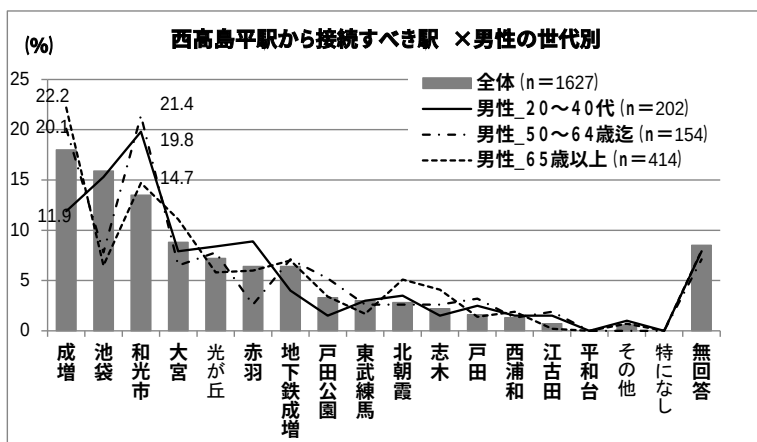
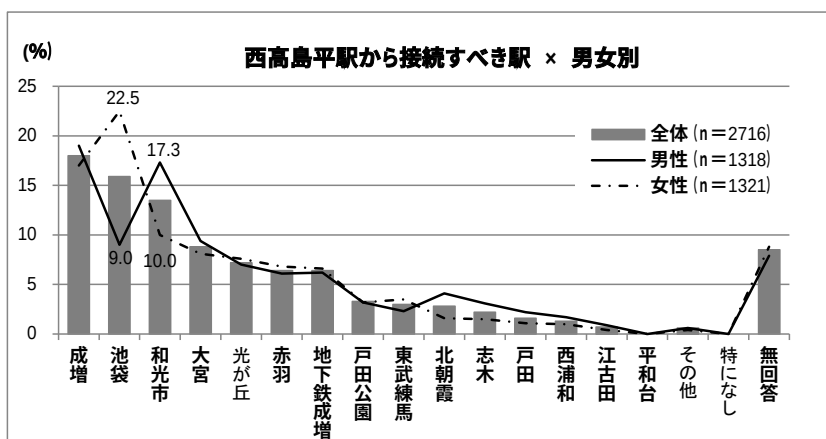
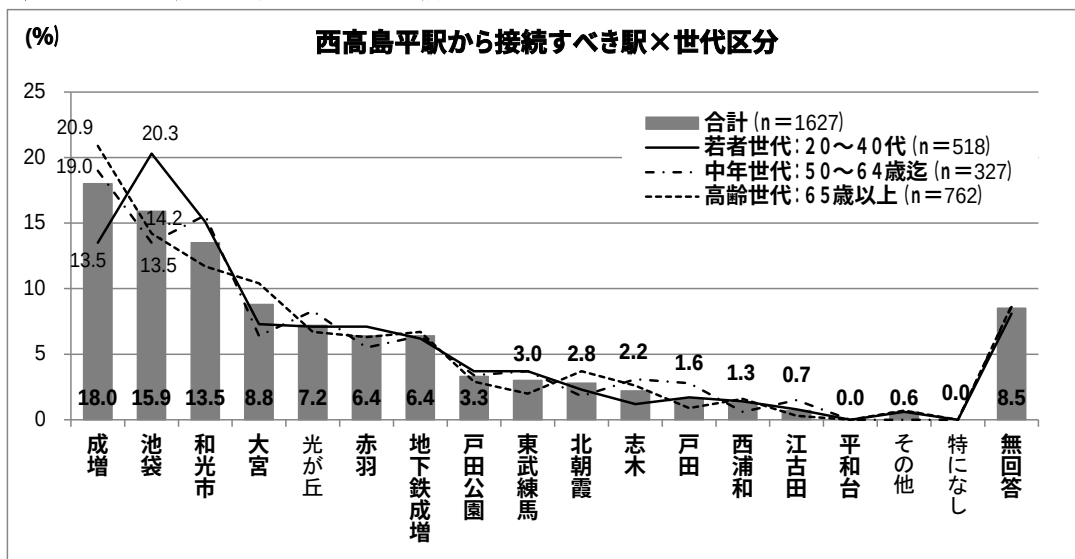
三田線の延伸は、就業やショッピングなどライフスタイルで差があると推測できます。そこで、ここでは、特に男性、女性の世代別で差違を見てみます。

男性の場合は、「成増」への延伸を望んでいる若者世代11%に比べて中高年世代は20%を超えており、約10%の差があります。また、「和光市」への延伸は、若者世代の男性19%、中年世代の男性21%と女性に比べて非常に高い結果となりました。これは、副都心線が入ってきている和光市への延伸により通勤の利便性が確保できるためだと推測できます。

2) 女性×世代区分

女性の世代別では、「池袋」への延伸が全世代で男性より高くなっています。特に若い世代と高齢世代は共に23%と中年世代18%に対して高い結果となりました。女性は、男性に比べて「レストラン」「店舗」などの暮らしの楽しさを求める傾向が強いことがこれまでの設問で見て取れたことからショッピングや食事などの地として「池袋」への延伸が望まれていると推測できます。

◇西高島平駅から延伸すべき駅について



■ウェルフェア ～子どもから高齢者まで元気に楽しく暮らせるまち～

問21 子育てしやすいまちの実現に必要なもの

「一時保育サービスの充実」が最も選択率が高く 46%、次いで「多様な保育サービスの提供」(39%)、以下、20%以上の項目は「病児保育の充実」(26%)、「学習支援事業や交流活動」(23%)、「保育サービスの充実」(21%)です。

○子育てしやすいまちの実現に必要なもの×世代区分

子育ての当事者である若者世代の選択率が、ほとんどの項目において他の世代より高くなっています。特に「一時保育サービスの充実」は、57%が、2位の「多様な保育サービスの提供」は44%の人が選択しています。また「病児保育の充実」についても約36%の人が望んでいます。高齢世代は、無回答の割合が20%と高く、子育てに対する関心が低いことがわかります。

○子育てしやすいまちの実現に必要なもの×長子が小学生以下の世帯

子育ての真っ最中である長子が小学生以下の世帯では、選択率は全般的に高く、特に「一時保育サービスの充実」は56%で強く望まれています。次いで、「多様な保育サービスの提供」(41%)、「病児保育の充実」(43%)が40%を超えています。また、長子が小学生以下の世帯では「「あいキッズ」のプログラムの充実」(36%)が全体に比べて非常に高くなっています。

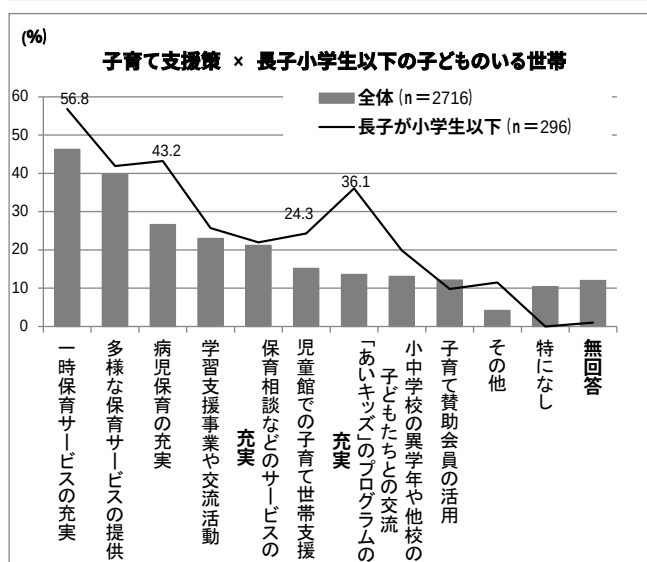
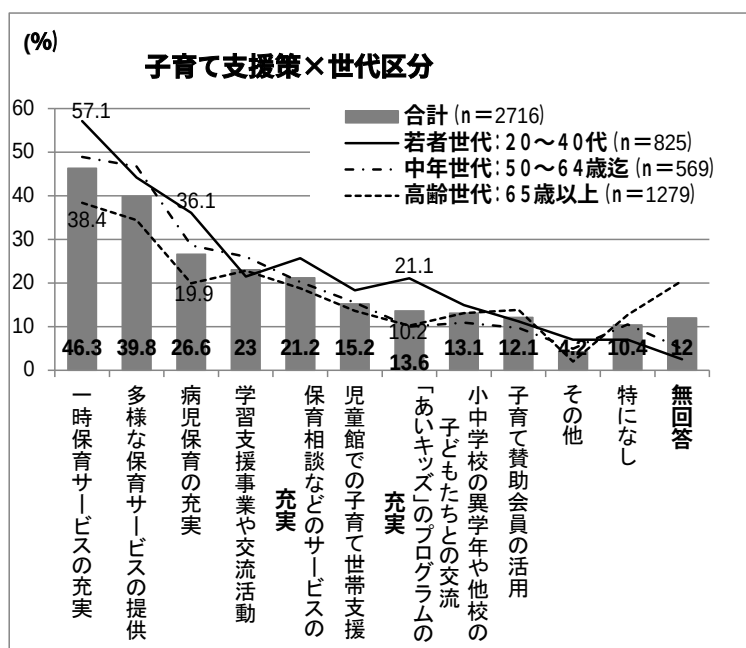
問22 心と身体の健康を保った生活を送るために必要なもの

「地域包括ケアシステム」(48%)、「ウォーキングロードの整備」(47%)「住替えシステム」(45%)の上位3項目が、4位以下と20%程度の差をつけており、4位以下の項目は、30%以下の選択率です。

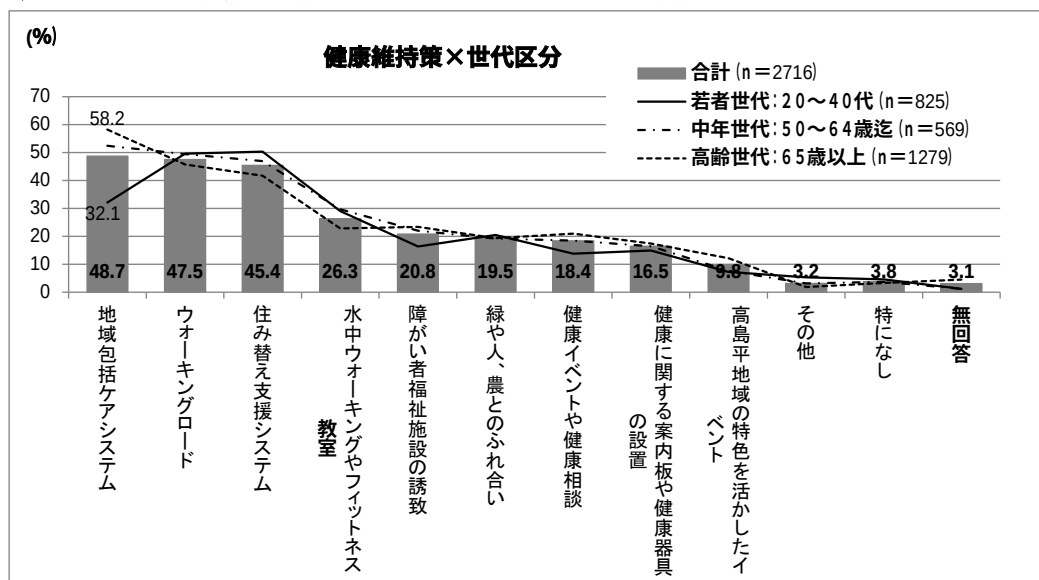
○心と身体の健康を保った生活を送るために必要なもの×世代区分

上位3位の項目に差異はありませんが、高齢者に特化した項目である「地域包括ケアシステム」は世代間の差が大きく、高齢予備軍である中年世代52%、高齢世代58%と5割を超える選択率に対し、若者世代は32%にとどまっています。「ウォーキングロード」については、世代に関係なく選択率が高く、「住替え支援システム」は、世代が若いほど高い選択率であり、若者世代の50%が選択しています。

◇子育てしやすいまちの実現に必要なもの



◇心と身体の健康を保った生活を送るために必要なもの



問23 地域活動の参加が増えコミュニティ活動が活発な街に向けて必要なもの

「板橋区内の大学との連携」が49%と最も高く、2位の「地域活動の担い手となる人材の育成」(約35%)より15%程度高くなっています。3位以下の項目は、選択率が3割を切っています。

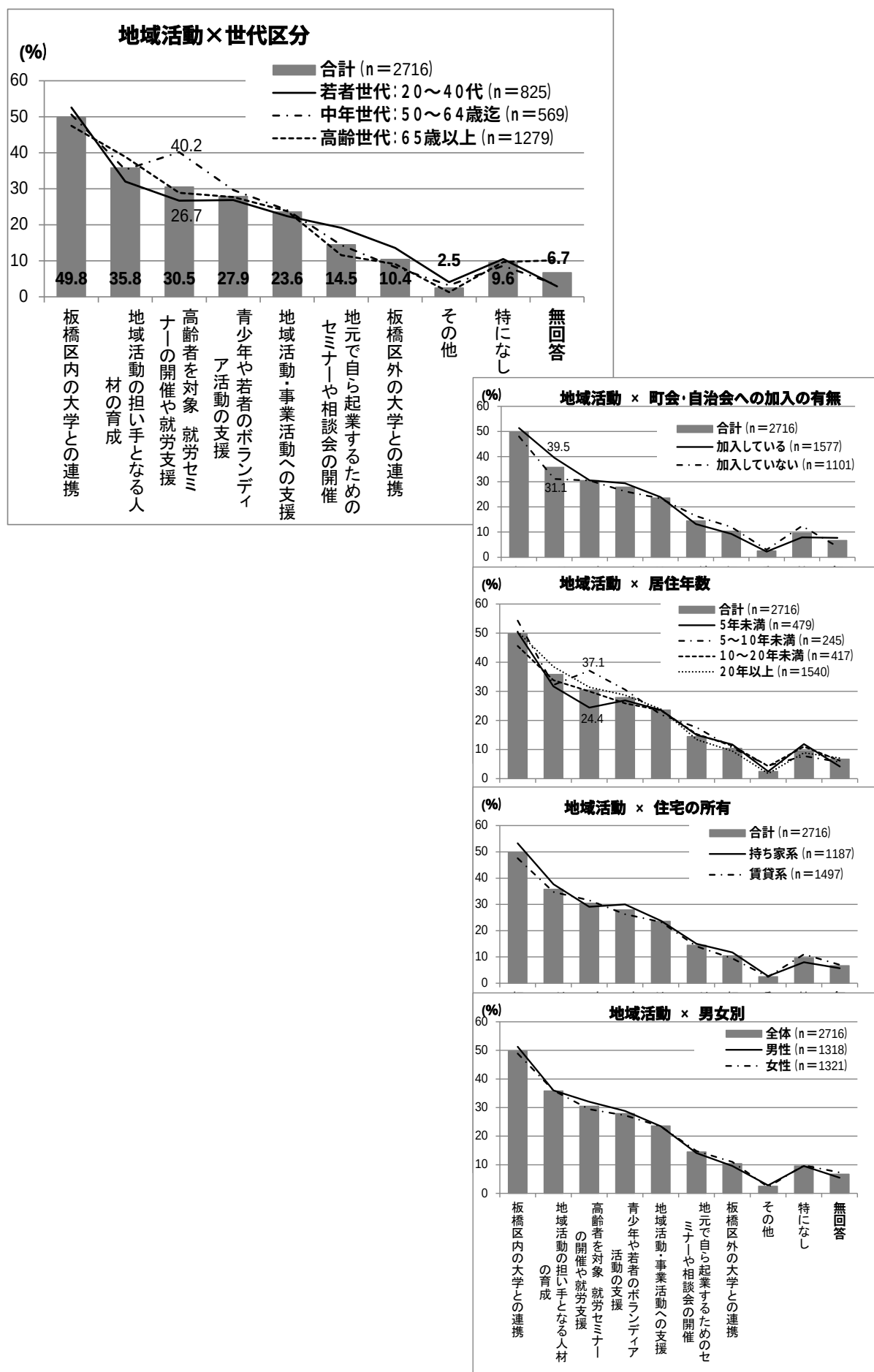
○コミュニティ活動が活発な街に向けて必要なもの×世代区分

上位2項目に対しては世代区分による差異は若干程度です。世代区分別で差違が最も大きい項目は、「高齢者を対象とした就労セミナーの開催や就労支援」で、高齢予備軍である中年世代が40%と他の世代よりも10%以上高い選択率となっています。一方、若者世代に関連すると思われる「青少年や若者のボランティア活動の支援」については、若者世代の選択率が高いということはなく、世代間で差違がありませんでした。若者世代が他の世代より関心が高かったのは「地元で自ら起業するためのセミナーや相談会の開催」で、選択率自体は19%と低いですが、高齢世代より10%程度高くなっています。

○コミュニティ活動が活発な街に向けて必要なもの×町会・自治会の加入の有無

「地域活動の担い手となる人材の育成」について加入者(39%)が未加入者(31%)に比べて10%程度高くなっている他は、大きな差違は見受けられませんでした。

◇地域活動の参加が増えコミュニティ活動が活発な街に向けて必要なもの



■スマートエネルギー～環境負荷の低減や循環型エネルギーに対応したまち～

問24 導入可能な再生可能エネルギーについて

最も選択率が高かったのは「太陽光発電システム」ですが、それでも選択率は10%程度です。一方、50%の人が「再生可能エネルギーを利用していない」と回答しています。本設問が複数回答可の設問であったことを合わせて考えると、再生可能エネルギーに対する関心は、かなり低いことが伺えます。

○導入可能な再生可能エネルギーについて×世代区分

世代区分別の差はありませんが、「利用していない」については、高齢世代の選択率が他世代よりも15%程度低くなっています。（つまり、高齢世代は利用している人の割合が多い。）

問25 地球温暖化防止のために家計の負担が増えても良いかどうか

「負担しても良い」「少しくらい負担しても良い」を合わせると約54%となり半数を越えます。一方、「全く負担したくない」は、約21%であり、地球温暖化防止に対する意識は比較的高いといえます。

○地球温暖化防止のために家計の負担が増えても良いかどうか×世代区分

世代別では、家計の負担に対しては若者・中年世代は「負担してもよい」、「少しなら負担してもよい」は59%ですが、高齢世代では、48%と10%の差があります。

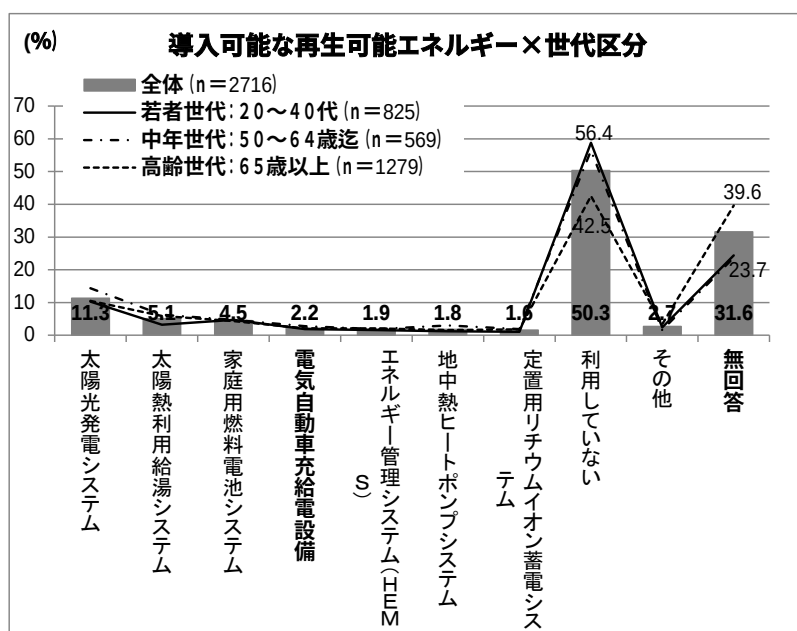
問26 負担しても良いもの

先の設問で「負担しても良い」と回答した人のうち、「省エネ家電や車への買い替え」（45%）、「太陽光発電システム」（40%）に対して負担してもよいと考えている人が40%を超えています。一方、税金や賦課金として支払おうという意見は30%を切っています。

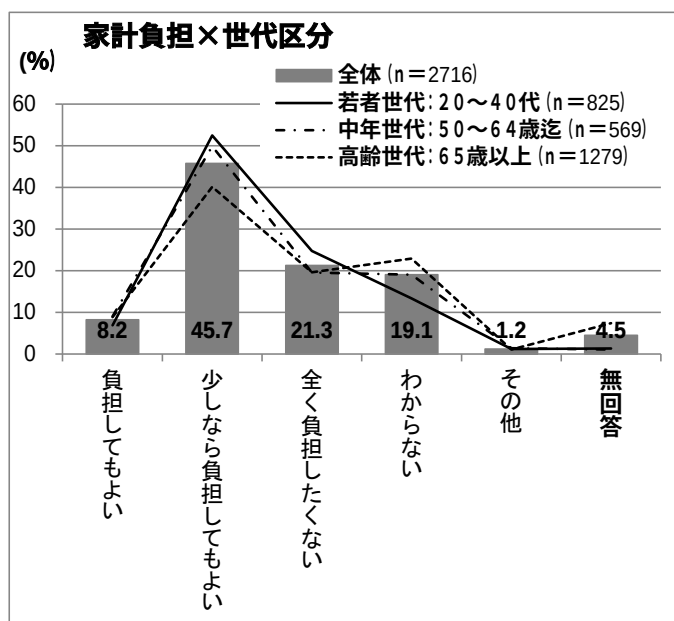
○負担しても良いもの×世代区分

若者世代は、「省エネ家電やエコカーへの買い替え」、「太陽光発電システムなどの設置」に対して他世代に比べて10%以上高く積極的ですが、高齢世代は賦課金に対して若者世代に比べて20%も高い理解を示しています。

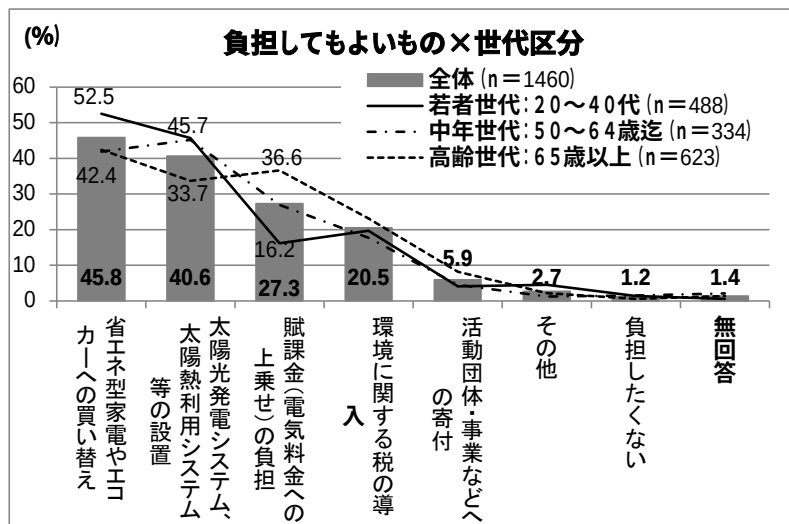
◇導入可能な再生可能エネルギーについて



◇地球温暖化防止のために家計の負担が増えても良いかどうか



◇負担しても良いもの



問27 地域全体で地球温暖化防止のために取り組むべきもの

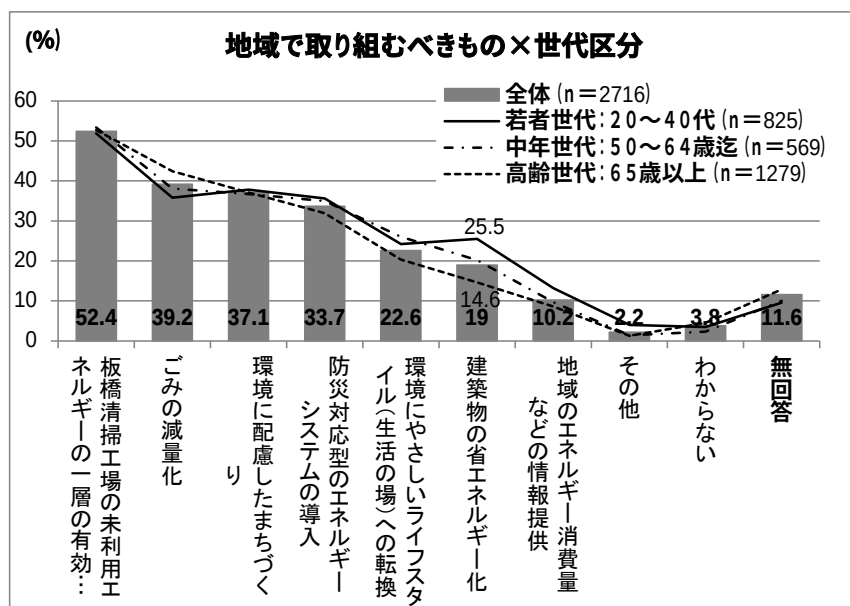
「板橋清掃工場の未利用エネルギーの一層の有効活用」が最も高い選択率で 52% です。次いで「ゴミの減量化」「環境に配慮したまちづくり」が続きます。

温暖化防止に対して区の施策となる項目（清掃工場の未利用エネルギー利用（52%）、環境配慮のまちづくり（37%）、防災対応型エネルギーの導入（33%））が上位を占めており、自分自身の暮らし方を変えることで地球温暖化に取り組む項目については、「ゴミの減量」が 39%とやや高いものの、「環境にやさしいライフスタイルへの転換」は 22%、「建築物の省エネルギー化」は 19%にとどまります。

○地域全体で地球温暖化防止のために取り組むべきもの×世代区分

世代区分別では、「建築物の省エネルギー化」について世代が上がるにつれて選択率が低くなっている傾向があり、若者世代が 25%に対し、高齢世代は 14%で 10%程の差がありました。

◇地域全体で地球温暖化防止のために取り組むべきもの



■防災 ～災害時でも継続的に生活の安定や都市機能が維持されるまち～

問28 地震などの災害が起きた時に、不安だと思うもの

「水道などのライフラインが止まってしまう」(73%)「食料や物資の不足」(58%)など暮らしに直結する項目、「無事に避難できるか」(59%)「家族、親族らの安否確認」(53%)など、自分を含めた家族等の安全に関することが50%を超える選択率となっています。全体的に各項目の選択率が、他の設問に比べて高く、災害時の防災に対する意識が高いことが伺えます。

○地震などの災害が起きた時に、不安だと思うもの×世代区分

世代区分別では、若い世代ほど選択率が高い項目が多く、災害に対する意識が高いことが伺えます。「食料や物資の不足」「家族などの安否確認」「住宅の倒壊やその後の立て直し」「学校や職場からの無事な帰宅」「道路などの寸断による通行止め」「子どもの保育や教育」などの項目で、高齢世代に比べて10～20%高い選択率となっています。

○地震などの災害が起きた時に、不安だと思うもの×長子が小学生以下の世帯

地震時などの災害時には、子どもを持つ世帯にとっては、特に不安が募ります。そこで、長子が小学生以下の世帯についての分析を行ったところ、「家族等の安否確認」(77%)「学校や職場からの無事な帰宅」(57%)「子どもの保育や教育」(47%)について、全体の結果に比べて20%以上高くなっています。

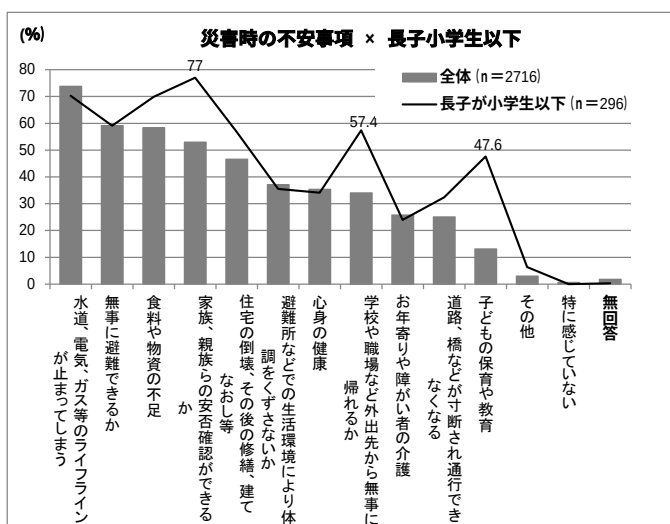
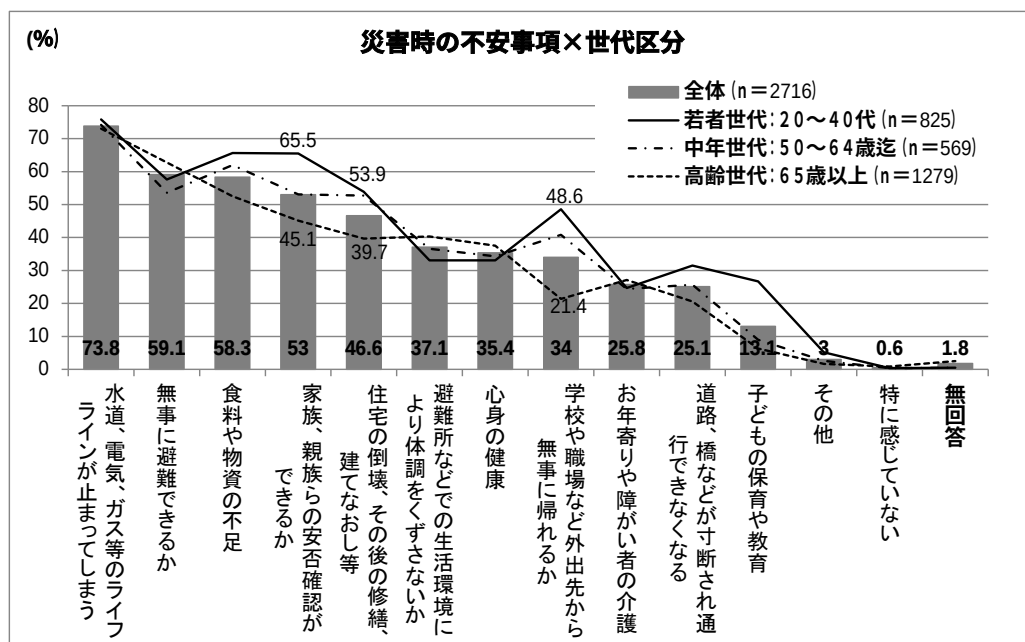
問29 災害時の情報取得手段について

災害時の情報取得手段については、「テレビやラジオ」が最も多く約7割の人が選択しています。次いで「区の広報や消防車などによる呼びかけ」が約6割です。東日本大震災時に、「ツイッターやフェイスブック」などのSNSの活用が注目されましたが、約2割にとどまっています。

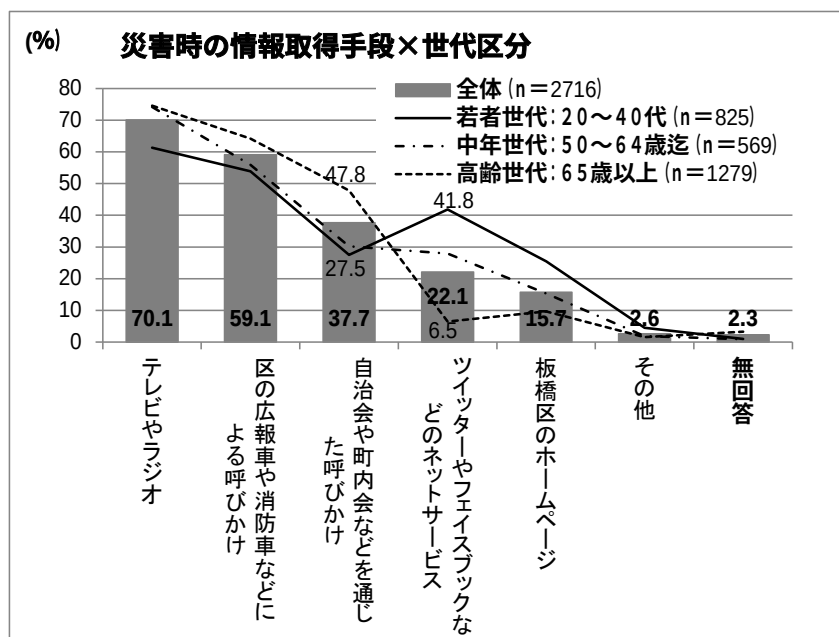
○災害時の情報取得手段×世代区分

高齢世代は、「テレビやラジオ」「区や消防車による呼びかけ」「自治会や町会の呼びかけ」など従来のアナログ的な手法による手段の選択率が5割を越えます。一方、若者世代は、「ツイッターやフェイスブック」などのSNSを情報手段と考える率が高く約4割を占めます。「板橋区のホームページ」も約25%が選択しており、高齢世代(約10%)より高い結果となっています。

◇地震などの災害が起きた時に、不安だと思うもの



◇災害時の情報取得手段について



問30 災害時でも継続的に安定した生活をするために地域全体で取り組むべきこと

「通信、電機、トイレ設備の確保」が60%で、まずは基本的な生活の確保が望まれています。ついで「道路沿道の建物の耐震化、不燃化」(52%)「老朽化建物の建替え、耐震改修」(50%)が50%を超えています。

○災害時の安定した生活のために地域全体で取り組むべきこと×世代区分

「通信、電機、トイレ設備の確保」については、世代に関わらず必要と考えており、いずれの世代の選択率も60%程ですが、その他の多くの項目で世代間の差がみられます。

若者世代は、「老朽化した建物の建替えや耐震化」が60%と高くなっていますが、高齢世代では41%にとどまります。また、「女性・乳幼児・高齢者の生活必需品の備蓄」「多様な需要に配慮した災害対応」「荒川など反乱時の避難先の確保」なども、若者世代は高齢世代に比べて10%以上高くなっています。逆に高齢世代の選択率が若者世代と比べて高いのは、「地区レベルの地域コミュニティ主体の助け合い」で15%の差があります。

○災害時の安定した生活のために地域全体で取り組むべきこと

×町会・自治会への加入の有無

町会・自治会加入者の「地区レベルの地域コミュニティ主体の助け合い」の選択率が、未加入者に比べて20%以上高くなっています。逆に未加入者の選択率が加入者を上回っているのは「老朽化した建物の建替えや耐震補強」です。

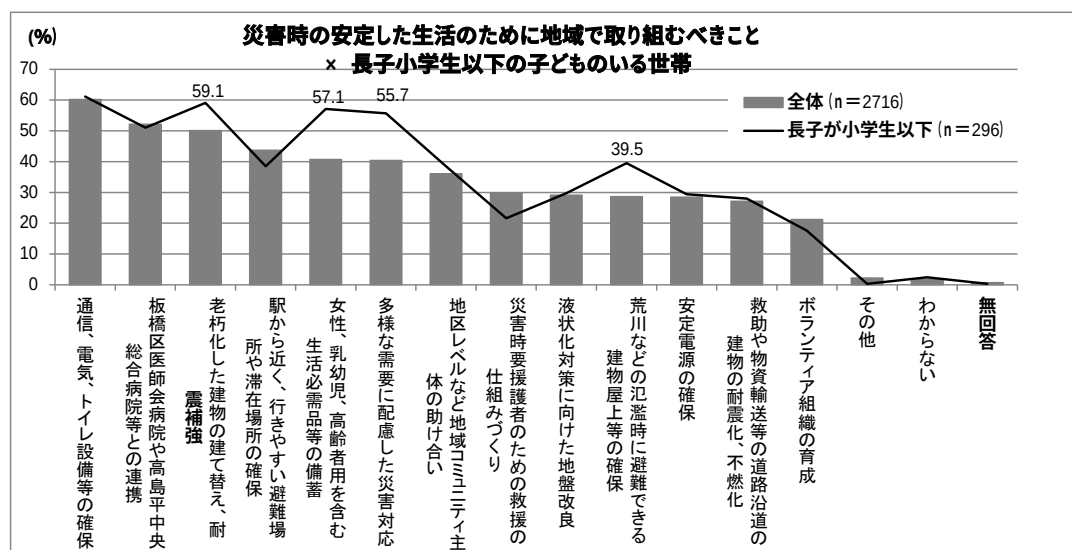
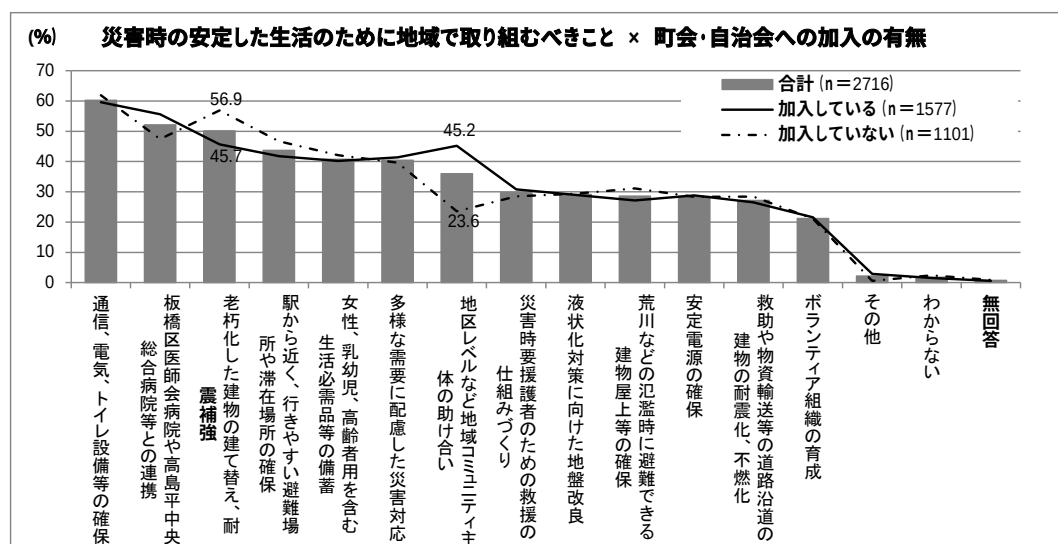
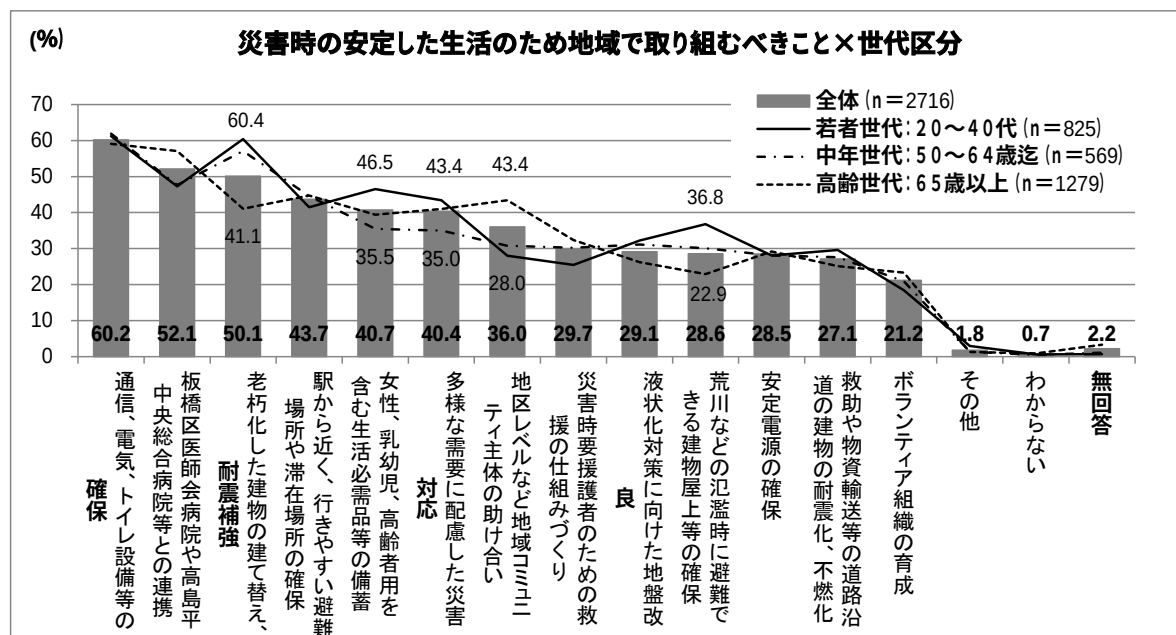
○災害時の安定した生活のために地域全体で取り組むべきこと

×長子が小学生以下の世帯

災害時には特に子どもがいる世帯は弱者となります。そこで、長子が小学生以下の世帯についての分析を行いました。

子育て層は、「老朽化した建物の建替えや耐震化」「女性・乳幼児・高齢者の生活必需品の備蓄」「多様な需要に配慮した災害対応」「荒川など反乱時の避難先の確保」が全体の回答者の結果より1割以上高くなっています。これらの項目は、若者世代の傾向と同じですが、子育て層の方がより選択率が高くなっています。一方、特徴的なことは、「地区レベルの地域コミュニティ主体の助け合い」について、若者世代は23%の選択率でしたが、長子が小学生以下の世帯では38%であり、特に子育て層は、コミュニティの助け合いを求めていることが伺えます。

◇災害時でも継続的に安定した生活をするために地域全体で取り組むべきこと



問31 各駅の整備方針の重要度、取組スピードについて

☆ [グラフについて]

各項目における“重要度”と“取組みスピード”がひと目でわかるように、グラフ上部に“重要度”として「重要」の選択率、グラフ下部は、“取組みスピード”として「早く取り組むべき」の選択率を示しています。なお、棒グラフは、回答者全体の傾向を示しています。

高島平地域全体で各駅の整備方針について“重要度”が50%を超えた項目は、「プロムナードにおける防災トイレや備蓄倉庫の整備について」（“重要度”69%、“取組みスピード”59%）、「三田線の高架下の有効活用」（“重要度”57%、“取組みスピード”45%）、「駅前駐輪場整備」（“重要度”55%、“取組みスピード”47%）の3項目でした。これらは、“取組みスピード”についても「早く取り組んでほしい」が40%を超えています。これら上位3項目は、いずれもプロムナード整備に関連した項目であり、関心が非常に高いことが伺えます。

本設問では、「高島平駅」「西台駅」「新高島平駅」「西高島平駅」の3つの駅周辺の整備方針についてそれぞれ聞いていますが、関心の高い順に「高島平駅」「新高島平駅」「西台席」「西高島平駅」周辺となっています。

○各駅の整備方針の重要度、取組スピード×高島平一丁目

上位3項目の順位は変わりませんが、いずれも“重要度”は60%を超えており、回答者全体に比べて10%以上高くなっています。また、これらの項目は、“取組みスピード”についても回答者全体よりも高くなっており、上位3項目に対する関心がより高い傾向があります。また、最も特徴的なのは、「西台駅周辺の共同化・市街地再開発事業による駅前機能の充実」について、“重要度”60%、“取組みスピード”40%と重要と考えている人が多く西台駅周辺の再整備に関する関心が高いことが伺えます。

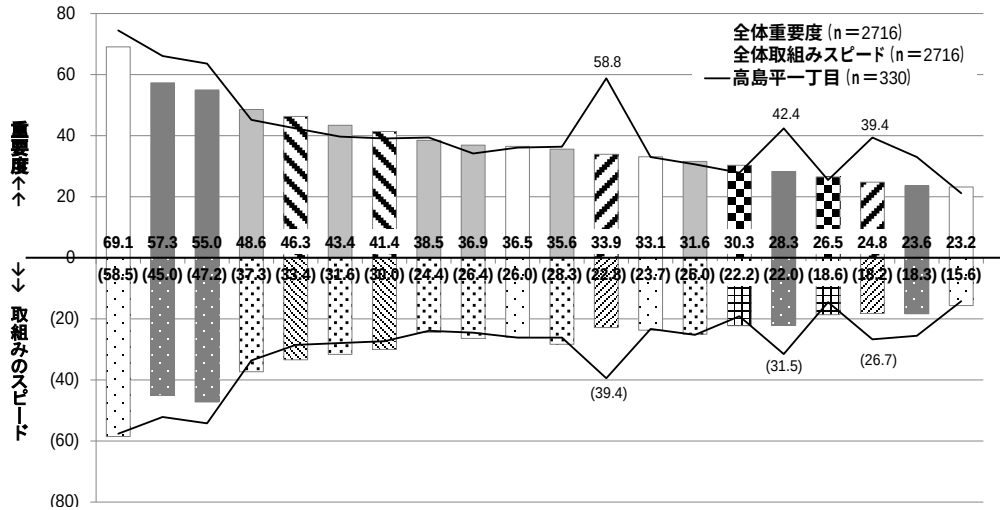
○各駅の整備方針の重要度、取組スピード×高島平二丁目

上位3項目の順位や“重要度”は全体の傾向と変わりませんが、新高島平駅周辺の「駅改修に併せた商業、店舗の誘致」や「商店街の活性化」については、いずれも“重要度”“取組みスピード”が、回答者全体と比べて10%以上低く、にぎわい創出に関する関心が他の町丁目に比べて低いことが伺えます。

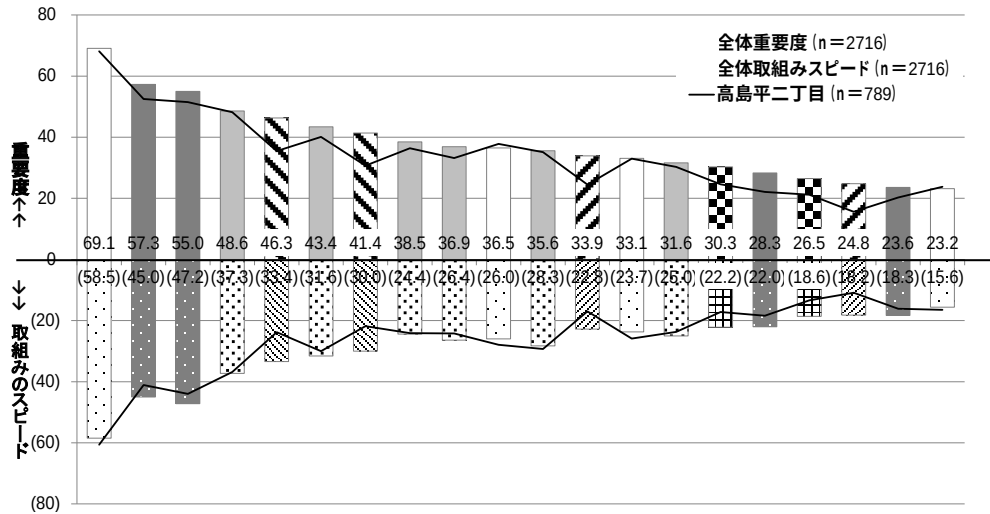
○各駅の整備方針の重要度、取組スピード×高島平三丁目

「三田線の高架下の活用」が回答者全体の“重要度”よりも低く48%で50%を切っています。代わりに「区立施設の建替えや集約化」と新高島平駅周辺の「商店や商店街の活性化」に対する“重要度”が50%を超えました。これらについては“取組みスピード”も40%を超えていることから、新高島平駅周辺の活性化や隣接する公共施設の建替えについて関心が高いことが伺えます。

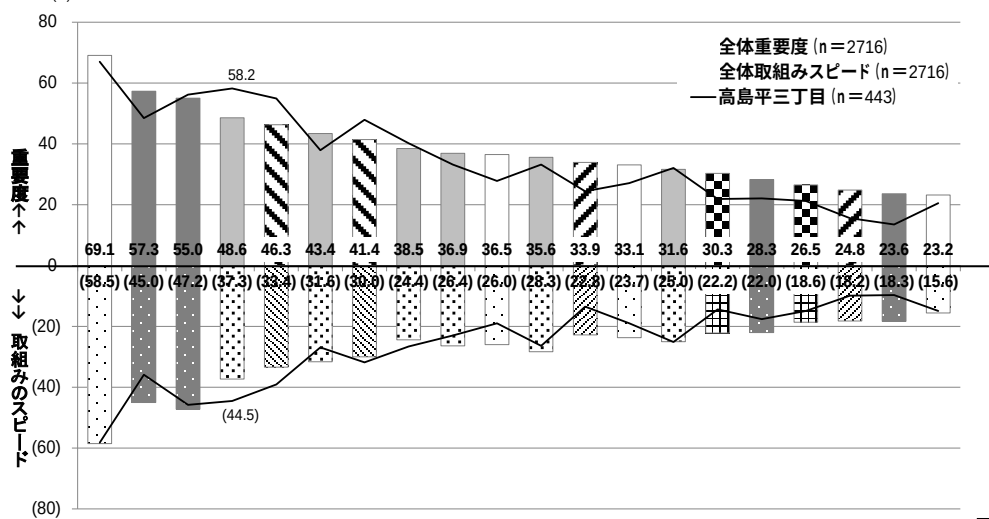
高島平駅周辺 整備方針 重要度「重要」 取組みのスピード「早く取り組むべき」 × 高島平一丁目



高島平駅周辺 整備方針 重要度「重要」 取組みのスピード「早く取り組むべき」 × 高島平二丁目



高島平駅周辺 整備方針 重要度「重要」 取組みのスピード「早く取り組むべき」 × 高島平三丁目



- 交通網
- 高島平緑地・高架下を活用したプロムナード
- 西高島平駅周辺（生活の核）
- 新高島平駅周辺（生活の核）
- 西台駅周辺（生活の核）
- 高島平駅周辺（交流の核）
- 環状鉄道エイトライナー推進
- 西台駅北側の人口地盤への円滑な向上
- 流通業務団地再整備に併せた駅前広場整備
- 国道5号バイパスと放射第3号線の整備促進
- 商業・業務施設誘致によるにぎわい創出
- 旧高七小跡地に民間施設を設置
- 高島平緑地・カフェ、ピオトーフ設置やイベント等実施
- 共同化・市街地再開発事業等駅前機能拡充
- 駅の改修に伴うデッキの整備
- 駅の改修に伴うデッキの整備
- 駅北口の共同化・市街地再開発事業推進
- 区民・民間事業者・大学・行政連携のまちづくりの場
- 駅周辺の商店街の活性化
- 駅北口の商店街の活性化
- 区立施設建替えと機能拡充・集約化
- 駅前駐輪場の充実
- 三田線の高架下有効活用
- 防災トイレ・備蓄倉庫整備、帰宅困難者情報提供

○各駅の整備方針の重要度、取組スピード×高島平四、五丁目

上位 3 項目に加え、新高島平駅周辺の「商店や商店街の活性化」と「駅の改修に併せた商業店舗の誘致」について“重要度”60%、“取組みスピード”は50%を超えており、商業環境の整備に関する関心が高いことが伺えます。

また、西高島平駅の「流通業務団地の再整備」や「商業業務施設の誘致」について“重要度”50%、“取組みスピード”も40%を超えており、四、五丁目にお住まいの人が流通業務団地の再整備について関心が高いことが伺えます。

○各駅の整備方針の重要度、取組スピード×高島平七、八丁目

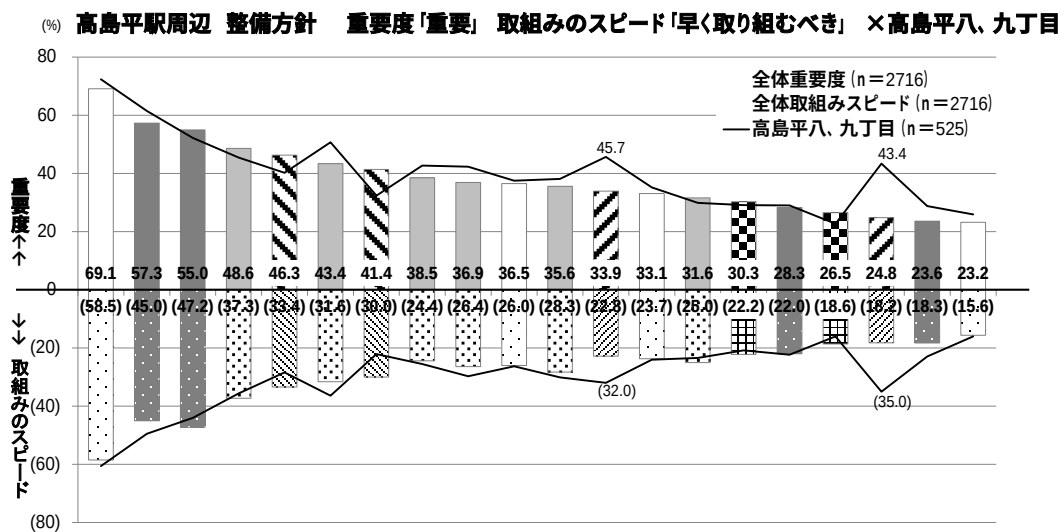
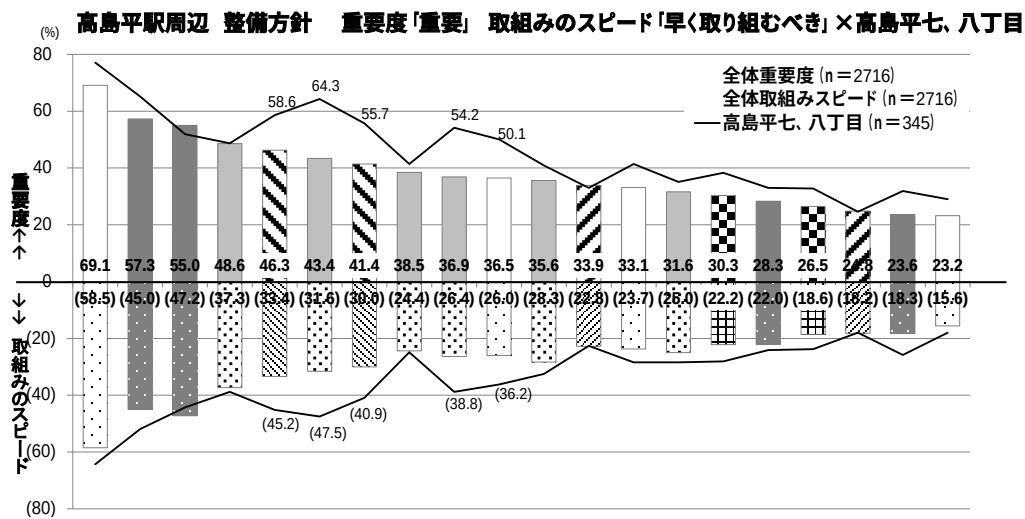
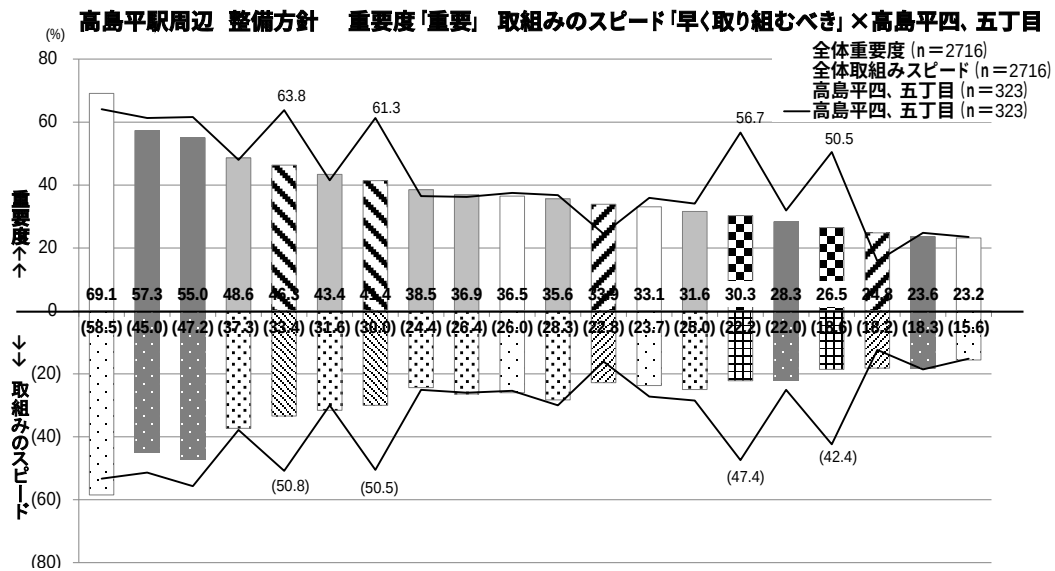
上位 3 項目に加え、高島平駅北口の「商店街の活性化」や新高島平駅の「駅の改修に合わせた商業、店舗の誘致」、「駅周辺の商業、商店街の活性化」の3項目について“重要度”は50%を超え、いずれも“取組みスピード”は40%を超えています。高島平駅周辺の商業環境の整備に関心が非常に高いことが伺えます。

一方、「高島平駅から公園に向かう道路沿道の商業店舗の誘致」や高島平駅周辺の「市街地再開発事業の推進」についても重要と答えた人が50%を超えていますが、早く取り組むべきと答えた人が3割台であることから、駅周辺の再開発事業や沿道整備については、じっくり取り組むべき課題と考えます。

○各駅の整備方針の重要度、取組スピード×高島平八、九丁目

上位 3 項目に加え、高島平駅の「北口商店街の活性化」について“重要度”が50%を超えていますが、“取組みスピード”は36%であることから、じっくり取り組むべき課題と考えます。

また、西台駅の「駅北側の人工地盤へのアクセス向上」については、“重要度”は43%と回答者全体に比べて20%程度高くなっており、“取組みスピード”は40%近くなっています。人工地盤を利用する人は「駅北側のアクセス向上」に対して関心が高いことが伺えます。



- 交通網
- 高島平緑地・高架下を活用したプロムナード
- 西高島平駅周辺（生活の核）
- 新高島平駅周辺（生活の核）
- 西代駅周辺（生活の核）
- 高島平駅周辺（交通の核）
- ブロードロード沿道におけるコミュニティガーデン等誘致
- 環状鉄道エイトライナー推進
- 西台駅北側の人口地盤への活用向上
- 流通業務団地再整備に併せた駅前広場整備
- 国道沿道バイパスと放射第3号線の整備促進
- 商業、業務施設誘致によるにぎわい創出
- 旧高七小跡地に民間施設を設置
- 高島平緑地・カフエ、ピオトップ設置やイベント等実施
- 共同化・市街地再開発事業等駅前機能拡充
- 駅の改修に伴うデッキの整備
- 駅から徳丸ヶ原公園等に向かう道路沿道の商業・店舗誘致
- 駅北口の共同化・市街地再開発事業推進
- 区民、民間事業者、大学、行政連携のまちづくりの場
- 駅の改修に併せた商業、店舗の誘致
- 駅北口の商店街の活性化
- 駅周辺の商店、商店街の活性化
- 区立施設建替えと機能拡充・集約化
- 駅前駐輪場の充実
- 三田線の高架下有効活用
- 防災トイレ・備蓄倉庫整備、帰宅困難者情報提供

◇各町丁目別の整備方針の重要度、取組スピードについて

☆ [グラフについて] 重要度、取組みスピードの表現については、駅周辺の整備方針と同様です。以下に示す各町丁目別の分析においては、各設問の当該地域毎にお住まいの方のみを対象とした分析を行っています。(例：1丁目の整備方針については、1丁目にお住まいの方の回答を棒グラフで表した上で、1丁目回答者の世代ごとのクロス結果を折れ線グラフで表現しています。)

○高島平一丁目の整備方針の重要度、取組スピード×高島平一丁目×世代区分

「病院を中心とした地域医療・福祉の充実」(“重要度”75%、“取組みスピード”56%)、「地域密着型介護施設等の誘致と地域包括ケアシステムの導入」(“重要度”66%、“取組みスピード”47%)、「大東文化大学との連携」(“重要度”51%、“取組みスピード”36%)と、全ての項目について、“重要度”が50%を超えており、関心の高さが伺えます。

世代区分でみると、高齢世代が自分達に関連の深い「介護施設の導入や地域包括ケアシステム」に対する関心が高くなっています。特徴的なのは、「大東文化大学との防災やコミュニティ連携」についての関心が高齢世代で高い点です。

○高島平二丁目の整備方針の重要度、取組スピード×高島平二丁目×世代区分

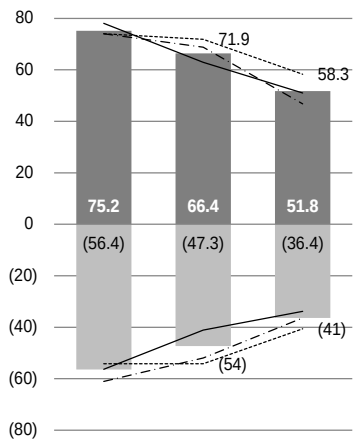
「地域内住み替え促進に向けた情報提供」以外のすべての項目で重要と答えた人が60%を超え、早く取り組むべきと答えた人が5割を越え、整備方針に対する関心の高さが伺えます。

一方、世代区分で見ると、若者世代と中年・高齢世代で意識が異なっているようです。若者世代は、「若者向けの間取りの住宅や、子育て世帯の入居促進」(“需要度”72%、“取組みスピード”62%)「住み替え促進に向けた情報提供」(“需要度”51%、“取組みスピード”41%)となっており、若者世代は、住まいに対する関心が高いことが伺えます。また、「荒川等の浸水時の避難空間の確保」についても、若者世代の“重要度”は79%と非常に高率になっています。浸水対策に対する関心が非常に高いことが伺えます。

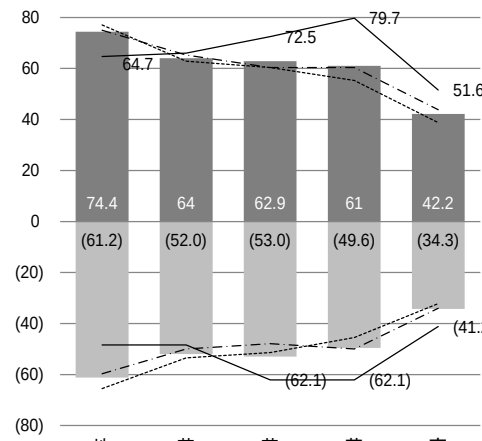
○高島平三丁目の整備方針の重要度、取組スピード×高島平三丁目×世代区分

“重要度”が50%を超えた項目は、「建物の更新に合わせた液状化対策」(“重要度”70%、“取組みスピード”62%)、「分譲団地の将来の有り方検討の実施」(“重要度”60%、“取組みスピード”50%)、「住宅や団地の省エネルギーの推進」(“重要度”55%、“取組みスピード”47%)の3項目であり、いずれも団地の建替えや更新に関する項目であることから、分譲団地の将来について関心が高いことがわかります。世代別では、「道路や鉄道高架下のにぎわい」については、高齢世代は“重要度”39%に対して若者世代は58%であることから、若者世代がにぎわい創出に対して関心が高いことが伺えます。

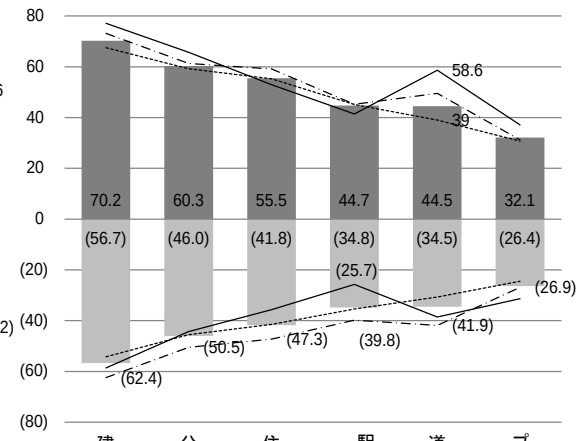
高島平一丁目 整備方針×世代区分



高島平二丁目 整備方針×世代区分



高島平三丁目 整備方針×世代区分



■ 全体 (n=789)
 ■ 全体 (n=789)
 - 若者世代: 20~40代 (n=153)
 - 中年世代: 50~64歳迄 (n=144)
 - 高齢世代: 65歳以上 (n=490)

○高島平四、五丁目の整備方針の重要度、取組スピード×高島平四、五丁目×世代区分

「医療、福祉をサポートする拠点の整備」（“重要度”67%、“取組みスピード”55%）について関心が高いことがわかります。なお、この項目については、全世代において関心が高くなっています。

世代区分別では、「ミニ開発を抑制するためのまちづくりの促進」については、若者世代は“重要度”41%に対して高齢世代は56%であり、世代が上がるほどまちづくりに対する関心が高いことが伺えます。

○高島平七、八丁目の整備方針の重要度、取組スピード×高島平七、八丁目×世代区分

「駅前の商店街の活性化」や「高島平駅北側の駅前広場や市街地整備」については、“重要度”は70%を超え、“取組みスピード”も50%を超えていることから、駅周辺の活性化に対して地域の人の関心が非常に高いことが伺えます。その他の項目についても“重要度”が60%を超え、“取組みスピード”も40%を超えており、七・八丁目にお住まいの方々は、当該地域の整備方針全般に関心が高いことが伺えます。

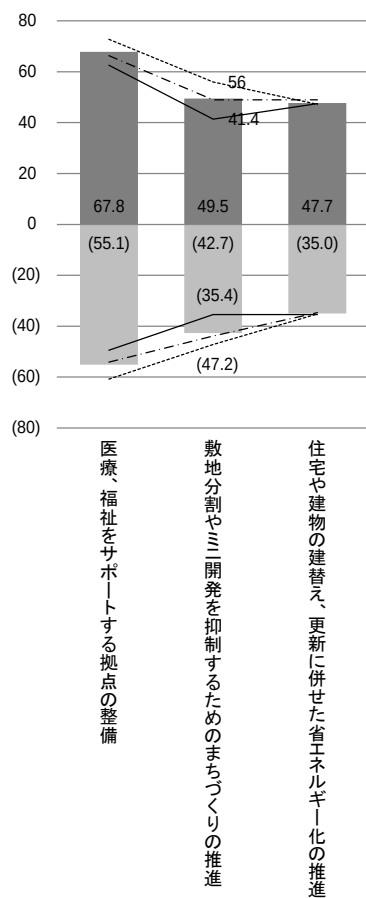
世代区分別では、若者世代が「駅前商店街の活性化」について“重要度”77%・“取組みスピード”63%であり、他世代に比べて非常に関心が高いようです。一方、徳丸ヶ原公園の「幅広い世代が憩うことができる公園への再生」については高齢世代が“重要度”67%と高い関心を示しています。

○高島平八、九丁目の整備方針の重要度、取組スピード×高島平八、九丁目×世代区分

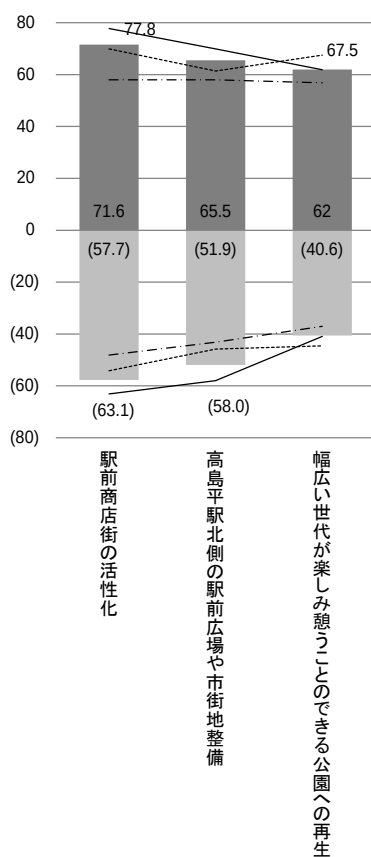
「板橋清掃工場の排熱の活用」、「西台駅のバリアフリーの向上」がいずれも“重要度”が60%を超え、“取組みスピード”も50%を超えており高い関心を示しています。特に中年世代は、「板橋清掃工場の排熱利用」について“重要度”は80%、“取組みスピード”も68%と、非常に関心が高いことが伺えます。

一方、「熱帯環境植物館や高島平ふれあい館、高島平温水プールの機能や質的向上」は、“重要度”47%、“取組みスピード”35%と、他の項目に比べると関心は低くなっており、世代による差異は見られませんでした。

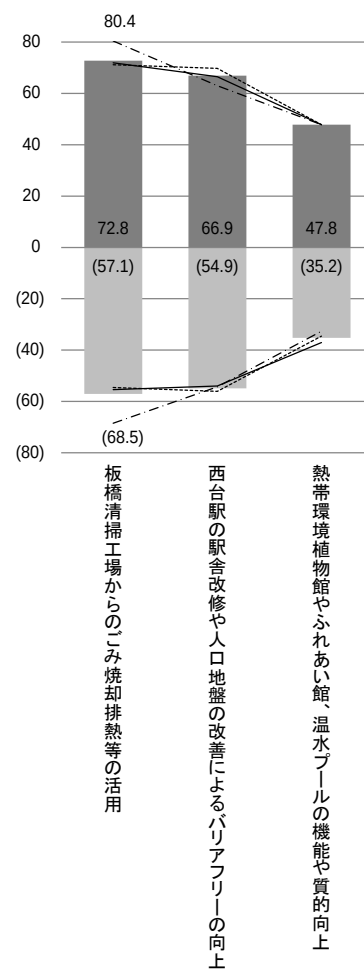
高島平四・五丁目 整備方針×世代区分



高島平七、八丁目 整備方針×世代区分



高島平八、九丁目 整備方針×世代区分

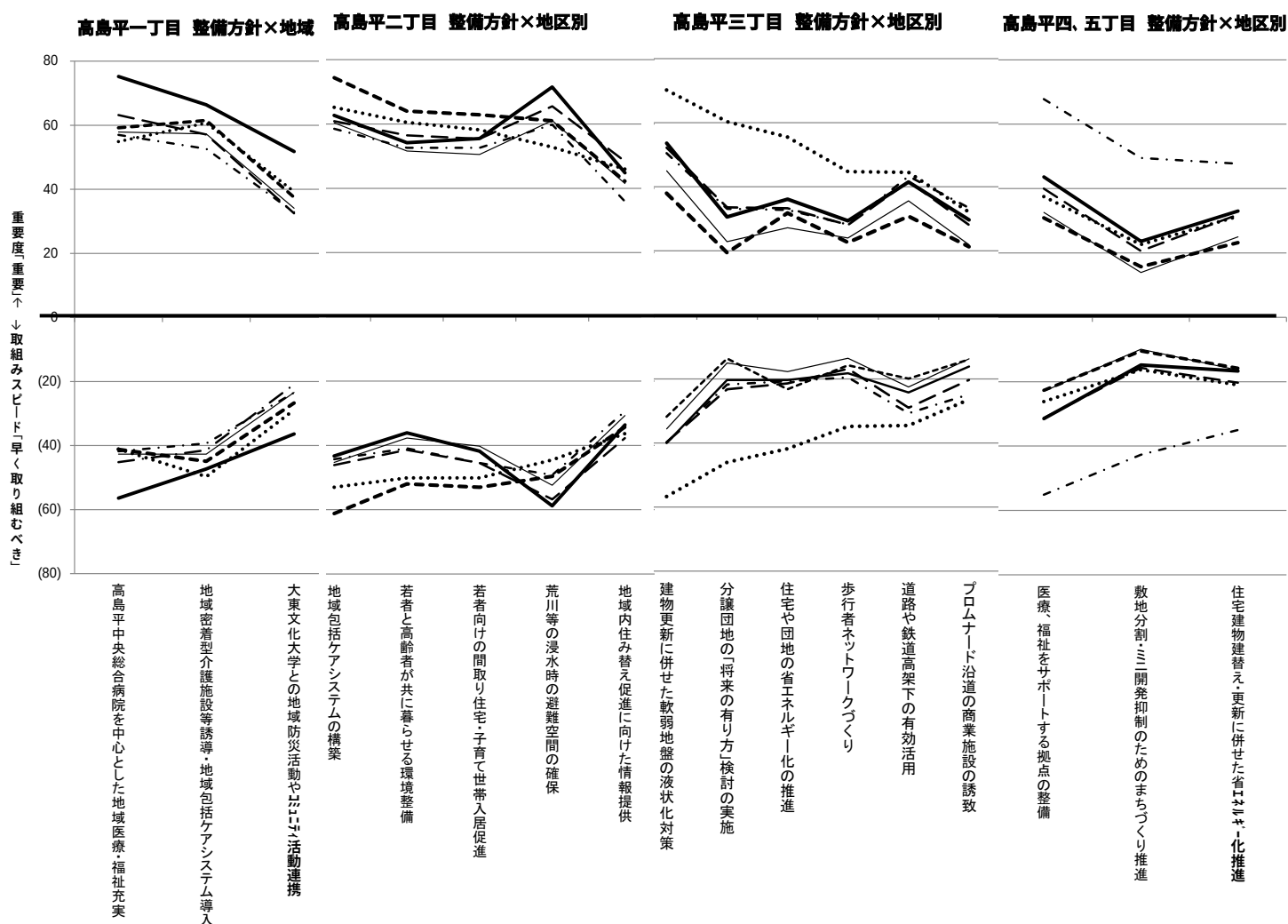


■ 全体 (n=345)
 ■ 全体 (n=345)
 — 若者世代: 20~40代 (n=176)
 - - 中年世代: 50~64歳迄 (n=81)
 高齢世代: 65歳以上 (n=83)

○一丁目から九丁目の整備方針の重要度、取組スピード×地区

ここでは、各町丁目毎の整備方針に対し、他の地区の居住者がどの程度関心を持っているのかを分析しました。“重要度”、“取組みスピード”の考え方は、これまでと同様です。

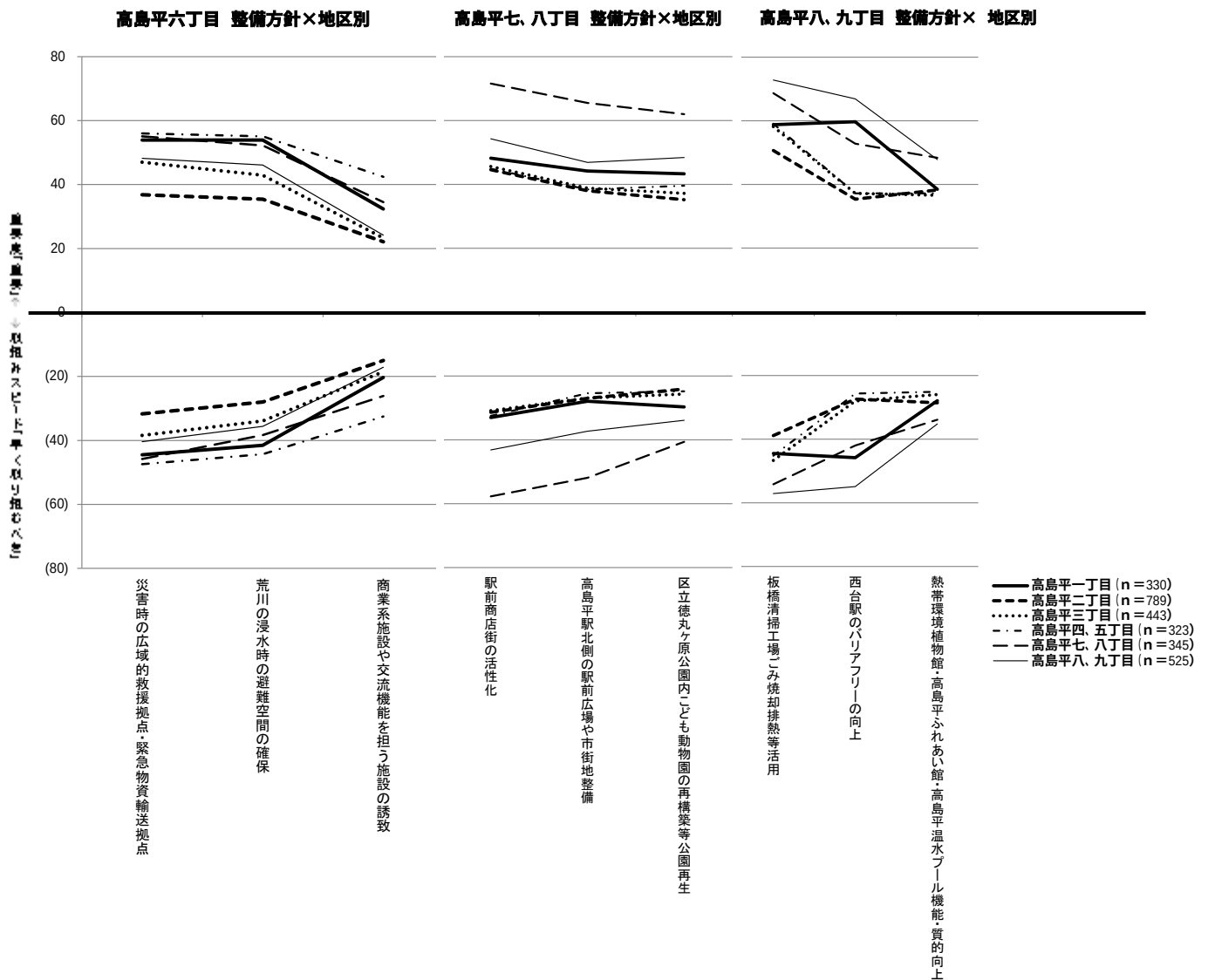
全体的に、各町丁目ごとの整備方針に対しては、当該地区の居住者の選択率が、他地区の選択率と比べて高くなっており、当該地区の居住者の“関心度”が高いことが伺えます。特に「三丁目」、「四・五丁目」、「七・八丁目」の整備方針については、他地区の居住者と比べて“重要度”、“取組みスピード”共に20%以上高くなっている項目がほとんどです。言い換えれば、これらの地区の整備方針は、他地区の居住者にとっては、関心が薄い項目であると言えます。



一方、「一丁目」「二丁目」の整備方針については、当該地区が他地区よりも関心が若干高い程度の項目が多くなっています。つまり、これらの地区の整備項目（医療、高齢者ケア、大学との連携、住宅、住替えシステム、住まいの情報提供など）は、他地区の人にとっても関心の高い項目であるということが伺えます。

「六丁目」の整備方針については、防災に関する項目については、各地区の方々の関心が高く、ほとんどの地区で“重要度”は50%を超え、“取組みスピード”も40%を超えています。

「八・九丁目」の整備方針については、「板橋清掃工場の排熱の活用」「西台駅のバリアフリー向上」については、地区ごとのばらつきが多く、特に西台駅のバリアフリーは、二・三丁目以外に居住者の関心が高くなっています。



問32 コミュニティ活動への参加について

「自治会、町会」が41%で最も高くなっています。その他の活動に対しては「PTAなどの学校関係」が18%であるものの、多くは10%以下であり、「参加したことがない」は39%となっており、地域のコミュニティ活動への参加度が低いことが伺えます。

○コミュニティ活動への参加 × 世代区分

若者世代は、「参加したことがない」が50%を占めています。また、「町会や自治会への加入」も27%にとどまっています。「町会・自治会への加入」は、世代が上がるほど高くなっており、高齢世代では51%が参加しています。中年世代では、「PTAなど学校関係」への参加が29%と最も高くなっています。

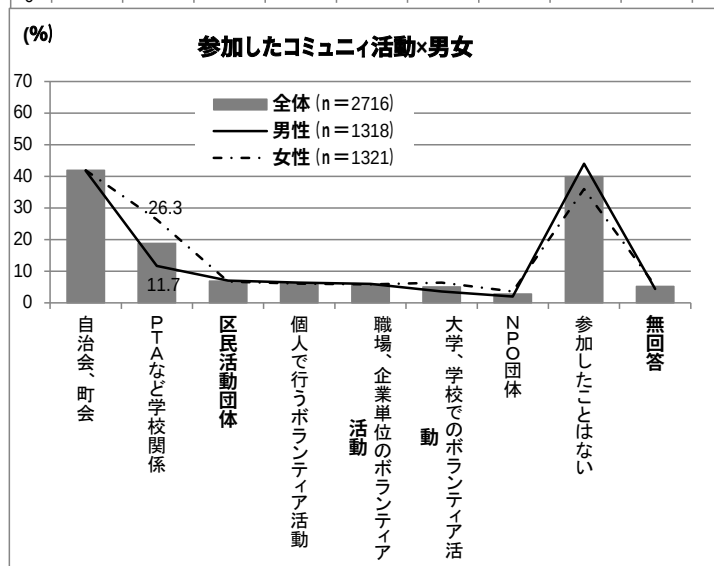
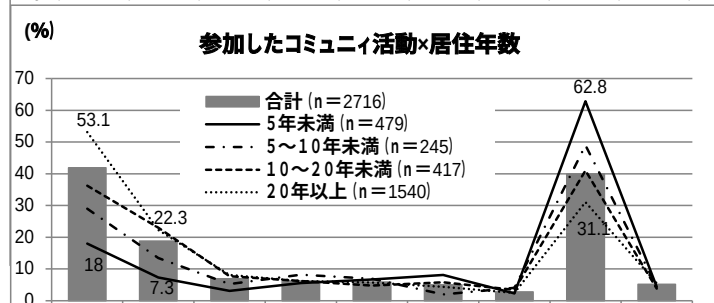
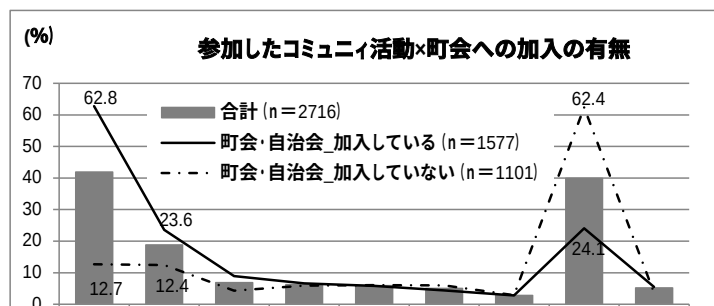
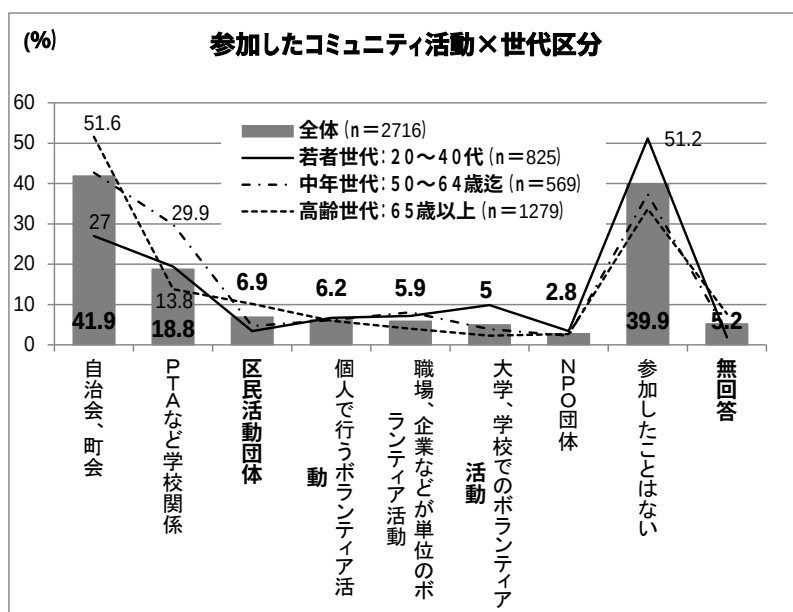
○コミュニティ活動への参加 × 居住年数

居住年数別にみると、「町会・自治会への加入」は、居住年数が長くなるほど加入率が上がっており、「5年未満」では18%ですが、「20年以上」では53%に上ります。逆にコミュニティ活動に「参加したことがない」は、居住年数が長くなるほど減少し、「5年未満」の62%に対し、「20年以上」では31%と半数になります。

○コミュニティ活動への参加 × 男女別

男女別でコミュニティ活動に関して差がでるのは「PTAなどの学校関係」への参加のみで、女性は男性の倍以上の参加率です。

◇コミュニティ活動への参加について



問33 「コミュニティ活動」に参加した理由

「地域や社会を良くするため」が49%と半数を占めます。次いで「自分自身や家族のため」が29%。「当番でやむを得ないため」という消極的な参加は25%です。コミュニティ活動への参加は、友人や知人を得る良い機会となりますが、実際にそれを目的として参加した人は17%にとどまっています。

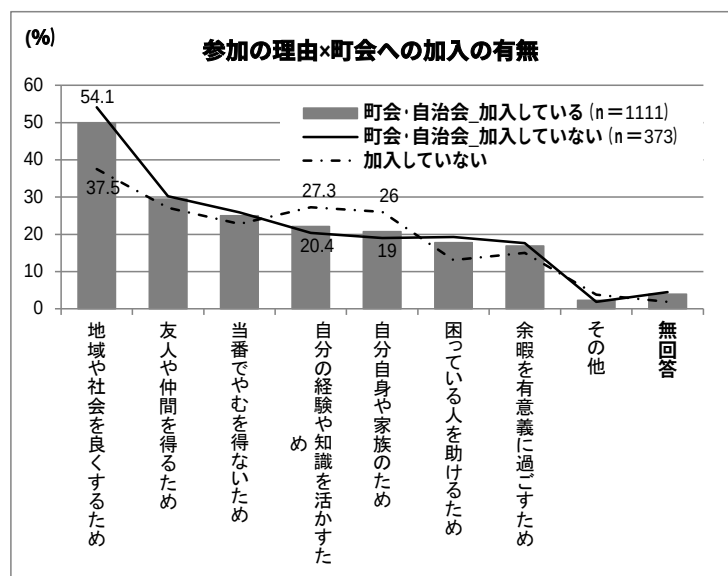
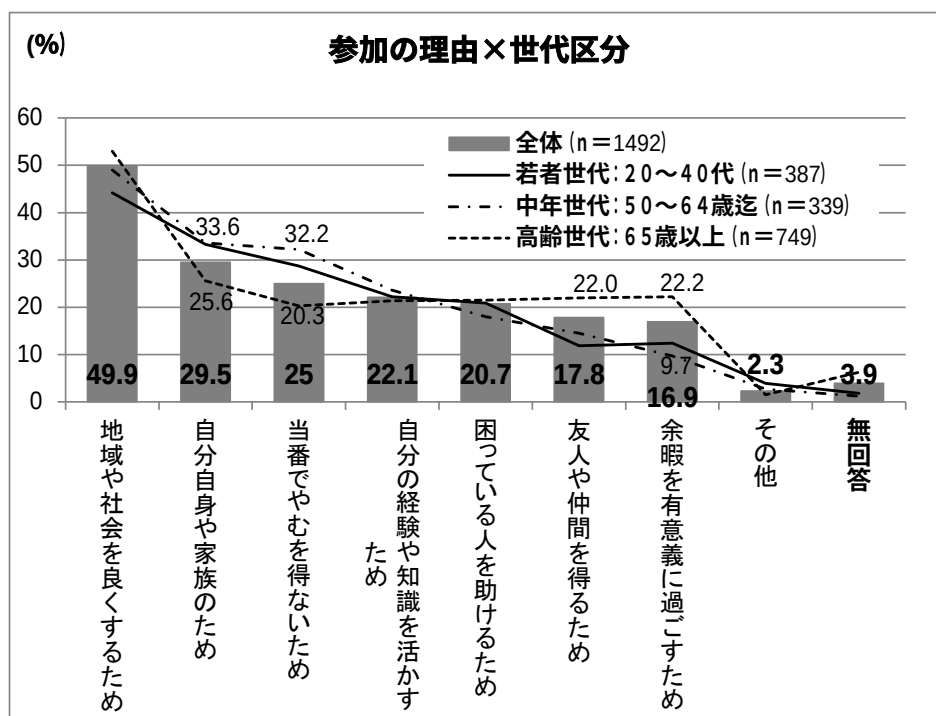
○「コミュニティ活動」に参加した理由×世代区分

世代別の特徴としては「当番でやむを得ない」「自分自身や家族のため」が若年・中年世代では30%を超えていますが、高齢世代では20%です。高齢世代は、「友人や知人を得るため」「余暇を有意義に過ごすため」にコミュニティ活動に参加している人が他世代に比べて多いようです。

○「コミュニティ活動」に参加した理由×町会・自治会への加入の有無

町会・自治会に加入している人の特徴は「地域や社会を良くするため」が54%と未加入者の37%に比べて18%も高い点です。未加入者では、「困っている人を助ける」「自分の経験や知識を活かす」が加入者に比べて高くなっています。

◇ 「コミュニティ活動」に参加した理由



問34 今後、地域活性化や魅力を高めるために必要な活動

☆【グラフについて】本設問では、各項目について、「重要」「どちらでもない」「重要でない」等の選択肢の選択率を計算した後、『「重要」－「重要でない」』を重要度、『「参加したい」－「参加したくない」』を関心度としています。こうした処理の後、グラフ上部に重要度、下部に関心度を示すことで、項目ごとの重要度と取組みピードがひと目でわかるように表現しています。なお、棒グラフは、回答者全体の傾向を示しています。

「協議組織でのまちづくりの検討、企画、実施」、「お祭りなどの地域行事」、「若者等のチャレンジ店舗に向けた支援」、「地域防災勉強会実施」、「健康づくりに向けたイベントの実施」の順に重要度が40を超えています。その中で関心度が高いのは、「お祭りなどの地域行事」、「自助、共助に向けたイベントの実施」「健康づくりに向けたイベントの実施」で関心度が20を超えています。特徴的なのは、重要度に比べて関心度が低いということです。

○今後、地域活性化や魅力を高めるために必要な活動×世代区分

若者世代では、「お祭りなどの地域行事」、「道路、公園、河川敷を活用したイベント」、「マルシェやフリーマーケットの開催」について、重要度、関心度ともに他世代よりも20～30ポイント高くなっています。その他の項目も、多くの項目で、若者世代の重要度、関心度が中年・高齢世代を上回っており、若者世代がこれらの項目について興味を持っていることを示しています。

○今後、地域活性化や魅力を高めるために必要な活動×町会・自治会加入の有無

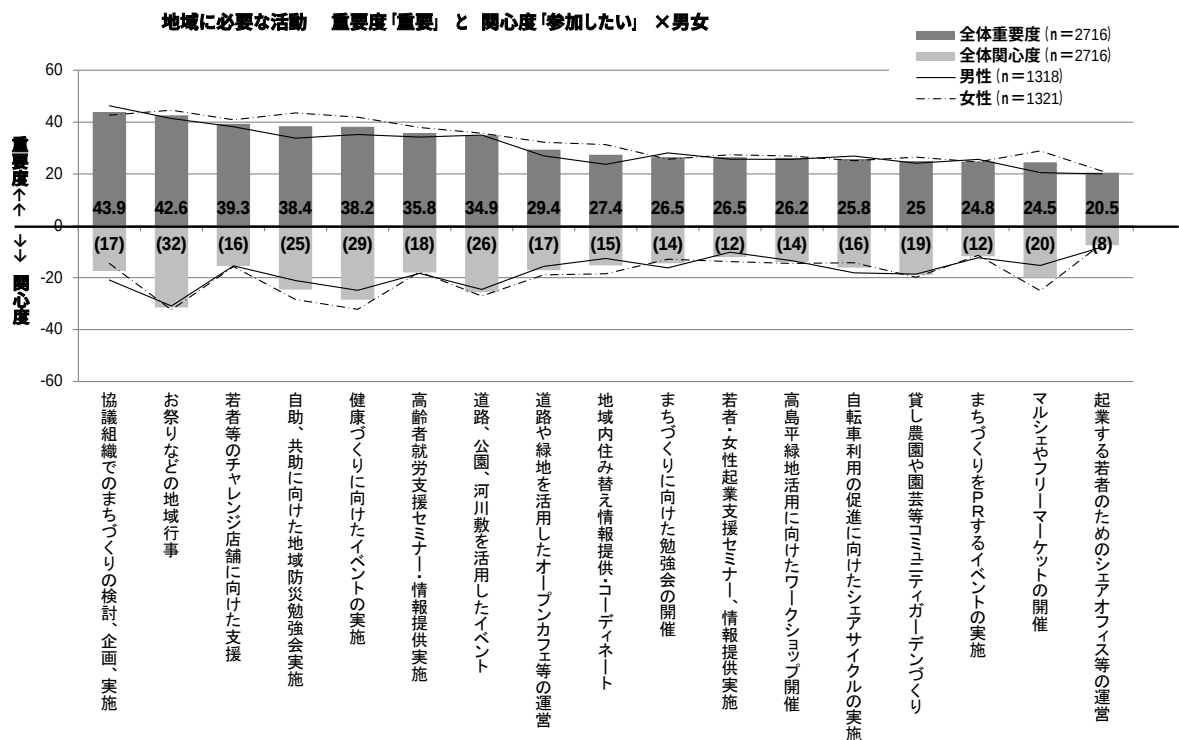
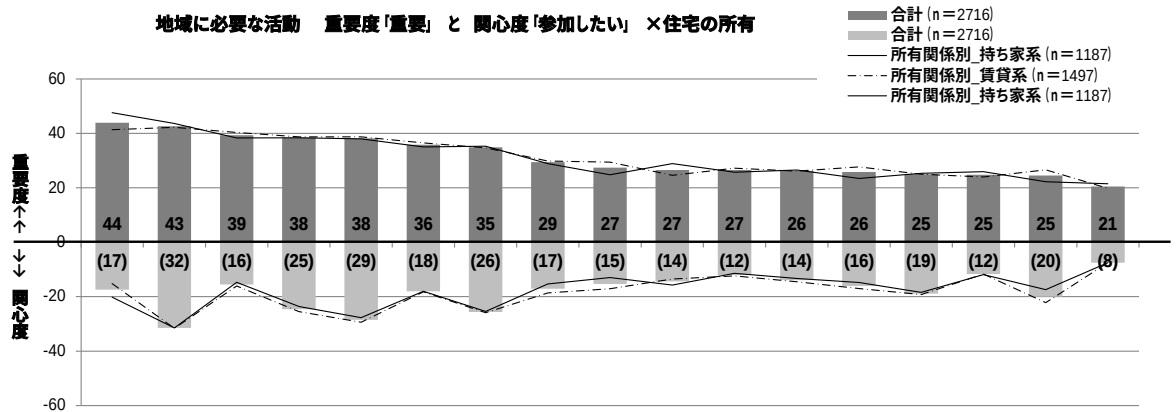
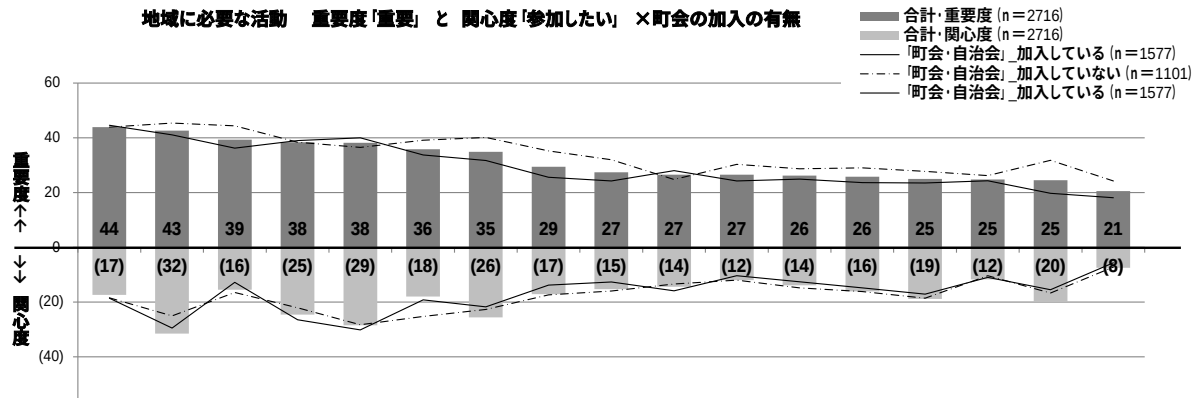
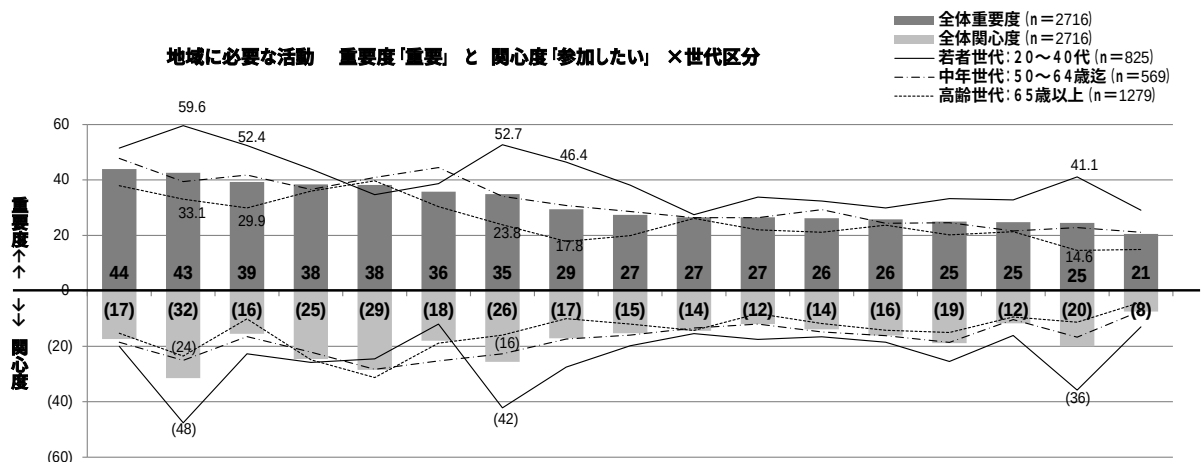
町会・自治会加入の有無では、大きな特徴は伺えませんが、町会・自治会未加入の方が、行事やイベント、店舗に関する項目に対する重要度、関心度が高くなっています。

○今後、地域活性化や魅力を高めるために必要な活動×居住年数

居住年数別にみると、「5年未満」の人が「お祭りなどの地域行事」、「道路、公園、河川敷などを活用したイベント」に対する重要度や関心度が高くなっています。

○今後、地域活性化や魅力を高めるために必要な活動×男女別

男女別では、世代や居住年数区分ほどの差違は伺えませんが、男性より女性の方が、総じて重要度も関心度も高めです。



問36 「公共用地の再整備」を行う場合の基本的な考え方

公共用地の再整備については、4つのカテゴリー『(1) 区有地の扱い』『(2) 施設建設、運営』『(3) オープン時期の考え方』『(4) 区有地以外の場所と合わせて開発』について結果をみていきます。

『(1) 区有地の扱い』については、「すべて区有地として保有」が「売却」を上回っています。

『(2) 施設の建設や運営』については、「⑥区が建設・運営」あるいは「⑧民間が建設・運営」という案と比べて、「③、④、⑦のような区と民間が役割分担する」案の方が選択率が高くなっています。ただし、「⑨民間が建てて区が借りる」案の支持は低くなっています。

『(3) オープンの考え方』については、「⑪実現の可能性が高い公共施設を先に建替えオープン」(27%)が「⑩民間施設と公共施設は同時にオープン」(8%)に比べて3倍以上となっており、早いオープンが期待されている。

『(4) 区有地以外の場所と合わせて開発』については、「⑫協調できる場合は合わせて行う」に27%が賛成しています。

○「公共用地の再整備」を行う場合の基本的な考え方×世代区分

世代別で、意見の相違が大きい『(1) 区有地の扱い』については、「区有地として保有」は高齢世代の支持が高く、若者世代の倍以上の30%となっています。また、『(2) 施設の建設や運営』については、「③区が中心に民間は最小限」「⑥区が行う」など、区が主導で行う案に対する支持が若者世代と比べて高齢世代が高い傾向があります。逆に若者世代は、「④区有地を貸して民間が建設・運営する」の指示が高く、民間企業の参入について理解を示しています。

○「公共用地の再整備」を行う場合の基本的な考え方×町会への加入の有無

町会・自治会への加入の有無別でみると、世代区分の高齢者の傾向とほぼ同じ傾向です。町会加入者では、「①区有地として保有」、「③区が中心に民間は最小限」「⑥区が行う」など、区が主導的に行う案に対する支持が高くなっています。

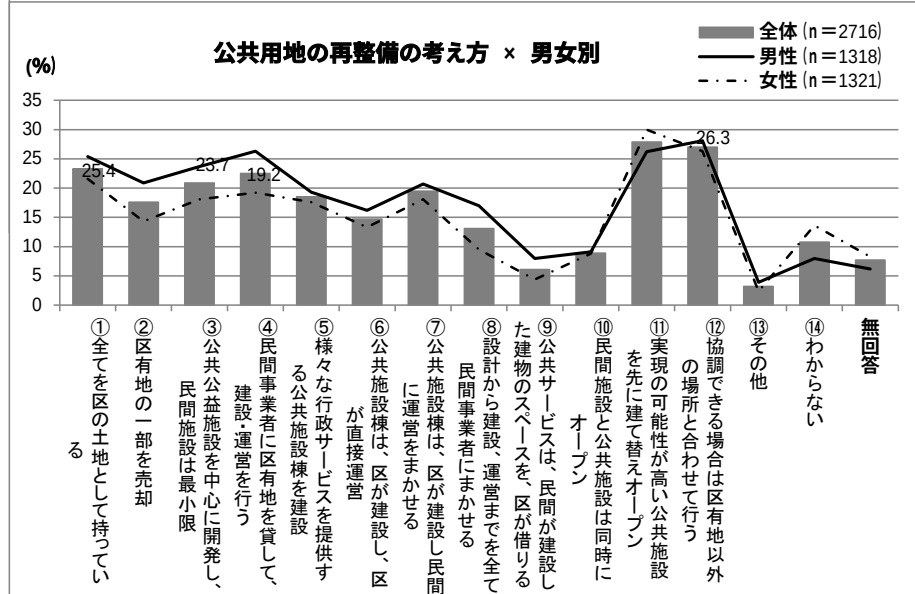
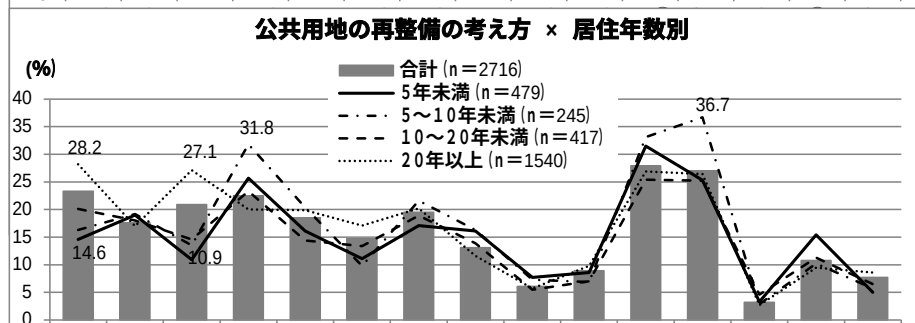
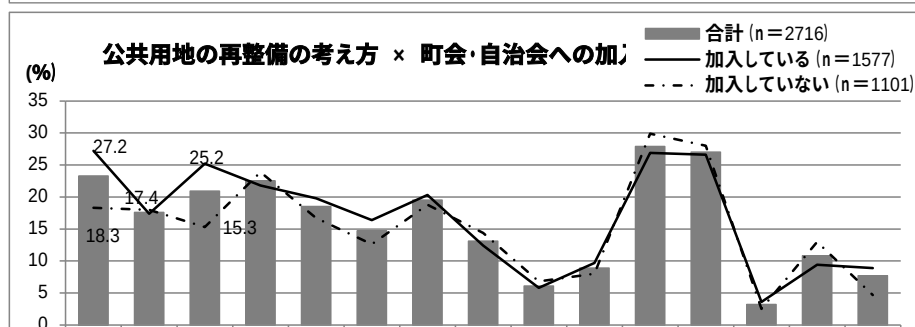
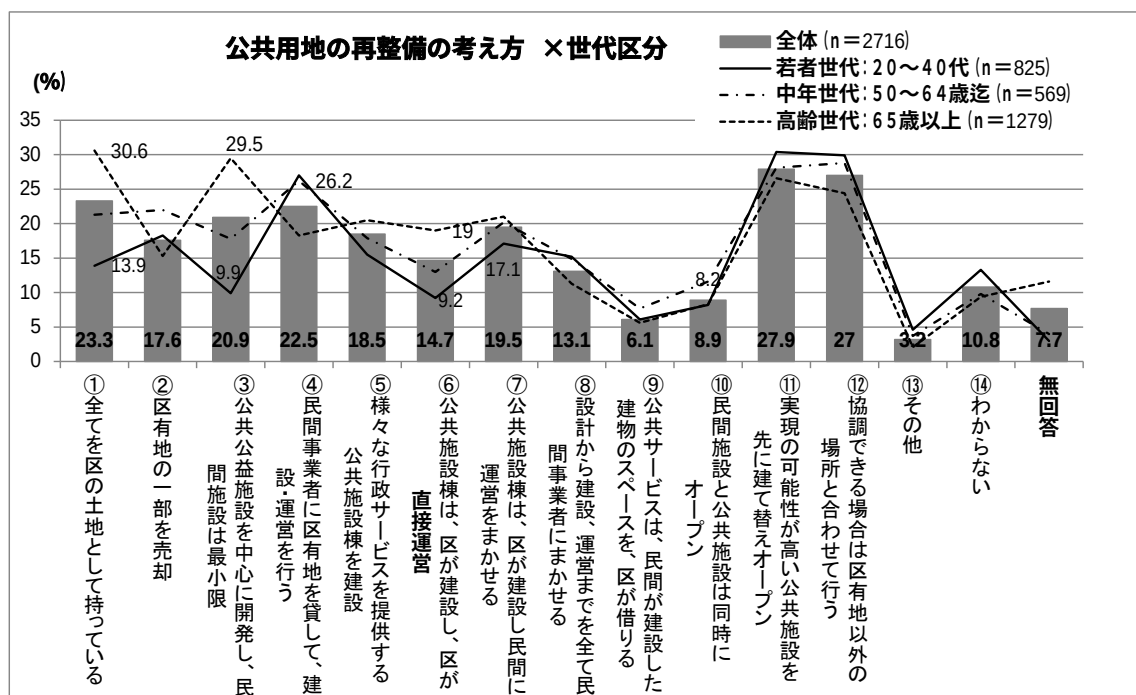
○「公共用地の再整備」を行う場合の基本的な考え方×居住年数

居住年数別でも、意見に大きな差がでていますが、高齢世代の率が高く町会加入率の高い居住年数の長い層の意見は、先の高齢世代の傾向とほぼ同じです。また、5年未満の層は、若者世代の傾向とよく似ています。

○「公共用地の再整備」を行う場合の基本的な考え方×男女

男女別では、ほとんどの項目で女性より男性の選択率が高くなっており、男性の興味が女性より高いことが伺えます。

◇ 「公共用地の再整備」を行う場合の基本的な考え方



問37 再整備地区の活用方法

「再整備地区の活用方法」については、「にぎわいづくり」が41%、「防災拠点の形成」が31%、「住宅の建設」が21%の順になっています。

○再整備地区の活用方法×世代区分

世代区分別では、「商業や飲食の店舗、映画館等の民間施設を誘致等のにぎわいづくり」に対する意見が若者世代56%に対して高齢世代31%と倍近くの差が見られ、若者世代がにぎわいを創出する民間施設の誘致に対して、大いに期待していることが伺えます。「周辺の住宅の建替え支援や防災拠点の形成」については中年世代が最も高く37%が選択しています。

○再整備地区の活用方法×町会への加入の有無

「にぎわいづくり」で若者世代の多い未加入者の選択率が若干加入者に比べて高くなっていますが、大きな差違は伺えません。

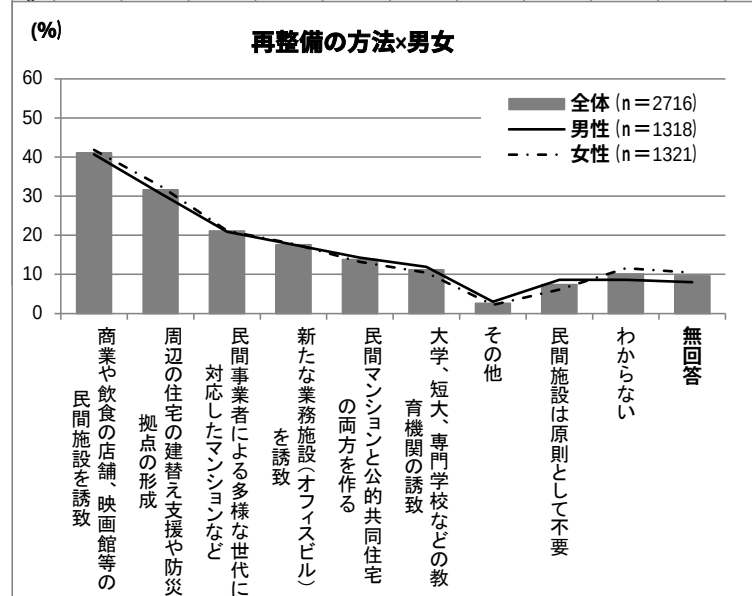
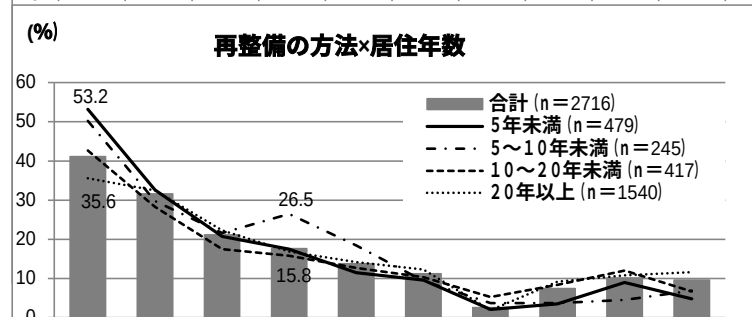
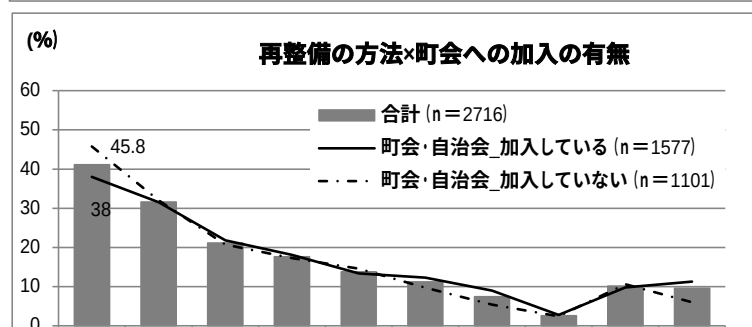
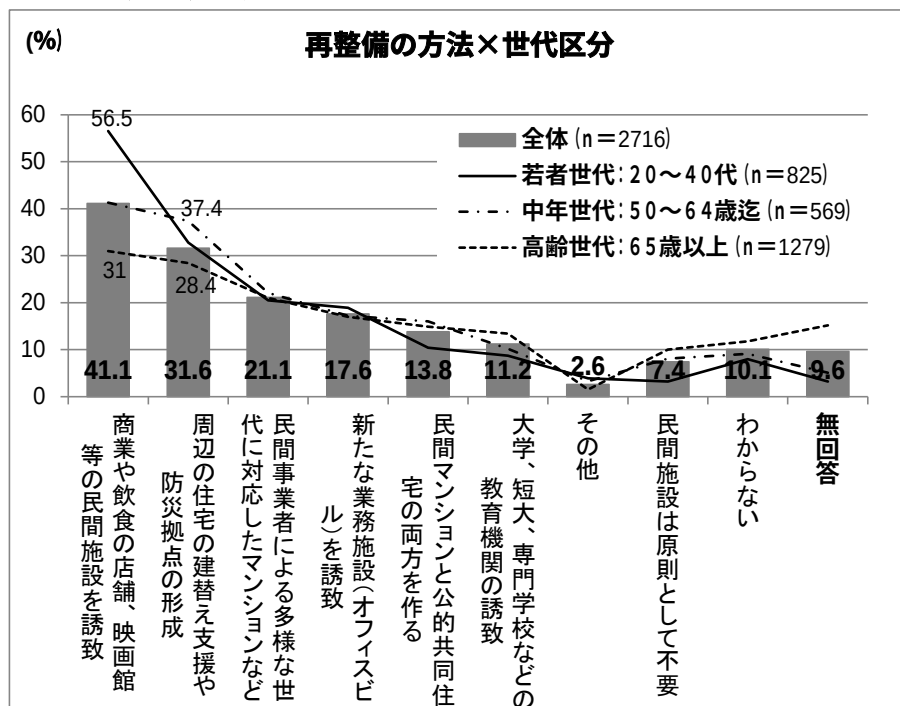
○再整備地区の活用方法×居住年数

「商業や飲食の店舗、映画館等の民間施設を誘致等のにぎわいづくり」は、居住年数が短いほど選択率が高い傾向にあり、「5年未満」では53%に対し「20年以上」では35%で18%の差が出ています。また、「新たな業務施設（オフィスビル）を誘致し働く場づくり」では、「5～10年未満」の層の選択率が26%と他と比べて突出しています。

○再整備地区の活用方法×男女

男女による差異はほとんど伺えません。

◇再整備地区の活用方法



問38 公共用地(区有地)の再整備地区(区有地2ha)について

「商業を想定した民間活用」が最も多く 34%、次いで「(商業+公共施設の合築)と(高層マンション)を想定した民間活用」が 21%、その他の考え方は 10%以下となっており、商業施設を入れた形の民間活用を求めていることが伺えます。

○公共用地(区有地)の再整備地区(区有地2ha)について×世代区分

世代区分別では、大きな傾向は変わりませんが、世代により大きな差があります。「商業を想定した民間活用」は、世代が若くなるほど高くなっており、高齢世代では 30%、中年世代では 35%、若者世代は 40%です。「(商業+公共施設の合築)と(高層マンション)を想定した民間活用」については、若者・中年世代は 26%の選択率ですが、高齢世代は低く 16%にとどまっています。

○公共用地(区有地)の再整備地区(区有地2ha)について×町会への加入の有無

町会・自治会への加入の有無別では、大きな差は伺えません。

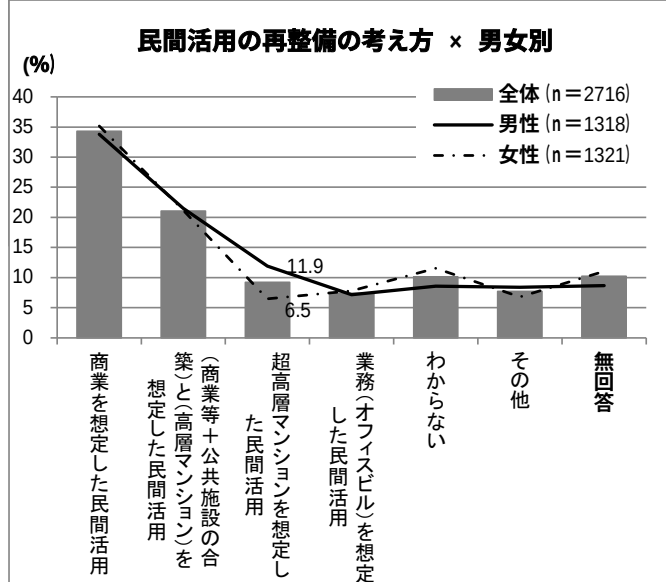
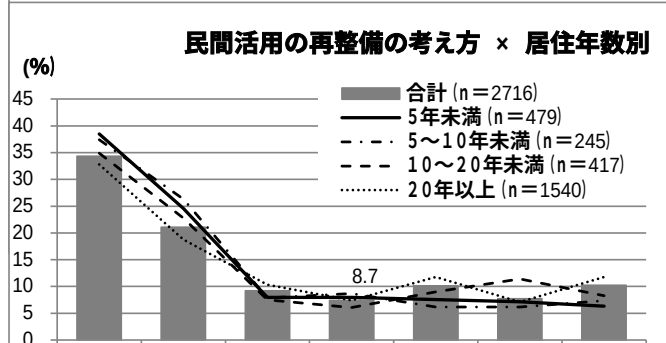
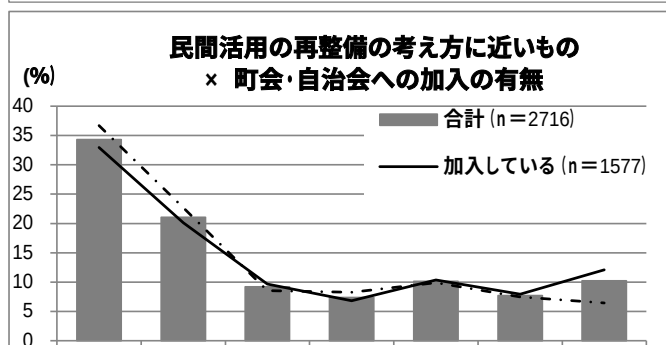
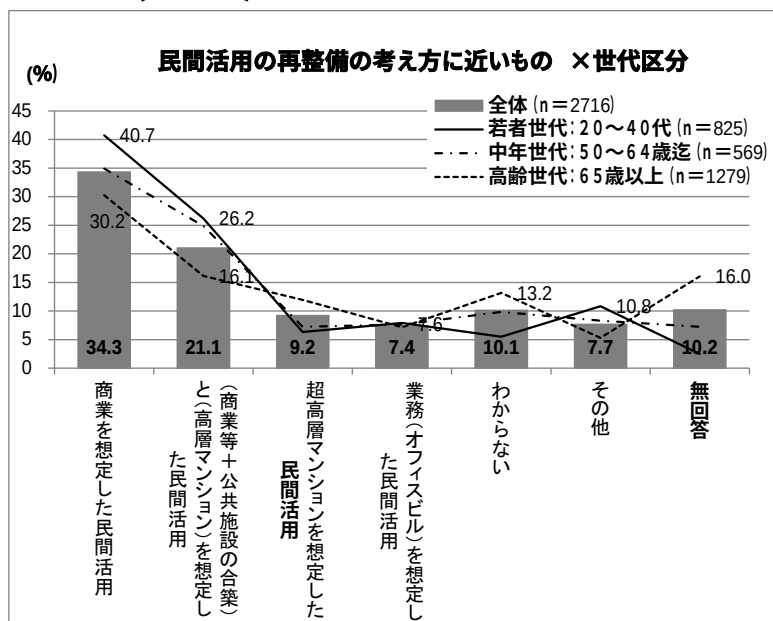
○公共用地(区有地)の再整備地区(区有地2ha)について×居住年数

居住年数別においても、大きな差は伺えません。

○再整備地区の活用の方法×男女

男女別においても、大きな差は伺えません。

◇公共用地(区有地)の再整備地区(区有地2ha)について



問39 再整備地区内にある公共施設の機能

「再整備地区内にある公共施設」で特に重要なものについては、「各種行政サービスの総合窓口」が 51%、次いで「地域保健サービス」（44%）、「図書館」（42%）となっています。身近で利便性の高い公共施設を重要視していることが伺えます。

○再整備地区内にある公共施設の機能×世代区分

「地域保健サービス」は、高齢世代が 52%に対し、若者世代は 35%に留まっています。健康に関わる公共サービスは、高齢世代が重要視していることが伺えます。若者・中年世代が希望しているのは、「図書館」で、46%が選択しています。また、「乳幼児親子の居場所や子育て相談」は、子育て世代と重なる若年世代の 30%が選択しています。

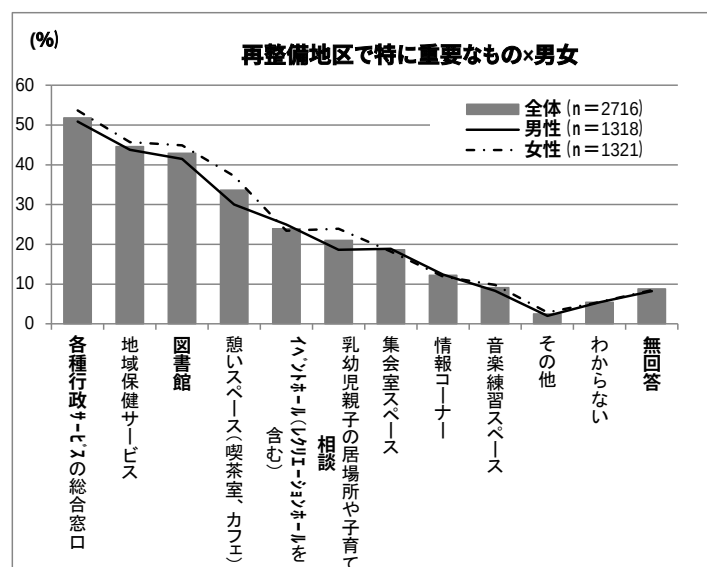
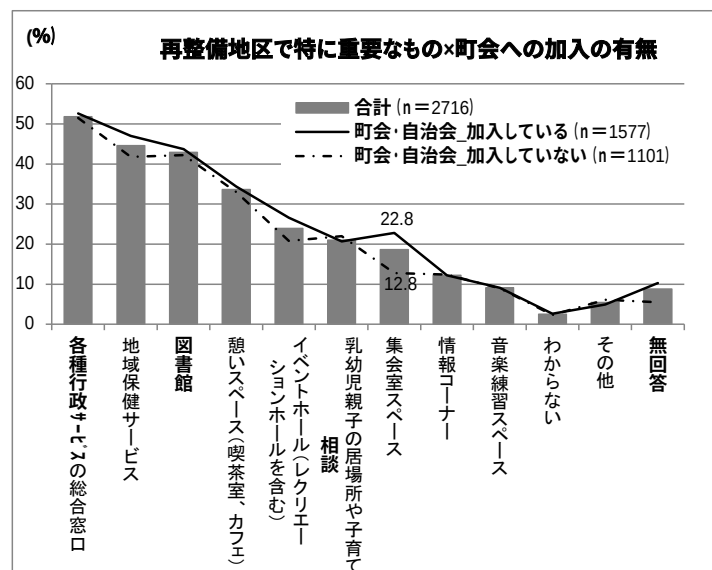
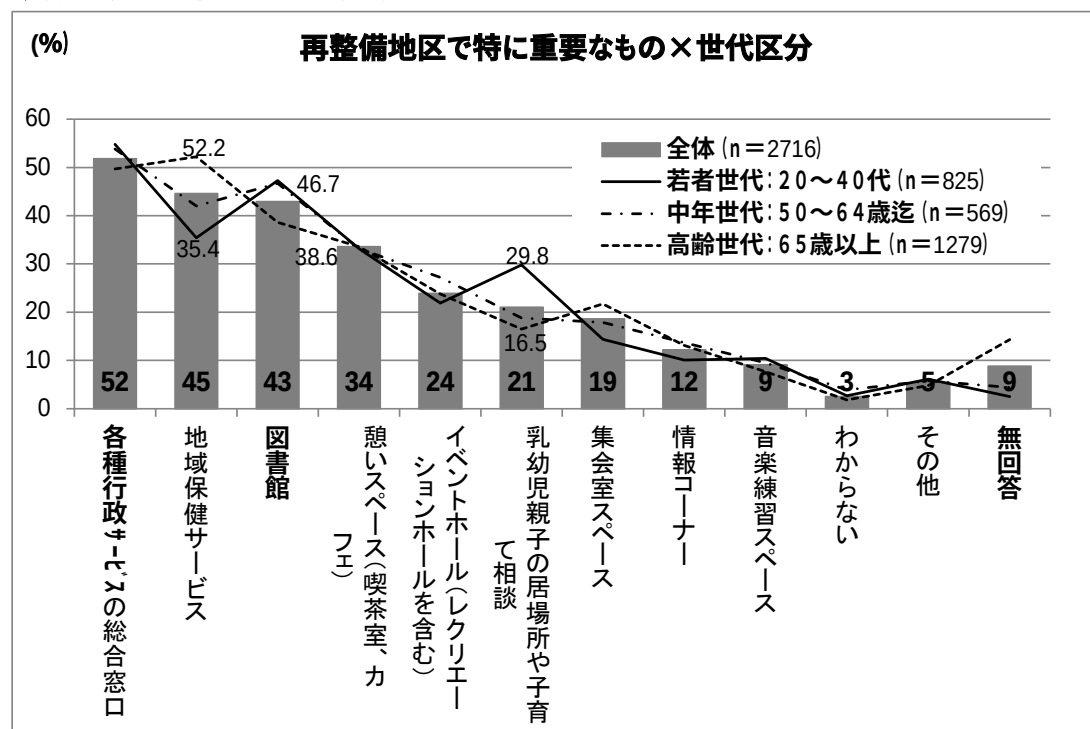
○再整備地区内にある公共施設の機能×町会への加入の有無

町会等に加入している人たちは「集会室スペース」について 22%が重要視しており、加入していない人よりも 10%程高くなっています。

○再整備地区内にある公共施設×男女

男女による大きな差異は見られませんでした。が、「各種行政サービスの総合窓口」、「地域保健サービス」、「図書館」、「憩いスペース」、「乳幼児親子の居場所や子育て相談」で女性が男性よりも重要視していることが伺えます。

◇再整備地区内にある公共施設の機能



問41 「(仮称) シニア活動センター」に必要な機能

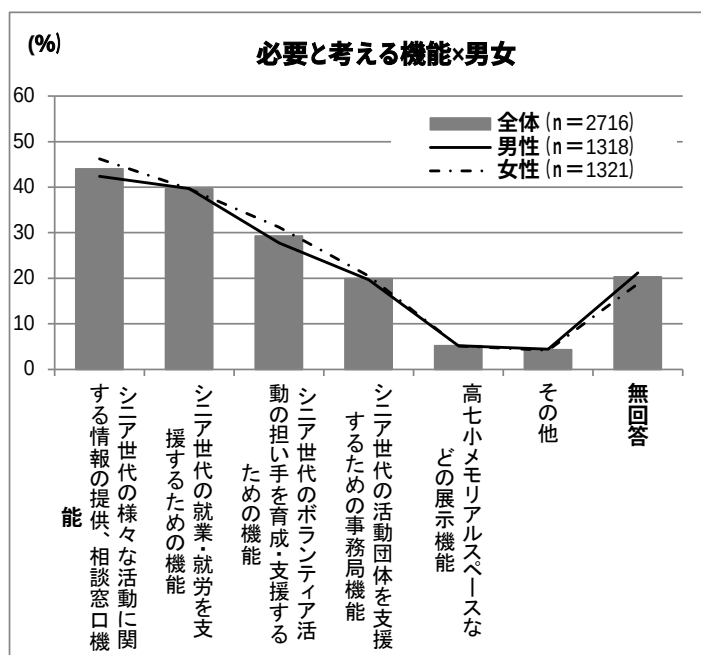
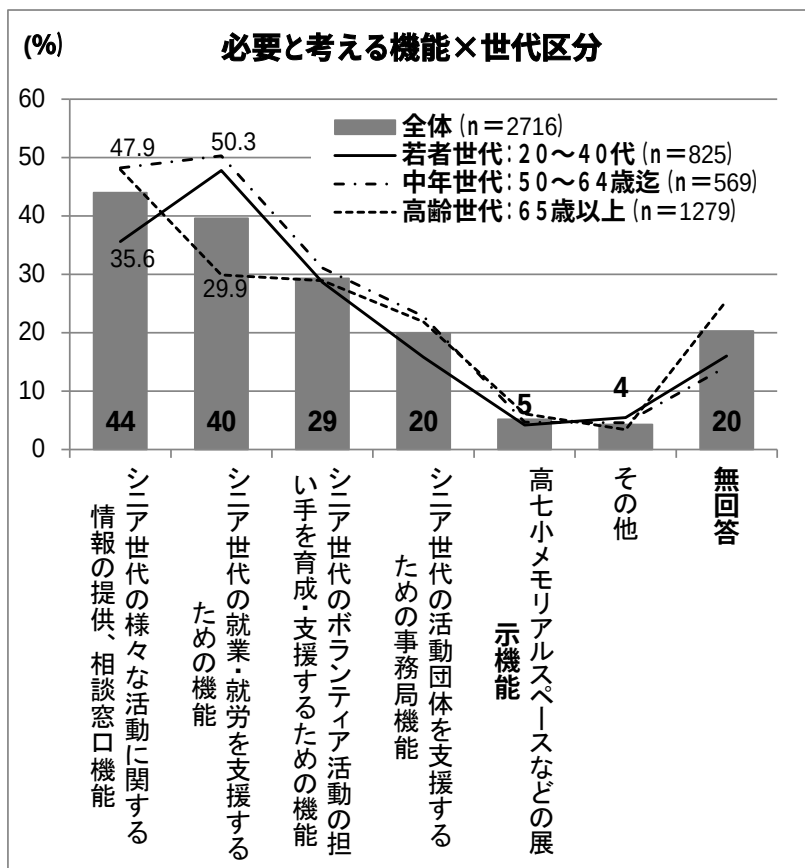
「(仮称) シニア活動センター」に必要と考える機能については、「シニア世代の様々な活動に関する情報提供、相談窓口機能」が44%、「シニア世代の就業・就労を支援するための機能」が39%、「シニア世代のボランティア活動の担い手を育成・支援するための機能」が29%と続きます。

○ 「(仮称) シニア活動センター」における必要と考える機能×世代区分

若者・中年世代は、「就業・就労を支援するための機能」を最も求めており、約50%の人が選択しています。リタイアしている人が多い高齢世代と比べると30%以上の差があります。「活動に対する情報の提供や相談窓口」については、中年・高齢世代の選択率が高く47%に対し、若者世代は35%にとどまっています。シニア世代向けということで、最も関係の深い中年世代が各機能とも最も選択率が高い結果となっています。

○ 「(仮称) シニア活動センター」における必要と考える機能×男女別

男女別では、差違は伺えません。



④アンケート総括

[地域の現況課題、将来像]

- ・飲食店や魅力ある商業施設、娯楽やレジャーなどの暮らしの楽しさに対する評価は低くなっていますが、公園や緑地が多く、日常の買い物や病院などが充実しており、歩いて暮らすことのできるまちとして高く評価されており、回答者の7割近い人が住み続けたいと評価しています。
- ・レストランやカフェ、娯楽施設、大規模商業施設の不足を地域課題と捉える人が半数を超えており、特に若者世代が強く課題として認識しています。
- ・全ての世代の6割以上が「若者から高齢者まで多様な世代が交流できるまち」、「災害時にも安心・安全なまち」を将来像として支持しており、ミクストコミュニティや防災に対する期待が高いことがわかります。

[4つの基本方針について]

- ・ウェルフェアに対して一番関心が高く、スマートエネルギーについては関心が低くなっています。にぎわいについては、若者世代が強く関心を寄せています。

[にぎわいについて]

- ・プロムナードに対しては、「自転車と歩行者の分離」や「高島平緑地内の歩行空間や休憩所、店舗などの整備」、「三田線高架下のカフェや店舗の誘致」に対する関心が高く、特に若者世代は高架下にレストランやカフェを誘致すべきと考えています。
- ・三田線の延伸に対しては、約60%が延伸する必要があると答えており、成増、和光市、池袋への接続が望まれています。

[ウェルフェアについて]

- ・多様な子育て支援サービスの提供については、一時保育や病児保育、多様な保育サービスの提供など、保育に関する期待が高く、特に若者世代から強く期待されています。
- ・心と体の健康づくりについては、中年世代、高齢世代は「地域包括ケアシステム」に対する期待が高く、若者世代からは「住み替え支援システム」に対する期待が高くなっています。「ウォーキングロード」については、幅広い世代から支持されています。
- ・地域活動については、板橋区内の大学との連携を重視しており、担い手となる人材の育成が望まれています。

[スマートエネルギーについて]

- ・スマートエネルギーに関する関心は低く、5割の人が再生可能エネルギーを利用していない結果となりました。

- ・家計の負担については、少しなら負担してもよいと考えており、省エネ家電やエコカーへの買い替えや太陽光発電について関心を持っています。
- ・地域全体で取り組むべきものとしては、「清掃工場の未利用エネルギーの有効活用」に対して関心が高い結果となりました。

[防災について]

- ・災害時の不安に対して全体的に各項目の選択率が高く、総じて防災に対する意識が高いことが伺えます。
- ・災害時の情報取得手段については、すべての世代においてテレビやラジオが6割を超えていますが、若者世代の4割はツイッターやフェイスブックなどを活用しています。
- ・地域全体で取り組むべきことでは、「通信、電気、トイレなどの生活インフラの確保」に特に関心が高くなっています。また、「老朽化した建物の建替え、耐震補強」に関心が集まっており、特に若者世代は老朽化した建物の建替え、耐震補強に対する関心が高くなっています。

[各駅の整備方針について]

- ・三田線の高架下の有効活用や駅前駐輪場の整備、高島平緑地やプロムナードを活用した防災トイレ等の整備など、プロムナード整備に関する項目について重要かつ早く取り組むべきとの意見が多く寄せられました。
- ・町丁目別にみると、すべての町丁目の整備方針について重要かつ早く取り組むべきとの結果となりましたが、回答者が居住する地区の整備方針については関心が高く、それ以外の町丁目については関心が低い傾向となっています。

[コミュニティ活動への参加について]

- ・4割がコミュニティ活動に参加したことがないと答えており、コミュニティ活動の参加度が低いことがわかります。特に、若者世代の51%は参加したことがないと答えており、中年世代、高齢世代になるほど参加する傾向にあります。
- ・参加した理由としては、地域や社会を良くするためが約5割となっており、コミュニティ活動の参加に対して前向きにとらえていることが伺えます。
- ・コミュニティ活動の重要度と関心度を見ると、総じて重要度は高いものの関心度が低い傾向にあり、積極的な参加に向けた働きかけが重要と考えます。

[公有地の再整備について]

- ・区有地の扱いについては、「すべて区有地として保有」が「区有地を一部売却」を上回っています。

- ・施設の建設や運営については、「区が建設運営」や「民間が建設運営」に比べ民間と区が役割分担する案のほうが支持されていますが、民間が建てて区が借りる案については低い支持となりました。
- ・オープン時期については、「公共施設を先に建て替える」意見が「民間施設と同時にオープン」を3倍ほど上回っており、公共施設の早いオープンが望まれていることが伺えます。

[再整備地区の活用について]

- ・商業や飲食店舗、映画館等の民間施設の誘致を望む人が多く、若者世代は5割が支持しています。
- ・一方、業務施設、民間マンションと公的住宅の合築、大学等の教育施設に対しては低い結果となりました。

[区有地（2ha）について]

- ・商業を想定した民間活用が34%も最も多く、次いで商業と公共施設、高層マンションの合築が21%で、その他は10%を下回っていることから、なんらかの商業施設の誘致が望まれていることが伺えます。

[公共施設の機能について]

- ・行政サービス、地域保健サービス、図書館を支持する人が多く、身近で利便性の高い公共施設を重要視していることが伺えます。

[シニア活動センターに必要な機能について]

- ・様々な活動に関する情報提供や就業・就労を支援するための機能に対して関心が高いことが伺えます。

【アンケート調査回答票】

1. あなた自身のことについて伺います。

問1 あなたの性別についてお選びください。

1. 男 2. 女

問2 あなたの年齢を次の中からお選びください。

1. 10歳代 3. 30歳代 5. 50歳代 7. 65歳～74歳
2. 20歳代 4. 40歳代 6. 60歳～64歳 8. 75歳以上

問3 あなたの住んでいる町丁目を次の中からお選びください。

1. 高島平一丁目
2. 高島平二丁目（UR 賃貸団地）
3. 高島平二丁目（UR 賃貸団地を除く）
4. 高島平三丁目 10 番地 1 号棟（UR 賃貸団地）
5. 高島平三丁目 11 番地 1 号棟（高島平第 1 住宅）
6. 高島平三丁目 10 番地 2～24 号棟、11 番地 9～11 号棟（高島平第 2 住宅）
7. 高島平三丁目 11 番地 2～8 号棟（高島平第 3 住宅）
8. 高島平四丁目
9. 高島平五丁目
10. 高島平六丁目
11. 高島平七丁目
12. 高島平八丁目
13. 高島平九丁目 1 番地 1～4 号（東京都交通局）
14. 高島平九丁目 1 番地 5～8 号（公社住宅、都営住宅）
15. 高島平九丁目 2 番地～
16. その他（ ）

問4 あなたの自宅の世帯の構成について次の中から選びください。

1. 単身（一人暮らし）
2. 夫婦のみ
3. 二世代同居（親と同居）
4. 二世代同居（子と同居）
5. 三世代同居（親と子と孫など）
6. その他（ ）

問5 同居しているお子さんについて次の中から選びください。

1. 就学前の子どもがいる
2. 小学生の子どもがいる
3. 中学生の子どもがいる
4. 高校生以上の子どもがいる
5. 同居している子どもはいない

問6 同居している家族の中に（自身を含む）65歳以上の方はいらっしゃいますか。

1. いる
2. いない

問7 あなたは高島平地域に住んで通算して何年になりますか。次の中から選びください。

1. 1年未満
2. 1年以上5年未満
3. 5年以上10年未満
4. 10年以上15年未満
5. 15年以上20年未満
6. 20年以上30年未満
7. 30年以上40年未満
8. 40年以上

問8 あなたのお住まいを次の中から選びください。

1. 持ち家（戸建住宅）
2. 持ち家（分譲マンション）
3. 賃貸住宅、アパート
4. 間借り、下宿
5. 社宅、寮
6. その他（ ）

問9 あなたは地元の町会、自治会に加入していますか。

1. 加入している
2. 加入していない

2. 地域の状況についてお伺いします。

問10 あなたは高島平地域について、どのように感じていますか。それぞれの項目について、あてはまると思う回答欄の a～f を1つ選び、○印をつけてください。

質 問		そう思う	まあ、そう思う	どちらともいえない	あまり、そう思わない	そう思わない	わからない
回答例		a	b	c	d	e	f
1	日常の買い物をするスーパーや小売店が充実している	a	b	c	d	e	f
2	レストランや飲食店が充実している	a	b	c	d	e	f
3	地域内で娯楽やレジャーを楽しむことができる	a	b	c	d	e	f
4	公園・緑地が充実している	a	b	c	d	e	f
5	バスや自家用車を使わず、歩いて暮らすことができる	a	b	c	d	e	f
6	自転車が利用しやすい環境が整っている	a	b	c	d	e	f
7	保育サービスや子育て支援が充実している	a	b	c	d	e	f
8	ウォーキングロードやフィットネス等が身近にあり健康に暮らすことができる	a	b	c	d	e	f
9	野菜づくりや花植えなど農園や園芸に親しむことができる	a	b	c	d	e	f
10	高齢者のケアが充実している	a	b	c	d	e	f
11	障がい者のケアが充実している	a	b	c	d	e	f
12	病院、医院などの医療施設が充実している	a	b	c	d	e	f
13	NPO やボランティア、コミュニティ活動が活発である	a	b	c	d	e	f
14	高齢者のいきがい就労（※）や社会参加の場所がある	a	b	c	d	e	f
15	若者や女性がアルバイトやパートができる職場がある	a	b	c	d	e	f
16	省エネルギーや二酸化炭素の削減など、環境に対する意識が高い	a	b	c	d	e	f
17	まち全体で省エネルギーや環境負荷の低減に取り組んでいる	a	b	c	d	e	f
18	災害時も安心、安全に過ごすことができる	a	b	c	d	e	f
19	災害時に隣近所で助け合える仕組みがある	a	b	c	d	e	f
20	高島平地域にこれからも住み続けたい	a	b	c	d	e	f
21	高島平地域にオフィス等のフルタイムで働く場がほしい	a	b	c	d	e	f
22	高島平地域に人が訪れたくなる魅力ある商業（集積）施設が不足している	a	b	c	d	e	f

※いきがい就労：企業や地域活動に高齢者の活躍の場を拡大し、高齢者が社会参加できる仕組みづくり

3. 地域の課題（解決しなければならない問題）について伺います。

問 1 1 あなたが考える地域の課題について、あてはまると思う番号に○印をつけてください。（複数回答可）

1. 日用品の買い物をする店が不足している
2. 家族で過ごすことのできるレストランや飲食店等が不足している
3. 知人や友達を誘えるレストラン、カフェ等が不足している
4. デパートやショッピングモール等の大規模商業施設が不足している
5. 映画館やテーマパーク、小劇場などの娯楽施設が不足している
6. 自転車レーンや駐輪場が不足しているため、自転車利用が不便
7. 駅やバス停が家から遠く、鉄道や路線バスなどの公共交通が利用しづらい
8. 道路や歩道が歩きづらい
9. 公園の管理が行き届いていない
10. 高島平緑地がうっそうとしているため、もう少し憩いの場にできないか
11. 子育てに対するサービスや支援施設が不足している
12. 高齢者に対するサービスや支援施設が不足している
13. 医療施設が不足している
14. 人口減少や転出等により、空き家が増加している
15. マンションや戸建てなどの住宅が老朽化している
16. 公共施設が老朽化している（安全面が不安、利用しづらい、設備が古いなど）
17. コミュニティ活動の場が少ない
18. 省エネルギーに対する意識が低い（又は取り組みが少ない）
19. 災害時に安心、安全に過ごすことができない
20. その他（ ）
21. 特になし

問 1 2 高島平は、町丁目を中心に、エリアごとに地域の特徴が異なるため、それぞれ抱える課題やめざしている将来の姿が違うとも言われています。
そこで、次の所にお住まいの方にお聞きします。

ア. 西台駅北側の人工地盤団地（高島平九丁目1番地5～8号棟）にお住まいの方におき
きします。お住まいのエリアで課題と考えることがあればご記入ください。

--

イ. 高島平三丁目の分譲団地（3丁目10番地2号棟～24号棟、3丁目11番地1号棟～11号棟）にお住まいの方にお聞きします。

◆課題や取り組むべきと考えていることを3つ選んで○印をつけてください。（3つまで回答可）

1. 耐震補強を含む防災対策
2. 住宅の設備などの老朽化
3. 建替えまでを視野に入れた検討
4. 高齢化に対応したケアシステムの導入
5. エレベーターが無い又は、使い勝手が不便であること
6. 特別生活に不安、不満はないので、現状を変えることはしないこと
7. その他（ ）

4. まちの将来像についてお伺いします。（素案特集1、2ページをご覧ください）

問13 今から20年後の高島平地域を考えたとき、どのようなまちにしたい、なってほしいですか。あてはまると思う番号に○印をつけてください。（複数回答可）

1. 若者から高齢者まで多様な世代が交流できるまち
2. 子育て世帯が集まり暮らすことのできるまち
3. 高齢者が生き生きと暮らすことのできるまち
4. 活気のある商店街で買い物が楽しめるまち
5. オフィスや大規模商業施設の賑わいにより、近隣からも人が訪れるまち
6. 公園・緑地などが充実して、豊かな緑を楽しむことのできるうるおいのあるまち
7. 公共施設や公的サービスが充実したまち
8. 鉄道や路線バスなどの公共交通網が充実したまち
9. 自転車道が整備されて地域内の移動が一層しやすいまち
10. 自動車に頼らず、歩いて暮らすことのできるまち
11. 健康で自立した生活に向けたサポートが充実しているまち
12. 地域住民のコミュニティ活動が活発なまち
13. 省エネルギー関連の設備が充実したエネルギーを賢く作り使うまち
14. 板橋清掃工場等の未利用エネルギーを活用し、効率的なエネルギーマネジメントに取り組むまち
15. 災害時にも安心・安全なまち
16. 災害時や被災後も地域が自立して生活することができるまち
17. その他（ ）
18. 特になし

問14 素案では、将来像のキャッチフレーズとして、

『願いに応えるまち 高島平』～訪れたくなる、住みたくなる、働きたくなる、暮らし続けるまち～』としています。

変えた方が良くと思う方は、あなたが考えるキャッチフレーズをお書きください。

5. 4つのテーマの基本方針についてお伺いします。

(素案特集1、2ページをご覧ください)

問15 将来像の実現のために設定した「4つのテーマ」の中で、あなたが一番重要と考えるものはどれですか。あてはまると思う番号1つに○印をつけてください。

1. にぎわい ～地域の内外からの交流促進や利便性の高いまち～
2. ウェルフェア ～子どもから高齢者まで元気に楽しく暮らせるまち～
3. スマートエネルギー ～環境負荷の低減や循環型エネルギーに対応したまち～
4. 防災 ～災害時でも継続的に生活の安定や都市機能が維持されるまち～
5. その他（ ）

6. 「にぎわい～地域の内外からの交流促進や利便性の高いまち～」についてお伺いします。

(素案特集1ページをご覧ください)

問16 三田線の駅前や高架下に誘致すべき施設について、あなたが必要だと思う番号に○印をつけてください。(複数回答可)

1. 日常の買い物ができるスーパーや小規模な小売店
2. ゆっくり過ごすことのできるレストランやカフェ
3. おしゃれな洋服や雑貨がそろった店舗
4. 地域内外から人が集まる大規模商業施設やオフィス
5. アートに触れることのできるギャラリーや工房
6. 家電量販店
7. 図書館やホールなどの公共施設
8. 人が集まることのできる集会所や貸し会議室
9. 歯科や内科などの医院が入ったクリニックモール
10. 保育所や子育て支援施設
11. デイサービスや高齢者支援施設
12. 障がい者支援施設
13. 幼児教育や学習塾
14. 駐輪場
15. 駐車場
16. その他（ ）
17. 特になし

問17 歩行者が歩いて暮らせる、楽しく暮らせるまちにするために、あなたが必要だと思う番号に○印をつけてください。(複数回答可)

1. 自転車と歩行者の分離
2. 高島平緑地内の歩行空間や休憩所、店舗（売店、カフェ）などの整備
3. 荒川の河川敷や公園等をつなぐ散歩道の整備
4. 地図やサイン（目印）などの誘導案内板の設置
5. 三田線の高架下にカフェや店舗を誘致
6. 駅とそれぞれの周辺地区を結ぶペDESTリアンデッキ（空中歩道）の整備
7. その他（ ）
8. 特になし

問18 交通網を充実するために、あなたが必要だと思う番号に○印をつけてください。(複数回答可)

1. 駅や公共施設で簡単に自転車を借りることのできる地域内シェアサイクルの推進
2. 羽田から赤羽を結ぶ環状八号線を活用した鉄道（エイトライナー）の推進
3. 渋滞緩和や道路交通網の強化に向けて計画されている道路（国道 254 号バイパスと放射 35 号線）の早期整備
4. コミュニティバスなどの民間バスの運行
5. 三田線の埼玉方面への延伸
6. その他（ ）
7. 特になし

問19 訪れたい、住みたい、働きたいまちを実現するにあたり、三田線の延伸についてあなたの考えに近い番号1つに○印をつけてください。

1. 延伸する必要がある → 問20へお進みください
2. 延伸する必要はない → 問21へお進みください

問20 問19で「延伸する必要がある」と答えたかたにお伺いします。西高島平駅から接続すべき駅についてあなたの考えに近い番号1つに○印をつけてください。

- | | | | |
|-------|---------|----------|---------|
| 1. 赤羽 | 5. 戸田公園 | 9. 地下鉄成増 | 13. 成増 |
| 2. 池袋 | 6. 北朝霞 | 10. 平和台 | 14. 和光市 |
| 3. 大宮 | 7. 西浦和 | 11. 志木 | 15. 光が丘 |
| 4. 戸田 | 8. 江古田 | 12. 東武練馬 | 16. その他 |

7.「ウェルフェア ～子どもから高齢者まで元気に楽しく暮らせるまち～」について伺います。(素案特集1ページをご覧ください)

※ウェルフェア：ウェルネス（心身ともに健康でいきいきとしたライフスタイルを築くこと）や高齢者の生きがい・健康づくり、女性の活躍、子育てなどを含む「健康福祉」

問21 子育てがしやすいまちを実現するために、あなたが必要だと思う番号に○印をつけてください。（複数回答可）

1. 預かり保育などの一時保育サービスの充実
2. 保育相談などのサービスの充実
3. 子育て関連の NPO 法人や子育て賛助会員の活用
4. 認可・認証保育所、小規模保育などの多様な保育サービスの提供
5. 病児保育の充実
6. 年齢別の乳幼児プログラムや相談機能の充実による児童館での子育て世帯支援
7. 体験活動などの「あいキッズ」のプログラムの充実
8. 小中学校の異学年や他校の子どもたちとの交流
9. 地域の方や大学生が参加した学習支援事業や交流活動
10. その他（ ）
11. 特になし

問 2 2 心と体の健康を保った生活をおくるために、あなたが必要だと思う番号に○印をつけてください。（複数回答可）

1. 高島平緑道や地域内外の公園、荒川河川敷等を結ぶウォーキングロード
2. 道路や公園内における、健康に関する案内板や健康器具の設置
3. 病院や NPO 法人による健康イベントや健康相談
4. 温水プールを活用した水中ウォーキングやフィットネス教室
5. コミュニティガーデンによる緑や人、農とのふれ合い
6. 区の花「二輪草」の観察など、高島平地域の特色を活かしたイベント
7. 高齢者の住まい、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステム
8. 空き家の有効活用やあっせん等による、多様な世代が地域に長く住み続けることができる住み替え支援システム
9. 既存の障がい者施設の充実や、生活介護施設、重症心身障がい者施設、グループホームなどの障がい者福祉施設の誘致
10. その他（ ）

1 1. 特になし

問 2 3 地域活動の参加が増え、コミュニティ活動が活発なまちに向けて、
あなたが必要だと思う番号に○印をつけてください。(複数回答可)

1. 板橋区内の大学（大東文化大学、東洋大学、帝京大学、淑徳大学、日本大学、東京家政大学）との連携
2. 板橋区外の大学との連携
3. 住民や NPO 法人等による地域活動・事業活動への支援
4. 地域活動の担い手となる人材の育成
5. 青少年や若者のボランティア活動の支援
6. 高齢者を対象とした地元での就労セミナーの開催や就労支援
7. 女性や若者が地元で自ら起業するためのセミナーや相談会の開催
8. その他（）
9. 特になし

8. 「スマートエネルギー ～環境負荷の低減や循環型エネルギーに対応したまち～」についてお伺いします。(素案特集 2 ページをご覧ください)

※スマートエネルギー：従来からの住宅や建築物の省エネルギーにとどまらず、地域特性を生かした未利用エネルギーの活用やエネルギー使用量の可視化による省エネルギーの推進などにより、地域全体でエネルギーを作りながら賢く使うこと。

問 2 4 住宅に導入できる再生可能エネルギー等の設備について、
あなたが現在利用している番号に○印をつけてください。(複数回答可)

(※再生可能エネルギーとは、太陽光や風力、地熱といった地球資源の一部など自然界に常に存在するエネルギーのことです)

1. 太陽光発電システム
2. 家庭用燃料電池システム（エネファーム）
3. 定置用リチウムイオン蓄電システム
4. エネルギー管理システム（HEMS）
5. 電気自動車充給電設備
6. 太陽熱利用給湯システム
7. 地中熱ヒートポンプシステム
8. 再生可能エネルギー等設備は利用していない
9. その他（）

問 2 5 地球温暖化防止のためには家計の負担が増えてもよいとお考えですか。
あなたの考えに近い番号 1 つに○印をつけてください。

1. 負担してもよい → 問 2 6 へお進みください
2. 少しなら負担してもよい → 問 2 6 へお進みください
3. 全く負担したくない → 問 2 7 へお進みください
4. わからない → 問 2 7 へお進みください
5. その他 ()

問 2 6 問 2 5 で 1 又は 2 と答えた方にお聞きします。どのようなものになら負担してもよいとお考えですか。あてはまる番号に○印をつけてください。(複数回答可)

1. 省エネ型家電やエコカーへの買い替え
2. 断熱効果を高めるリフォームや太陽光発電システム、太陽熱利用システム等の設置
3. 環境に関する税の導入
4. 地球温暖化防止のために活動している団体・事業などへの寄付
5. 再生可能エネルギー固定価格買取制度導入に伴う賦課金(電気料金への上乗せ)の負担(資源エネルギー庁が公表した平成 27 年度は、標準家庭 1 か月の電気使用量が 300kwh で月額 474 円です)
6. その他 ()
7. 負担したくない

問 2 7 地域全体で取り組むべきと思うものはどれですか。あてはまる番号に○印をつけてください。(複数回答可)

1. 環境に配慮したまちづくり
2. 環境にやさしいライフスタイル(生活の場)への転換
3. ごみの減量化
4. 建築物の省エネルギー化
5. 非常時に電力を供給する防災対応型のエネルギーシステムの導入
6. 地域のエネルギー消費量などの情報提供(エネルギーの見える化)
7. 板橋清掃工場の未利用エネルギーの一層の有効活用
8. その他 ()
9. わからない

9. 「防災 ～災害時でも継続的に生活の安定や都市機能が維持されるまち～」についてお伺いします。(素案特集2ページをご覧ください)

問28 地震などの災害が起きた時に、あなたが不安だと思われるものは何ですか。
あてはまる番号に○印をつけてください。(複数回答可)

1. 無事に避難できるか
2. 学校や職場など外出先から無事に帰れるか
3. 家族、親族らの安否確認ができるか
4. 水道、電気、ガス等のライフラインが止まってしまう
5. 道路、橋などが寸断され通行できなくなる
6. 避難所などでの生活環境により体調をくずさないか
7. 食料や物資の不足
8. 心身の健康
9. お年寄りや障がい者の介護
10. 子どもの保育や教育
11. 住宅の倒壊、その後の修繕、建てなおし等
12. その他()
13. 特に感じていない

問29 あなたにとって災害に関する情報を得る手段としてどれが効果的だと思いますか。
あてはまる番号に○印をつけてください。(複数回答可)

1. 区の広報車や消防車などによる呼びかけ
2. 自治会や町内会などを通じた呼びかけ
3. テレビやラジオ
4. 板橋区のホームページ
5. ツイッターやフェイスブックなどのインターネットサービス
6. その他()

問30 災害時でも継続的に安定した生活ができるまちの実現のため、
地域全体で取り組むべきだと思う番号に○印をつけてください。(複数回答可)

1. 駅から近く、行きやすい避難場所や滞在場所の確保
2. 荒川などの氾濫時に避難できる建物屋上や人工地盤、歩行者デッキ等の確保
3. 液状化対策に向けた地盤改良
4. 老朽化した建物の建て替え、耐震補強
5. 女性、乳幼児、児童、高齢者、障がい者などの多様な需要に配慮した災害対応
6. 災害時要援護者のための救援の仕組みづくり
7. 女性、乳幼児、高齢者用を含む生活必需品等の備蓄
8. 救助や物資輸送等を円滑に行うための道路沿道の建物の耐震化、不燃化
9. 板橋区医師会病院や高島平中央総合病院等との連携
10. ボランティア組織の育成
11. 通信、電気、トイレ設備等の確保
12. 自治会、町内会、PTA、小学校を核とした地区レベルなど地域コミュニティ主体の助け合い
13. コージェネレーション・システムや清掃工場の余剰電力の活用などによる安定電源の確保
14. その他 ()
15. わからない

10. 各整備方針についてお伺いします。(素案特集3～7ページをご覧ください)

問31 高島平地域の各駅（西台、高島平、新高島平、西高島平）や町丁目（高島平一丁目～九丁目）の整備方針について、あなたはどのように思いますか。重要度と取り組みスピードについて、それぞれあてはまると思う回答欄 a～c の番号を1つ選び、○印をつけてください。

整備方針		重要度			取り組みのスピード		
		重要 どちらともいえない	(わからない)	重要でない	早く取り組むべき	(わからない)	じっくり取り組むべき
高島平駅周辺（交流の核）							
1	旧高七小跡地を中心に、老朽化した複数の区立施設の建替えとそれに伴う機能拡充や集約化	a	b	c	a	b	c
2	旧高七小跡地を中心とする公共用地に民間施設を設置する	a	b	c	a	b	c
3	区民、民間事業者、大学、行政が連携したまちづくりの場づくり	a	b	c	a	b	c
4	駅の改修に伴うデッキの整備	a	b	c	a	b	c
5	駅北口の商店街の活性化	a	b	c	a	b	c
6	駅北口のにぎわい創出に向けた共同化や市街地再開発事業の推進	a	b	c	a	b	c
西台駅周辺（生活の核）							
7	共同化や市街地再開発事業等による駅前機能の拡充	a	b	c	a	b	c
8	西台駅北側の人 工 地盤へのアクセス向上	a	b	c	a	b	c
新高島平駅周辺（生活の核）							
9	駅の改修に併せた商業、店舗の誘致	a	b	c	a	b	c
10	駅周辺の商店、商店街の活性化	a	b	c	a	b	c

整備方針		重要度			取り組みのスピード		
		重要	(わからない) どちらともいえない	重要でない	早く取り組むべき	(わからない) どちらともいえない	じっくり取り組むべき
西高島平駅周辺（生活の核）							
11	流通業務団地の再整備に併せた駅前広場の整備（高島平六丁目）	a	b	c	a	b	c
12	商業、業務施設の誘致によるにぎわいの創出	a	b	c	a	b	c
高島平緑地や鉄道高架下等を活用したプロムナード（散策道）							
13	高島平駅から赤塚公園、徳丸ヶ原公園に向かう道路沿道における商業、店舗の誘致	a	b	c	a	b	c
14	プロムナード沿道におけるコミュニティガーデン等の誘致	a	b	c	a	b	c
15	防災トイレや備蓄倉庫の整備、帰宅困難者への情報提供	a	b	c	a	b	c
16	高島平緑地を活用したカフェ、ビオトープの設置やイベント等の実施	a	b	c	a	b	c
交通網							
17	渋滞緩和、道路交通網強化に向けた国道 254 号バイパスと放射第 35 号線の整備促進	a	b	c	a	b	c
18	羽田から赤羽を結ぶ環状鉄道エイトライナーの推進	a	b	c	a	b	c
19	三田線の高架下の有効活用（生活核となる店舗などの誘致）	a	b	c	a	b	c
20	駅前駐輪場の充実	a	b	c	a	b	c

整備方針		重要度			取り組みの スピード		
		重要	どちらともいえない (わからない)	重要でない	早く取り組むべき	どちらともいえない (わからない)	じっくり取り組むべき
高島平一丁目							
21	高島平中央総合病院を中心とした地域医療・福祉の充実	a	b	c	a	b	c
22	高齢者が安心して住み続けられる地域密着型介護施設等の誘導と地域包括ケアシステムの導入	a	b	c	a	b	c
23	大東文化大学との地域防災活動やコミュニティ活動の連携	a	b	c	a	b	c
高島平二丁目							
24	若者向けの間取りの住宅や、子育て世帯の入居の促進	a	b	c	a	b	c
25	若者と高齢者が共に暮らすことのできる環境整備	a	b	c	a	b	c
26	高齢者が安心して住み続けることのできる地域包括ケアシステム（住まい、医療、介護、予防、生活支援の一体的なサポート）の構築	a	b	c	a	b	c
27	マンション、戸建て住宅、高島平団地等による地域内住み替え促進に向けた情報提供	a	b	c	a	b	c
28	荒川等の浸水時の避難空間の確保	a	b	c	a	b	c

整備方針		重要度			取り組みのスピード		
		重要	どちらともいえない (わからない)	重要でない	早く取り組むべき	どちらともいえない (わからない)	じっくり取り組むべき
高島平三丁目							
29	駅や公園、公共施設を結ぶ歩行者ネットワークづくり	a	b	c	a	b	c
30	プロムナード沿道の商業施設の誘致	a	b	c	a	b	c
31	道路や鉄道高架下のにぎわいに向けた有効活用	a	b	c	a	b	c
32	分譲団地の「将来の有り方」検討の実施	a	b	c	a	b	c
33	住宅や団地の省エネルギー化の推進	a	b	c	a	b	c
34	建物の更新に併せた軟弱地盤の液状化対策	a	b	c	a	b	c
高島平四、五丁目							
35	敷地分割やミニ開発を抑制するためのまちづくりの推進	a	b	c	a	b	c
36	医療、福祉をサポートする拠点の整備	a	b	c	a	b	c
37	住宅や建物の建替え、更新に併せた省エネルギー化の推進	a	b	c	a	b	c
高島平六丁目							
38	地域全体のにぎわい創出につながる商業系施設や交流機能を担う施設の誘致	a	b	c	a	b	c
39	災害時における広域的な救援拠点及び緊急物資の輸送拠点	a	b	c	a	b	c
40	中長期的な再整備と併せた荒川の浸水時の避難空間の確保	a	b	c	a	b	c

整備方針		重要度			取り組みのスピード		
		重要	どちらともいえない (わからない)	重要でない	早く取り組むべき	どちらともいえない (わからない)	じっくり取り組むべき
高島平七、八丁目							
41	区立徳丸ヶ原公園内のこども動物園の再構築等による幅広い世代が楽しみ憩うことのできる公園への再生	a	b	c	a	b	c
42	高島平駅北側の駅前広場や市街地整備	a	b	c	a	b	c
43	駅前商店街の活性化	a	b	c	a	b	c
高島平八、九丁目							
44	西台駅の駅舎改修や人工地盤の改善によるバリアフリーの向上	a	b	c	a	b	c
45	熱帯環境植物館や高島平ふれあい館、高島平温水プールの機能や質的向上	a	b	c	a	b	c
46	板橋清掃工場からのごみ焼却排熱等の活用	a	b	c	a	b	c

11. コミュニティ活動について伺います。(素案特集8ページをご覧ください)

問32 あなたが現在又はこれまでに参加されたことがある「コミュニティ活動」について、次の中から選んで○印をつけてください。(複数回答可)

1. 自治会、町会
2. PTA など学校関係
3. 区民活動団体
4. NPO 団体
5. 職場、企業などが単位のボランティア活動
6. 大学、学校でのボランティア活動
7. 個人で行うボランティア活動（東北震災復興における住宅等の片づけなど）
8. 参加したことはない → 問34へお進みください

問33 あなたが「コミュニティ活動」に参加された理由はどのようなものですか。あてはまる番号に○印をつけてください。(複数回答可)

1. 地域や社会を良くするため
2. 困っている人を助けるため
3. 自分の経験や知識を活かすため
4. 友人や仲間を得るため
5. 自分自身や家族のため
6. 余暇を有意義に過ごすため
7. 当番でやむを得ないため
8. その他（ ）

問3 4 今後、地域の活性化や魅力を高めるために必要な活動についてあなたはどのようにお考えですか、またあなたはその活動に参加されますか。重要度と関心度についてあてはまると思う回答欄 a～c の番号をそれぞれ1つ選び、○印をつけてください。

地域に必要な活動		重要度			関心度		
		重要	どちらともいえない (わからない)	重要でない	参加したい	どちらともいえない (わからない)	参加したくない
1	区民、事業者、専門家、行政などによる協議組織でのまちづくりの検討、企画、実施	a	b	c	a	b	c
2	まちづくりに向けた勉強会の開催	a	b	c	a	b	c
3	まちづくりをPRするイベントの実施	a	b	c	a	b	c
4	起業する若者のためのシェアオフィス等の運営	a	b	c	a	b	c
5	道路や緑地を活用したオープンカフェ等の運営	a	b	c	a	b	c
6	自転車利用の促進に向けたシェアサイクルの実施	a	b	c	a	b	c
7	健康づくりに向けたイベントの実施	a	b	c	a	b	c
8	貸し農園や園芸を対象としたコミュニティガーデンづくり	a	b	c	a	b	c
9	地域内住み替えに向けた情報提供やコーディネート	a	b	c	a	b	c
10	高齢者の就労支援に向けたセミナーや情報提供の実施	a	b	c	a	b	c
11	若者や女性の起業支援に向けたセミナーや情報提供の実施	a	b	c	a	b	c
12	空き店舗の紹介等、若者等のチャレンジ店舗に向けた支援	a	b	c	a	b	c
13	高島平緑地の活用に向けたワークショップの開催	a	b	c	a	b	c
14	自助、共助に向けた地域防災の勉強会の実施	a	b	c	a	b	c
15	マルシェやフリーマーケットの開催	a	b	c	a	b	c
16	お祭りなどの地域行事	a	b	c	a	b	c
17	道路、公園、河川敷を活用したイベント	a	b	c	a	b	c

上記1～17以外にあなたが重要と考える活動があればお書きください。また、その活動に参加されるか関心度に○印をつけてください。

18		—	—	—	a	b	c
19		—	—	—	a	b	c

12. 今後の取り組みを評価する基準（指標）について伺います。（素案特集8ページをご覧ください）

問35 今後、グランドデザインの内容を実現していくことになりますが、何をめざしていくのか、どのくらい達成できたかを、明らかにする必要があります。そのために、素案では、以下に目標とする基準(指標)を定めましたが、そのほかに必要と思うものがあればお書きください。

- ◆次のそれぞれの施設が自宅から 400m以内に存在するようにする
 - ・医療施設 ・福祉施設 ・商業施設（1,500 m²以上のスーパー等）
 - ・鉄道駅やバス停、*バス停の場合は 300m以内
- ◆高齢者の自宅から 400m以内に福祉施設が存在するようにする。
- ◆0歳から5歳までの子どもの自宅から半径 400m以内に保育所が存在するようにする
- ◆「今後も高島平に住み続けたい」と思う人の割合を増やす

そのほかに必要と思う基準（指標）

13. 公共用地の再整備基本計画について伺います。(素案特集9、10ページをご覧ください)

問36 「公共用地の再整備」(*)を行う場合の基本的な考え方としてあなたの考えに近い番号に○印をつけてください。(複数回答可)

※旧高七小跡地を含む周辺の区立施設を合わせた約2haの区の土地

1. 区有地は一部でも売却せずに、全てを区の土地として持っている
2. 建物の工事費をまかなうために区有地の一部を売却する
3. 区有地は、公共公益施設を中心に開発し、民間施設は最小限にする
4. 民間施設は長期間(30～70年間)、民間事業者が区有地を貸して、建設・運営を行う
5. 民間施設とは別に、様々な行政サービスを提供する公共施設棟を建設する
6. 公共施設棟は、区が建設し、区が直接運営する
7. 公共施設棟は、区が建設し民間に運営をまかせる
8. 公共施設棟は、設計から建設、運営までを全て民間事業者がまかせる
9. 公共サービスは、民間が建設した建物のスペースを、区が借りて行う
10. 民間施設と公共施設は同時にオープンする
11. 民間施設と公共施設のオープン時期は必ず合わす必要はなく、老朽化も進み、実現の可能性が高い公共施設を先に建て替えオープンする。
12. 開発は、区有地だけにこだわらず、協調できる場合は区有地以外の場所と合わせて行う
13. その他()
14. わからない

問37 再整備地区の活用方法として、あなたの考えに近い番号に○印をつけてください。(複数回答可)

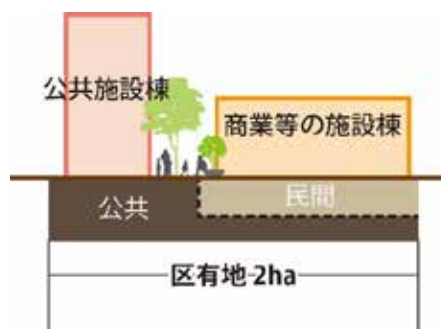
1. 周辺の住宅の建替え支援(仮移転にも対応)や防災拠点の形成などに活用してほしい
2. 商業や飲食の店舗、映画館等の民間施設を誘致して、賑わいづくりに活用してほしい
3. 民間事業者による多様な世代に対応したマンションや学生専用、社員寮などを作り、若者世代や子育て世代を呼び込んでほしい
4. 民間マンションと公的共同住宅の両方を作ることに活用してほしい
5. 新たな業務施設(オフィスビル)を誘致して、働く場づくりに活用してほしい
6. 大学、短大、専門学校などの教育機関の誘致に活用してほしい
7. その他()
8. 民間施設は原則として不要である
9. わからない

問38 公共用地（区有地）の再整備地区（区有地2ha）について、将来も区が土地を所有しながら民間事業者を活用して再整備（民間施設＋公共施設）をする場合、あなたの考えに近い番号1つに○印をつけてください。

1. 商業を想定した民間活用

民間施設：商業施設（4階建て）
（大規模小売店舗や飲食店、ミニ映画館、体験型スポーツ、イベント広場など）

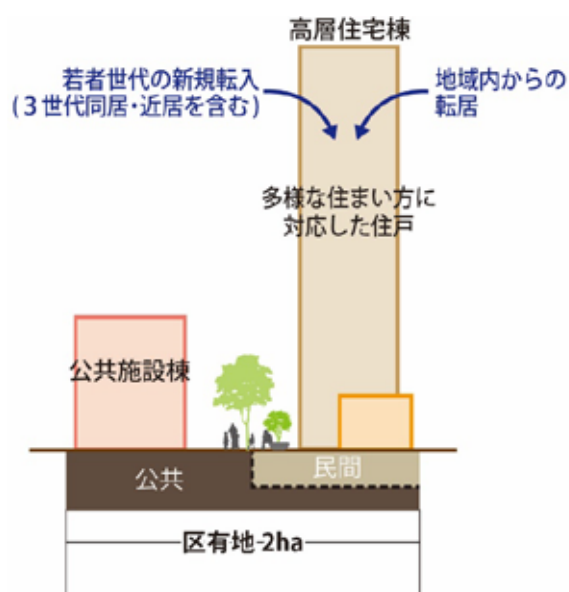
公共施設（5階建て）



2. 超高層マンションを想定した民間活用

民間施設：分譲マンション
（定期借地権付き）
（31階建て、850戸）
＊1階はスーパー、子育て支援サービス

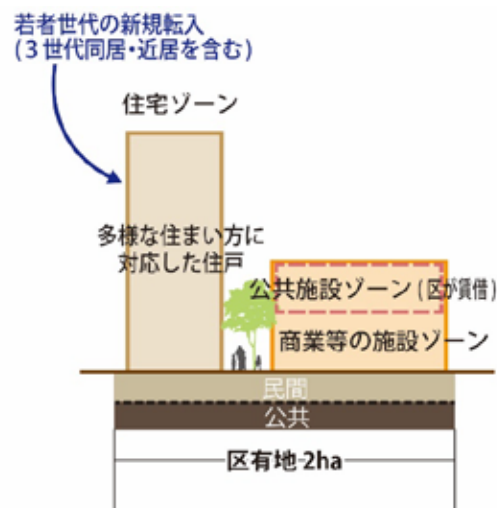
公共施設（5階建て）



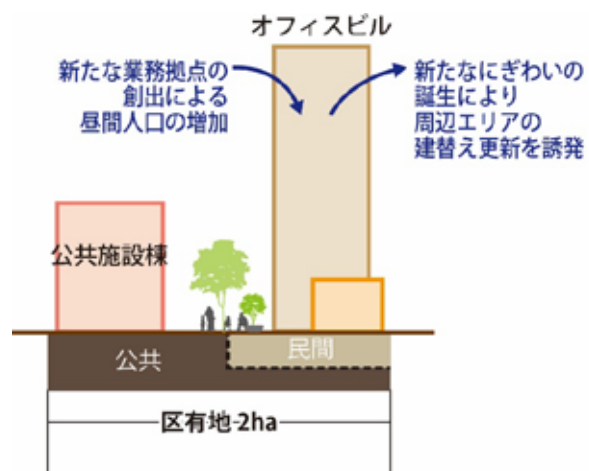
3. （商業等＋公共施設の合築）と（高層マンション）を想定した民間活用

民間施設：①商業施設（1～4階）
公共施設（5階）
＊公共施設は民間施設の一部を賃貸し、テナントとして入ります

民間施設：②分譲マンション
（定期借地権付き）
（12階建て、200戸）



4. 業務(オフィスビル)を想定した民間活用
 民間施設：オフィスビル（20階建て）
 ＊1階は飲食店街
 公共施設（5階建て）



5. わからない

6. その他 1から4以外にあなたが考える整備のイメージがあれば下記にお書きください。

14. 再整備地区に導入する公共施設の機能（サービス）について伺います。
（素案特集11ページをご覧ください）

問39 現在、再整備地区内にある公共施設のうち、特に重要と思う番号に○印をつけてください。（複数回答可）

1. 健康相談、保健指導及び健康診査等の地域保健サービス
2. 戸籍に関する証明、国民健康保険や介護保険等の各種行政サービスに関する手続き
（総合窓口）
3. 集会室スペース
4. 音楽練習スペース
5. 情報コーナー
6. イベントホール（レクリエーションホールを含む）
7. 乳幼児親子の居場所や子育て相談
8. 図書館
9. 憩いスペース（喫茶室、カフェ）
10. その他（ ）
11. わからない

問40 公共施設の機能として、新たなものを導入すべきと思うものを最大5つまであげてください。

例：・地域活動団体がまちづくりを協議する共有スペース

・多目的ホール

・ギャラリーモール（イベントや展示会） など

1. （ ）
2. （ ）
3. （ ）
4. （ ）
5. （ ）

問4 1 今まで旧高七小跡地では、「(仮称)シニア活動センター」において、主に以下の選択肢に挙げている機能を設けることとしていました。今回再整備地区全体の活用を考えることとなり、再検討を進めています。
そこで、今まで検討されていたもののうち、今後あなたが必要と考える機能に○印をつけてください。(複数回答可)

1. シニア世代の就業・就労を支援するための機能
2. シニア世代のボランティア活動の担い手を育成・支援するための機能
3. シニア世代の様々な活動に関する情報の提供、相談窓口機能
4. シニア世代の活動団体を支援するための事務局機能
5. 高七小メモリアルスペースなどの展示機能
6. その他()

15. その他、公共用地の再整備に関して、ご意見がありましたらご記入ください。

16．特に素案の全体を通してご意見がありましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

(5) 参考

①大東文化大学アンケート

○目的

グランドデザインのターゲットとなる若者の意向を把握し、住民アンケート結果を補完するため、高島平地域内にキャンパスが在り、平成 20 年より包括協定も結んでいる大東文化大学に依頼し、在学生を対象に地域住民と同じアンケートを実施しました。

○配布範囲・方法

大東文化大学地域連携センターを通じて学生にアンケート配布、回収

○実施期間

平成27年5月1日(月)～21日(金)

○配布物

高島平地域グランドデザイン素案特集、アンケート回答票、

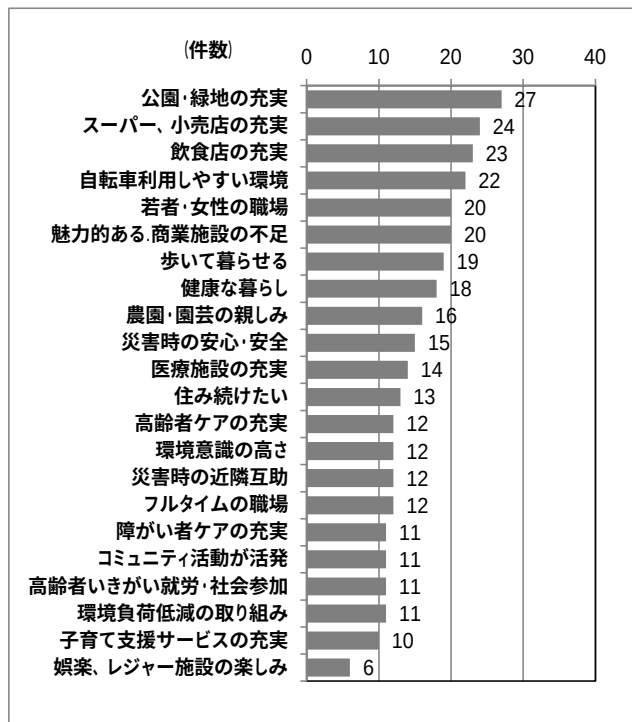
○配布数・回収数（回収率）

配布 100 部、回収 55 部（55%）

○アンケート分析

問 1 0 地域の現況の認識 * 「そう思う」「まあまあそう思う」の合計値

グラフ：問 1 0 地域の現況の認識

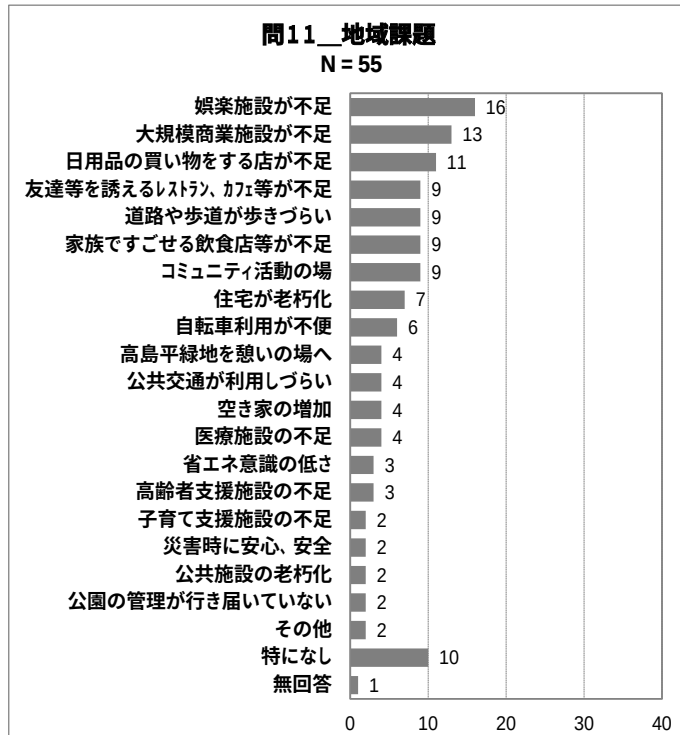


住民アンケートと同様に、「公園緑地の充実」が1位となりました。「スーパーや小売店、飲食店などの日常の暮らしに関する商業施設が充実している」と認識している一方で、「魅力ある商業施設は不足している」とも感じています。

住民アンケートでは「わからない」という回答が多かった「若者や女性がアルバイトやパートができる職場」については、大学生は充実していると感じています。

問 1 1 地域課題について

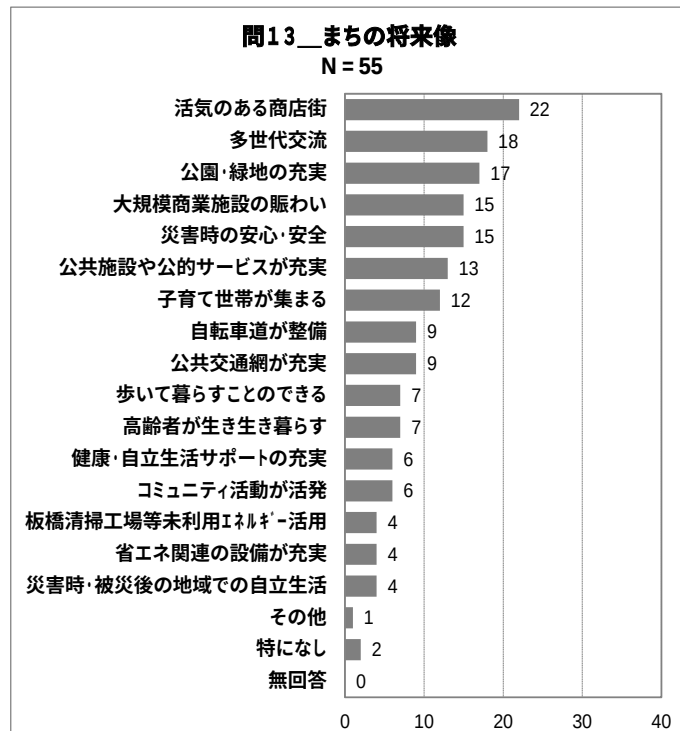
グラフ：問 1 1 __地域課題



住民アンケートと同様に、「娯楽施設」、「大規模商業施設」、「日用品の買い物をする店」など、買い物環境が課題と認識しています。

問 1 3 20年後に希望するまちの姿（将来像）について

グラフ：問 1 3 __まちの将来像



「活気ある商店街」が1位となり、住民アンケートで4位だった「高齢者が生き生き暮らすことのできるまち」の代わりに「大規模商業施設の賑わい」が4位に入っています。

大学生は、「商業環境の充実による賑わい」に、より強く関心を持っています。

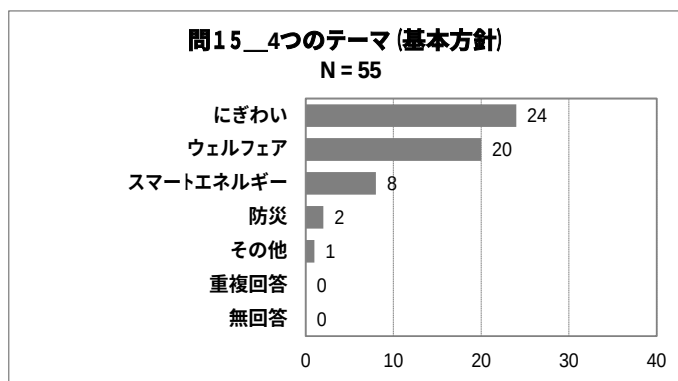
問14 素案で提案した「将来像のキャッチフレーズ」の主な変更意見について

素案で提案した「将来のキャッチフレーズ」の主な変更意見では、7件の回答があり、以下の通りです。

「人々が住みよいまち in 高島平」、「高島平を見に行こう」、「健康家族の高島平」、「緑あふれる”高島平」、「若者と高齢者が調和する町」、「東京第二の都市 高島平」、「世界の中心 高島平」

問15 4つのテーマ（基本方針）のうち、最優先すべき項目

グラフ：問15 4つのテーマ（基本方針）

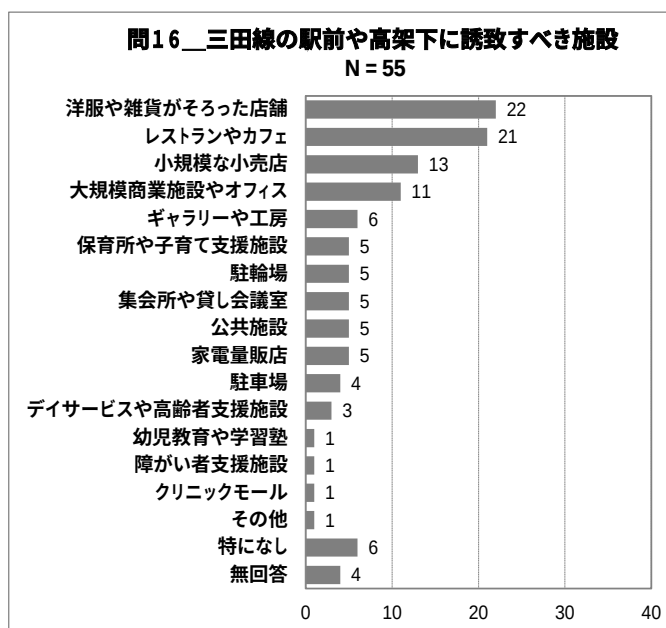


住民アンケートでは、「ウェルフェア」、「防災」、「にぎわい」、「スマートエネルギー」の順でしたが、大学生は「にぎわい」が1位、防災は最下位という結果になっています。大学生は防災よりスマートエネルギーを重視していることが伺えます。

■「にぎわい」について

問16 三田線の各駅前や高架下に誘致すべき施設

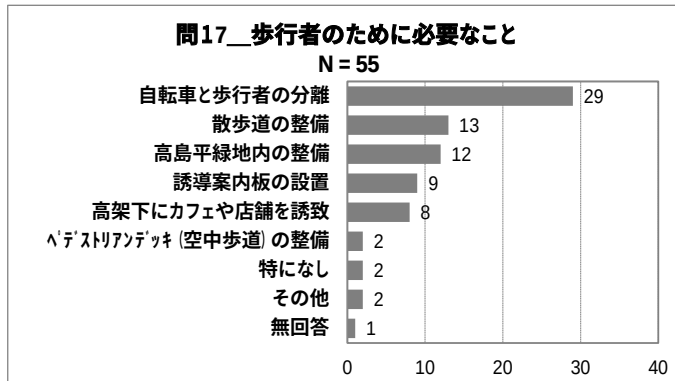
グラフ：問16 三田線の駅前や高架下に誘致すべき施設



住民アンケートで6位だった「洋服や雑貨がそろった店舗」が1位となっています。住民アンケートの上位5項目には高齢者支援施設や駐輪場、保育所等の子育て支援施設がありましたが、大学生の回答はすべて商業施設のにぎわい関連項目が占めています。

問17 歩行者のために必要なこと

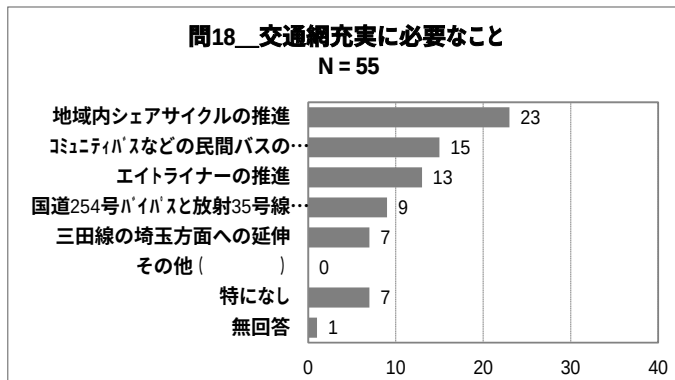
グラフ：問17 歩行者のために必要なこと



住民アンケートと同様に、「自転車と歩行者の分離」の必要性が高くなっています。

問18 交通網充実に必要なこと

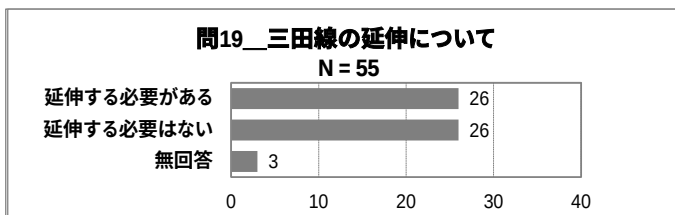
グラフ：問18 交通網充実に必要なこと



住民アンケートで1位だった「三田線の延伸」は大学生では最下位となり、代わりに「地域内シェアサイクルの推進」が1位に挙げられています。

問19 三田線の延伸について

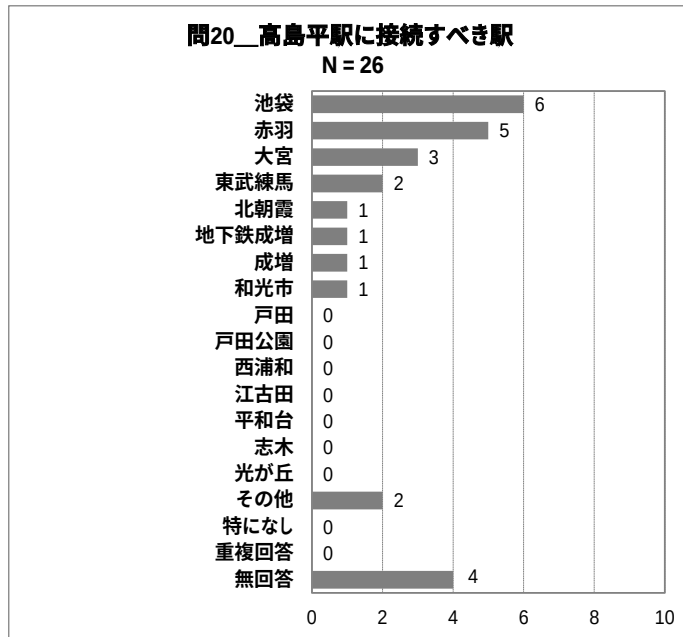
グラフ：問19 三田線の延伸について



「延伸する必要がある」と「延伸する必要がない」が同数となっています。

問20 西高島平駅から接続すべき駅

グラフ：高島平駅に接続すべき駅

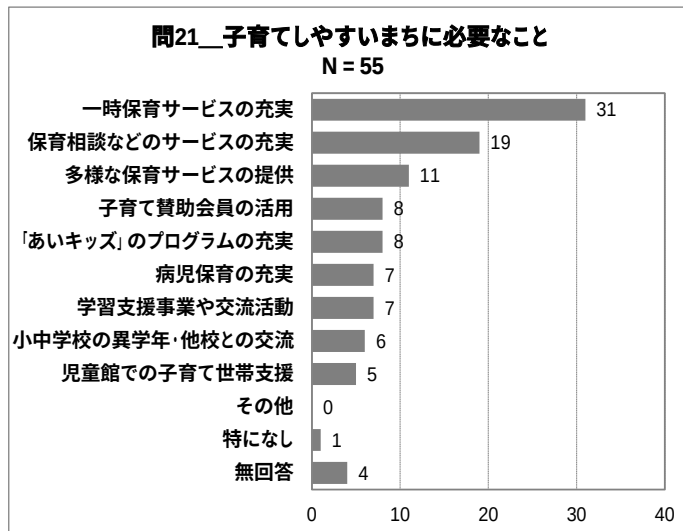


「池袋」が1位、次いで「赤羽」、「大宮」の順となっています。住民アンケートで上位だった「成増」、「和光市」については、それぞれ1名のみの結果となっています。

■「ウェルフェア（健康福祉）」について

問21 子育てしやすいまちに必要なこと

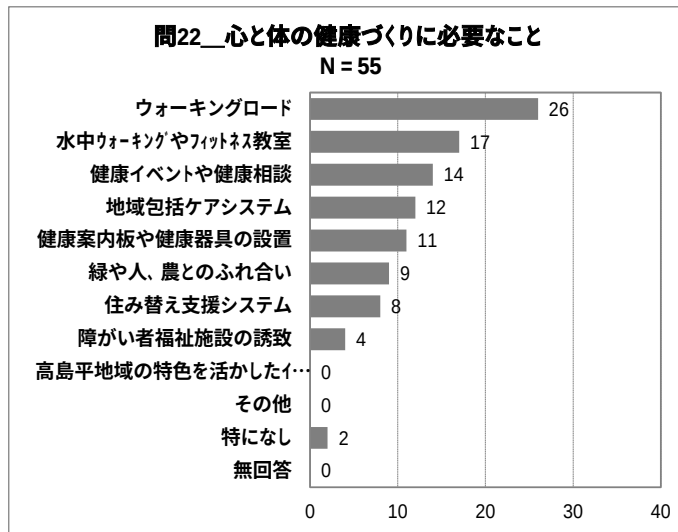
グラフ：問21__子育てしやすいまちに必要なこと



住民アンケートと同様に、「一時保育」や「多様な保育」など保育に関わるサービスの充実が重要視されていることが伺えます。

問 2 2 心と体の健康づくりに必要なこと

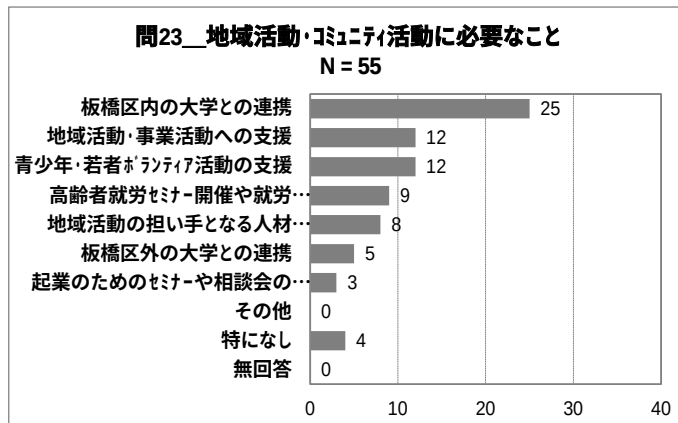
グラフ：問 2 2 __心と体の健康づくりに必要なこと



心と体の健康づくりには、ウォーキングやフィットネス、健康イベントなどの体を動かすことが重要と考えていることが伺えます。

問 2 3 活発な地域活動・コミュニティ活動に必要なこと

グラフ：問 2 3 __地域活動・コミュニティ活動に必要なこと

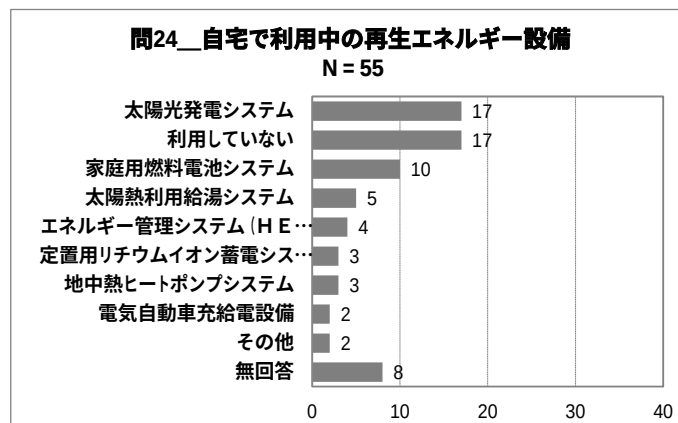


住民アンケートと同様に、「板橋区内の大学との連携」が1位となっています。

■「スマートエネルギー」について

問 2 4 自宅で利用中の再生エネルギー設備

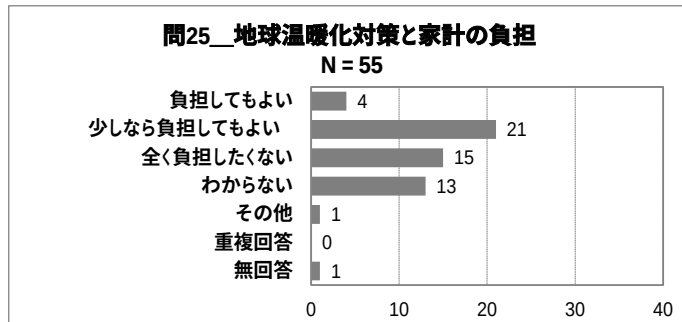
グラフ：問 2 4 __自宅で利用中の再生エネルギー設備



「太陽光発電システム」と「利用していない」が共に17件ですが、利用していない回答者は、住民アンケート(50.3%)に比べて、大学生(31%)となっており、再生エネルギー設備の利用者は比較的多いことが伺えます。

問 2 5 地球温暖化対策と家計の負担

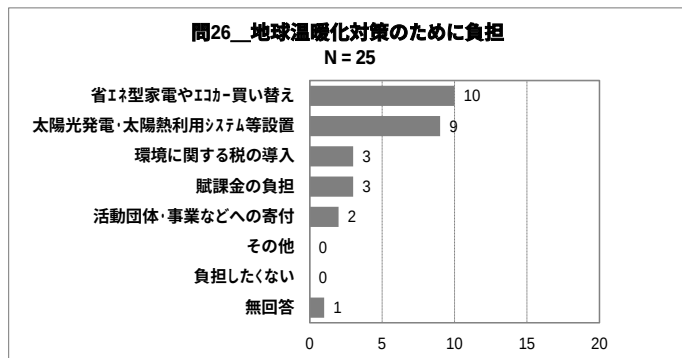
グラフ：問 2 5 __地球温暖化対策と家計の負担



回答者の傾向は、住民アンケートと同様の結果となっています。

問 2 6 地球温暖化対策のための負担

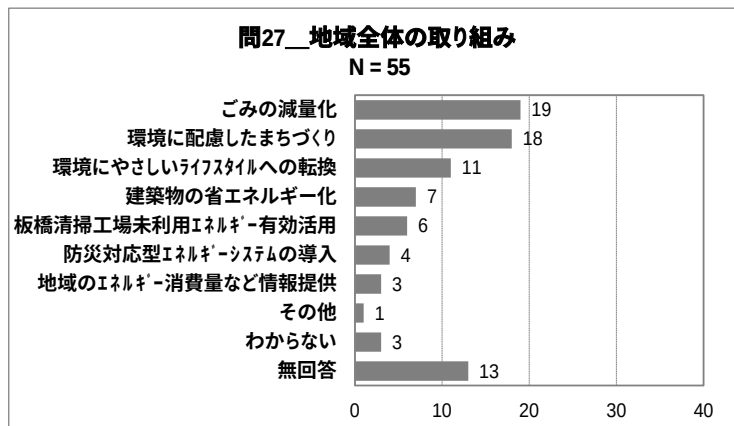
グラフ：問 2 6 __地球温暖化対策のための負担



回答者の傾向は、住民アンケートと同様の結果となっています。

問 2 7 地域全体の取り組み

グラフ：問 2 7 __地域全体の取り組み

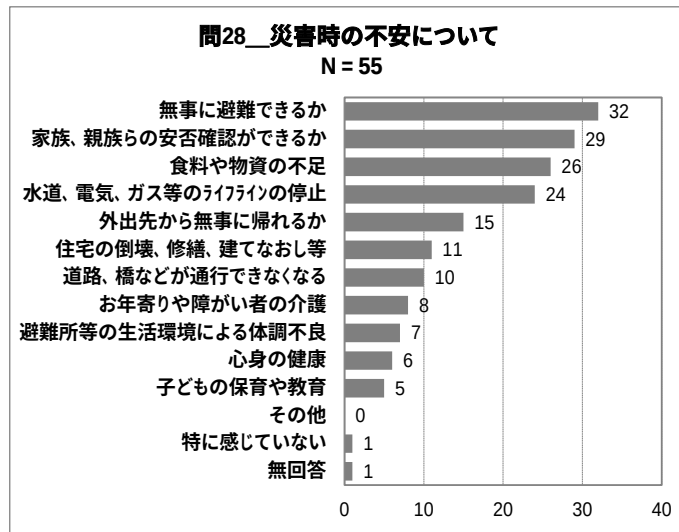


住民アンケートで1位だった「板橋清掃工場未利用エネルギーの有効活用」は5位となり、代わりに「ごみの減量化」、「環境に配慮したまちづくり」が上位に挙げられています。

■「防災」について

問 2 8 災害時の不安

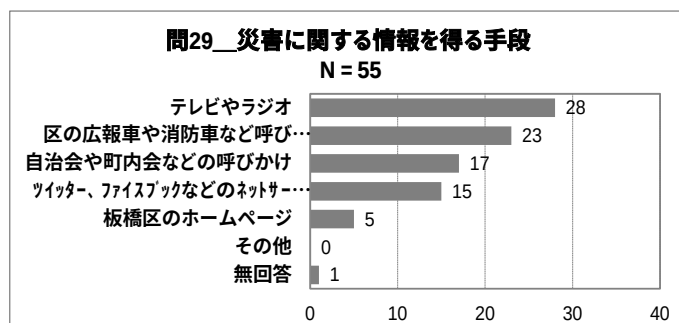
グラフ：問 2 8 __災害時の不安について



多少の順位の入れ替わりはありますが、住民アンケートと同様の傾向となっています。

問 2 9 災害に関する情報を得る手段

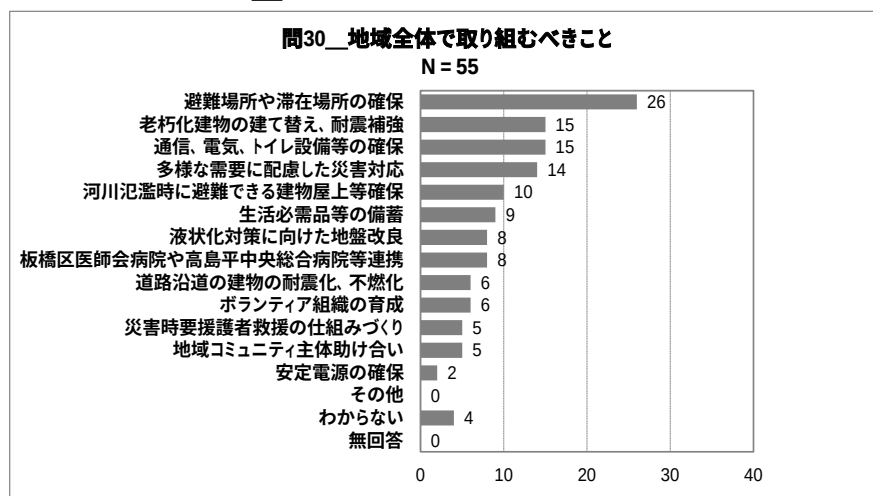
グラフ：災害に関する情報を得る手段



順位は住民アンケートと同じ結果となりました。住民アンケートでは「ツイッターやフェイスブックなどのネットサービス」をあげた若者世代が41%でしたが、大学生では 27%と低い結果となっています。

問 3 0 地域全体で取り組むべきこと

グラフ：問 3 0 __地域全体で取り組むべきこと



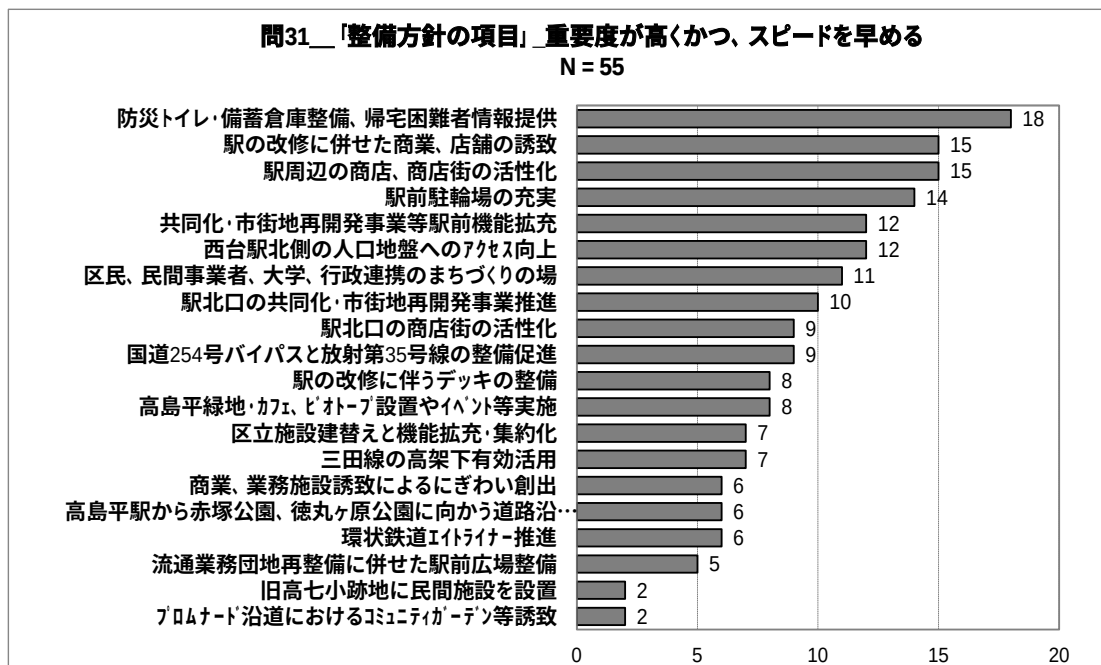
「避難場所や滞在場所の確保」が 1 位に挙げられており、2 位以下と 11 件の差が付いています。

■整備方針について

問31 「整備方針の項目」のうち、

○重要度が高くかつ、取り組みスピードを早めるべきとの意見が多かったもの

グラフ：「整備方針の項目」重要度が高くかつ、スピードを早める

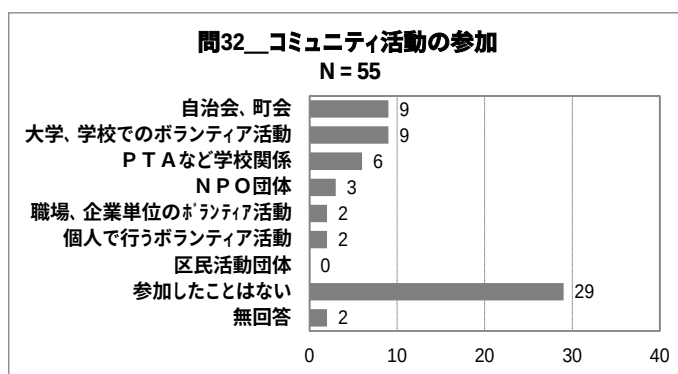


駅及びその周辺の商業環境の充実に関連した整備項目が上位に挙げられています。また、大学の最寄駅である「西台駅北側の人工地盤へのアクセス向上」についても、関心が高まっています。

■コミュニティ活動について

問32 参加あり又は参加中のコミュニティ活動で多いもの

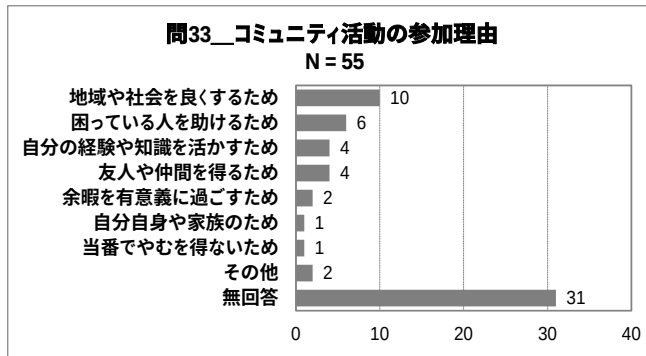
グラフ：問32_コミュニティ活動の参加



コミュニティ活動に参加したことがない人が 5 割を超えています。

問 3 3 参加理由で多いもの

グラフ：問 3 3 __コミュニティ活動の参加理由



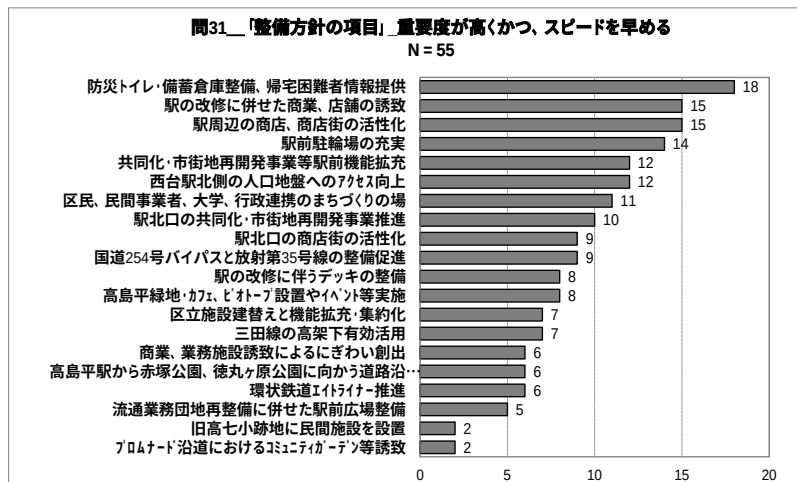
コミュニティ活動に参加していない人が多いため、参加理由も無回答が多い結果となっています。

参加している人の中では、「地域や社会を良くする」「困っている人を助ける」などの社会貢献を参加理由として挙げています。

問 3 4 地域の活性化に必要な活動について

○重要度が高くかつ、参加したいとの意見が多かったもの

グラフ：問 3 4 __「地域に必要な活動」__重要度が高くかつ、参加したい

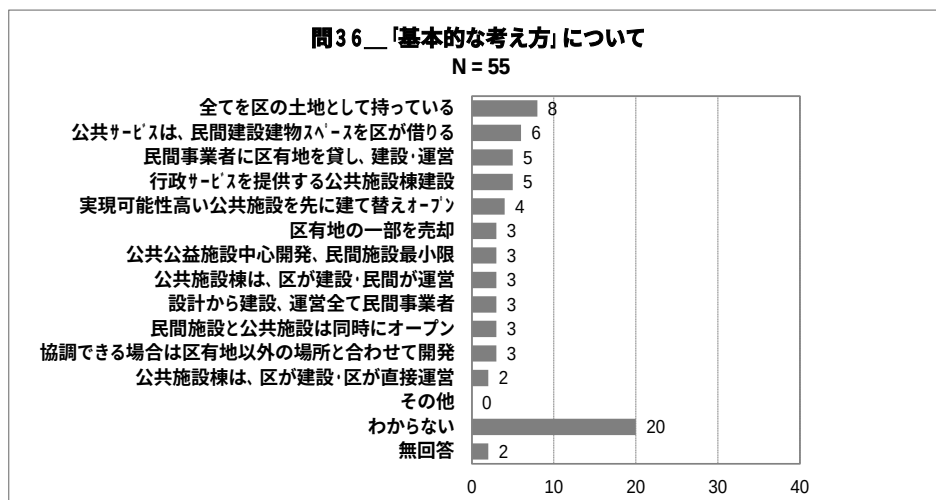


住民アンケートと同様に、「お祭りなどの地域行事」が1位に挙げられています。

■公共用地の再整備基本計画について

問 3 6 「基本的な考え方」のうち、多かった考え

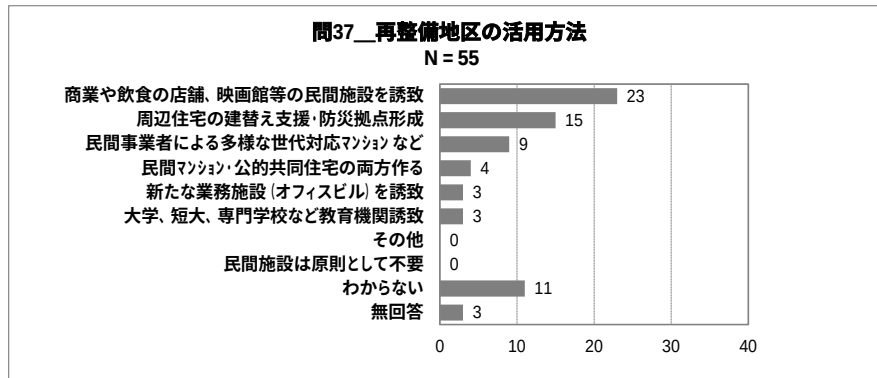
グラフ：問 3 6 __「基本的な考え方」__について



「わからない」という回答者が 20 人（36%）となっています。

問37 再整備地区の活用方法について

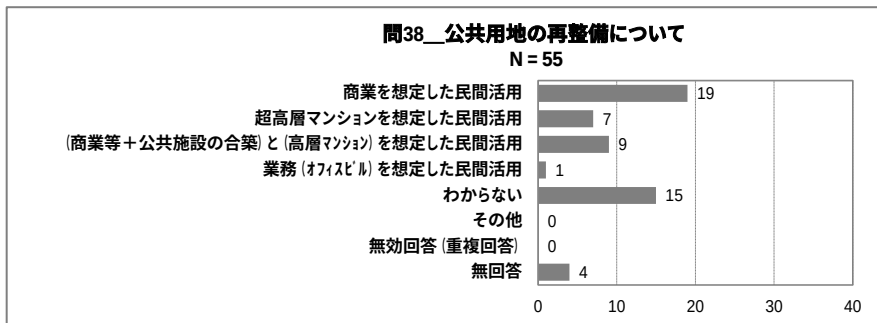
グラフ：問37 再整備地区の活用方法



上位3位は住民アンケートと同じ傾向となっています。

問38 区有地は将来も区が所有しつつ、民間事業者が再整備（民間施設＋公共施設）をする場合

グラフ：問38 公共用地の再整備について

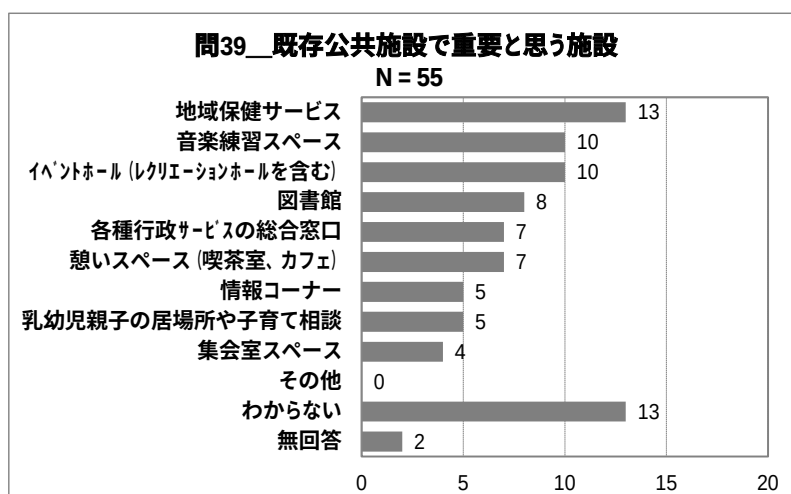


商業を想定した民間活用に関心が高くなっていますが、わからないという回答者も同程度います。

再整備地区に導入する公共施設の機能（サービス）について

問39 地区内にある既存の公共施設のうち、特に重要との意見が多かったもの

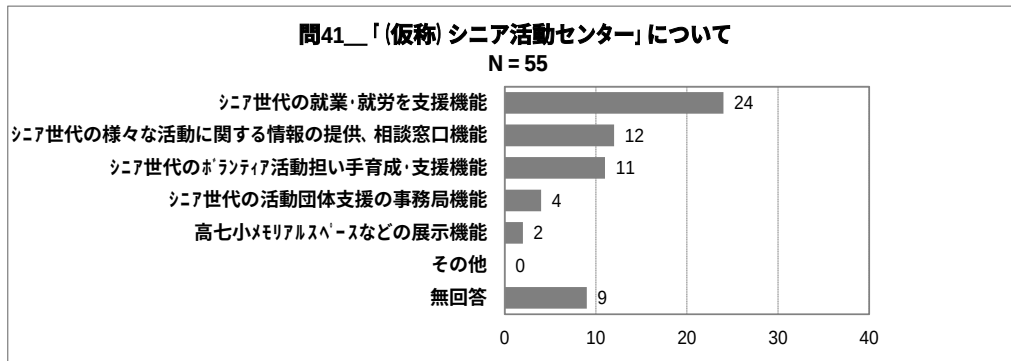
グラフ：問39 既存公共施設で重要と思う施設



住民アンケートと異なり、音楽練習スペースやイベントホールが高い結果となっています。

問41 (仮称) シニア活動センター機能のうち、今後も必要と考えるもの

グラフ：「(仮称) シニア活動センター」について



順位は、住民アンケートと同じ結果となっています。

その他、公共用地の再整備に関する自由意見が以下の通り回答されていました。

■公共用地の再整備に関する自由意見（回答者数 0 件）

■素案全体を通じた自由意見（回答数 2 件、3 件）

【交通機関について】

- ・今の三田線の路線では住む気にはなれない。 1 件
- ・無料のバイク置き場、バスの割引・無料化は必須 1 件

【アンケートについて】

- ・紙は古紙を使用し、税金を節約するべき 1 件

○アンケート総括

[現況、課題、将来像]

- ・大学生は、魅力ある商業施設や娯楽施設などの不足を強く認識しており、「活気ある商店街のあるまち」や「大規模商業施設のにぎわいのあるまち」を望んでいます。
- ・公園、緑地が充実していることも認識しており、将来も充実したまちを望んでいます。

[4つのテーマ]

- ・現況、課題からもみられるように、「にぎわい」が一番最優先すべきテーマとなりました。また、「防災」より「スマートエネルギー」を重視しています。

[にぎわい]

- ・三田線高架下には「公益施設」や「駐輪場」よりも商業施設の賑わいを誘致すべきと考えています。
- ・歩行者空間の充実のためには「自転車と歩行者の分離」が必要と考えており、交通網の充実に向けては「地域内シェアサイクルの推進」が必要と考えているこ

とから、自転車に対する関心が高いことが伺えます。

- ・三田線については、延伸する、しないが同数となり、若者が多く集まる繁華街である池袋への延伸を望む人が多い結果となっています。

[ウェルフェア]

- ・子育てしやすいまちについては、保育に関連するサービスが必要と考えており、健康づくりにはウォーキングやフィットネス、健康イベントなどの体を動かすことが重要と考えています。

[スマートエネルギー]

- ・再生エネルギー設備の利用者は、地域住民に比べ比較的多いようですが、地球温暖化対策に対する負担の考え方は、地域住民と同じ傾向となっています。
- ・住民アンケートで関心の高かった「清掃工場未利用エネルギーの有効活用」については、あまり関心がないようです。

[防災]

- ・傾向は住民アンケートと同じですが、予想に反して災害時に「ツイッターやフェイスブック」を活用して情報収集している人が少ない結果となっています。

[整備方針]

- ・駅及びその周辺の商業環境の充実に関連した整備項目が上位にあがっています。また、大学の最寄駅である「西台駅北側の人工地盤へのアクセス向上」についても高い結果となっています。

[コミュニティ活動]

- ・参加したことがない人が多く、お祭りやイベント、セミナーなど比較的簡単に参加できるものに関心が集まっています。

[公共用地の再整備]

- ・基本的な考え方に対しては「わからない」と答えた人が多く、活用方法としては商業施設の誘致を望んでいます。

②いたばし・タウンモニター、いたばし・eモニターアンケート

○アンケート名称

まちづくりと高島平地域について

○目的

広く区民から意見や要望を聴取することを目的に、地域住民に対して実施したアンケート調査とは別に、区民が求めているまちの在り方や高島平地域の印象等に関して、いたばし・タウンモニター、いたばし・eモニターに対して、アンケート調査を実施しました。

○配布範囲・方法

	いたばし・タウンモニター	いたばし・eモニター
調査対象	51名	97名
調査方法	手渡し（一部郵送）	インターネットを使ったアンケートシステム
調査期間	平成27年5月21日（木） から 平成27年6月19日（金） まで	平成27年5月25日（月） 午後 2時から 平成27年6月19日（金） 午後 11時まで
回収結果	47名 (92.2%)	68名 (70.1%)

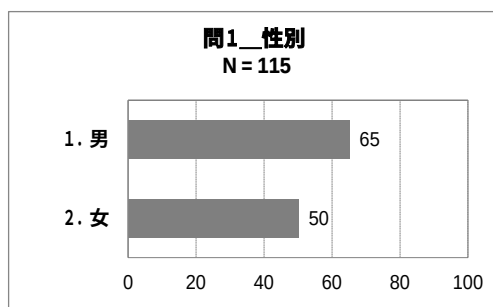
○配布物

調査案内、「まちづくりと高島平について」、アンケート回答票、

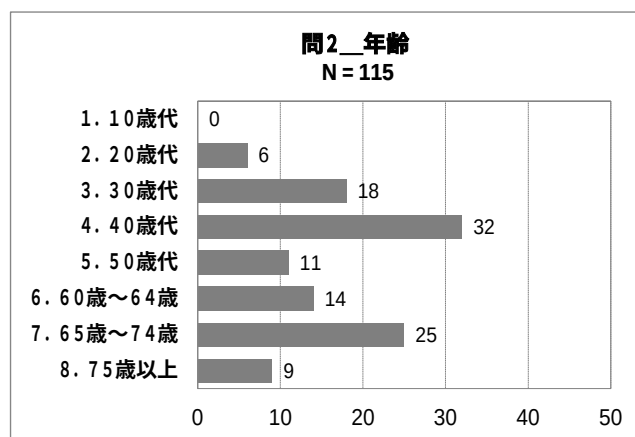
○タウンモニター、eモニターアンケート調査集計・分析

【回答者の属性】

グラフ：問1 性別

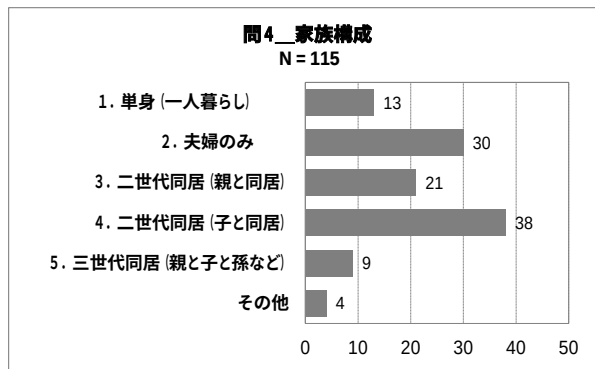


グラフ：問2 年齢

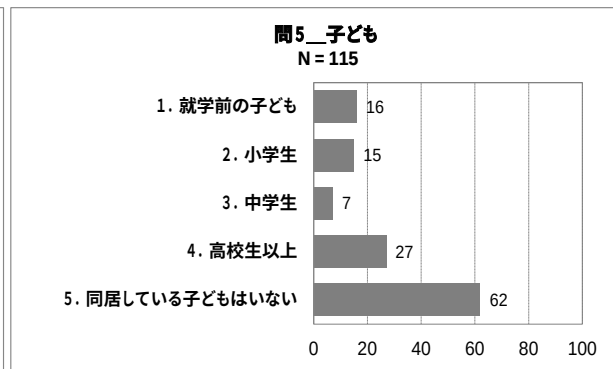


問3の住いの地域については、高島平地域（一丁目～九丁目）が7件、高島平地域以外の地域については、108件となっています。

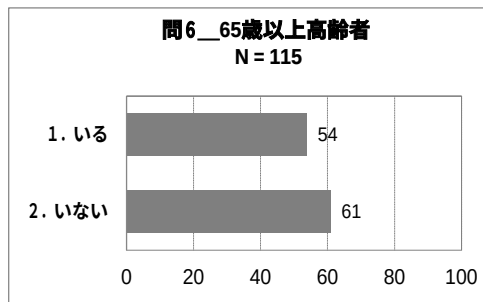
グラフ：問4 家族構成



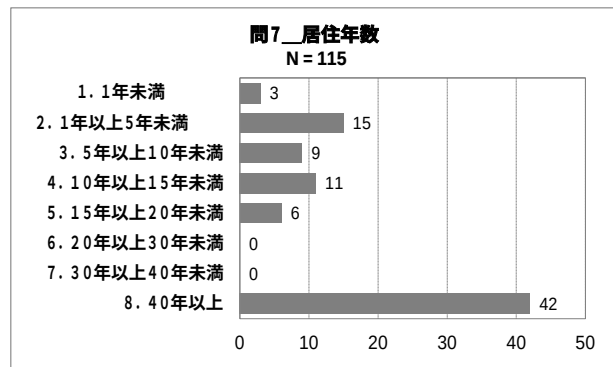
グラフ：問5 子ども



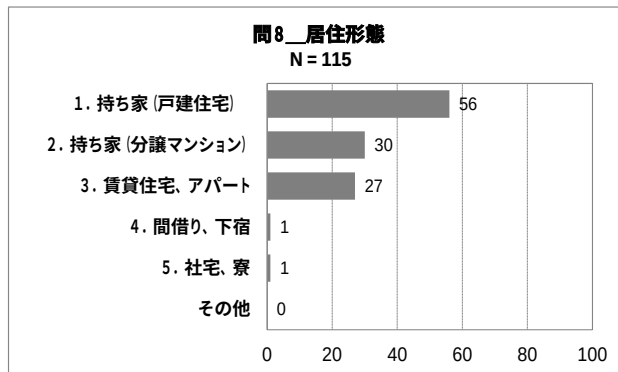
グラフ：問6 65歳以上の高齢者



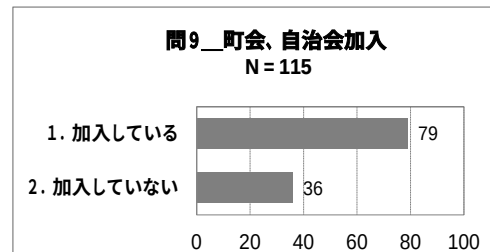
グラフ：問7 居住年数



グラフ：問8 居住形態



グラフ：問9 町会・自治会への加入



【集計・分析】

アンケート結果を分析するにあたって、全体の傾向に差異があると思われる世代区分別によるクロス分析を行います。

	世代区分 (年齢区分)		総数
〈1〉	20 歳代、30 歳代、40 歳代	若者世代	56
〈2〉	50 歳代、60 歳～64 歳	中年世代 [高齢予備軍]	25
〈3〉	65 歳～74 歳、75 歳以上	高齢世代	34
合計			*無回答票 0 票

問10 住み替えを考えた場合の暮らしたいと思うまち

「日常の買い物をするスーパーや小売店が充実しているまち」、「公園・緑地が充実しているまち」「病院、医院などの医療施設が充実しているまち」、「災害時も安心、安全に過ごすことができるまち」が70%を超えており、日常生活が充実して災害時も安心なまちに暮らしたいと考えています。

○暮らしたいと思うまち×世代別

若者世代は、にぎわいや子育てに関連する「レストラン等の飲食店の充実」、「子育てサービスの充実」が中年世代、高齢世代よりも20%程高くなっていますが、高齢世代では「医療の充実」、「高齢者ケアの充実」、「高齢者の社会参加の機会」が若者世代に比べて20～30%高くなっています。一方、中年世代では「公園・緑地の充実」、「災害時の助け合いの仕組み」などが他の世代に比べて10～20%高くなっています。

問11 まちの将来像

重要と考えるまちの将来像については、ウェルフェア（41%）、防災（22.6%）、にぎわい（21.7%）、スマートエネルギー（2.6%）の順になっています。

○まちの将来像×世代別

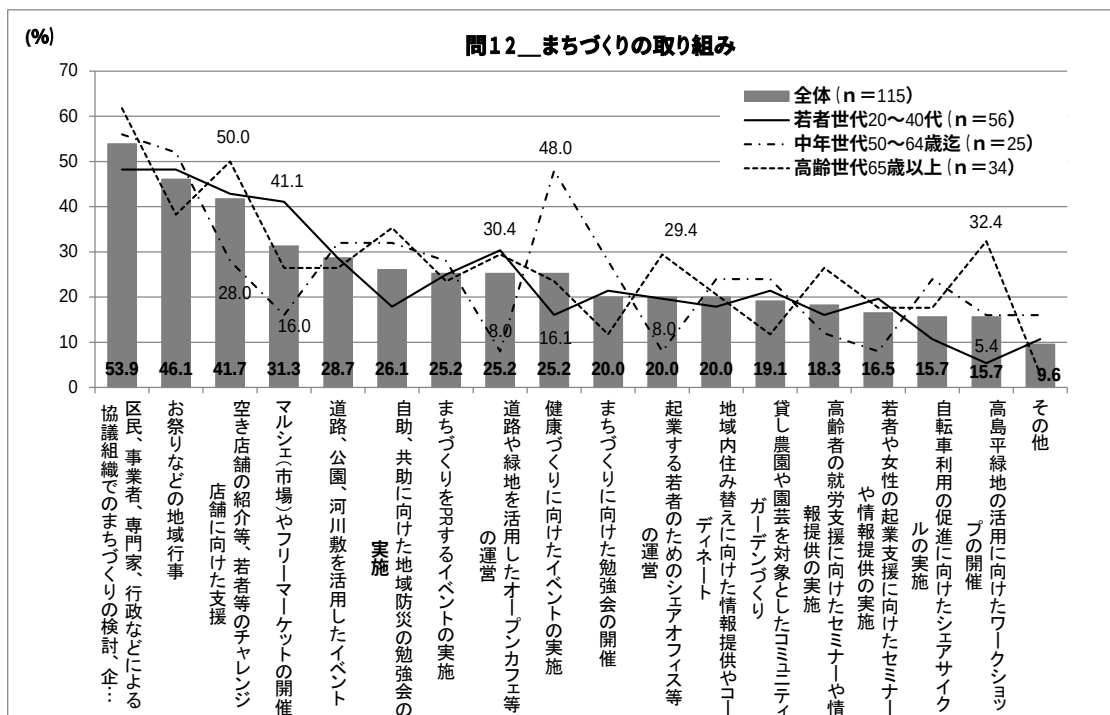
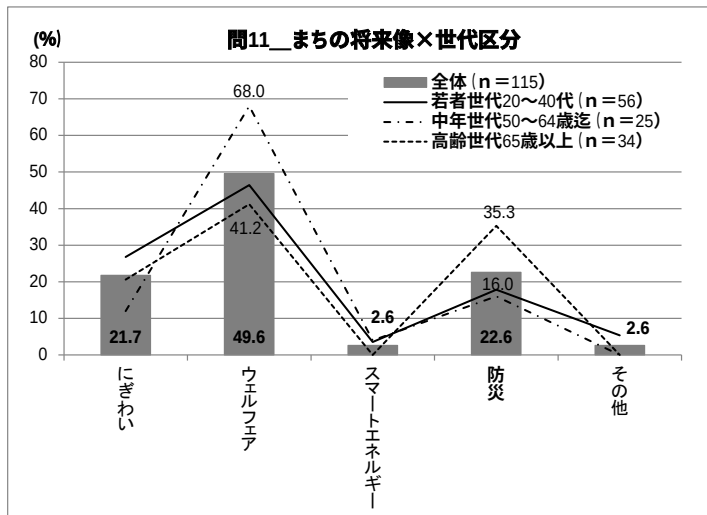
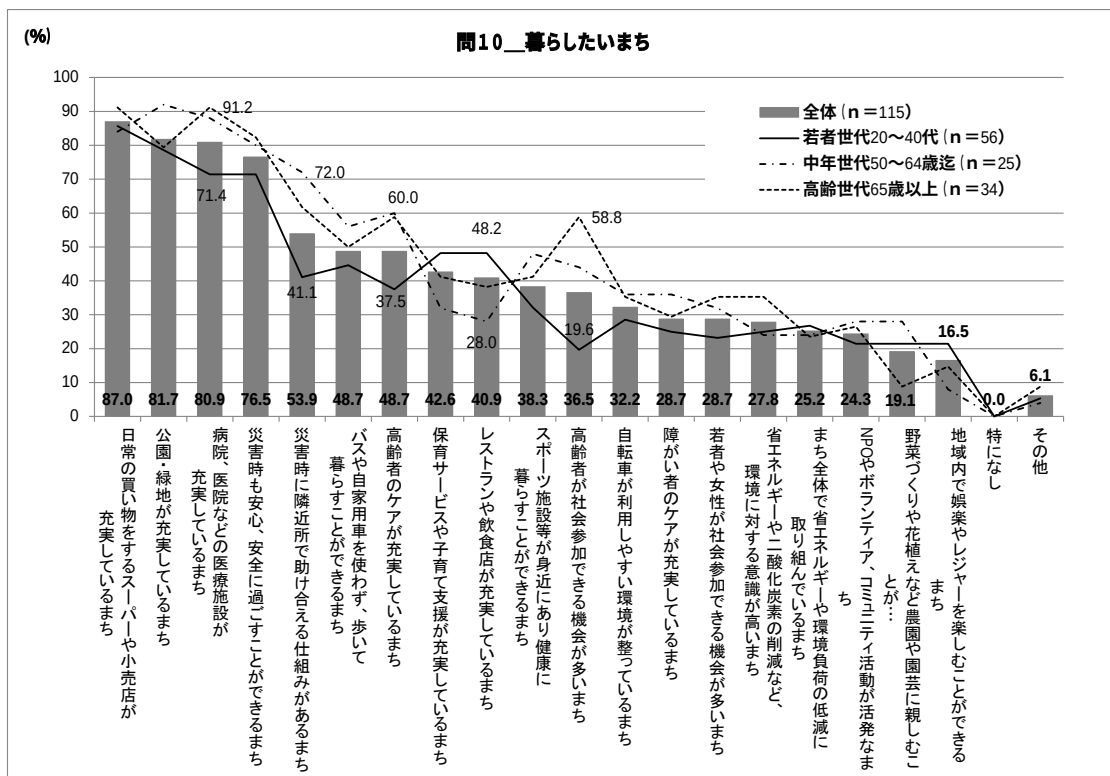
「ウェルフェア」に関しては中高年世代が68%と若者世代、高齢世代よりも20%程高く重要と考えており、高齢世代に入る前の世代として、身近な将来を見据えての回答であることが伺えます。一方、「防災」では高齢世代が若者世代、中高年世代と比較して20%高くなっています。

問12 まちの魅力をたかめるために必要なまちづくりの取り組み

「協議組織でのまちづくりの検討、企画、実施」、「お祭りなどの地域行事」、「空き店舗の紹介など若者等のチャレンジ店舗支援」が40%以上で、その他では、まちのにぎわいを呼び起こすための取り組みが上位に入っています。

○まちづくりの取り組み×世代別

若者世代は中年世代、高齢世代に比べて「道路、公園、河川時敷を活用したイベント」（51%）、「マルシェ、フリーマーケットの開催」（41%）などのイベントやフリーマーケットに関する取り組みが重要と考えています。一方、中年世代では「健康づくりに向けたイベントの実施」が48%と健康に関して重要視していることが伺えます。



問 1 3 民間活用事業者の活用方法

「商業施設等を誘致し、区内外から人を呼び込む」が 58%、「多様な世代に対応したマンション等をつくり、若者世代や子育て世代を呼び込む」が 40%、「教育機関を誘致して学生を呼び込む」が 33.9%で、「商業施設等の誘致」については 50%を超えています。

○民間活用事業者の活用方法×世代別

「商業施設等の誘致」に対して、若者世代が 66%、高齢世代が 44%で 20%程度の差が見られ、若者世代が商業施設等の誘致に期待していることが伺えます。一方、「教育機関の誘致」では高齢世代が 44%、若者世代が 26%で、当事者の若者世代よりも強く望んでいます。「新たな業務施設を誘致、働く人を呼び込む」についても、高齢世代が 38%で若者世代、中年世代よりも 20%程多く挙げています。

問 1 4 駅前に誘致すべき施設

「日常に買物ができるスーパーや小規模小売店」、「ゆっくり過ごすことのできるレストラン、カフェ」が 50%を超えており、次いで「図書館、ホールなどの公共施設」、「保育所や子育て支援施設」、「地域内外から人が集まる大型商業施設、オフィス」が上位 5 位に上がっています。商業・飲食施設などのにぎわいや駅前にあると便利な公共公益施設を望む人が多い結果となっています。

○駅前に誘致すべき施設×世代別

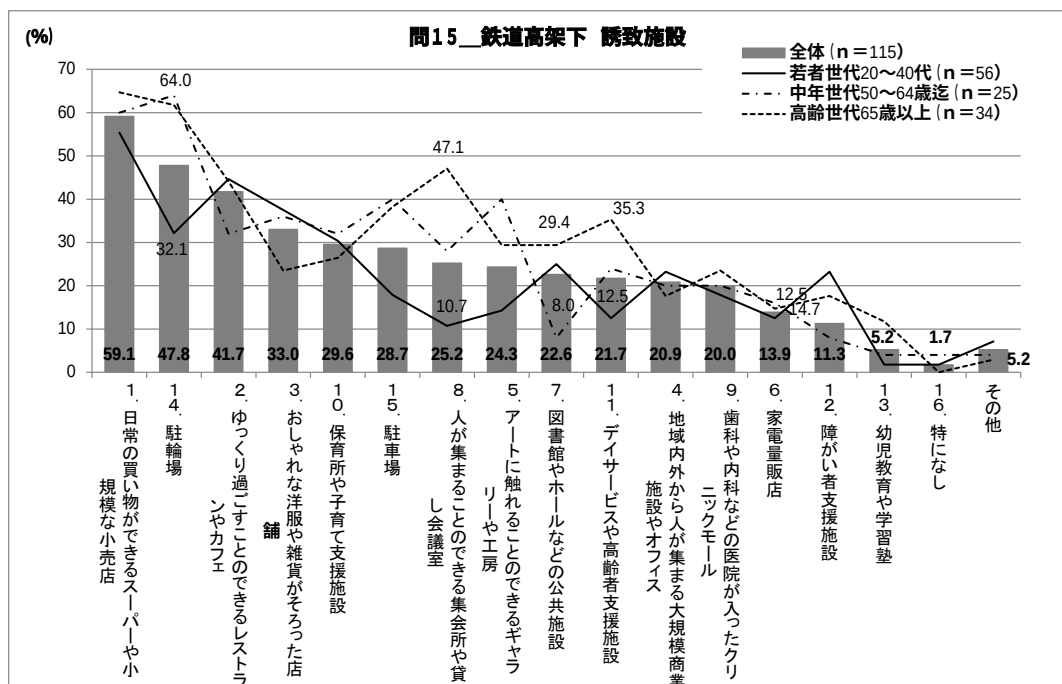
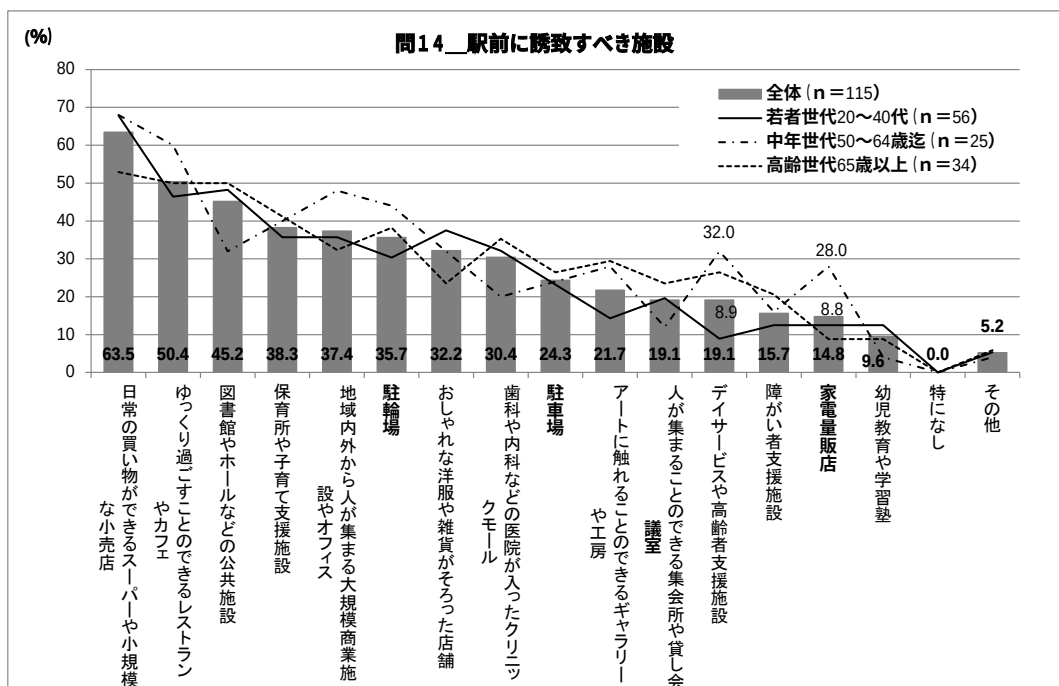
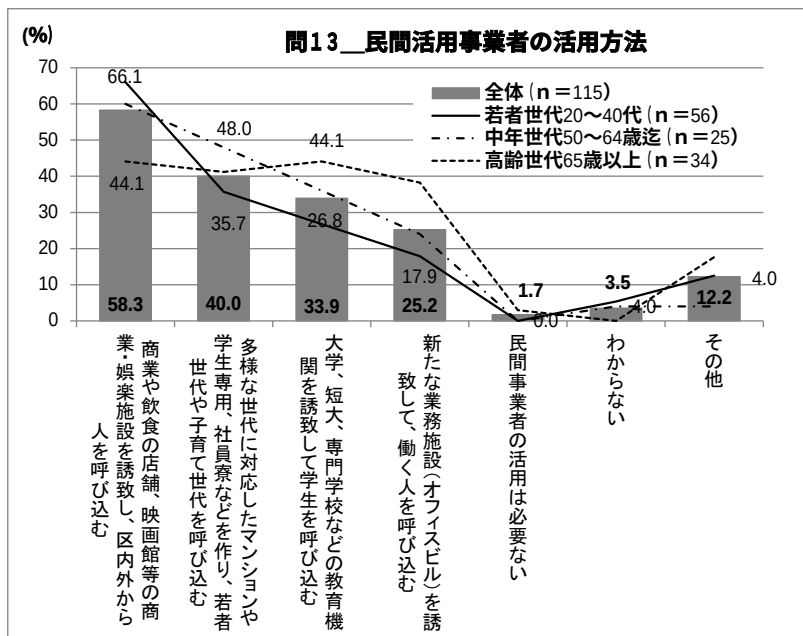
中年世代は、「レストラン・カフェ」、「商業・飲食施設」が他の世代よりも 20%程高く、若者世代は、「おしゃれな洋服や雑貨が揃った店舗」(37.5%)が中年世代、高齢世代よりも高くなっています。

問 1 5 立体化された鉄道高架下に誘致すべき施設

「日常の買い物ができるスーパーや小規模な小売店」、「駐輪場」、「ゆっくり過ごすことのできるレストラン、カフェ」が 30%を超えており、特に「日常の買い物ができるスーパーや小規模な小売店」については 60%近い選択率となっています。

○鉄道高架下誘致施設×世代別

高齢世代は、「駐輪場」(64%)、「人が集まることのできる集会所等」(47%)、「家電量販店」(47%)が他の世代と比べて高い選択率となっています。また、高齢世代が高く誘致を望んでいる項目に対して若者世代は関心が低い傾向にあります。



問16 交通施策として必要なもの

「自転車と歩行者の分離」(60%)、「コミュニティバスなどの民間バスの運行」(58%)は、6割近くが重要と考えています。身近な移動手段等に関する施策に対して必要性を感じていることが伺えます。

○交通施策×世代別

「自転車と歩行者の分離」と「コミュニティバスの運行」は、すべての世代において5割を超えており関心が高いことが伺えます。

問17 子育てしやすいまちを実現するために必要なもの

「預かり保育などの一次保育サービスの充実」(67%)、「認可・認証保育所等多様な保育サービスの提供」(63%)の2項目が6割を超えており、多様な保育サービスに対して必要と考えています。

○子育てしやすいまち×世代別

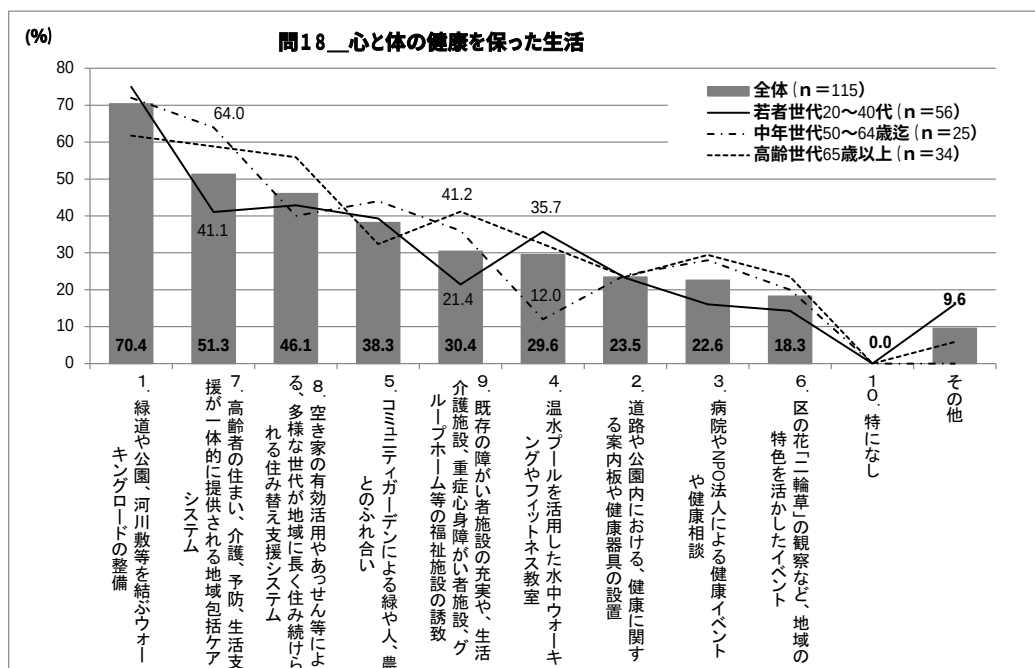
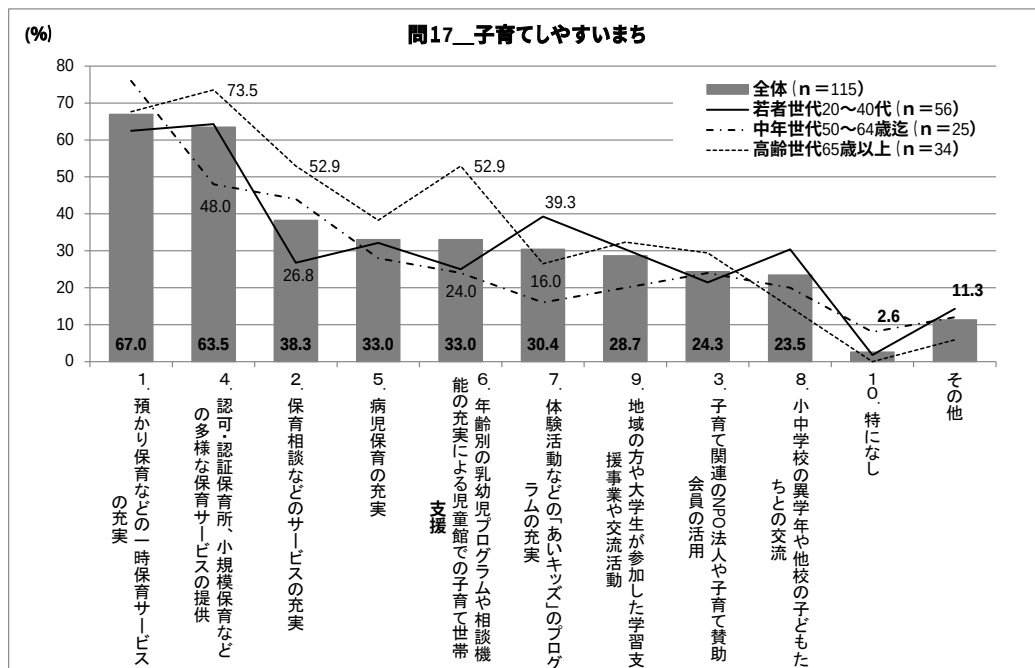
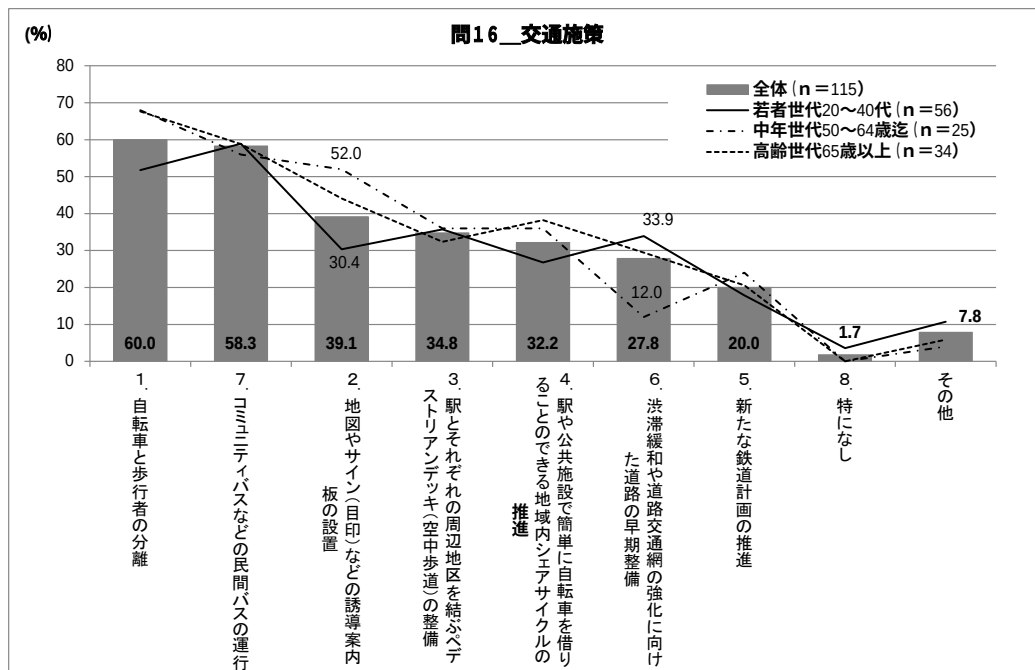
若者世代よりも高齢世代の方が必要と考えており、特に「年齢別の乳幼児プログラムや相談機能の充実による児童館での子育て世帯支援」は高齢世代52%に対して若者世代25%と倍以上の差が見られます。

問18 心と体の健康を保った生活を送るために必要なもの

「緑道や公園、河川敷等を結ぶウォーキングロードの整備」(60%)、「包括ケアシステム」(41%)、「空き家の有効活用やあっせん等による住替えシステム」(40%)が上位3項目となりました。特に「ウォーキングロードの整備」は他の3項目に比べて20%の差がついています。

○心と体の健康を保った生活×世代別

「緑道や公園、河川敷等を結ぶウォーキングロードの整備」は全ての世代において6割を超えていますが、「包括ケアシステム」は高齢世代や中年世代が5割を超えているのに比べ、若者世代は4割と低くなっています。



問 1 9 地域活動の参加やコミュニティ活動を活発化するために必要なもの

上位 3 項目は、「板橋区内の大学との連携」(77%)、「地域活動の担い手となる人材の育成」(48%)、「青少年や若者ボランティア活動の支援」(42%) となり、コミュニティの活性化に対して地域の大学生や若者に対する期待が高いことが伺えます。

○地域活動の参加やコミュニティ活動×世代別

「大学との連携」は、各世代とも 7 割を超えていますが、「地域活動の担い手になる人材の育成」については若者世代は他の世代の半分程度と低くなっています。

問 2 0 現在又はこれまでに参加したことのある「コミュニティ活動」

「自治会、町会」が 57%、「PTA など学校関係」が 29% と、なんらかのコミュニティ活動の参加経験がある一方、20% は「参加したことがない」と回答しています。

○コミュニティ活動への参加×世代別

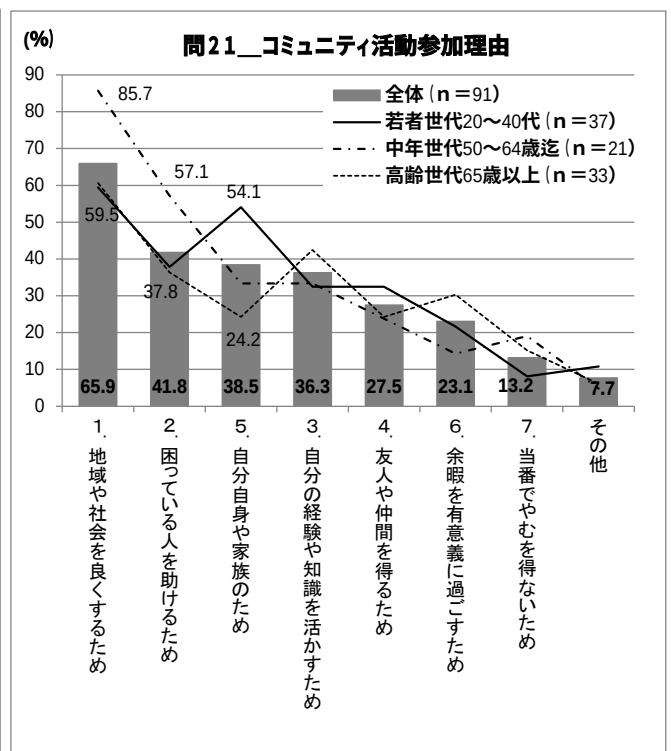
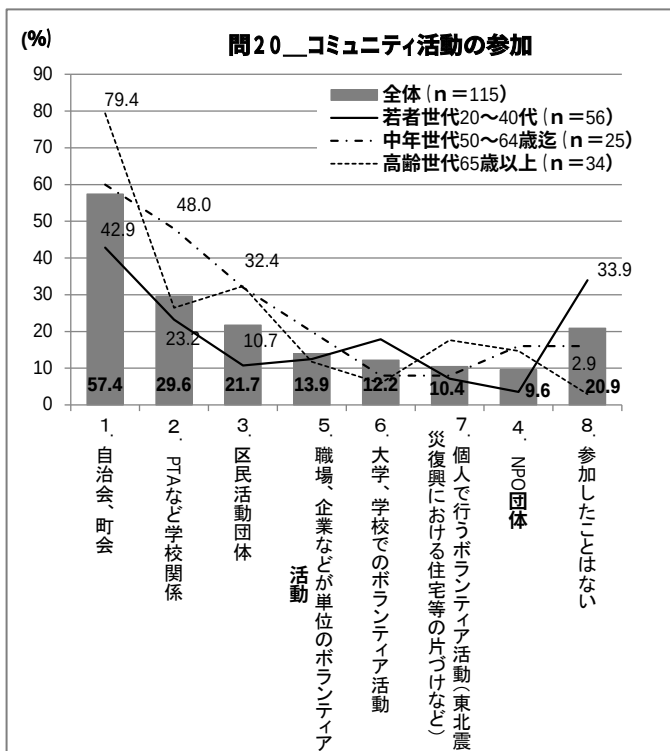
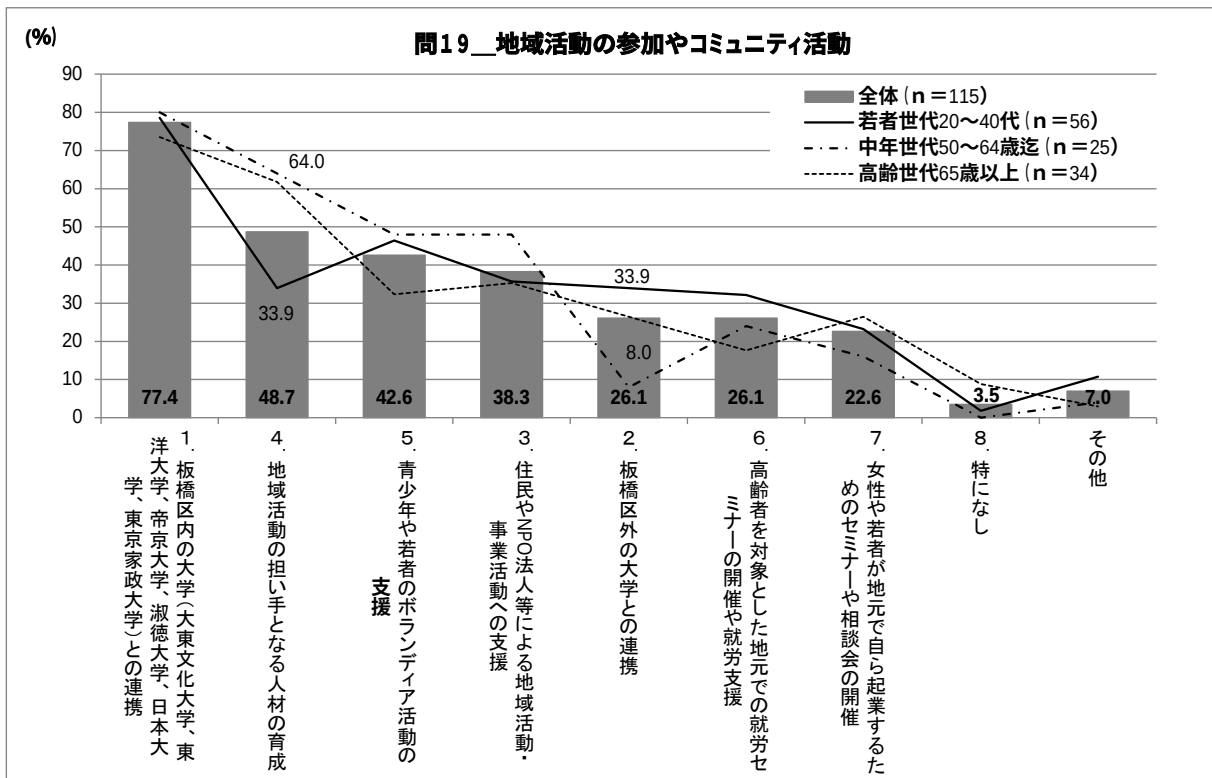
「自治会、町会」について、高齢世代の 80% 近くが参加経験があると答えていますが、若者世代では 42% に留まっており、倍近くの差がみられます。また、「PTA など学校関係」では子育てを終えた中年世代の 48% が経験があると答えていますが、若者世代は参加経験ありが 23%、参加経験無しが 33% となっています。

問 2 1 コミュニティ活動に参加した理由

「地域や社会を良くするため」が 64%、「困っている人を助けるため」が 40%、「自分自身や家族のため」が 35%、「自分の経験や知識を活かすため」が 33% で、自分や家族よりも、地域、社会、他者のために活動することを理由に挙げています。

○コミュニティ活動に参加した理由×世代別

中年世代は、「地域や社会を良くするため」が 77%、「困っている人を助けるため」も 54% と他の世代に比べて 20% 程度高くなっています。一方、若者世代は、「自分自身や家族のため」が 35% と他の世代に比べて高くなっています。



問 2 2 住宅に導入できる再生可能エネルギーの設備で現在利用しているもの

73%が「再生可能エネルギーを利用していない」と回答しています。「太陽光発電システム等の設備等の利用」は7%以下に留まっています。

○再生可能エネルギー等の設備×世代別

世代間の差異は見られません。

問 2 3 温暖化防止のための家計負担

「少しならば負担してもよい」が57%、「負担してもよい」が16.5%で、半数以上が少しでも“負担してもよい”と挙げています。

○温暖化防止のための家計負担×世代別

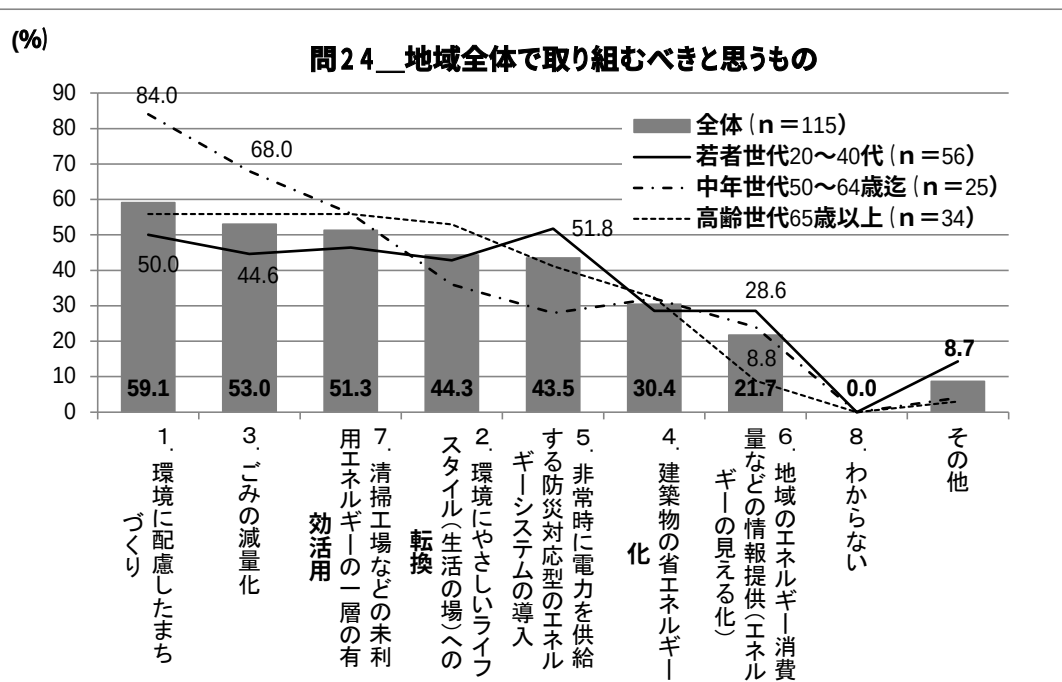
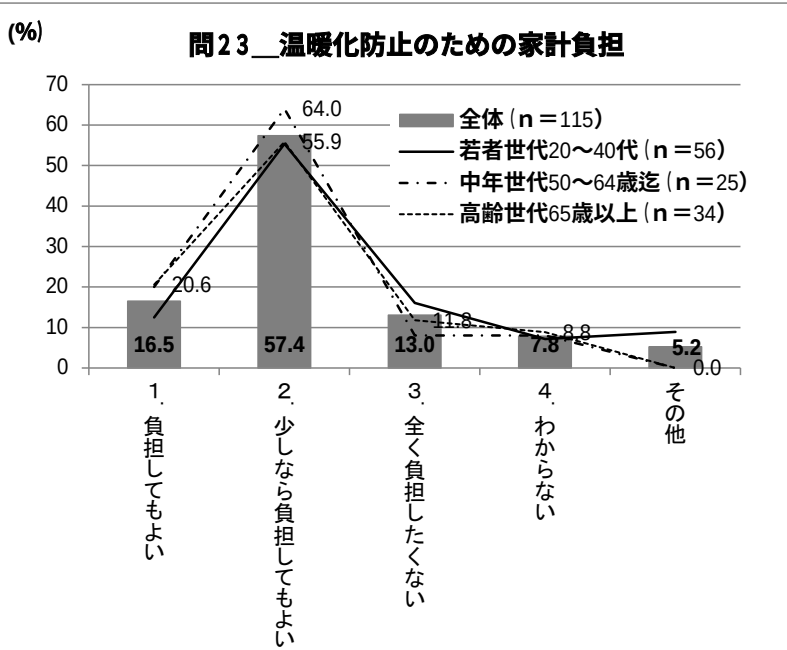
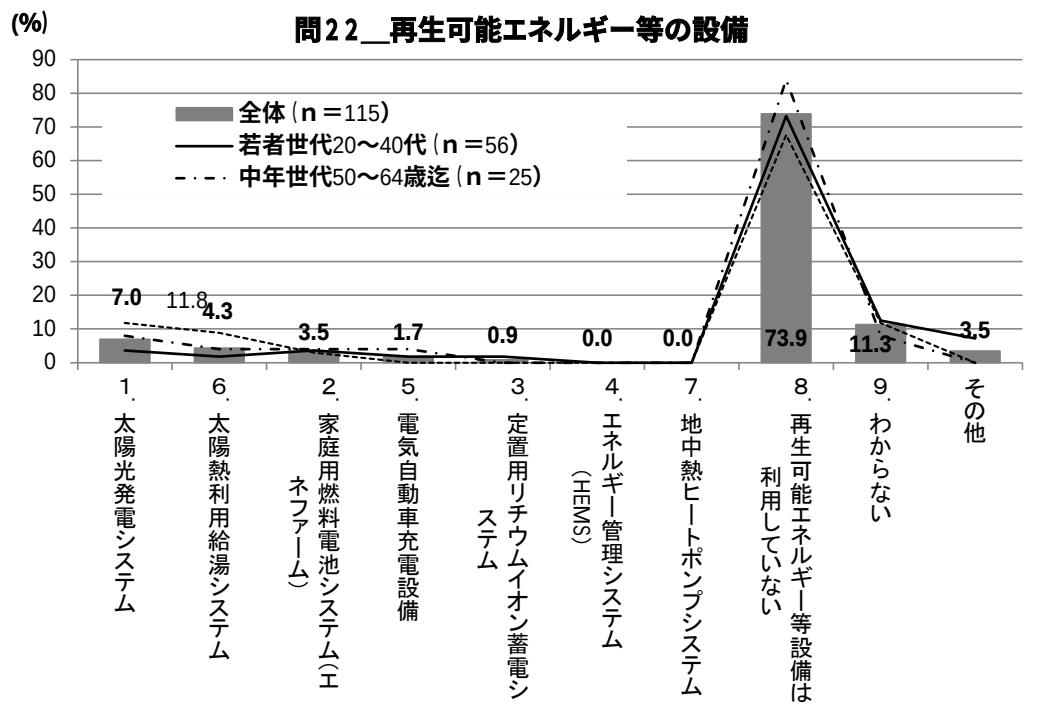
世代別による差はあまり見られませんが、中年世代が「少しならば負担してもよい」に対して6割を超えています。若者世代、高齢世代と比べてやや高くなっています。

問 2 4 地域全体で取り組むべきもの

「環境に配慮したまちづくり」が59%、「ゴミの減量」が53%、「清掃工場などの未利用エネルギーの一層の有効活用」が51%で上位に挙がっています。

○地域全体で取り組むべきもの×世代別

中年世代は、「環境に配慮したまちづくり」(84%)、「ゴミの減量」(68%)の2項目で他の世代に比べて20%以上高い関心を持っています。
一方、若者世代の半数は「非常時に電力を供給するエネルギーシステムの導入」(51%)に関心を寄せています。



問 2 5 地震などの災害が起きた時に、不安だと思うもの

「水道などのライフラインが止まってしまう」(77%)「食料や物資の不足」(64%)など暮らしに直結する項目、「無事に避難できるか」(71%)「家族、親族らの安否確認」(74%)など、自分を含めた家族等の安全に関することが50%を超える選択率となっています。住民アンケートと同様に、全体的に各項目の選択率が、他の設問に比べて高く、災害時の防災に対する意識が高いことが伺えます。

○地震などの災害が起きた時に、不安だと思うもの×世代区分

世代区分別では、若者世代に選択率が高い項目が多く、災害に対する意識が高いことが伺えます。「食料や物資の不足」「家族などの安否確認」「学校や職場からの無事な帰宅」「道路などの寸断による通行止め」などの項目で、高齢世代に比べて10～20%高い選択率となっています。一方、高齢世代は若者世代に比べて、「避難所などでの生活環境」に不安を感じる人が20%高い選択率となっています。

問 2 6 災害時の情報取得手段について

災害時の情報取得手段については、「テレビやラジオ」が最も多く約8割近い人が選択しています。次いで「区の広報や消防車などによる呼びかけ」が約6割です。東日本大震災時に注目された「ツイッターやフェイスブック」などのSNSの活用は約4割となりました。

○災害時の情報取得手段×世代区分

高齢世代、中年世代は、「テレビやラジオ」「区や消防車による呼びかけ」など従来のアナログ的な手法による手段の選択率が6割を越えます。一方、若者世代の約5割は「ツイッターやフェイスブック」などのSNSを情報手段と考えています。また、中年世代の約5割は自治会や町会などを通じた呼びかけにより情報を収集しています。

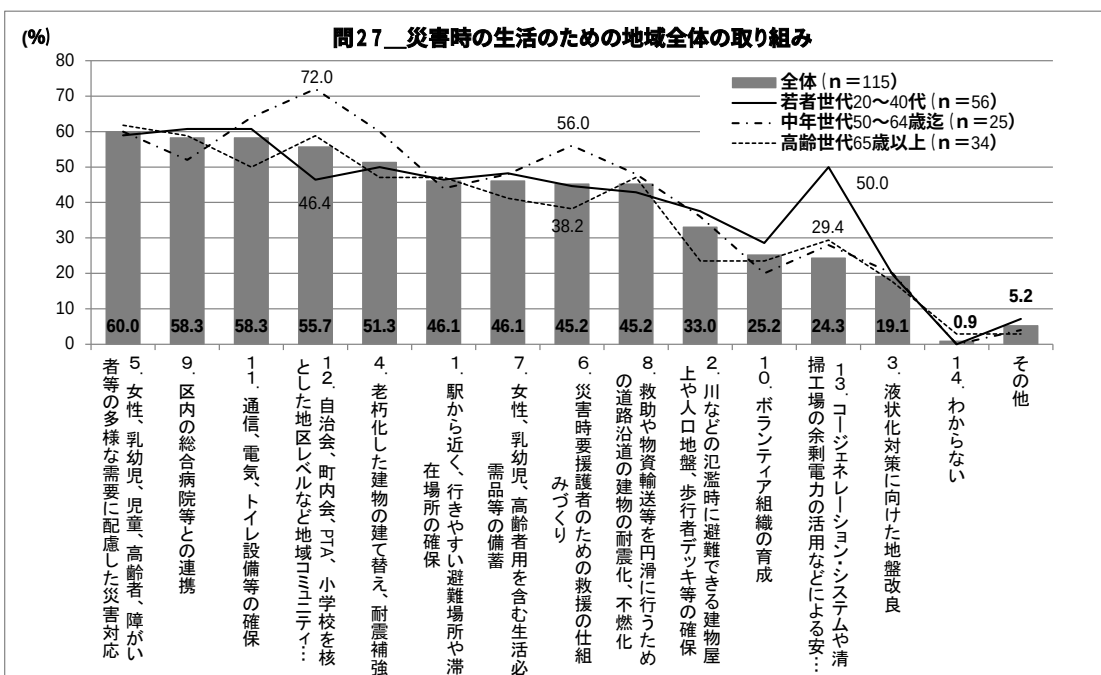
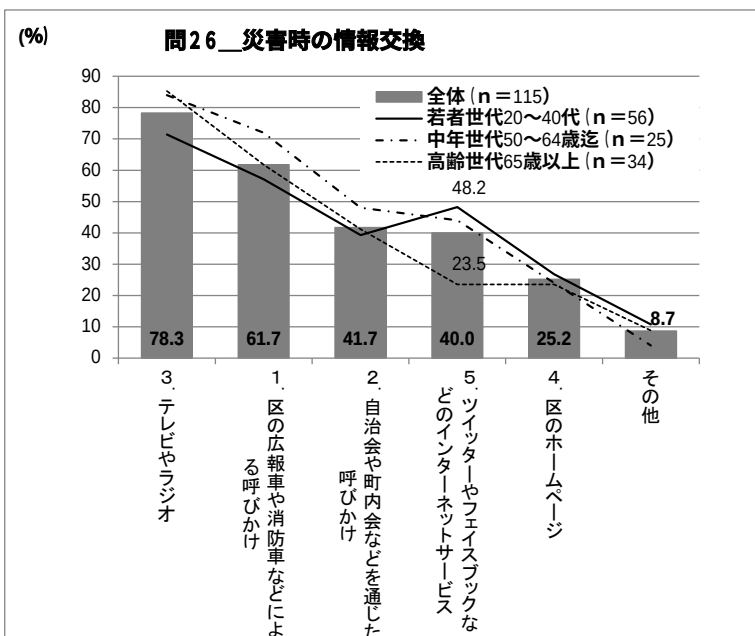
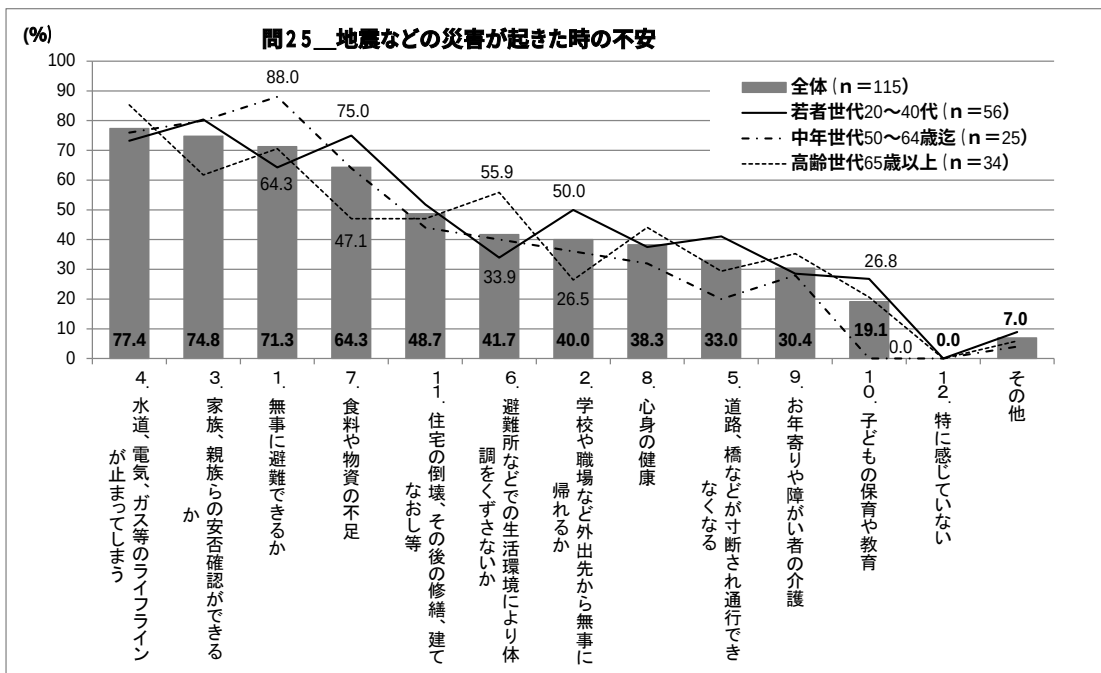
問 2 7 災害時でも継続的に安定した生活をするために地域全体で

取り組むべきこと

「女性、乳幼児など多様な需要に配慮した災害対応」が60%で、「区内の総合病院等との連携」(58%)、「通信、電気、トイレ設備の確保」(58%)、「地域コミュニティ主体の助け合い」(55%)、「老朽化建物の建替え、耐震補強」(51%)の5項目が50%を超えています。

○災害時の安定した生活のために地域全体で取り組むべきこと×世代区分

上位3項目については、世代に関わらず必要と考えており、いずれの世代の選択率も5割を超えています。中年世代は、「地域コミュニティ主体の助け合い」(72%)、「災害時要援護者のための救護の仕組みづくり」(56%)が他の世代に比べて高く、中年世代の地域コミュニティに対する期待の高さが伺えます。



問 28 「公共用地の再整備」に民間事業者を活用すること

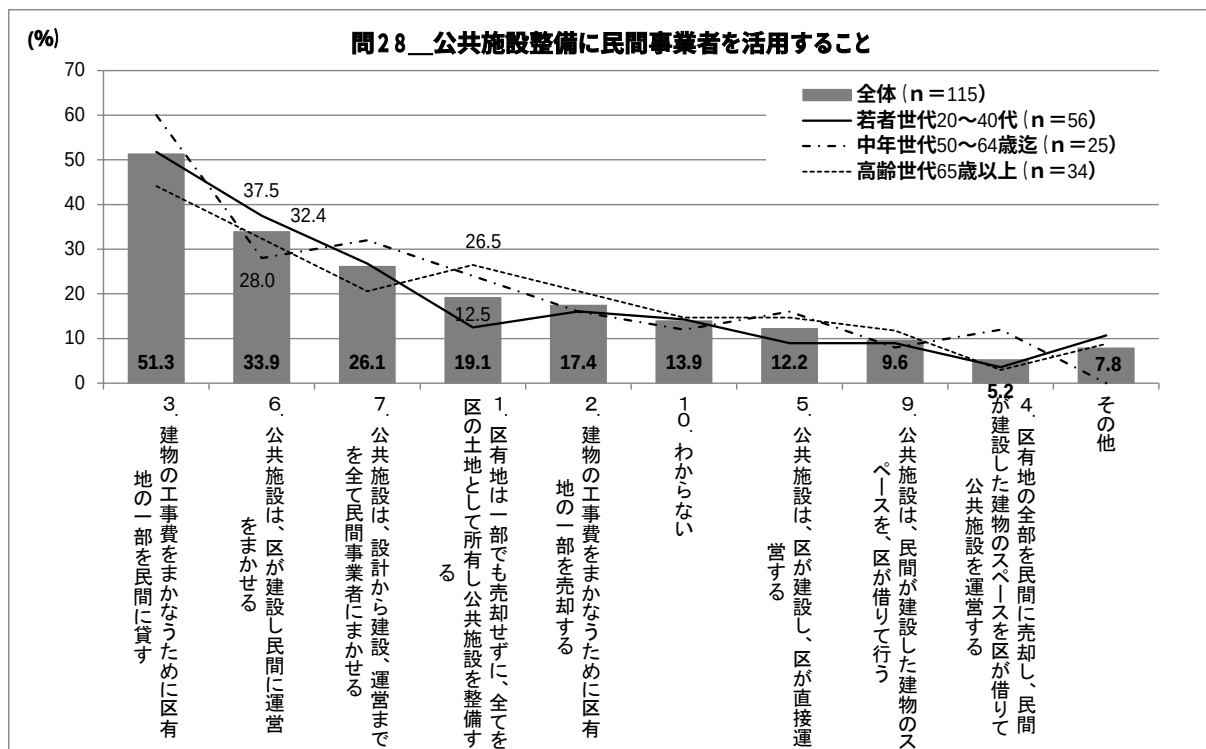
公共用地の再整備については、『(1) 区有地の扱い』『(2) 施設建設、運営』について結果を見ていきます。

『(1) 区有地の扱い』については、「全部民間に売却」(5%)、「一部民間に売却」(17%)、「区が所有し一部民間に借地」(51%)「全部区が所有」(19%)で、民間に売却するよりも区が所有して活用する方が上回っています。

『(2) 施設の建設や運営』については、「区が建設・運営」(12%)あるいは「民間が建設・運営」(26%)という案に対して、「区が建設して民間が運営する」(33%)という区と民間が役割分担する案の方が選択率が高くなっています。ただし、「民間が建てて区が借りる」(5%)案の支持は低くなっています。

○ 「公共用地の再整備」を行う場合の基本的な考え方×世代区分

世代別で、意見の相違が大きい『(1) 区有地の扱い』については、「区有地として保有」は高齢世代の支持が高く、若者世代の2倍以上となっています。また、『(2) 施設の建設や運営』については、高齢世代と比べて「運営を民間に任せる」ことに対する若者世代の支持が高く、民間企業の参入について理解を示しています。



問 29、問 30 については各々500 字以内の自由記述でした。主なキーワードは以下の通りです。

問 2 9 高島平地域のまちの印象、イメージ （回答数 110 件）

○まち全体

・ 高齢化	56 件
・ 公園の充実、緑豊かな環境	19 件
・ 時代の取り残された古いまち	10 件
・ まちのイメージがない	7 件
・ 住みやすいまち	6 件
・ 閉鎖的なまち	5 件
・ 若者世代の減少、少子化	5 件
・ 穏やか・ 落ち着きのあるまち	4 件
・ まちづくりの計画通りに出来たまち	3 件
・ 外国人が多い	3 件
・ 流通業務団地のまち	3 件
・ 地方都市に近いまち、田舎	2 件
・ 広いまち	1 件
・ 東京の北端	1 件
・ 無味乾燥なまち	1 件
・ 利便性の高いまちなのに評価されないまち	1 件

○住宅地

・ 団地（高島平団地等）	48 件
・ 住宅の老朽化、住戸の広さの不足	15 件
・ 空家が目立つ	7 件
・ 賃貸マンションが多い	2 件
・ ワンルームマンションの乱立	1 件
・ 戸建て住宅が人気	1 件

○交通機関

・ 道路（広さ、アクセス）の充実	7 件
・ 都営三田線が便利（5 件）、不便（2 件）	7 件
・ 都心へのアクセスが良い（1 件）、悪い（3 件）	4 件
・ バス路線の充実	3 件
・ 交通網整備の失敗	2 件
・ 他地域へのアクセスが不便	1 件
・ 歩いて生活できない	1 件
・ 遠い	1 件

・ 駐車スペースの充実	1 件
・ 都営三田線の乗客のマナーの悪さ	1 件
・ 自転車利用者のマナーの悪さ	1 件
○にぎわい	
・ まちににぎわいが無い（8 件）、にぎわいがある（2 件）	10 件
・ かつてはにぎわいがあった	9 件
・ 魅力ある商業施設の不足（6 件）、商業施設が充実（1 件）	7 件
・ 暗い、地味なまち	4 件
・ 駅前が錆びれている	1 件
・ 繁華街に遠い	1 件
・ 花火大会	1 件
・ 公園・ 広場が少ない	1 件
○ウェルフェア	
・ 公共施設の充実	6 件
・ 子育て支援施設、サービスの充実	5 件
・ 医療施設の充実（1 件）、不足（1 件）	2 件
○防災、防犯	
・ 防災上の不安（特に河川） 3 件	
・ 治安が良い（1 件）、悪い（青少年の非行 1 件）	2 件
○その他	1 件

問 3 0 高島平地域活性化のためのまちづくり提案（回答数 107 件）

○まち全体	
・ まちのブランド化	4 件
・ お洒落、機能的なまちへの整備	2 件
・ 豊かな自然と公共施設が充実したまちづくり	1 件
・ 都心に出なくても地元で生活を楽しめるまちづくり	1 件
・ 高島平地域の特性を生かしたまちづくり	1 件
・ 居住、商業、工業にエリア分け	1 件
・ 板橋区全体の活性化が必要	1 件
○多団体、組織	
・ 民活による公共用地再整備	4 件
・ UR都市機構との連携	3 件
・ 大学との連携	3 件
・ 地元企業との連携	1 件
・ NPO等地域の団体との連携	1 件

○住宅

・若者世代の入居促進	9 件
・高島平団地の建替え、団地再生	9 件
・高島平団地のリノベーション	7 件
・高島平団地の空家等の有効活用（大学生向け等）	6 件
・若者世代への家賃水準の配慮	3 件
・高層マンション等の建設	3 件
・高島平団地の全廃（公園へ用途転換等）	2 件
・外国人居住者の環境整備	2 件
・高齢者住宅の充実	1 件
・都営・区営住宅の建設	1 件
・中型マンションの建設	1 件
・戸建て住宅のミニ開発の抑制	1 件

○交通機関

・バス路線等の整備	5 件
・交通の利便性を高める	4 件
・都営三田線の延伸	3 件
・駅前整備	2 件
・道路の整備	2 件
・歩行者・自転車道路の整備	2 件
・駐車・駐輪場の整備	2 件
・災害時を想定した橋の再整備	2 件

○にぎわい

・大型商業施設の誘致	14 件
・公園・緑環境・水辺環境の整備	8 件
・イベント、セミナー等の開催	7 件
・民間企業誘致	5 件
・駅前商業施設の誘致	4 件
・若者世代向けの商業施設の誘致	3 件
・商店街の活性化	3 件
・市場（朝市、道の駅等）の開設	3 件
・民間娯楽施設の誘致	2 件
・外国人観光客の受け入れ（案内、宿泊等）	2 件
・大学・高校・中学の誘致	2 件
・車利用の商業施設の誘致	1 件
・都営三田線高架下の活用	1 件
・赤塚公園内等に軽食・喫茶の誘致	1 件

・ 交流センター等の設置	1 件
・ 流通業務団地の活用	1 件
・ 工業団地化	1 件
○ウェルフェア	
・ 子育て支援施設の整備・サービスの充実	8 件
・ 高齢世代がすみやすいまちへの整備	4 件
・ 若者世代が住みやすい・住みたくなるまちへの整備	3 件
・ 若者世代、女性の就業支援	3 件
・ 起業家の育成・呼び込み	3 件
・ ウェルフェアの充実	2 件
・ 若者世代の交流の場の整備	1 件
・ 保育サポート等高齢者の活用	1 件
・ 高齢化社会に対応するための実施実験の場	1 件
・ 多世代交流の場の整備	1 件
・ 民活での開発による地元住民の雇用促進	1 件
・ 国際交流の場の整備	1 件
・ ウォーキングロードの整備	1 件
・ スポーツ施設の増設	1 件
・ 温浴施設等の誘致	1 件
・ 憩いの場の整備	1 件
・ 24 時間集まれる集会施設の整備	1 件
・ 自然・園芸・農業体験の場の整備	1 件
・ 公共施設の整備・サービスの充実	1 件
・ 住民の積極的な地域活動への参加	1 件
○スマートエネルギー	
・ スマートエネルギーの導入	1 件
○防災	
・ 河川の防災対策	2 件
・ 集合住宅の防災対策	1 件
・ 安全・安心なまちづくり	1 件
○その他	
・ わからない	7 件
・ 高島平地域資源の P R	5 件
・ 廃校の有効活用	3 件
・ 特になし	3 件
・ 未利用公共施設の活用（カルチャースクール等）	1 件

・区有地の有効活用（安価な貸出）	1 件
・高島平地域のイメージの改善	1 件
・現状のままで十分	1 件
・住民の気持ちを大事にして進める	1 件

【アンケート考察】

【暮らしたいまち】

- ・全ての世代において、「日常の買い物」や「公園・緑地」、「医療施設」などの日常生活が充実して「災害時にも安に過ごすことができるまち」に住み替えたいと考えています。

【まちづくりについて】

- ・住民アンケートと同様に「ウェルフェア」に対して一番関心が高く、「スマートエネルギー」が一番関心が低くなっています。住民アンケートでは、若者世代が他の世代に比べて「にぎわい」に高い関心を示していましたが、タウンモニター、e モニターでは「防災」に対して高齢世代が強い関心を示しています。
- ・若者世代は高齢世代に比べて「道路公園を活用したイベント」や「マルシェやフリーマーケット」などの集客効果の高いイベントが必要と考えています。一方、中年世代は、健康に関する取り組みがまちの魅力を高めると考えています。

【にぎわいについて】

- ・区有地に民間事業者を活用してにぎわいを創出するためには、「商業施設の誘致」が必要と考えており、特に若者世代は 66% と高くなっています。
- ・駅前には商業、飲食などのにぎわいや、駅前にあると便利な図書館や保育所などを誘致すべきと考えており、鉄道高架下にも駐輪場に加え、スーパーや小規模小売店、レストラン、カフェなどの商業施設を誘致すべきと考えています。
- ・にぎわいを創出するための交通施策としては、「自転車と歩行者の分離」や「コミュニティバスの運行」などの身近な交通手段が重要と考えています。

【ウェルフェアについて】

- ・保育サービスの充実や多様な保育サービスの提供が子育てをしやすいまちの実現につながると考えています。
- ・心と体の健康を保った生活をおくるためには歩くことが重要と考えており、「鉄道や公園、河川敷等を結ぶウォーキングロードの整備」が望まれています。
- ・コミュニティ活動の活性化に向けては、板橋区内の大学生や若者に対する期待が高いことが伺えます。
- ・自治会、町会や P T A などのコミュニティ活動に参加経験がある人が多く、特に高

高齢世代の自治会、町会の参加経験は高くなっています。参加理由は、「地域や社会を良くする」、「困っている人を助ける」などのポジティブな理由が高い結果となっています。

[スマートエネルギーについて]

- ・「環境に配慮したまちづくり」に取り組むべきと考えていますが、再生可能エネルギーを利用していない人が多く、温暖化防止のための家計負担も少なからず負担してもよいと考えています。

[防災について]

- ・住民アンケートと同様に、全体的に防災の各項目の選択率が高く、防災に対する意識が高いことが伺えます。
- ・「水道などのライフラインが止まる」、「食料や物資が不足する」などに不安を感じており、自分を含めた家族の安全に関することにも不安を感じています。
- ・災害情報は、最も多くの人々がテレビ、ラジオから情報を得ると答えていますが、区の広報や消防車による呼びかけも半数以上の人々が情報取得手段と答えています。ツイッターなどのインターネットサービスは、若者世代では普及しつつありますが、高齢世代はあまり利用していません。
- ・防災について地域全体で取り組むべきこととしては、「女性や乳幼児などの多様な需要に配慮した災害対応」や「区内の総合病院との連携」、「通信、電気、トイレ設備などの確保」、「老朽化した建物の建替え、耐震補強」、「地域コミュニティ主体の助け合い」が重要と考えています。

[公共施設整備について]

- ・区有地の活用については、「全部民間に売却する」、「全部区が所有し活用する」よりも「区が所有して一部民間に借地をして活用する」方が上回っています。
- ・施設の建設や運営については、区が建設して運営については民間事業者の活用を望んでいます。

【アンケート回答票】

以下の質問についてあてはまる番号に○印をつけてください。

問 1 あなたの性別は

1. 男 2. 女

問2 あなたの年齢は

1. 10歳代 3. 30歳代 5. 50歳代 7. 65歳～74歳
2. 20歳代 4. 40歳代 6. 60歳～64歳 8. 75歳以上

問3 あなたのお住まいの地域はどこですか（町・丁目まで）

[例：板橋区板橋二丁目〇〇番〇〇号 → 板橋二丁目]

問4 あなたのご家族の構成は

1. 単身（一人暮らし）
2. 夫婦のみ
3. 二世帯同居（親と同居）
4. 二世帯同居（子と同居）
5. 三世帯同居（親と子と孫など）
6. その他（ ）

問5 あなたと一緒に暮らすお子さんは【複数回答可】

1. 就学前の子ども
2. 小学生
3. 中学生
4. 高校生以上
5. 同居している子どもはいない

問6 同居している家族の中に（自身を含む）65歳以上の方はいらっしゃいますか。

1. いる
2. いない

問7 区内にお住まいの年数は

1. 1年未満
2. 1年以上5年未満
3. 5年以上10年未満
4. 10年以上15年未満
5. 15年以上20年未満
6. 20年以上30年未満
7. 30年以上40年未満
8. 40年以上

問8 あなたのお住まいは

1. 持ち家（戸建住宅）
2. 持ち家（分譲マンション）
3. 賃貸住宅、アパート
4. 間借り、下宿
5. 社宅、寮
6. その他（ ）

問9 あなたは地元の町会、自治会に加入していますか。

1. 加入している
2. 加入していない

【暮らしたいまちに関する設問】

問10 住み替えを考えた場合、どのようなまちに暮らしたいと思いますか。（複数回答可）

1. 日常の買い物をするスーパーや小売店が充実しているまち
2. レストランや飲食店が充実しているまち
3. 地域内で娯楽やレジャーを楽しむことができるまち
4. 公園・緑地が充実しているまち
5. バスや自家用車を使わず、歩いて暮らすことができるまち
6. 自転車を利用しやすい環境が整っているまち
7. 保育サービスや子育て支援が充実しているまち
8. スポーツ施設等が身近にあり健康に暮らすことができるまち
9. 野菜づくりや花植えなど農園や園芸に親しむことができるまち
10. 高齢者のケアが充実しているまち
11. 障がい者のケアが充実しているまち
12. 病院、医院などの医療施設が充実しているまち
13. NPOやボランティア、コミュニティ活動が活発なまち
14. 高齢者が社会参加できる機会が多いまち
15. 若者や女性が社会参加できる機会が多いまち
16. 省エネルギーや二酸化炭素の削減など、環境に対する意識が高いまち

17. まち全体で省エネルギーや環境負荷の低減に取り組んでいるまち
18. 災害時も安心、安全に過ごすことができるまち
19. 災害時に隣近所で助け合える仕組みがあるまち
20. 特になし
21. その他（ ）

【まちづくりに関する設問】

問11 あなたがまちの将来を考える際に、一番重要と考えるものはどれですか。（1つだけ選択）

1. にぎわい ～地域の内外からの交流促進や利便性の高いまち～
2. ウェルフェア ～子どもから高齢者まで元気に楽しく暮らせるまち～
3. スマートエネルギー ～環境負荷の低減や循環型エネルギーに対応したまち～
4. 防災 ～災害時でも継続的に生活の安定や都市機能が維持されるまち～
5. その他（ ）

問12 まちの魅力をより高めるために必要な、まちづくりの取り組みはどれですか。（複数回答可）

1. 区民、事業者、専門家、行政などによる協議組織でのまちづくりの検討、企画、実施
2. まちづくりに向けた勉強会の開催
3. まちづくりをPRするイベントの実施
4. 起業する若者のためのシェアオフィス等の運営
5. 道路や緑地を活用したオープンカフェ等の運営
6. 自転車利用の促進に向けたシェアサイクルの実施
7. 健康づくりに向けたイベントの実施
8. 貸し農園や園芸を対象としたコミュニティガーデンづくり
9. 地域内住み替えに向けた情報提供やコーディネート
10. 高齢者の就労支援に向けたセミナーや情報提供の実施
11. 若者や女性の起業支援に向けたセミナーや情報提供の実施
12. 空き店舗の紹介等、若者等のチャレンジ店舗に向けた支援
13. 高島平緑地の活用に向けたワークショップの開催
14. 自助、共助に向けた地域防災の勉強会の実施
15. マルシェ（市場）やフリーマーケットの開催
16. お祭りなどの地域行事
17. 道路、公園、河川敷を活用したイベント
18. その他（ ）

【にぎわいに関する設問】

問13 区有地に民間事業者を活用してにぎわいを創出する場合、あなたが考える望ましい活用方法はどれですか。（複数回答可）

1. 商業や飲食の店舗、映画館等の商業・娯楽施設を誘致し、区内外から人を呼び込む
2. 多様な世代に対応したマンションや学生専用、社員寮などを作り、若者世代や子育て世代を呼び込む

3. 新たな業務施設（オフィスビル）を誘致して、働く人を呼び込む
4. 大学、短大、専門学校などの教育機関を誘致して学生を呼び込む
5. 民間事業者の活用は必要ない
6. わからない
7. その他（ ）

問 1 4 駅前にぎわいを創出するために、あなたが誘致すべきと考える施設はどれですか。(複数回答可)

1. 日常の買い物ができるスーパーや小規模な小売店
2. ゆっくり過ごすことのできるレストランやカフェ
3. おしゃれな洋服や雑貨がそろった店舗
4. 地域内外から人が集まる大規模商業施設やオフィス
5. アートに触れることのできるギャラリーや工房
6. 家電量販店
7. 図書館やホールなどの公共施設
8. 人が集まることのできる集会所や貸し会議室
9. 歯科や内科などの医院が入ったクリニックモール
10. 保育所や子育て支援施設
11. デイサービスや高齢者支援施設
12. 障がい者支援施設
13. 幼児教育や学習塾
14. 駐輪場
15. 駐車場
16. 特になし
17. その他（

問 1 5 立体化された鉄道の高架下ににぎわいを創出するために、あなたが誘致すべきと考える施設はどれですか。（複数回答可）

1. 日常の買い物ができるスーパーや小規模な小売店
2. ゆっくり過ごすことのできるレストランやカフェ
3. おしゃれな洋服や雑貨がそろった店舗
4. 地域内外から人が集まる大規模商業施設やオフィス
5. アートに触れることのできるギャラリーや工房
6. 家電量販店
7. 図書館やホールなどの公共施設
8. 人が集まることのできる集会所や貸し会議室
9. 歯科や内科などの医院が入ったクリニックモール
10. 保育所や子育て支援施設
11. デイサービスや高齢者支援施設
12. 障がい者支援施設
13. 幼児教育や学習塾

14. 駐輪場
15. 駐車場
16. 特になし
17. その他（ ）

問16 にぎわいを創出するために、交通施策としてあなたが必要と考えるものはどれですか。（複数回答可）

1. 自転車と歩行者の分離
2. 地図やサイン（目印）などの誘導案内板の設置
3. 駅とそれぞれの周辺地区を結ぶペDESTリアンデッキ（空中歩道）の整備
4. 駅や公共施設で簡単に自転車を借りることのできる地域内シェアサイクルの推進
5. 新たな鉄道計画の推進
6. 渋滞緩和や道路交通網の強化に向けた道路の早期整備
7. コミュニティバスなどの民間バスの運行
8. 特になし
9. その他（ ）

【ウェルフェア（健康福祉）に関する設問】

問17 子育てがしやすいまちを実現するために、あなたが必要だと思うものはどれですか。（複数回答可）

1. 預かり保育などの一時保育サービスの充実
2. 保育相談などのサービスの充実
3. 子育て関連の NPO 法人や子育て賛助会員の活用
4. 認可・認証保育所、小規模保育などの多様な保育サービスの提供
5. 病児保育の充実
6. 年齢別の乳幼児プログラムや相談機能の充実による児童館での子育て世帯支援
7. 体験活動などの「あいキッズ」のプログラムの充実
8. 小中学校の異学年や他校の子どもたちとの交流
9. 地域の方や大学生が参加した学習支援事業や交流活動
10. 特になし
11. その他（ ）

問18 心と体の健康を保った生活をおくるために、あなたが必要だと思うものはどれですか。（複数回答可）

1. 緑道や公園、河川敷等を結ぶウォーキングロードの整備
2. 道路や公園内における、健康に関する案内板や健康器具の設置
3. 病院や NPO 法人による健康イベントや健康相談
4. 温水プールを活用した水中ウォーキングやフィットネス教室
5. コミュニティガーデンによる緑や人、農とのふれ合い
6. 区の花「二輪草」の観察など、地域の特色を活かしたイベント

6. 余暇を有意義に過ごすため
7. 当番でやむを得ないため
8. その他（ ）

【スマートエネルギーに関する設問】

問 2 2 住宅（共同住宅を含む）に導入できる再生可能エネルギー等の設備について、あなたが現在利用しているものはありますか。（複数回答可）

（※再生可能エネルギーとは、太陽光や風力、地熱といった地球資源の一部など自然界に常に存在するエネルギーのことです）

1. 太陽光発電システム
2. 家庭用燃料電池システム（エネファーム）
3. 定置用リチウムイオン蓄電システム
4. エネルギー管理システム（HEMS）
5. 電気自動車充電設備
6. 太陽熱利用給湯システム
7. 地中熱ヒートポンプシステム
8. 再生可能エネルギー等設備は利用していない
9. わからない
10. その他（ ）

問 2 3 地球温暖化防止のためには家計の負担が増えてもよいとお考えですか。

あなたの考えに近い番号1つに○印をつけてください。

1. 負担してもよい
2. 少しなら負担してもよい
3. 全く負担したくない
4. わからない
5. その他（ ）

問 2 4 あなたが、地域全体で取り組むべきと思うものはどれですか。（複数回答可）

1. 環境に配慮したまちづくり
2. 環境にやさしいライフスタイル（生活の場）への転換
3. ごみの減量化
4. 建築物の省エネルギー化
5. 非常時に電力を供給する防災対応型のエネルギーシステムの導入
6. 地域のエネルギー消費量などの情報提供（エネルギーの見える化）
7. 清掃工場などの未利用エネルギーの一層の有効活用
8. わからない
9. その他（ ）

【防災に関する設問】

問25 地震などの災害が起きた時に、あなたが不安だと思うことは何ですか。
(複数回答可)

1. 無事に避難できるか
2. 学校や職場など外出先から無事に帰れるか
3. 家族、親族らの安否確認ができるか
4. 水道、電気、ガス等のライフラインが止まってしまう
5. 道路、橋などが寸断され通行できなくなる
6. 避難所などでの生活環境により体調をくずさないか
7. 食料や物資の不足
8. 心身の健康
9. お年寄りや障がい者の介護
10. 子どもの保育や教育
11. 住宅の倒壊、その後の修繕、建てなおし等
12. 特に感じていない
13. その他 ()

問26 あなたにとって災害に関する情報を得る手段としてどれが効果的だと思いますか。(複数回答可)

1. 区の広報車や消防車などによる呼びかけ
2. 自治会や町内会などを通じた呼びかけ
3. テレビやラジオ
4. 区のホームページ
5. ツイッターやフェイスブックなどのインターネットサービス
6. その他 ()

問27 災害時でも継続的に安定した生活ができるまちの実現のため、地域全体で取り組むべきものはどれですか。(複数回答可)

1. 駅から近く、行きやすい避難場所や滞在場所の確保
2. 川などの氾濫時に避難できる建物屋上や人工地盤、歩行者デッキ等の確保
3. 液状化対策に向けた地盤改良
4. 老朽化した建物の建て替え、耐震補強
5. 女性、乳幼児、児童、高齢者、障がい者などの多様な需要に配慮した災害対応
6. 災害時要援護者のための救援の仕組みづくり
7. 女性、乳幼児、高齢者用を含む生活必需品等の備蓄
8. 救助や物資輸送等を円滑に行うための道路沿道の建物の耐震化、不燃化
9. 区内の総合病院等との連携
10. ボランティア組織の育成
11. 通信、電気、トイレ設備等の確保
12. 自治会、町内会、PTA、小学校を核とした地区レベルなど地域コミュニティ主体の助け合い
13. コージェネレーション・システムや清掃工場の余剰電力の活用などによる安定電源の確保

14. わからない

15. その他（ ）

【公共施設整備に関する設問】

問28 公共施設整備の負担を軽減するために民間事業者を活用することについて、あなたの考えに近いものはどれですか。（複数回答可）

1. 区有地は一部でも売却せずに、全てを区の土地として所有し公共施設を整備する

2. 建物の工事費をまかなうために区有地の一部を売却する

3. 建物の工事費をまかなうために区有地の一部を民間に貸す

4. 区有地の全部を民間に売却し、民間が建設した建物のスペースを区が借りて公共施設を運営する

5. 公共施設は、区が建設し、区が直接運営する

6. 公共施設は、区が建設し民間に運営をまかせる

7. 公共施設は、設計から建設、運営までを全て民間事業者にまかせる

9. 公共施設は、民間が建設した建物のスペースを、区が借りて行う

10. わからない

11. その他（ ）

【高島平地域に関する設問】

問29 高島平地域はどのようなまちだと思いますか。 印象、イメージなどあれば、500字以内で
ご記入ください。

問30 高島平地域を活性化する為に、あなたが考えるまちづくりの提案があれば、500字以内で
記入ください。

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。